

あ

ああ (嗚呼) 【感動詞】相手の話しかけに対し、同意して答える言葉 はい(志、桑市、三、員、北、南) [会話] アア言うて返事するやんな(でしょう) いて来たんかい (行って来ましたか・行って来たのですか) 言うたら アア言うてなあ (言います)。はい言うのをアア言うてなあ。

あああ 【感動詞】1) 相手の失敗などを、とがめて言う語、自分の失敗した事に嘆いて発する語 落胆の情を表す 2) 変な物を見て発する語 (上) [会話] 1) アアア ま えらい事したれ (大変な事してしまった) 言うけどな アアア まあ えらいことしたなあ、(大変なことしてしまったなあ) 言うてなあ。

ああえら 【形容詞】1) 大儀だ。つかれた。大変つかれた。感動詞 ああに、えらい (大変だ 形容詞) の付いた語。(志、鳥(坂手)) 2) 賢い [会話] 1) アアエラ 言うのは ああ かいだりよ (疲れた) 言う事や (だ) 疲れた言う事 やってんなあ (だから)。

ああおい (青い) **ああおい** ああおいのより更に青い。

【形容詞】1) 黒と白との中間の色で主に青、緑、藍をさす。黄緑から藍色まで。(度、伊、南) 2) 果物などが未熟である。3) 2) から人格、技術、学問が未熟である。幼い。下手。[会話] 1) 青い言うのをなあ アアオイ言うねなあ (言うのです)。蜜柑でもなると まだアアオインどお (のだ) 言うて、青いん ど言やええのん (言えばよいのに) アアオインど (のだ) 言うて 引っ張って。麦も あかるだかてや (熟したかと言えは) まだ アアオイわれ (です) 言うて、言う時ん (に) よって まだアアオイわれ、あおくさやれ (青いのだ) 言うてな。とて (取って) 来いよお 言うやんない (でしょう)、そすと (すると) まだアアオオイのんとらよかれ (のに取れません) 言うてなあ、そいな (そんな) 時ん (に) 引っ張んのなあ (張るのです)。2) 青い言うのは くだもんな (果物が) 青いのも、きれ (布) の青いのも有るし、3) 若い色気の無い の (のを) まだ あや (彼は) あおいねよ ってんなれ (のだから) 言うて、色気知らずを 言うの (のです)。青い ねよってん (のだから) なん (何) 言うても 怒ってくられ (来る) 言うて。

ああお (ああおう) 【形容詞】青く [会話] アアオオ しとる (している) 言うて 青いのを。あの人の顔の色 見よまあ (見なさい) アアオオしとんない (して

いる) 言うて、真っ青んしとる (にしている) 言うのをな、顔も アアオオなつたない (なつた) 言うてな。びっくりして 顔な (が) アアオオなつたよお 言う時な (が) 有るんなあ (有ります) アアオオなつた (なつていった) 言うて、青なつた 言う時もあるし、余り その人の色な (が) わり (悪い) となあ おおた アアオオなつとられ (なつている) 言うて、ひどい場合をなあ よけ (沢山) 引っ張ん (る) のなあ (です)。ちよいと (少し) の時は 青いわれ (です) まだ言うとんねけど (言っているのだが) ものすごお (大変) 青かつたりする ときに。

ああせえ ああしなさい [用例] アアセエ言うけど (が) おらな (俺が) 出来る事や (で) あろかれ (あるものか・無いです)。

ああせえこそせえ 色々としなさい。指図すること。[用例] アアセエ、ココセエ 言うたてて (言っても) 一人の体で そげん (そんなに) 出来よかれ (出来るものか・出来ない)。

ああたらこおたら ああだとか、こおだとか、色々。
[用例] アアタラ、ココタラ 言うて 又 逃げたない (て行った)。

ああてや 承諾肯定の語ああに、てやの付いたもの。ああと同様に肯定、承諾の意に用いられるが、更に強く承諾、肯定した場合に使用。いくらか反発する気持ちもある。てや1) 文末にあつて念を押ししたり意を強めたりする。連語、疑問・反語の意を表す 2) 伝聞の意を表す (志) [会話] 1) アアテヤ 言うて よお言うやんな (よく言うでしょう) その“てや” 言うのは あことばなあ (後言葉、つけたりです)、てや言うてなあ。アアテヤ 言うのは はい 言うのに 言う事やろんなあ (でしょう) そやけど (それだけけれども、しかし) アアテヤ 言うて おとなし言うとるけど (おとなしく言って居るが) はんぶ (半分) 怒つたみたいに (ように) そんげんくどお 言うな 言うよおん (ように) アアテヤ 言うて なんやら (なにか) 腹立つよおな言葉な (が) あんなあ (有ります)。よお判つたわい (よく判りました) 言うのと、なんやら (何か) 腹立てて そげんくどお (そんなにしつこく) 言うな言うのと。そんげん 言うたてて (言っても) 言わなくて (言わなくても) 思うよってんなあ (から)。その時の言葉 発音な (が) 違うんやろなあ (違うのでしょ

う)。

ああと 有難とう 幼児語 [会話] 子供らな 有難とお よお言わんと (言えなくて、アアト 言うてな まだもの言いかけ (始め)、子供でもなあ どいらい (大変) 口な冴えとるこお (子) と、おぼこいこお (幼い子) と あんのなあ (あるのです)。アアト言うて 有難とお 言うのを よお言わんのなあ (言えないのです)。

ああとさん 【名詞】 ああとと (次項) の名詞化した語 1) 仏様、幼児語として使用される事が多い 2) 仏壇、仏、祖先にまで拡大される 3) 更に月、星等敬うべき対称となるものまで拡大される (志 (布施田、甲賀)、北) [会話] 1) アアトサン言うと (言うのは) 仏さん。アアトサン 拝まなかれ (拝みなさい) 言うて 子供らななあ (に)。今し (今) は 仏さん 拝むけど わしらの子供時代は アアトサン拝めよお (拝みなさいよ)。

ああとと (嗚呼尊) 1) 神仏を礼拝するときに称える言葉。富士講の称え言葉 あな尊との意 2) 子供の遊びの称え言葉。島の上から海中に飛び込む時に称える。 [会話] 1) アアト (富士講の祭り)。おしよおじ (御精進) のなあ (です) アアト言うてなあ (言うて)。家族全員 まめそくさい (健康・息災) 言うんよって (言うのだから) 有難とお言う位やろなあ。神さんに祈ってする事やろなあ (でしょう)。皆 家の名前乗っついて 漁師しとる (している) 人は、大漁満足とか 商売繁盛とか言うやろ (言うでしょう)、そおしといて (ておいて) 後で アアト言うといて (言うておいて) 神様お願いします言う事やろなあ。

2) わしら 子供の時分 (頃) 潮遊びしとると (海水浴していると) 家内安全 まめそくさい 商売繁昌 言うといて (言うておいて) アアト言うんよって (言うのだから) 神さんにそれを守って下さい 言う事やろのお (でしょう)。アアト あとと 言うて 子供の時分に 前の浜で潮遊びといて 海ん中へ 沈んでくんやんか (で行くのです)。

ああび 【名詞】 鮑 (志、鳥) [用例] 鮑の事を、アアビ 言うたり、オオビ 言うたりして。

ああん 【副詞】 名詞的に用いられる時もある。1) 口を大きく開くさま 2) 神仏に祈る時の言葉 (度) [会話] 1) ご飯食べさす時ん (に) アアンせえ (しなさい) 言うて、口開けて 言うのを アアンしええ (しなさい) 言うて、そすと わがとな (自分の) 口も いっしょけんめん (一生懸命に) 開いて。2) 神さん

拝む時も アアンしええ 言うて 神さん 拝む時やなあ (は) ああとさんも 拝まなかれ (拝みなさい) 言うてな そすと 子供らな (が) アアン言うて 拝むのなあ (です)。

あい (合、会、相) (あひ) 【名詞】 あう事 1) 会合 対面 2) 計算などで一致すること [会話] 2) なんやかや (いろいろ) 計算な (が) 合うの (のを) こんで (此れで) アイやなあ 言う。きっちり おおたなあ (合った) 言うのなあ、アイやなあ (だ) ぴしゃんと いたなあ (行った) 言うて。

あい (間、合) (あひ) 【名詞】 1) 物と物の間、隙間、あわい、あいさ。或いは、物と物との境界。人と人との間。時間について、時間と時間の間 (志 (浜島) 安松、多、名、北、尾、南) 2) 平素 常日頃 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗) 員、四、安、津、一、阿 名) 3) 人の居ない時 隙。又は、暇。或いは余裕。(志、鳥、松、多、名、尾) 4) 間隙 (松) [会話] 1) アイ、あいだ (間) 言う事、アイ 言うて。和具と越賀のアイや (だ) 言うて、境の事を よお言うやんかい (よく言います)。アイ言うたり (言ったり) あいさ (間隙) 言うたり、これとこれとのアイを通して 言うよおな 意味やなあ (です)、3) 仕事のアイ見て来いの (来なさい) 言う時も有るんなあ (有るのです)。それは時間やなあ (です)。暇な時間に言う事 あいあいに来るとか、あいを二つ重ねてそれは 暇、暇言う事やんかい (です)。あいあい見て すやええやんか (すればよろしい) 言うやんか (言うでは有りませんか)。

あい (鮫) 【名詞】 魚名 あいご アイゴ種の高産硬骨魚 胸鰭の外側と内側に 一本づつの鋭い刺があり 又尾鰭に 七本の刺がある 背鰭の刺も鋭く 此れ等の刺にさされると甚だしく痛みを感じる 鱗は非常に小さく 一見鱗がないように見える 体は黄褐色 茶褐色であるが 体色と斑は 非常に変わりやすい 全長30cm位になる磯魚で 植物性の餌を好む 肉はやや臭みがある (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗) 鳥、伊、南、熊) [会話] 魚のアイ 茶色みたよんしとんの (のようにしているのを) てえ (手) 突くと やめんの (痛みます)、あれで突いたら 命取られる、命とんのよりえらいぬ (取るより大変なのです) やめて (痛めて)。わがとばか (自分ばかり) 食うて アイの骨 立てて ぴしゃごびしゃご 言うて、子供のじぶんにや (頃には) 遊びおった (ました・居ました) ぴしゃごびしゃご 言うのは 後言葉。

あい【名詞】 魚名 鮎 鮎の変化した語 (志、桑市、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、鳥、北、尾、南、熊) [用例] アイ 鮎の事なあ、イトユと、一緒ん (に) なんの (なるのです)。

あい【指示代名詞】 あれ。1) 彼 あいら参照 (志、鳥、度) 2) あの様な (志、度) [用例] 1) アイなもんほつとけ (彼の様な者は相手にするな) 2) アイなもんくわよかれ (あの様な物は食べられない)。

あいあい (あひあひ)【間間】【名詞】 1) あいあい あい (間) を重ねた語 多く に (ん) を伴って時々、時おり、たまに、あい参照 (志) 2) 暇な時 [会話] 2) アイアイにしとくわ (しておきます) 言うてなあ、仕事のアイアイに これしといてくれえ (しておいて下さい) 言うんなあ (言うのです)。ちよいと (少し) 暇な (が) 有ったら これしといてくれえ 言うてな。頼み事する時んなあ (に)。きりもんこさえて (着物作って) 貰うんなあ (になあ、誰それの姉よ アイアイに 此の子の きもん (着物) 一枚 のおてくれ (縫って下さい) てやら (とか) 言うて、頼みおったの (頼みで居たのです)。暇な時に 言うて なんでもかんでもせんならん (どうしてもしなければいけない) 仕事は あいは置かれやせんけど (ないが) してもよし せんでもええ (しなくてもよい) よおな仕事の時んなあ (に) アイアイに 言うのは そげな (そんな) 時やわい (です)。1) アイアイに こんかれ (来なさい) 言うて 暇な時に 来い言うのか 時々やって来い 時々言うの (のを) あいに (暇に)。

あいえんきえん (あひえんきえん) (相縁奇縁) (愛縁機縁)【名詞】 因縁 人と人とが和合するもの、しないのもすべて因縁によると言う事。好き嫌い 善悪 合う合わないは不思議に思われると言う意味 特に男女、夫婦、友人などに言う。(員) [会話] アイエンキエン ソオコオエン 池んはまって どぼどぼえん 言うて、アイエンキエン 言うて 似た様な事をなあ 言うて 付け言葉な、冗談言う時ん (に) そいな (そんな) 事 言うわい (言います)。これは因縁 人と人との付き合い アイエンキエン 言うてなあ。わしや (私は) あの人な (が) 嫌いや (だ) 言うても、あっちゃ、おや、(俺は) あの人 好きや言うんで そんな アイエンキエン 言うの。嫌いなにげ (人間) と 好きな人間と あっても、わしや 嫌いでも 一人な (が) 好きなど (だど) なあ アイエンキエン 言うてなあ。

あいえんきえん そおこえん いけんはまって どぼ

どぼえん **【俚諺】** 因縁 抜き差しならない状態 前項 あいえんきえん 参照

あいがな (あひがな)【名詞】 いつも 常に (上、阿) [会話] アイガナすきがな 言う事は 暇が有ったら する 言う事や、あいなすりすきなり 言うて ちよいと (少し) 暇な (が) 有ったら 何かする言う事や (です)。何時でも あいな (時間が) あったら 隙な (が) 有ったらする 言う事をな あいなすりすきなり して まあ 言うてな。

あいがなすきがな (間隙)【名詞】 いつも。絶えず。(志 (布施田)、鳥 (鳥羽)) [会話] あの子は アイガナスキガナ 何処やら (かへ) 遊びん (に) いとて (行っていて)、じょつくあんげん (いつもあんなに) 遊びん (に) いとんね (行っているのだ) 言うやんかな (言うては有りませんか)。アイガナスキガナ あの子は あ (子は) あんげな (あんな) 事 しとるんやれ (しているのだ)、ねんがらねんじゅう (年柄年申いつも) 言う意味も ある訳やろなあ (でしょう)。

あいき (噓気)【名詞】 喘息 ぜんそく 発作的に起こる呼吸困難。アレルギー性の反応。吸気性呼吸困難と呼気性呼吸困難があり ゼーゼー言う喘鳴と、咳が特徴である。噓気は本来吐き出す息。呼吸の意。喘ぐ (せわしく呼吸する 荒い息使いうる) 息の義か (志 (立神、志島)) [会話] アイキ 言うのは喘息の事。喘息持ちや (と) 言うの (のを)、昔や (昔は) アイキ持ちや (だ)、ヒーヒー笛吹くよおん (ように) 言うのは アイキ言うけど (言いますけれど)。

あいき (あひぎ) (間着)【名詞】 衣服の春夏の間、又は夏秋の間に着る物。春秋の衣服 あいふく [用例] アイギ 言うよおな 洒落たもん (物) あろかな (有りません) 夏あ (は) 裸やし ふや (冬は) 着むくつて (沢山着て)。

あいきづな【名詞】 海女と磯桶をつなぐ綱 [会話] おけなあ (桶縄) 言うのも一緒や (だ)、おけなあもな アイキズなもなあ おけづな (桶綱) もな みな一緒や。

あいきもち (喘息持)【名詞】 いつも喘息のようにヒーヒー言っている人。すぐ喘息を起こす人。あいき参照

あいきよ【名詞】 愛敬。あいきやう。あいきやうの末尾母部を発音しないもの 1) 可愛気の有ること 2) 人あしらいのよい事 愛敬相が愛相となり人に接する態度となった [用例] 1) あのか (子は) どいらい (大変) アイキョのええ (よい) 顔しとんなあ (して居るなあ)。

あいきよおもん (あいきやうもん) (愛敬者) 【名詞】

愛敬のよい人 [用例] あの家のカカ(嫁 主婦)は、アイキョオモンで、だな(誰が)行てもあいそ(愛想) よお(好く)してくれてなあ。

あいぐい (間食) 【名詞】 間食。おやつ。食事と食事の間に食べるから 次項 あいぐいし 参照 (志(浜島、

鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗) 桑郡、員、鈴市、鈴郡、安、松、多、上、阿、度、張、北、南、熊) [会話] アイグイ 今し(今)の言葉で言うたら(言ったら) 間食やわなあ(です)。三時やわなあ。昔はあいぐらい(間食)する 言うてなあ(言つて)。

あいぐいし 【名詞】 いつも間食をしている人。…しは名詞についていつも又は盛んにその事を行って居る人を示す 師に通ずるか。方言としておたべし(情交を好む人) よばいし(夜這いをする人) 等に使う。[会話]

三度三度の 食事以外に 食べる、あいぐいやなあ(間食ですなあ)。食事は 勿論 朝 食わなはざん(いけない)、ひらあ(昼は) 食わなはざん、夕飯 食わなはざん、そのあい(間)に こおて(買って) 食うのを アイグイシや(だ) 言うしなあ(言います)。アイグイシ 買食いし 言うて。

あいくち (あひくち) (合口) 【名詞】 1) 互いに気持ちがよく通じ合う事 自分の好み 2) よく釣り合う事

チーズとビールはアイクちなええ [会話] 1) アイクちな(が) ええ(よい)とか、わり(悪い)とか。相性な ええ 言うのな、心な(が) 合う 言う事を、夫婦でも 相性な わりいて(悪くて) ふたんな(二人が) 喧嘩ばっか(ばかり) しとんの有るやんかい(しているのが有るで有りませんか)。そすと ひい(火)と水やもんなあ(だから) 言うて、男な ひいか、おなごな(女が) ひいの性か それやもんなあ(それだから) 言うて、男な(が) 水はええねけど(よいのだが)、かかな(妻が) ひいで 焚きついて来ても 水掛けて 消されるけど、かかと とと(夫)と 替とると(ていると) 喧嘩ばっかしとんね(ばかりしてるのです)、かかなたけらして(妻が猛々しくて)。

あいくら (あひくら) 【名詞】 挨拶、返答、相槌、愛想。

あいそぐらい(岩手県) 愛想ぐらい 返事、挨拶と関係あるか [会話] アイクラもうたせんねない(うたないのだ・しないのだ)。おらがいたて(俺が行つても) アイクラも うたせんね、あいそな(愛想が) 無い言う事や(です)、あいそしやせん(愛想しない) 言

う事。なんも(全く) あいそしやせん、相手にしやせん、相槌打たせん(ない)と同じ意味や(です)。アイクラうたせん 言うのも あいそなしん(愛想無しに) 言うのも。

あいぐらい (間喰) 【名詞】 間食 あいぐいと同じ [会話]

アイグライして 言うてな。食事のあい(間)に なんやかやや食うやんない(いろいろ食べるでしょう)、アイグライばっかしとんねもんなあ(ばかりしているのだから) 飯な(が) くわよかれ(食べられない) こいやしねよつて(卑しいのだから)。勝ちい(へ) まあつてたら(廻って行ったら) なんやかや(いろいろ) 食うて、言うてなあ。あいぐいするにげ(人間)をなあ、こいやしねよつて 言うてな、くちばかしねよつて(卑しいのだから) 言うたりな、あいぐいする 言うのをなあ ロぎたのお(口汚たなく) 言うて。アイグライシや(だ) 言うてなあ、口なわり(が悪い) 人な(が) あや(彼は) アイグライばっかして(ばかりして居て) 言うてな。

あいぐらいし 【名詞】 何時も間食をしている人。[会話]

あいぐらい参照

あいこ (あひこ) (相子) 【名詞】 勝負なし。あいちよ参照 (鳥、南)

あいご (あゐご) 【名詞】 海魚 あい(魚)に同じ [会話]

あいも アイゴも一緒の事、魚のあいやわい(です)。ちっちゃおて(小さくて) あいのこお(子)も ちっちゃいの有るやんか(小さいのが有るで有りませんか)。

あいさ (あひさ) (間) 【名詞】 1) さは接尾語、あい(間)に同じ。あいま、まれ、時たま。時間又は空間の間隔。間際、中間、あいだ(志摩市全域、鳥、松、桑郡、員、鈴郡、安、津、一、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) 2) にを伴って副詞的に用いる。時には、時々(阿) [用例] 1) そのアイさい(に) 俺も座らしてくれえ(下さい) 2) アイさな(が) 出来たもんで(ので) 遊んでこお(こよう)。

あいさがも (秋沙鴨) 【名詞】 下手な海女 陸の近くで漁

をする海女、あいさがもは岸近くで行動するところから。あいさは、あきさ(秋沙、海辺に住む小型の鴨)の転(志) [会話] アイサガモや(と) 言うて、沖い(に)も 行かな(行かなければ)、たかい(岸近くに)も 行かず すると、アイサガモやよつてん(だから) 言うわい(言います)。中途におんのを(居るのを) 言うねな(言うのです)。中途にブラブラしとんののをな(しているのを)。下手なのは たかでバタバ

タ、上手な人は 沖い (に) 行くし よおせんもな (者は) 中途おるもんをなあ (居る者を) アイサガモや (だ) 言う。

あいさこいさ (間) 【名詞】 所々。間々。(張) [会話] アイサコイサ言うのも ひまな時に 言うことや (だ)、アイサコイサ 言うのは 所々やな (だ)。

あいさに (あひさに) 【副詞】 1) 隙間に 暇な時に あいさ参照 (安) 2) 稀に たまに あいさ参照 (上、阿、張、名、南、熊)

あいしょ (あひしゃう) (相性) 【名詞】 調和すること (人にも物にもあいくちと同様に使う) 相性、人間相互の性格、類似または共同生活をするのに適した性格をいう。その見方に陰陽五行説によるものと、生理現象を基準したものがある。陰陽五行説によるものは、現在結婚などに用いられる。生理現象を基準としたものには容貌がよく似ているとか、性格がよく似ているとかで、兄弟名のり、いとこ結びをする風習がありこの方は同性間に多い。(多) [会話] アイショ言うのは性格が合わん言う事やわい (です)。合うとか合わんとか言う性格やなあ (だなあ)。

アイスクリン 【名詞】 アイスクリーム。(津) [会話] アイスクリームの事を アイスクリン 言えおったねん (言っていたのです)。アイスクリーム言わんと (言わずに)、アイスクリンや (だ) 言うて。大根と はねる言葉もはねずして いなん (要らぬ) ごんぼ (牛蒡) に、ちゃんぶくる (茶袋) かな言うも一緒にでな、えごと (完全に) 言わんと アイスクリーム言うて 今し (今) 言うけんど (言うけれど) アイスクリン言うてな。

あいそ (あひさふ) (愛想) 【名詞】 待遇、あしらい、挨拶 あいそう (愛想) の末尾母音の消失。人に対する対応の仕方、好感を持たれる言葉遣い、表情、態度 待遇。人を喜ばせるための言葉や振る舞い。相手に抱いている好意。特別な心遣い。もてなし、心付けなど。愛敬より変化した語。(志 (鶴方、立神) 上、阿、張、南)) [会話] アイソ言うのは、アイソな尽きた言う事やんか (ですよ)。アイソもこれも尽き果てた言うやんか (言うではありませんか)。こんな人は、まあ、たんのした (堪能、充分だ、嫌いだ) 嫌いや (だ) 言う事や (だ)。アイソな尽けるよおや (ようだ) 言うて、嫌いとか 憎たらしいとか、言う言葉。アイソもこれも尽き果てた言う言葉は、憎たらしい言う事が 勝つと (勝っているのです、強いのです)。

あいそしやせん 対応しない。挨拶しない。しやせん

(しない) せん (せぬ、しない)。[会話] アイソシヤセン言うのは 愛嬌な (が) 無い事なあ (です)。人な (が) 来ても 入れとも言わな (なければ)、飲めとも言わんと (言わずに)、知らん顔して (して) て。おおた あの家いたら (行ったら) アイソな (お) て (が無くて) けえも (少しも) アイソしてくれんで (くれなくて) 言うてな。

あいそする 人にやさしく 手厚くもてなす 好感を与えるような態度で相手する [会話] アイソスル言うのは 愛想しやせん (しないの) 反対や (です)。アイソスル 言うのは、まあ はよ (早く) 入いれえ (入りなさい)、ちゃあ (茶) も 飲めえ (飲みなさい)、煙草も吸ええ (吸いなさい) 言うて、世話やくのを。

あいそづかし (あひさうづかし) (愛想盡) 【名詞】 見捨てる。人に対する好意や愛情が持たなくなっていやになること、又いやになってつれなくする態度。(上、阿) [会話] あの人な (が) 好かん (嫌なの) アイソな (が) ついたなあ 言うてな、呆れてする事をなあ、アイソツカしたなあ あのひた (人は) 言うて。夫婦でもなあ、仲なわりいて (が悪くて) 喧嘩して、アイソツカシして 別れた 言うのも有るし。普通のにげ (人間) でも おおた あのひた (人は) アイソな (が) つけたなあ (つきたなあ) 言うてな、あんまりがめつい (あまり欲ばり) となあ、あんまり 嫌いな人 (を) なあ、こんじよくさりやったり (意地悪るだったり)。おおた アイソな (が) つけたなあ あのひた (人は) 言うてな。

あいそなええ 【形容詞】 愛想がよい。応待がよい。[用例] あの人、アイソナエエ人 (やなあ) (だなあ)。

あいそなし 【名詞】 【副詞】 無愛想な人。(上、阿、南) [会話] そげつけない (無愛想、相手にしてくれない、言う事やわい) (です)。アイソナシ言うて、あいそしやせん (しない)、言葉づけな (もの言いが) すけないに (少ない人間) はな アイソナシ 言うて。

あいそなしで お構もしなくて 客を送る時の挨拶 (南) [会話] お客さんの帰る時 なんも (少しも) アイソナシデ なあ 言うてな。お茶も出したり、お菓子も出したりせんと (せずに)、ただなあ 来たか、いたか (行ったか) 言うぐらい (位) 言うのをなあ、アイソナシデ 言うてな。

あいそなつける 嫌になった。見限る。[会話] あいそづかし言うのは、自分です (の) なし (するのですし)。アイソナツケル言うのは、好かん (嫌な) 人をなあ、

おおた あの人 アイソナツケルなあ 言うて、好かん事言うたり、したりするとなあ、 アイソナツケル様な人やなあ (だなあ) 言うてなあ。

あいそがない【形容詞】 好意がない。挨拶しない。親しみが無い。[会話] 世話やかせん (しない)、ちゃあ (茶) 飲めとも、煙草吸えとも 言わせんとなあ (言わないと)、アイソしやせんとか (しないとか)、アイソナナイとか。あの家のかあさん (主婦) アイソナノオテ (が無くても) いても (行っても) 気使いで (心苦しくて) 言うてな。

あいそもくそもない【形容詞】 全く愛相がない。無関心。(志 (布施田)、南) [用例] アイソモクソモノナイ にげや (人だ)。

あいそもこそもつきた。あいそもこそもつきはてた。あいそもこそもつきはてる あきれた 嫌になった 好意や愛情がすっかり無くなる 愛想が盡きるを強めた語 こそは口調をよくするためにつけた語。(上、阿) [会話] アイソモクソモツキハテタ言う。そのにげ (人間) の 未熟なのおを (のを) あいそつかした言うてなあ、嫌いな人の事を 言うねやわな (言うのです)。アイソモクソモツキハテタ、嫌な男 あいそづかしする 言うて 言うやんかい。あいそもつきはてて 面も見たねえわれ (見たくない) 言うて。

あいそもん【名詞】 愛想のよい人。もんはもの。(者、物) の訛り。(上、阿、張) [用例] あの家のかか (主婦) アイソモンやれ (だ)。

あいそよし【名詞】 愛想のよい人 (張) [会話] アイソヨシ言うのは 世話よけ (沢山) やいてなあ、さあ入れまあ (入いりなさい)、よお (よく) 来たなあ 言うてなあ、ほちゃほちゃと 言うのなあ (です)、アイソなよおて 言うて。あすこの家のかか (主婦) まあ アイソなよおて (がよくて) 行くとまあ 顔負けやてや (だ・です) 言う人な (が) 有るやんかい (有ります)。 どいらい (大変) 上手な人な (が) おるわい (居ます)。

あいそわらい (あいそわらひ) (愛想追笑)【名詞】 相手によい感じを持たれようとする笑い。追従笑い。[用例] あや (あれは) アイソワライしとんね (しているのだ) 腹の中な わかるかれ (分らない)。

あいた (痛い)【感動詞】 1) 痛い。あないたしの略 (大言海) あは感動詞 軽い感動 驚きを表す。あいたよう よう 終助詞の強く発音されたもの、文末の言い切りの形につく。詠嘆 の気持ちを含めて念を押し て確かめたりする気持ちを表す。(志 (布施田)) 2)

失敗した時や困った時に発する語 [会話] 1) アイタ、抓られて痛い言う事かい (ですか)。アイタよお言うのは、傷したり、叩かれたりして 痛い言う事や (です)。此処らの人は、アイタよお、ほん (本当に)、おとつしや (恐ろしい)、まあ言うて、おまけ (付録) な 付くてや (付くのです)。わしらな けつまげ (つまづいて) でもするやんかい (すると)、そおすると、アイタよお、まあおとつしや言うて 言うよお (言います)。

あいた (逢、合、相) 逢いたい。いが省略された語 [用例] アイタなつて アイタなつて しよないぬ (仕方が無いのです)。

あいた (開、空、明) 1) あく、開、空、明。自力行五段活用の過去形。閉じていたものが開く。戸がアイタ。夜がアイタ。ピンの口がアイタ。2) そこを占めていた物がなくなる。穴、空間、余白などが生まれた。詰まっていたものが除かれたり、間が広がったりして空間が出来る。中に入っていた物がなくなる。空になる。3) 差し止められていた事がしてよい事になる、解禁になる。磯の口なアイタ。4) 使用しない状態になる、必要でなくなる。(時間、人、物) [会話] 1) アイタ言うのは 戸なアイタとか、あけたとか。2) がらんがらん (鐘) が空になった、からっぽになつたれ (なつてしまった) 言うて、空になると なんも (何も) 無いよつてん (から) からっぽやれ (だ) こやまあ (此れは) アイタレとかなあ。アイタ言うのは空になつた言う事。

あいた (飽)【自カ五】 あく。飽 厭 倦 現在の共通語では上一段活用あきるを用いる。十分になってもう沢山だと思ふ、嫌になる、飽きる。(志 (浜島)、鳥、員、四、安、一、飯、松、上、張、度、北、尾、南) [会話] 飽きた事を、あいなもん (あんな物) アイタれまあ、あいな人 おぞげや (嫌いだ) 言うてなあ、飽きも飽かれもせんうちん (間に) 別れた言うて、嫌ん (に) なつた 言う事。芋飯ぼつか、くうて (ばかり食べて) たんのしたれ (堪能しました) 五目も (五目飯も) 食わしてくれまあ (食べさせて下さい) 言うよ おなもんや (物です)。

あいだ (間) (あひだ)【名詞】 物と物、時間と時間、人と人との間隙 関係 (一、阿、張) [会話] 物のアイダ 間隔とか。時間のひま (暇) があるし、物と物の間隔、人と人との関係、いろいろの言葉でもあるな。

あいたい (あひたい) (相対)【名詞】 1) 向かいあつて いること。また当事者同士が他人を交えず、直接向かいあつて、事を行うこと。あひてむかい。あいたいず

く参照。(上、阿、張、名) 2) 合意すること 相談の上、互いに納得して事を行うこと。

あいたいづく (あひたいづく) (相対尽) 【名詞】 互いに、相談の上ですること。互いに、納得して事を行うこと。

(志 (布施田)、上、阿、員) [会話] アイタイズクで言うて 言うな (のは)、あんた (貴方) も承知して、わし (私) も承知して 言うのをな アイタイズクでした事やよってん (だから) 言うやんかいな (言うではありませんか)。アイタイズクは 両方が 承知しとる (している) こと、アイタイ 言うて 二人が相談する、二人な (が) アイタイでした アイタイズクで言うてな 二人で相談した 言う事をな。

あいたいよ 逢いたい。逢って見たい。[会話] あの子ん (に) アイタイヨ 言うてな。逢いたい 見たい 顔見たい 言うて。逢いたい、見たいな (が) 癪になり 言うやんかい (言いますよ)、逢いたいのな 昂じて 逢いたい 見たい したい はったい 言うて。

あいだぐい (あひだぐひ) (間食) 【名詞】 間食。食事と食事との間に食べる事。(志 (志島)、鳥、安、鈴市、南、熊) [会話] アイダグイ。飯の間に 食うのを アイダグイして 言うやんかい (言います・言うでは有りませんか)。

あいたた。あいたたよお。あいたよお (痛) 【感動詞】 痛い。あいた (痛) に同じ。あいた参照。(志 (布施田))

あいたりもおだり あえたりもんだりと同じ まぜかえず [会話] アイタリモオダリやなあ (だ) 言うて。ええなあ (よいなあ) 言うたりなあ、おおた どおちやらや (どおでだ) 言うて、あら (欠点) 言うたりすつとなあ (すると)、アイタリモオダリみたよな (のよな) 事言うて 誉めたり貶なしたりするのをなあ アイタリモオダリ。井戸の釣瓶と一緒よなあ (です) 上げたり下げたり 冷やかされり言うて、すんのをなあ (するのを)、アイタリモオダリしてまあ、来いてら (とか) 行けたら (とか) 言うてなあ、怒る時んなあ (にです) アイタリモオダリして、来いてやら (とか) くんなてやら (来るなどか) 言うてなあ、物でも呉れる言う (といて) (言っておいて) まあやらせんわ (あげません) 言うたりな すると、アイタリモオダリして 言うてな。

あいちよ (あひちやう) (合帳、合丁) 【名詞】 あいこ勝負なし、互いに勝負のないこと。互いに損得、優劣のなくなった状態。アイチヨオ、チヨオアイ、帳合、現金、在庫商品を帳簿と照らし合わせて計算を確

かめること、収支を帳簿に記入すること、計算すること。合丁、符丁が合う。あいちよう [会話] アイチヨは同じ事 言う事。一緒やなあ (だなあ)。アイチヨ やなあ 言うて。じゃんけんすると一緒ののお (のを) すると、アイチヨやなあ 言うて。

あいつ (彼奴) 【代名詞】 あやつの変化したも の 話題の人物をののしったり、遠慮なく言ったり、乱暴な話し方で、物事を指す場合に用いる。話し手、聞き手から、離れた人を指し示す。あいら あいつら参照 (志、桑市、員、鈴市、津、久、松、多、度、伊、鳥、伊賀地方、北、尾、南)

あいつち (あひづち) (相槌) 【名詞】 1) 挨拶する、問いかけに答える事 鍛冶の相槌からか、(大言海) 相は相手の意か、又は間槌か。2) 転じて、他の説に合わせる、自分の意見を述べ、先の説を助ける事。[会話] 1) アイツチ言うのは あいそ (愛想、挨拶) する言う事。

あいつちかいてくれやせん 相手にしてくれない。応待してくれない [用例] おらな (俺が) 言うたてて (言っても) アイツチカイテクレヤセン。

あいつら 【代名詞】 あいつの複数。彼ら。(三、鈴市、多、伊、尾、南) [会話] アイツラな (が) あいらな (が) 言うてな、相当憎しみかけて 言う言葉やな (です)。アイツラ言うて 嫌いでしょおなないもんで (仕方がないので)、アイツがまあ 言うてなあ。嫌いな人のな 好かん人の事をな アイツラや (だ) 言うて。

あいつらかいてくれやせん 挨拶してくれない。対応してくれない。[会話] アイツラカイテクレヤセン言うのは アイソしやせん (しない) 言うこと、わしらな (私が) 行たてて (行っても) アイツラカイテクレヤセン言うて ぶあいそん (不愛想に) しとるとな (していると) 相手にしてくれやせん (してくれない) 言うこと。

あいて (あひて) (相手) 【名詞】 1) 物事を一緒にする一方の人。相棒。(志 (布施田)、北、尾、南) 2) ある物につき合わせるもう一方の物、料理のつま、あしらい物 3) 対抗する事、又、対抗する人 [会話] 1) アイテになる言うねやよってに (言うのだから)、あんた (貴方) 私とアイテになって、話アイテになる言う事やなあ (です)。カタアイテ (片相手) 言う事も言う。カタアイテ言うたら (言ったら)、向うの人むきあわせの (向いあわせ、対面している) 人 話すアイテの事。カタアイテになってくれ (下さい) 言うやん

かい (言うではありませんか)。あいぼ (相棒) 言うのも同じ意味や (です)。あいぼも、アイテも、カタアイテ 一緒になるんなあ (なるのです)。二人がして (何かして) あいぼになって言うやんかい。あいぼな有って、ええやんか (よいですね)、言うやんかい (言うでは有りませんか)。

あいてかた (あひてかた) (相手方) 【名詞】 あいて 相手に同じ 相手に当たる人 [用例] アイテカタなどこやら行つたて (何処かへ行ってしまつて) はざんよお (駄目だなあ)。

あいてくる 1) 飽きてくる。嫌になる。退屈する。(伊、北、南) 2) 空になる。3) 開いてくる。隙間が出来る。4) 暇が出来る。時間に余裕が生ずる。[会話] 1) アイテクル 言うの (のは) たんの (堪能) してきた言うてな、あきた事をな、そればかりして (して) いて いやになってきた、一つの仕事しとると (していると) 飽きてきて たんのした言う。4) アイテクル 体な (が) 暇ん (に) なる 言うことやしな (ことですし)。3) 一つはな 何か物との こお ひつ いとたのな あいて はざんねよお (駄目なのだ) 言うて アイテキテ、ひつつけな (なければ) はざんとこ (いけないとこ)をな、どおにも あいてくぞよ お言うて。

あいてこん (飽) (空) 1) 飽きない。堪能しない。(熊) 2) 隙間が出来ない。暇が取れない。[会話] 1) アイテコン いくらしととも (していても) あきやへん言う、好きで好きで こいな (こんな) 事しととも 何も飽きて来やへん言うて、わがと好きな事しとるとなあ (して居ると)。2) アイテコン 言うのは、隙間が 出来ない、入れ物が空かない あいとらせんよお 言うて。

あいてする 応待する 接待する 相手になる あいてにする参照

あいてにする (あいてんする) 1) 敵対する。(南) 2) 仲間に入れる。仕事などで相棒とする。3) 相談など当事者と話し合う。[会話] 2) わしと (私と) お前とあいてん (に) ならせん (ならない) 言うて、話相手ん (に) あんたな (貴方が) 来て 丁度ええわれ (よろしい) 言うて。2) アイテニスル 言う時、一緒に仲間に入れる、1) 反対に喧嘩アイテニスル、喧嘩相手で寄つたら 喧嘩しとんね (しているのだ) 言うて。アイテニスルは 好きな男な (が) 来て アイテン (に) スル 言うのも 有るしなあ。あの男、好きやもんで (なので) 来ると アイテンシテまあ 言うて、よさ

り (夜) のアイテヲスル事やわい (です) 男とおなご (女) と。

あいてにすんな (あいてんすんな) 相手にすんな。ほおっておけ。[会話] あいなもん (あんな者) アイテン スナ 言うて、頼りないもんで (ので) あいなもん 相手にしたら はざんどお (駄目だぞ) 言うて よお 言うやんかい (よく言います・よく言うでは有りませんか)。

あいてにならせん。あいてにならん 1) 役に立たない。2) 相手として不充分だ 格段に差がある。[会話] 1) あげな (あんな) の アイテンナロカレ (になるものか) 言うて、話、しても その話 のらんよおな (判らないような) つまどん (辻褄に) 合わん事言うて、あいな (あんなのは) 話のアイテンナロカレ 言うて よお 言うやんかい (よく言います・よく言うでは有りませんか)。話のアイテナラセンわれ (ならない) 言うて、役立たずの事なあ (です)。

あいてになる (あいてんなる) 1) 敵対する。2) 仲間に入れる。仕事や遊びの一方を受け持ち相棒となる。3) 相談事を当事者と話し合う。4) からかう。(鈴、安) [会話] 2) アイテンナル 言うのでだ 人な (が) こげん (こんな) 言うて来たや (来たら) はい 言うて、わしな、のんのを (私が乗るのを) アイテンナル 言うてな。1) 喧嘩するも 喧嘩の相手や (です)、3) 話の相手も有るし、仕事の相手も有るし、いろいろな そのにげ (人間) と 二人ですると 相手な (です)。

あいてんならせん。あいてんならん 役に立たない。相手にならん。取るに足りない。[会話] アイテンナラセン。あげな (あんな) 人な (が) あいてんならよかれ (になれない) 言うてな。話もならんよおな人な (が) 有るんなあ (有るのです)。あんな (彼の) 言う事な (が) 嘘やら (か) ほんとやら (本当か) みたいな (ような) 事言うて、相手に出来やせんわれ (出来ないです) 言うてな。ほんとの事 言わせんのなあ (言わないのです) そげなにげ (そんな人間) は、そやもんで (それなので) そげなの、相手にしとたら (していたら) すこたんばっか (空ばかり) 食わされるよって (から)、あいなな (あんな者は) 相手にできよかれ (出来ない) 言うの。取るに足らん 言う事や 相手になられん あいなのおとは (あんな者とは) 言うて。

あいてんなる あいてになるに同じ 参照

あいてんなるか 1) 役に立たない。2) 相手として不充分だ 格段に差が有る あいてにならせん参照

あいてんなんな 相手になるな。放って置け。[会話]
あげなもん (あんな者) に 相手ん (に) になったら はざんど (駄目だぞ) 言うて。アイテンナンナ言うて、やくざみた様なのおとか (の様な者とか)、たちなわりのおと (性格が悪いのと)、相手ん になったら はざんど 言うて、子供らん (に) 言うやんかい (言うでは有りませんか)。友達な (が) わり (悪い) の アイテンナンナよお 言うて、喧嘩早やかかったりすると あいな (あんな) の 相手ん なつて (になつていて) 喧嘩ふっかけられて アイテンナンナよお 言うて よお (よく) 言うやんかい。

あいども (合、相、鱧) 【名詞】 和舟で二丁以上の櫓の時、後の右舷。(志 (船越))

あいどもおし 【名詞】 1) あいどもを漕ぐ人。2) 相手の話調子を合わせる人。追従する人。[会話] 1) 舟のアイドモオシ。2) アイドモオシ 言うて、こんげん (こんなに) 言うてなあ 言うて、ほんどや (本当です) あんげん (あんなに) 言うて 相榎うつやんな (でしょう)、それを あいどもおす 言うわな (言います)。話ししとると最後、こちらの人も その事知つとると (していると) それもそおでなあ (そうだなあ) と、言うて来ることを アイドモオシ言うの (の) です) 1) 舟で言うて 二丁の一方の事。

あいとる 1) 空いている。2) 暇な時間だ。3) 開いている。4) 使っていない。5) 飽きて居る。

あいな 【連体詞】 あんな、あのような 話し方からも、聞き手からも、離れた所に有る 話し手、聞き手とも既に知っている事をさす。多くは下に名詞、動詞がつき卑下 (自ら中心に) けなし (相手を中心に) を表す。形容詞あいなしの語幹 多くは感動表現に用いる。不都合、不適当な事 あいなし (形) するべきでない事をした時、非難して言う 不都合だ その事が見当違いである そんなに迄しなくてもよい そうしても仕方が無いのに 副詞的用法として、その事が常軌を逸している事を言う 同義語あえな、あげな、あんげな。(志 (布施田)) [会話] アイナもん (者) 言う事は 馬鹿もん 言うよおなもんや (事です)。アイナもん (あのような物) 言うてさいが (最後は、その時は) なんでも わりもん (悪い物) を、アイナもん (物) くれて言うたら (言ったら) まにあわんもんやなあ (役に立たない物ですね)。こいなもんやてやら (此のような物だとか) アイナもんでやら 言う事は、間に合わないもんやなあ (物です)。

あいなこと 【名詞】 あんな事、些細な事、なんでも無い

様な事、重大な事、悪い事、善い事すべてに使う。[用例] アイナコト 言うて 怒られんど (怒られるぞ)。

あいなし (に) (間無) 【副詞】 1) 間もなく。すぐに。(安) 2) 常に いつも しきりに [用例] 雨な アイナシン 降つとる (て居る)。(志 (布施田)) 3) 暇がない。隙がない。

あいなしん 【副詞】 1) 間断なく。あいなし参照。(志 (布施田)) 2) 間もなくに。すぐに。

あいなな 【連体詞】 あのようなもの (者・物) は。[会話] 主人な 死んでくと (で行く)と 直ぐに 結婚する人 なあつて、何回でも 結婚する人 なが あるやんかい (有るで有りませんか)。アイナナ 男好き言うんやろな (言うのでしょうか)。

あいなない 間 (時間・距離) がない。(志 (布施田)) [用例] しょんべ (小便) ばっかしたなつて (ばかりしたくなつて) アイナナイね (のだ)。

あいなめ 【名詞】 くじめ アイナメ科の海魚。全長約30 cmにもなる。体色は変化に富むが暗褐色の地に、多くの淡色斑が有るものが多い。アイナメに似て居るが各側にある側縁がアイナメの五本に対し一本よりない。食用にする。(鳥)

あいなもな あの様なもの (者、物) は。(志 (立神))

あいなもん (物) (者) 【名詞】 あのような者。あのような物。つまらない。あいな参照 [会話] アイナモン ななあ (が) へえんもなるかれ (屁にもならない) 言うて。ごおなわいてなあ (腹が立って)、物でもわり (悪い) と、アイナモン な (が)、こいなもん な (こんな物が) 言うたりな。あげなもん (あんな物) こげなもん (こんな物)、こげなもん な なんになんねど (なるのだ) 言うたりな。あげなもん や こげなもん や 言うて、あんげなもん 呉れたて (呉れても) くわよかれ (食べられない) 言うたり、おおた こんげなもん な きやよかれ (着られるものか) みとものおて (見苦しくて) 言うたりな 着るもん (物) によらず 食べるもん (物) によらず 人によらず。

あいなりすきなり 【名詞】 いつも 暇が有ると あいが参照 [会話] アイナリスキナリ 言うのは、ちよいと (少し) 暇な (が) 有つたら 何かする 言う事や。

あいに (間) 1) 暇な時に 2) 隙間に 間に [会話] 1) 暇に 言う事を アイニ。暇な時言うのを アイニ 言うの。あいなりすきなり 言うやんかい (言います)。2) そのアイニ突つこんどけ (でおけ) 物と物との間も あい や (です)。

あいに あのように あれ程 (志、度、鳥) [会話] ア

イニ言うたのに あげんも言うたのん (言ったのに) 言うねんな (言うのです)。くんな (来るな) 言うて あげん言うてあんのん (あんなに言っているのに) 又 来たたれ (来た) 言うて。アイニ言う人も おんねやろ けどな (居るのでしょうか) あげん (あんなに) 言うて。

あいのかぜ【名詞】 すきま風。隙間風。[会話] アイノカゼ言うやんかい (言うでは有りませんか)。隙間風の事を言うん (のです)。あい (隙間) から風な (が) 入って来て 言うて 隙間風の事を 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

あいのきょうげん (あひのきうげん)【間狂言】 **【名詞】** 芝居の幕間に行われる芝居、俄 転じて主題以外に物事が不意に加わる事 [会話] アイキョオゲン言うな (のは) あい (間) に 芝居するわい (します)。

あいのこ (あひのこ、間子、合子、間子)【名詞】 異なった種類の両方の性質を持ち、どちらともつかない中間のもの 雑種 [会話] この頃のてこね (郷土料理)、すもじと てこねのアイノコ こお (具) も打ち込んで (入れて) 上手にしてあると うまいもんなあ (美味しいのです)。魚のこお (具) もして、ぐう (野菜の具) もいっとんなあ (入っているのは) うまい。

あいのじかん【名詞】 学校の授業と授業の間にある休憩時間 [会話] 学校の休憩の時間。あそびじかん言うて、あそびじかん言わんと (言わずに) アイノジカン言よおった (言っていました)。アイノジカンに 家行てこおん (行って来ましょう) 言うて、なんか (何か) 忘れて来ると。

あいのて (あひのて)【間手】 **【名詞】** アイノテ 相手になる 中間に入れるもの 話の中断した時に随時入れる言葉 [用例] 聞いてばっか (ばかり) おらんと (居ずに) アイノテも入れよまあ (入れなさい)。

あいはち【名詞】 怪我 過失 あいまち参照
あいはんか。あいはんかい。あいはんかな (女性語)。 あいはんかれ 歩きなさい [会話] 歩ゆむ 言う事をアイバンカイ言うて、何処やかや行くのん (のに) 一緒ん (に) 歩いとて (ていて) 遅れると はよ (早く) アイバンカイ言うて、はよ歩けまあ (早く歩きなさい) 言う事をな。

あいぶ (歩)【自バ五】 あゆぶ (歩) の変化した語 あゆぶ あゆむが変化した語、歩く、歩いて行く、歩いて来た 歩け あよでこい、あよいどる エイエイ (エンエン) (志 (浜島)、鳥、度、北、尾、南) [会話] あゆむ (歩む) 言うねんなあ (言うのです)。歩むとか

歩いで来いとか言うやんかい (言います・言うでは有りませんか)。年寄の人ら 歩く言わんと (言わずに) あよいで来い言いおったなあ (言っていました)。あよいで来たない (来た) あよいどられ (でいる) 言うて、あいままあ (歩きなさい) そやあれ (それ) 言うのも有るし 歩け 歩いて行け 言う事やなあ。アイブ言うのは 歩む言うねやわい (言うのです)。あゆむ言うのも アイブ言うのも 意味は一緒や (です)、歩け言う事や (です)。昔は ちっちゃい (小さい) 子に はよ (早く) あいままあ 言うて。

あいぶつ (合物)【名詞】 相性のよいもの。よく適合するもの (刺身と酒 ビールとチーズ)。(志 (布施田)、鈴) [会話] アイブツやなあ (だなあ) 言うて、味噌と菜っ葉と アイブツやなあ 言うわい (言います)。それと よお (よく) 合うのを アイブツやなあ。ちやあ (茶) と饅頭とアイブツや (です)。ちやあ 出して お菓子も アイブツで 出さなはざん (なければ駄目だ) 言うて。

あいは 歩け あいぶの命令形 幼児語 (志 (布施田、浜島、鶴方、甲賀、立神) 度、鳥 (鳥羽) 北、尾、南) [会話] 歩け言うのをな、はよ (早く) あいばんかれ 言うてな。歩め言う事 アイベ言うてな、はよ (早く) アイベ そや (それ) 言うて 子供らに 主に使うわい (使います)。大人は ちよいと (少し) また 言いよな違うわい (ようが違います)。はよあいはんこ 言うて、はよ あいはなはざんやんか (なければ駄目でないか) とかな、子供らん (に) おおかた (主に) 使う言葉や (です)。大人には あんまり (あまり) 使わへんけど (使わないが)、そんでも (それでも) 何処やかや行くのん (に) 一緒ん (に) 歩いとて (ていて) 遅れると はよ あいばんかい 言うて。

あいへんどうお (あいへんだふ)【名詞】 応答。返答。あいへんとう (相返答) の訛。次項 あいへんどうつ 参照 (志 (鶴方、立神、安乗)、鳥、尾)

あいへんどうつ。あいへんどうかく (相返答) 挨拶をする、返事をする。あいへんどうお (あひへんどう) 名詞、相手の話に相槌を打つ事。適当に調子を合わせた受け答え、多くあいへんどうをうつ形で用いられる。うつ、かくはする、行うの意 (志) [会話] よおだけど (呼んだが) 返事もせんと (せずに) すらぼけていたない (空惚けて行ってしまった) 言うて、あいそ (愛想、挨拶) も、うたせん (ない) とか、アイヘンドモカカセン とか、すらばこしとるの (すつとぼけているのを) アイヘンドモウタセン (ない)、カカセン 言うて。

おら言うたてて (俺が言っても) アイヘンドモウトカレ (しない)、カコカレ (しない) 言うて、相手にならん 言う事やろなあ (でしょう)。あいくらもかかへん、うたせん (ない)、かかせん とか言うて、うつとかかくとか言うな (のは) 一緒やけど (だが) しない言う。あいそしやせん (しない) 言う事を、アイヘンドカカセン とか あいくら (返事、挨拶) かかせん とか言うて あいくら言うのは 返事、アイヘンド言うのも返事やなあ (です)。

あいぼ (歩) 歩きましょう。歩きなさい。あいぶ参照

あいぼ (あひぼう) (相棒) 【名詞】 一緒に物事をする相手 又、仲間、相手役、同伴者 あいて参照 (志 (布施田)) [用例] アイボなのおて (が無くて) 仕事な (が) 出来やせん (出来ない)。

あいばや 歩きましょう。(志 (鶴方)) [用例] ぼちぼち (ゆっくり) アイボヤ。

あいま (あひま) (合間) 【名詞】 1) 時々 たまに 多くは“に”を伴う (志 (布施田)、桑市、三、阿、張) 2) ふだん 平素 3) 隙間 (志 (布施田)、南、上、阿、張、名) [会話] 2) ひましごと。暇の有る時ん (に) あいの有る時ん (に) アイマにする事なあ (です)。仕事のあいあいん (に) すんのを (するのを)、アイマコイマに言うやんかい (言います・言うでは有りませんか)。1) アイマコイマに来いよお (来なさい) 言うてな 時々 言うのをなあ。

あいまいや (曖昧屋) 【名詞】 密淫売屋 表むきは料理屋、旅館などに見せかけながら、売春婦を雇いひそかに客を取る家。(員) [会話] 淫売屋言うのが 達磨屋言うのを アイマイヤ言うのな (が) 有るんやろなあ (有るのでしょうか)。なんやら (何か) こそこそするとこ (所) を、言うんやろなあ (言うのでしょうか)。あらわれ (公然) でせんとなあ (せぜに) 表で 酒飲ましとんねけど (飲ませているのだが) 裏いまあると (へ回ると) 転んどんね (でいるのです) 達磨さん。

あいまこいま (あひまこひま) (合間小間) (小隙) 【名詞】 1) 多くは“に”を伴って副詞的に用いる 小間は語彙を強めるため添えた語 ひまひま 暇のある時ひまな時に 2) 物と物との空間 (志 (布施田)、浜島) 3) 所々 [会話] 3) 種おもさまやつたら (沢山 播いたら) よっけ (沢山) 生えて来ると、やうちな (全部が) 共倒れやもんで (なので)、アイマコイマ抜いて あらけたると (広げてやると) そんな (それが) おっかいなるやんない (大きくなるでしょう)。そやもんで (それで) 抜きあらけなはざん (広げなけれ

ばいけない)。

あいます 歩かせる [用例] こららな (子供が) 立つて来たら アイマス稽古 させなはざん (なければいけない)。

あいまち。あいはち (過、誤) 【名詞】 1) あやまち、あやまつ (過) の変化した語。怪我、過失、あやまち、間違い、やりそこなう事 失敗。してはならない事。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) 2) 男女間の過失 (あやまちを使用する) (志 (鶴方、神明、浜島、布施田、志島、甲賀)、鳥 (桃取、答志)、伊、度、桑郡、桑市、員、三、四、上、阿、張) [会話] 1) アイマチ、怪我した言う事。どいらい (大変な) アイマチしたなあ言うて、見舞い言うの (のです)。2) アイマチした時の子や (だ) 言うて 若い時に結婚せんうちに (しない間に)、それはあやまち 言う言葉を アイマチ言うたねやんな (言ったのでしょうか)。あやまあ (彼女は)、若い時、あやまち犯して、その時の子や (だ) 言うて、それを、アイマチ言う人も、あんなけどなあ (あるのですが)。

あいまに 【副詞】 1) 時々。あいま参照 (三、鈴、安、上、阿、張、名、南、熊) 2) 隙間に

あいもすきもない 間断なく続いて居る 暇がない (志 (布施田)) [用例] 忙して 忙して アイモスキモナイねない (のだ)。

あいやく (あひやく) (相役) 【名詞】 同役。同僚。[用例] こんだ (今度は) わいとと (貴方と) アイヤクやよう (です)。

あいら (彼等) 【代名詞】 あいつら、あいつ、あやつ。話し手、聞き手から離れた複数の人を指し示す。あい、相、仲間、同類。あいつ (彼、奴) あやつの転。遠慮のない相手との親しみ、憤り、悔りなどを表す時に使用。やつ (奴) 人や動物を軽蔑して言う語。他人を卑したり、同輩以下を親しみを持って言う言葉。ら 人を表す名詞、代名詞について、複数であることを表す謙讓、親愛、蔑視の気持ちを含んでそれと同類のものを漫然と表す。目上の人を表す時にはつけない。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀)、鳥 (鳥羽、浦村)、三、亀、安、一、度) [会話] アイラな (が) 遊びに来て言うて、友達的事やわい (です)。此処におらせん (居ない) 人を、アイラもくやええのんなあ (来ればよいのになあ) 言うて、友達やけどなあ (だけれども)。

あいる (家鴨) 【名詞】 あひる、いとひの訛。(志) [会話] 家鴨の事アイル言うの (のです)。尻ひよっこひ

よっこさすとなあ、アイルにべんと箱持したしたよおな
なあ (ようだ) 言うて。

あいん **【副詞】** あんなに、あのよう。[会話] まいま
いしとらんと (してなくて) はよ (早く) 畠へ 出
てくと (出て行くと) 畑の仕事なよけ (が沢山) 出来
るもんで (ので) ええねけど (よいのだが)、せど
(裏) へ廻り 納屋行きしとると (していると) 家ん
(に) いつ迄 アインしとんねない (しているのだ)。

あう (あふ) **【合】** **【自ワ五】** 1) 儲かる、割りに逢う、
費やした物と、その結果得た物が釣り合う 2) 一致
する (志 (布施田)) 3) 出逢う (志 (布施田)) 4)
似合う (南) [会話] 1) 商売なアウとええけど (よい
が)、商売な (が) あわせんのん (ないのに) あげん
(あんなに) いつ迄も だらだらしとらんと (してい
なくて) たいがいに見切りつけや (つければ) 言う
時も有るしなあ (有ります)。

あえぐ (あへぐ) **【喘】** **【自ガ五】** 1) 激しい息使いをす
る。2) 生活が苦しい。仕事が大変だ。

あえこにする (あへこにする) 多人数で一人の人を茶化
する。なぶりものにする。あえる、嘲弄する、馬鹿に
する。あえこ、あえるの名詞化したもの。(志 (布施
田)) [会話] アエコニスル言うのは、悪口言うて、そ
の人をいじめる。おらまあ (俺は、私は、あいらな
(彼等の) 口な (が) えろおて (えらくて、達者で)、
アエコニオオタ言うて、アエコニオオタ (あつた) と
か、こらこら (なぶりもの) におおた、同じ意味や
(です)。悪口言うて、せんざり (充分に、完全に) い
じめるのを アエコニスル。

あえたりもおだり。あえたりもんだり あれこれ、右と
言ったり左と言ったり 混ぜかえす 混乱させる (志
(布施田)、一、北) [会話] アエタリモオダリして言
うて、アエタリモダリ言う事は 好きや言うたり
(だ言ったり)、嫌いや言うたり。おんな、こげん (俺
がこんなに) 言うと、そやはざん (それは駄目だ) 又
こげん (こんなに) 言うと そやはざん 言うと、ア
イタリモオダリして 言うて、言うと (例えると) 人
の言う事 混ぜ繰り返す言う事やなあ (ですよ)。そげ
んして (そんなにして下さい) 言うと そやはざん、
こげんしよお 言うと そげな (そんな) 事したらは
ざん、こげんせなはざん (こんなにしなければ駄目
だ) 言うのを。アエタリモダリして 言うて。

あえな (あへな) あのような、あいな参照。(志) [会話]
話ししとて (していて)、アエナもん (者) てんで (全
く) 相手になるか (ならない)。てんで話しにならせん

(ならない) 言うて、全然判らせん (判らない) 言う
事やろなあ (でしょう)。

あえもん (あへもの) **【和物】** **【名詞】** 1) 野菜、魚介類
を調味料と共に各種混ぜ合わせて作った料理 (志 (布
施田)) 2) 馬鹿にする 馬鹿にされる [会話] 1) ア
エモンする時に、普通、醤油や、ごまだれにしてみたり、
味噌であえたりすんのを (するのを) アエモン、
なんでも (なにでも) あえて有る こねて、混ぜ合わ
せてすんな (するのが)、アエモン。

あえる (あへる) **【合、和】** **【他ア下一】** 1) 野菜、魚介
類を酢、味噌、胡麻等調味料、香辛料と混ぜ合わせる。
2) 混ぜかえす。ごちゃごちゃにする。3) 話しを混
乱させる。4) あえこにする (前出) 馬鹿にする。か
らかう。子供をアヤスと言う語と関係有るか (方言俗
語語源辞典) [会話] 1) 物をアエルと、2) 人をアエル
とは 又意味な違うけどなあ (違います)。物をアエル
時と、人をあえこ (馬鹿) にして、こらこら (なぶり
者) にする。

あえん あんなに、あいん参照 (志 (布施田))

あお (あを) **【青】** **【名詞】** 鮑の一種 肉の表面が緑色の
物。黒とも言う。

あおあじ **【青鰺】** **【名詞】** まるあじ アジ科の海魚 全長
40cmに達す マアジに似ているが、ぜいごが短く
体色も青緑色を帯びる。(鳥、度) めあじ 目鰺 アジ
科メアジ科の海魚 全長30cm程になる。体は高く
測偏し、特に目が大きい。体色は、背面が青く、腹面
は白く、体側中央に幅広い黄色帯が一本ある。(志、
鳥)

あおいお **【青魚】** **【名詞】** 青い外表面を持つ魚の総称。主
に海表面を近く回泳する鯖、鰯、鰹等。青魚に対し、
赤、茶色等の外観を示す魚はあかいおと呼び、海底に
住むため、そこいお (底魚) とも呼ばれる。(伊) [会
話] 鯖とか、秋刀魚とか、鰯とか言うのは、アオイオ
言うし (言います)、あかいお (赤魚) 言うのは、ごっ
ち (かさご) やとか、めんつや (だ) とか、かげきよ
とか、ああ言うのを、あかいお言う (言います)。そこ
いお (底魚) と、あかいおは一緒やわい (です)。あか
いおは底ん (に) おんねよって (いるのだから)、そし
て、アオイオは、上を走るんなし (泳ぐのです)。

あおいきといき (あをいきといき) **【青息吐息】** **【名詞】**
苦しんで息をする事、転じて労働の激しい事。困難な
事。あおいきは顔青だめてつく息の意か。(大言海) と
いきは、ため息を吐く事。調節を整え、意義を強める
ため重ねて用いたもの。[用例] 稼ぎなおて (無く

て)アオイキトイキや(だ)。

あおお(あおう)【形容詞】青く、青くなっている状態。

[会話] 梅のあおおいの取ってとか、びや(枇杷)のあおくさ取ってとか 物凄く 青い時を言うんな(言うのです)。あおくさや(だ)言うて。あおくさ 取ったら 食われやせんわれ(食べられないです)言うて、まだ熟して居ない アオオしとんのを あおくさや(だ)言うて。

あおか 逢いましょうか。[用例] 別れる時ん(に) あした(明日)アオカ言うて(言うて)。

あおかい 逢いませぬ。[用例] 減多にアオカイ あや(彼は) 忙ししとんねよって(忙しくして居るのだから)。

あおがに【名詞】がぢみ(蟹)の雄、わたりがに参照。

あおぎ【名詞】子供の遊び。地面に円形のボール紙に絵をかいた札をおき、同様のものを地面に叩きつけて相手の札を、裏返す遊び。めんこ、ばんばん、参照。[会話] ばんばん。じべた(地面) しとて(していて)アオギ や(だ)言うて、うつぶけん(うつむけに) すんのなあ(するのです)。

あおぎたてて 人を煽てる、あふる、あふって。[用例] 阿呆 アオギタテテ わりこと(悪い事) さして(させて)。

あおぎたてる。あおぎまくる 盛んに煽ぐ、おだてる。(尾)[会話] アオギマクル 言う。団扇で アオギマクル。なんやかや 風を立てる事。アオギマクッテ おこした 言うて。人おだてる言うの アオギタテル 言うてな よお言うけど(よく言いますが)。

あおぎも【名詞】呪い持つ人。執念深い人。人に恨みを持つ人。[会話] アオギモ 言うてな、そのにげ(人間の) めえ(目) 見てみよえ(みなさい)、目付きな(が) 違うに 言うて。あのにげや(人間は) 人に憑くねよって(のだから)、呪うね(のだ) 言うて、あの おなご(女)の めえ(目) 見てみよえ 目付きな(が) 違うんや(のだ) 言うて。

あおぐ(煽)(あふぐ)【他ガ五】1) 扇などで風をおこす 団扇でアオグ(三重県全域) 2) 煽てる [用例] 2) 人アオグのな(のが) 上手で。

あおぐ(あふぐ)【仰】【自ガ五】1) 尊ぶ 2) 上を向く [用例] 1) 先生をアオグ 2) 空アオグと飛行機な(が) めえた(見えた)。

あおくさ(青臭)【名詞】野菜、果物の熟していない物 [会話] アオクサ言うな(のは)、まだ ほんとに(本当に) 青い、べつん(特別に) 青いのをなあ まだ

アオクサやれ(だ) 言うてな。まだ 青いわれ(です) 言うな(のは) あからむ(熟する) 前で まだ アオクサやれ(だ) 言うな(のは) ものすごい青いの(のは) アオクサノトンゴロやれ(だ) 言うてな。

あおくさい(あをくさい)(臭い)【形容詞】阿保くさい 馬鹿らしい 未熟だ 未熟者 1) 青魚の未成熟の物がもつ一種の臭気 2) 野菜の臭い 3) 未成年、或は年齢の若い者に対し、軽蔑の意を込めて用いる(青二才) 阿保くさい [会話] 3) 阿呆臭い言うのなあ(です)、1) 2) 物の臭いなすん(のがするのを)。アオクサイかざ(匂い) な(が) すんのなあ(するのです)。野菜のかざの アオクサイのを例えて、あんで(あれで) 言うんやろ(言うのでしょうか) アオクサイなあ 言うて。もみな(浅漬け) にしたりして、ちよいと(少し) 漬かりな(が) 前の時は、アオクサイなあ 言うて、もおちよいと漬からせん(少し漬からない) 時に、アオクサイ こや(これは) まだ漬からせんなあ(ないのだ) 言うて。

あおくさのとんごろ【名詞】極めて未熟な物 野菜 果物の未熟な物 [会話] アオクサノトンゴロやれ(だ) 言うて、終りに言うんなあ(言うのです)。あおくさより も一つ青い 一番まあ すえつぽ(最後) 言うよ おな 意味やなあ(です)。

あおぐも(あをぐも)(青雲)【名詞】青空 (張) [用例] 今日はアオグモで上天気や(だ)。

あおさ(あをさ)(青藻)【名詞】緑藻類の海藻。各地の海岸線に春先干潮線付近の岩石に付着する。1) 長さ5~25cm。緑に波状のひだのある扁平な葉状体二層の細胞からなり、大小の穴が有る。鮮緑色又は黄緑色で食用(乾海苔、つくだ煮)にする。あなあおさ 2) ひとえぐさ おさ参照(度)

あおざかな(あをざかな)(青魚)【名詞】体色の青い魚。あおいおに同じ 参照 [会話] アオザカナ言うな(のは)、さいら(秋刀魚) や(だ) とか、鰹とか、鯖とか、あいな(あんな) うわつら(上面、上の方) とんだるのおは(とんでいる、泳いでいるのは) アオザカナで、赤魚は底魚や言うわい(と、言います)。上の方とんだる言うのは、上の方を おえんだる(泳いでいる)。飛び魚や、さいらは、上の方 ビョンビョン 飛んだるやんない(でしよう)。そやよって(それだから) アオザカナはうわざかな(上魚)で、底魚はあつかい(赤い) のおを(のを)。

あおさじる【名詞】あおさを具にした味噌汁(志) [会話] アオサの汁なあ(味噌汁です)。従兄縁かよ お

さ汁か 言うてなあ、濃いのおで (ので) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。アオサは 乾いたのおを (のを) 入れるもんで (ので) おつけな (味噌汁が) うっすう (薄く) ならせんやんない (ならないでしょう)、他のもん (物) あろといて (洗っておいて) 切つてする、どんだけ (どれだけ) しても 水な (が) したつ とるよつてなあ (含まれているから) おつけな 濃い (濃く) ならせんけど (ならないが)、おさ汁は あろ て (洗って) 乾かして 取つといて (しまつて) あん のを (有るのを) おつけい すぐん (に) 入れるもんで 濃いもんで 言うんやろなあ (言うのだろう) 思 うわい (思います)。従兄は 他人より 濃いよつて (から) 濃い と 従兄縁か おさ汁か 言うて。

あおざめる (あをざめる) (青褪) 【自マ下一】 顔が蒼くなる。驚いた時、長い間病気をした時など。[会話] びっくりして 色な (が) アオザメルと、おおたまあ (あゝ) おどけて (驚いて) 色な (が) ないよん (無) じょうに なつてたない (なつて行つた) 言うて。

あおしお (青潮) 【名詞】 西から東に流れるよく澄んだ潮流 [会話] 眞潮 (西から東へ流れる潮流) は、アオシオで 澄んでかあんとして、針な (が) おつととも (落ちていても) 判るよおん (ように) なつて くん ぬ (来るのです)。

あおした 【名詞】 磯物、小さな貝、食用にする [会話] アオシタ 言うな (のは) いそもん (磯物、言うけど) な (言います)。アオシタや (だ) 言うて ふさな 付いとんのを (ているのを)。そして ふさな (蓋が) や いこい (柔らかい) のをわ (のは) ししくだめ、ししくだめの たかあがり (高上り) 言うて、島の 峠い (上に)。アオシタ 言うとな ふさな さざいの (栄螺) かさ (蓋) みたよな (のような) かつたい (硬い) のをな (のが) 付いとんのを (ているのを) アオシタ や (だ) 言うけど (言いますが)。貝 いそもん やけどな (ですが) いそもん 拾いん (に) いこや (行きましょう) 言うと、アオシタな (が) よけおつ て (沢山居て) とか、ししくだめ ばつか (ばかり) 拾ろてきた (拾つて来た) 言うて ししくだめ 言うな (のは) あまあいん (甘い) やんかゝい (のです)。

あおしよびれる 【自ラ下一】 色が青くしなびれている 勢いがない [用例] 食うもん (物) も食わせん (食べない) のか あしこの家の子らら (子供達) アオシヨビレとられ (て居る)。

あおすじ (あをすぢ) (青筋) 【名詞】 静脈 血管 [会話] むし持ちやなあ (だ) このかあ (子は) 言うて、

アオスジな (が) 引つ張つて (臆れて) こや (これは) むし持ちみたいな (のような) 顔しとんなあ (しているなあ) 言うて。

あおそ (あをそ) (青苧) 【名詞】 麻の粗皮を水にさらして細かく裂いた繊維。布等の材料にする。青みがかつているので言う。(芯、マオ) 蒸して、芯を抜き、皮のついたままの麻の青い繊維の部分。アサ (麻) はあおその略転 (大言海) (員) [会話] アオソ言うのは、お お (緒) でも、アオソ言うのな (のが) 有るし (有ります)、しろそ言うのな (が) 有るし。白苧言うのは、いわいごと (祝事) に使うのなし (ですし)。アオソ言うのは下駄の鼻緒なんか (だとか)、あいなのに (あんなのに) 使うのを アオソ言うなあ (言います) 麻の事なあ (です)。

あおぞこ 【名詞】 西から潮が流れて、海の中がよく見える事 潮流 [会話] 西から東向いて 流れんな (るのは) ましお ましおはなあ 潮な (が) 綺麗な ア オゾコでなあ 針な (が) いっほ (一本) おつととも (落ちていても) 見えんのなし (見えるのです)。

あおそこひ (あおそこひ) (青底霧) 【名詞】 緑内障 瞳孔が青く見えるもの (員) [会話] アオソコヒ 言うな (のは) 緑内障の事を アオソコヒ 言うね (言うのです)。

あおだて 【名詞】 求仙の雄。ベラ科の海魚。全長25cmに達する。幼魚では雌雄とも体色が似て居るが、成魚では美しい色彩を帯び雄は青が強く、雌は赤みを強く帯びるので、それぞれあかべら、あおべらと呼ぶ。

あおたん (あをたん) (青短、青丹) 【名詞】 花札、花札賭博、パンパン あおたん。そのものは花札で青い短冊を描いた牡丹、菊、紅葉の札、またその3枚を揃える役。転じて花札。花札での遊び。花札、花合わせに用いる札、松、梅、桜、藤、あやめ、牡丹、萩、すすき (坊主)、菊、紅葉、柳 (雨)、桐の十二種を描いた札を1~12月にあて、それぞれ4枚ずつ合計48枚の札にしたもの。またそれを使ってする遊び。パンパン。花札で遊ぶ時、互いに札を打ち合やす時パンと音がするので、この語が出たか。また、パンパンには、おいちよかぶと言うこともある。おいちよかぶ。9で手札とめくり札合計した数の末尾が9または、9に最も近い者が勝ちとする。子供の面子 (めんこ) もパンパンと呼ばれる。(志、鳥) [会話] 花札 アオタンふ だ。

あおたん 【名詞】 女陰 あおたんだぼし参照

あおたんだぼし 女性が陰部を露出していること。丸出

しにしていること。[用例] おなごでらん(女で有りながら) パンツも はかんと (はかずに) おいざかいて (胡座で座って) アオタンダボシ (に) して。

あおった 疲れた あおる参照

あおてんじょ (あおてんじょう) (青天井) 【名詞】 1) 青空を天井に見立てて言う。天井のない状態。屋根のない状態。転じて家が継げない二男以下をいう。(志(浜島、布施田)) 2) 青空 天 [会話] 2) アオテンジョ (青天井) 言うのは空の事。1) 財産もなんも (全く) 無いもん (者) を、アオテンジョや(だ) 言うて よお (よく) 言うやんかい (言うで有りませんか)。おなご (女) は、アオテンジョ 言わせんなあ (言いません)。おとと (弟) をアオテンジョや(だ) 言うて。兄貴は財産な(が) 有るよって (から) 言わせん。

あおと (あをと) (青砥) 【名詞】 質の密な青灰色の砥石
あおなのふたつばからなじんだえん、あおなのふたつばからなじんだな 【俚諺】 青菜の双葉から馴染んだ仲間(縁)。幼馴染み 小さい時からの仲良し [会話] アオナノフタツバ 言うて、だいこ (大根) を播くと、かいわれな (が) 有るやんない (でしょう)。あれを例えてあんね (有るのです)。若い時から馴染んどた (でいた)、言うんやかなあ (言うのでしょうか)。ふたんな (二人で) 色気づいてから一緒なつとた 言う意味 やわい (です)。

あおなる 青くなる (度) [会話] びっくりして 顔な (が) アオナツよお 言うて、おら (俺は) あの人ん (に) あげん (あんなに) 言われて アオナツ言うてな。いやあな (嫌な) 事 言われるとなあ、おら まあ あの人ん (に) なんやかや (いろいろ) 言われて アオナツよお 言うて、顔の色 変える 言う のなあ (です)。

あおぬいとる 仰向いて居る 次項 あおぬき参照

あおぬき (あふぬき) 【名詞】 上を向いている。仰向き (志(立神、志島、安乗)、鳥、上、阿) [会話] だんばら (大きな腹) 返しとんの (しているのを) アオヌイトル (ている)。仰向きの事 アオヌキ 言うて、アオヌイトル 言うてな。アオヌケトケ (ておけ) まあ 言うたりな、返す事な (裏返す事を) アオヌケトケ 言うね (言うのです)。寝とるとなあ (寝ていると) アオヌイテ 返しとられ (ている) 言うてな、アオヌキ 言う時は 上見とる (見ている) 時で、てんじょ (天井) 見て たつばかえしとんのなあ (腹を上向けているのを)。

あおぬく (あふむく) (仰) 【自力五】 あおのく、あふむ

くの変化した語。あおむく、仰向に同じ。顔や物などの表面、又は前面が上を向く。背臥位、あおむく(鳥、桑市、伊) [会話] アオヌク 言うて 上向いとんね (ているのです)、うつぶく 言うて 下向いとんね。

あおぬけ 1) 上を向いている。(南) 2) 上を向け(多、南) [会話] 2) アオヌケ 言うて 上向け。あおぬいて てんじょ (天井) 眺めとれまあ (ていなさい) 言うて。

あおぬける (あふぬける) 【他カ下一】 上を向ける。ひっくり返す。[用例] 茶碗 伏せてあんのを (有るのを) アオヌケル。

あおのき あをのき (あふむき) (仰) 【名詞】 あおむく、あおぬきに 同じ (志(鶴方))

あおのく (あふのく) 【自力五】 上を向く 仰向く あおぬけに同じ (志(布施田)、桑市、員、多、上、阿、張、名)) [会話] アオヌク、あおぬける事をアオヌク。むしら (私達) の子供の時分 (頃) には、あおぬけになる事をアオノク、アオノケまあ (上を向きなさい) 言うやんかい (言います)。

あおのけ (あふむけ) 【名詞】 仰向きなさい。あおぬけに同じ。(志(立神)、桑市、多、伊、北、南) [会話] アオノケ 言う人も おんね (居るのです)。のけ言うて あおのいとんね (ているのだ) 言うて。

あおのけざま (あふのけざま) (仰様) 【名詞】 仰向いたその時 [用例] アオノケザマン うてかえった (倒れた)。

あおのける (あふむける) 【他カ下一】 あおむける。上を向ける。裏表を反転させる。あおぬけるに同じ。[会話] アオノケル 言う人も おる (居ます)。その人ん (に) よってなあ あおむけるとか あおぬける、アオノケル とか 言うてなあ。

あおのみねいき 【名詞】 二月十八日、六月十日の大祭、また月例として毎月大漁祈願のため青峰に参ること (志、鳥、鈴) [会話] 青峰さん まいんの (参るのを) アオノミネイキ言う (言います)。

あおばい (あをばひ、あおばへ) (青蠅) 【名詞】 1) クロバエ種の蠅の内体が大きく、青黒い腹に光沢の有る蠅 2) うるさくつきまとして来る者をののしって言う言葉。[会話] 1) きんきん せえな (背が) 光つとる (ている) 蠅 アオバイ。

あおばな (あをばな) (青漢) 【名詞】 子供などが、垂らして居る青いはなじる。(員、松、尾) [会話] アオバナ、ごとばな。ごとばなの事 アオバナ 垂らして 言うね (言うのです)。ごとばな(が) 出て来ると

風邪な(が) 治った 言うて 言うの(言うのです)。
磯い(海女に) いても(行っても) 風邪な(が) 治り
かけん(に) なって来るとな、ごばなな(が) 出て
来ると、どいらい(大変) かづきよいね(潜りやすい
のです) そいななの(そんなのが) 出たと(出てし
まうと) そんな(それが) 出やんと(出ないと) ど
いらい底入りのくいね(大変潜りにくいのです)、ご
ばなな(が) 出て来たや(出て来たら) どいらい か
づきよいんよお(潜りやすいのだ) 言うて。

あおばむ【自マ五】 青みを帯びる [用例] なんしろ
(苗代)も、伸びて どいらい(大変) アオバンで来
た。

あおびおたん(あをべうたん)(青瓢箪)【名詞】 瘦
せて顔色が悪い人をののしって言う語(志、上、阿、
尾)

あおぶちがえる(青淵かえる) 真つ青に澄んでいるさま、
池や堀の深い所に水が青くよどんでいるさま。青々と
している。青淵、水を青々とたたえた深い淵。がえる、
〇〇かえる(静まりかえる等) 状態を示す語。(志(布
施田)) [会話] アオブチガエル。 ふつかい(深い) 事
や なあ(です) 海な(が) ふつかい(深い) 言う事や
なあ(です) あおおて(青くて) ふつかい、ふつかあ
い(深い) とこ(所) ああおお(青く) しとるわな
(しています)。そおすると、アオブチガエル、言うて。

あおべら(青倍良、青羅羅)(魚名)【名詞】 求仙の雄。
成長すると、青味を帯びる。あおだて参照 求仙、気
宇仙、べら科海産の硬骨魚、体長約20cm、13~
15cmで雌から雄に性転換するものが多く、その際
体色が変わり青みを帯びる。あかべらは、殆んど雌で、
青みをおびる、あおべらは雄。我国各地の沿岸に分布
し、昼間活動し、夕方になると砂中に潜る。

あおべん【名詞】 馬鹿者(志) [会話] 阿呆言う事 ア
オベン アオベン やよって(だから) 言うて。アオ
ベンの はてなしや(果て無し者だ) 言うて。

あおべんぬつとる 馬鹿丸出し [会話] あんごし(馬
鹿) 人をなあ、あおべんやよって(だから) 言うてな
あ。塗つとんねよって(ているのだから) 言うて、ア
オベンヌツトル言うて。

あおむき(あふむき)【名詞】 上向き。あおのきと同じ

あおむく【自カ五】 上を向く [用例] よさり(夜) アオ
ムクと星ぼつとる(で一杯だ)。

あおむけ 1) 上を向いて居る事 2) 上を向け [用例]
2) うつぶいどらんと(うつむいて居なくて) アオムケ。

あおむける【他カ下一】 上を向かせる [用例] 盃 ア

オムケル。

あおむろ(あおむろ)(青鱧)【名詞】 アジ科の海魚 全
長約30cm、背部は青緑色で背部は銀白色、ムロア
ジに似て居るが体側に黄色や赤味を帯びない みずむ
ろ

あおもん(あをもん)(青物)【名詞】 もんは物の詠り
1) 青物、野菜 畑で作る野菜類の総称(名) 2) 青
魚 [会話] 1) アオモン言うのは 野菜、アオモンく
わな(食べなければ) はざんわれ(駄目だ) 言うやん
かい(言います・言うでは有りませんか)。アオモン
くわせんよってんだ(食べないからだ) 言うてな、菜
っ葉や(だ)とか ホオレン草やとか そいなもん
(そんな物) 言うんやろな(言うのでしよう)。

あおや 会いましょう 別れの時の挨拶 [会話] また
アオヤ あした アオヤなあ 言うのを またねえ
言うて さよなら 言うよおな 意味やけど(です)。

あおやまいわし【名詞】 真鯛、山々の木の葉が青くなる
頃多く獲れることから。イワシ科の海魚。イワシの代
表種。全長約25cmに達す。背方は暗青色で腹方は銀
白色で体側に七個内外の小黒斑が並ぶ。鱗は極めて離
れやすい。[会話] アオヤマイワシ。今し(今) あが
る(獲れる) 時やよってん(だから) 青山山なると
(山が緑になる) ひらご あんなよけ(あれが沢山)
あがるやんかい(獲れます)。

あおり(あふり)(煽)【名詞】 動詞、あおるの連用形の
名詞化。ある状態の変化や現象の余。又それに依って
受ける影響。余勢。(志(布施田)) [会話] 人なわり
(が悪い) 事しても、そのアオリで、わしら(私達
も) 咎められるやんない(でしよう)。

あおり(障泥鳥賊)(あふりいか)【名詞】 いか(鳥賊)
の一種。ジンドウイカ科。本州中部の以南で多く採れ、
肉は柔らかく、上等の刺身になる。胴は長さが50cm
にもなり、中央部が広がった円垂形。生時の体色は黒
褐色で、雄には多数の横縞がある。肉ひれを動かすさ
まを馬具の障泥に見たてたことによつて言う。(度、北
尾) [会話] アオリイカ 鳥賊。

あおる(あふる)(煽る)【他ラ五】 1) 疲れる(志(布
施田)) 2) 煽る(風の時も、煽る時も) 3) 唐箕で
砂やごみを殻類から選別する [会話] 1) アオツタよ
お(です) おえんで(泳いで) かいだりて(だるく
て) 言うてなあ。海いて(行って) おえぎやい(泳ぎ
あい) してなあ、どこそ迄 おえごか(泳ごうか)
言うて、まあ、アオツタなあ 言うて、くたぶれた
(疲れた) 言うのを アオツタ言うの。まあなあ ア

オッタよん (ように) しとんない (している) 言うてな、なんでも (何でも) はらぶう (疲れて) しとるとアオッタよん しとんない 言うて。

あか (闘伽、塗) 【名詞】 闘伽 価値あるものの意。功德水、神仏に供える水。水から転じて塗。塗を船底に溜まった水。漁師の忌み言葉。(志(布施田、甲賀)、桑市、鈴、鈴、津、一、北、尾) [会話] 舟のアカ。水な (が) 入って来る事を、アカな 入って来た言うてなあ (言って)。舟なは ししやんどて (が乾燥して) 水な (が) 入って来ると、アカな (が) 入って来た、アカかえたれ (汲み出せ) 言うて。

あか (銅) 【名詞】 銅、銅製品、あかがね。あかがねの略。アカガネ参照 [会話] 銅の事 アカ。アカガネ (赤銅) も、銅やなあ (です)。アカガネ、しんちゅうがね (真鍮金) 言うて、屑屋な (が) 銚代えに来いよ つた (来て居ました)。“アカガネ、しんちゅうがね、ニュームのべんとがら (弁当箱)、銚、とりかえるピュー” 言うて、そすと (そうすると) 舟のおもて (舳) に張ってあんのを (有るのを) はずして、銚、かえんで (るので) よお (よく) 怒られて。

あが (吾、我) 【代名詞】 代名詞あ (吾、我) に助詞がついたもの。対称、おまえ、貴方、目上の人に使用する。一人稱に転じたもの あがみ 参照。(志(志島)) [会話] そげん (そんなに) 言うたてて (言っても) アガ。男の人らん (に) 話すると そげん (そんなに) 言うの (のです)。あがみや (貴方は) そげん (そんなに) 言うたてて アガ、こや (これは) こおやのん (だのに) 言うてな、あんたわ (貴方は) そんな事言うても 此は こおです 言うのを、あんた (貴方) 言う意味やるなあ (でしょう) そんなこと 言うたてて あんた 言うのを そいな事 言うたてて (言っても) アガ 言うて。

あがあ 【代名詞】 貴方は (志) [会話] アガアも、あがも、一緒や (です)。アガアは 男でなあ。そげん (そんなに) 言うたてて (言っても) おみや (貴女は) 言うこた (事は) おなご (女) の 上の人なあ (にです)。

あかあじ 【名詞】 海魚。アジ科ムロアジ属、体高高く積鱗は側縁の全直走部を占め頭頂鱗は腹の前縁にとどく。胸鱗は長く第二背鱗始部を超える。鱗は赤い。

あかいお あかうを (赤魚) 【名詞】 かさご (笠子) 類の総称。青魚 (あおいお、あおざかな) に対して、赤い鱗を持つ魚類の総称。あおいお参照 (志(鶴方、神明、立神、志島、安乗)、鳥(菅島)) [会話] アカイ

オ 言うて、ごっちや めっこお そして めえな (目が) とぶれとんな (飛び出ているのは) めんつ の めえ (目) みたよん (のように) とぶれとる 言うて。めんつ の めえな こげんも (こんなに) 有ってな、とぶれとんね (飛び出ているのです)。アカイオの ど いろおて (大きくて) おってなあ (居て) めえな と ぶれとんの、そや (それは) 沖の 底魚 でなあ 沖い (へ) 行く人や (で) なけな (なければ)、たかは (陸近くは) ごっちや めっこおや 言うてなあ あつかい (赤い) のおを (のを)。そして めえな と ぶれとんな かげきよか めんつか なあ。かげきよは 又 旨い 平家の大將やんかあ (だ) 言うて、きんときを あや (あれは) ねえな (値が) ええね (よいのです) きんときは。

あかい (赤鳥賊) 【名詞】 けんさきいか。ジンドウイカ科のいか。胴は細長く (胴長は胴巾約5倍) その形が剣の先に似ている。

あかうに 【名詞】 海胆の一種。ラッパウニ科のウニ。潮間帯附近の岩礁に住む。体表、棘共に赤く棘の先端は尖らない。(鳥)

あかうま (赤馬) 【名詞】 火事 (志) [用例] 夜中に アカウマ 走って、おとし かった (怖かった)。

あかえ、**あかええ** (あかえひ) (赤鰮) 【名詞】 海魚の一種 アカエイ科 体長1mに達す。体は平たく菱形で細長い尾がある、背面は緑褐色、腹面は黄白色、尾の中央に有毒の鋭い刺が有り刺されるとひどく痛む。卵胎生で6~8月頃幼魚を生む。エイ類中最も美味で特に夏がよい。(志(安乗)、鳥、三、鈴、一、松) [会話] アカエエ。アカエエの おおたろ (特大) 言うて、アカエエは 美味しい もんでだ (ので)。アカエイの きも (肝) 食うと めえな (目が) よおなる (よくなる) 言うやんかい (言うでは有りませんか)。あれの きも は 目薬や (だ) 言うて。アカエイの きも を探した事な (が) あんね (有るのです)。

あかえびす 【名詞】 魚 いったうだい 一等鯛。イトウダイ科の海魚、体長25cmに達す。体形は側扁し、堅く粗い鱗でおおわれている。体色は赤く、体側に9~10條の白い縦走帯が有る。(伊)

あかおけ (あかをけ) (闘伽桶) 【名詞】 船の汚水を汲み出す桶 [用例] アカオケ持って、アカ かえとる (汲み出して居る)。

あかおとし (垢落) 【名詞】 垢をこすり落とす物。風呂場にある軽石、スポンジ等。[会話] へちまやたら (だとか)、アカオトシや (だ) 言うて。

あかがいる (赤蛙) 【名詞】 赤蛙 にはんあかがえる アカガエル科のカエル 普通背面が赤褐色で草原や森林に住む体長5〜7cm。左右の股の後方から縦にしわ状の突起が走る。体側及び四股に暗色の横帯あり。後ろ足にだけ水かきがある。肉は小児の疳の薬になると言う俗信あり。皮と腸を取り去り、醤油で付け焼きにして食べさせる。(志、鳥、伊) [会話] アカガイルは畑い (へ) 行くと ひきむいといて (ておいて) 芋がらい (芋の茎へ) 干しといて (ておいて) 焼いて 食わしおった (食べさせて居ました)。疳ぐすりや (だ) 言うて、旨いね (旨いのです) アカガイル 芋掘るよおん (ように) となると よお (よく) 出て来てなあ。

あかかえ 【名詞】 船中に入った汚水を汲み出すこと、又その人、その器具 (志 (立神、鶴方、神明、甲賀、国府、安乗)) [会話] 船の アカカエ。まだ 間に合わん がっこあがり (学校卒業したばかりで) かとぶねい (艇舟に) 乗せて 貰うと、間に合わん よつて (から) アカカエン (に) やろん (出しましょう) 言うて。あかとるとなあ そすと 終いん (に) となると あかとりもち や (だ) 言うて、どいらい (大きい) もち (握り飯) をして、こや (これは) あかとりな (が) 食うねど (食べるのだ) 言よおったわい (言っていました)。

あかかえじゃく (あかがへひしゃく) (関替柄杓) 【名詞】 ひしゃくのひが省略されたもの。関取杓に同じ。船底にたまった水を汲み出す柄杓。[会話] あか (船底の水) かえんな (かえるのは、汲み出すのは) アカカエジャク。

あかかえのもち 【名詞】 船中に入った汚水を汲み出した者が作業の後で食べる握り飯。もちは握り飯を言うあかとりもちに同じ あかかえ参照

あかかえる 船の汚水を汲み出す (志 (布施田))

あかがね (銅) 【名詞】 漢語、赤金の訓読により生じた語。銅、あか、あか参照。[会話] アカガネ 銅 アカガネ しんちゅうがね ニュームの べんとから (弁当箱) 飴 取り替える びゅう 言うて 屑屋な (が) 飴、替えん (に) 来るとなあ、そげん (そんなに) 言うて、替えん (に) きおったんなあ (来て居ました)。銅の事を あかなあ (です)。アカガネ 言うて。アカガネ 男の子らな (が) 舟の みよしん (舳に) 張つて 有んの (有るのを) はずしん (に) 行てなあ、皆売つて 替えて 食うと 見つけれられると どつき殺したんど (叩き殺してやるぞ) 言うてなあ、おもてい (船首に) 張つてあんの (有るのを) はぐねよつてん

なあ (のだから)。

あかかます 【名詞】 海魚。おおめかます。スズキ目カマス科。体は細長く、頭は細くとがり下顎は上顎より突出する。両顎に鋭い犬歯状の歯をそなえる。体側に横帯や縦帯が無い。胸鰭腹部の後方に暗色斑が見られる。第一鰭弓に小棘をそなえた骨頂板が多数並び通常の鰹鮓は認められない。

あかく (足掻) 【自カ五】 1) 気をもんで働く。あくせくする。2) もがく、一生懸命に働く、精を出す (名) [会話] ²⁾ もがく事やなあ (です)。もがく、アガク、海ん (の) 中で息よおせんで (出来なくて)、もがいたね (たのです)。

あかけや 【形容詞】 赤ければ。[用例] なんでも、アカケヤ ええわれ (よろしい)。

あかこ (赤子) 【名詞】 溝などに生じみみずりに似て、甚だ小さく赤い動物。金魚の餌にする。糸みみず。(員、伊) [用例] アカコ とてこい (持って来なさい) 金魚の餌にすんのん (するのに)。

あかご (赤子、赤児) 【名詞】 生まれてまもない子供 (志 (国府、甲賀、志島、片田、神明)、鳥 (坂手)、三、阿、張、名、伊) [会話] 赤ん坊やなあ (です)。ひと月 (一ヶ月)、ふた月 (二ヶ月)、みつき (三ヶ月)、半年は、アカゴやわい (です)。

あかごのてえくじく いとも簡単なこと 容易なこと。くじくはもぎ取る、もぐの意 [会話] アカゴノテエクジク 位やれ (だ)、あいら (あんな者) としたら言うて。とろくさい (鈍くさい) のおと (のを) えらい (上手) のおと、あいな (あんな) のおらな (やつらが) あれん (あれに) あわしや (合わせば) アカゴノテエクジク 様なもんや (だ) 言うて。

あかごのてえねじるくらいや いとも簡単 [会話] すもとり (力士) と、普通の人な (が) 掛かつたら (行つたら)、あやなあ、アカゴノテエネジルクライの もんやれ (ものだ)、簡単にできるよおな、そやよつて (だから)、あげな (あんな) 仕事、アカゴノテエネジルクライの もんやれ、簡単な もんやれ、言うて。

あかごろ 【名詞】 魚。かさご。あかいお参照 (志 (鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、鳥) [会話] あかゆお (赤魚) アカゴロ 言うて あかゆお (赤魚) のこと アカゴロ。

あかざと (あかざたう) (赤砂糖) 【名詞】 赤い色をした砂糖、赤砂糖。粗製の薄い茶褐色の砂糖 さと、砂糖 [会話] アカザトなあ (ですか)。あつかい (赤い) さとな (砂糖が) 有りおつたやんか い (有つたで有りま

せんか)。あつかい げじろ (下白) んのおを、アカザト言うてなあ (言つて)。アカザト言うな (のは、しろざと (白砂糖) のあくな抜かん (灰汁が抜かずに) とあるのを言うんやろなあ (言うのでしょうか)。あつこお (赤く) したる (しています)。いましゃ (今は) 白いのをおを (のを) 使うんしか (使うのより)、赤を使え言うやんか (言います)。白はあんまり (あまり) ええ事ないんでわい (良い事がないそうです)。料理に使うのん (の) なるだけ (出来るだけ) アカザト使え言うて。らつきよ漬けん (るのに)、わざと (わざわざ) アカザトこおて来た (買ってきました)。白せんと (せずに) よお (よく) 効くもんなあ (効くのです)。栄養のためん (に) も、アカザトの方なええ (よい) 言うやんかい (言います・言うでは有りませんか) 白より。

あかざや (赤鞆) 【名詞】 ならず者 (志) [会話] アカザヤ抜いて言うの (のです)。アカザヤ言うな (のは) 刀の鞆の あつかいの (赤いのを) アカザヤ言うて、そやもんで (それだから)、酒呑んで てつか切る (鉄火、無理を言う) やんない (でしょう)。アカザヤ 抜いて言うて よお言うやんかい (よく言います・言うでは有りませんか)。

あかざやぬく 暴力的な語を並べて脅迫する あかざや 参照 (志 (布施田))

あかし (燈火) 【名詞】 1) ともしび。燈火。[用例] よさりん (夜に) なつても、アカシもつけやせんねない (つけないのだ)。2) 燈明

あかし (証) 【名詞】 動詞 あかす (明) の連用形の名詞化。確かなより所を明にする事。証拠、証明。(志 (布施田)) [会話] アカシを立てる、言うやんない (でしょう)。正しい事を 確かめる言う 話やんかい (です)。アカシを立てて、えごつと (完全に)、さつぱり せな (しなければ) 言うて、言うて 証拠言う事やろなあ (でしょう)。

あかじばん 【名詞】 刑務所行き、犯罪人。[用例] 郵便さん走らんせ、時間が切れたら罰金や、罰金どころかアカジバン。

あかしやび (あかさび) (赤錆) 【名詞】 鉄などの金属の表面に生じた赤茶色のひどい錆 [会話] アカシャビな (が) 浮いてまあ言うてな、井戸の水 アカシャビや (だ)。そして たあ (田) でも アカシャビの たあ (田が) 有るやんかい (有ります)。アカシャビの たあや (田だ) 言うて 出来な (が) わり (悪るい)、いしけてくの (萎縮して行くのです)。稲な (が)、ひ

とつも (少しも) 苗な (が) 育だたせんのなあ (ないのです) アカシャビな (が) 入ると、水の中だけや なしん (でなくて) 泥も あつかいのな (赤いのが) 浮いてくんのなあ (来るのです)。なんやかや (いろいろ) 物な (が) 錆て来ると、アカシャビな (が) わいて言うやんかい (言います)。ほつちよ (包丁) でも 錆て来ると あつこお (赤く) して来る。磨き入れても 根が鉄なれば 元の地金え (に) しゃびな (錆が) 浮く言うてなあ、磨いても じつきん (すぐに)、しゃび な 浮いてくんのなあ (来るのです)。

あかじむ (垢染) 【自マ五】 垢に染みて汚い

あかじんどる 垢で染み汚れて居る [用例] いつもか も (いつも) アカジンドル きもん (着物) 着とらん と (着て居なくて) さつぱりも せえまあ (しなさい)。

あかす (明) 【他サ五】 証明する アカシ (証) 参照

あかす 秘密などを打ち明ける、人の秘密を暴露する [用例] 胸の内をアカス。

あかす (飽) 【他サ五】 飽きさせる (志 (布施田))

あかすり (垢擦) 【名詞】 垢をこすり落とす物。風呂場に置く軽石、へちまの実の線維など。(上) [会話] アカスリ。軽石や (とか) へちまみたよなのな (のようなのが) 有つてなあ、あかおとしや (だ) 言うて。

あかせ 飽きさせる [用例] 憎い子は茶でアカセ。

あかせん 1) 開かない 2) 空かない 3) 飽きない [用例] 1) ビンの口な (が) アカセン 2) 席な (が) アカセン 3) 好きな事やよつて (だから) 毎日 した ても (して居ても) アカセン。

あかせんな 1) 開きません 2) 開かないのは [用例] 2) ビンの口な (が) アカセン 力入れな (なければ) はざん (駄目だ)。

あかせんな 飽きません

あかだま (赤珠) 【名詞】 真珠の赤い色を帯びた物 (伊) [会話] 真珠の珠の あつかいの (赤いのを)。あつかい (赤いのは) よけ (沢山) 無い。青は有るけど (が) ピンクや 言うのな (が) 有るやんかい (有ります)。ピンクは ちよいと (少し) 桃色みたよん (のように) なんの (なるのです)。ピンクな (が) 一番ええん (よいのです)。今しや (今は) 青い珠な (が) ど いらい (大変) よおて (よくて)。

あかたまがしら 【名詞】 たまがしら イトヨリダイ科の海魚。体長約 30 cm に達し、体は長楕円形でやや側扁する。体色は淡紅色の地に四条の幅広い濃色横帯があり、鱗は黄色

あかだんご (垢団子) 【名詞】 団子に着ける餡の様に体中

に垢について居る事、あかつきだんご。

あかちやける (赤茶) 【自カ下一】 赤茶色になる、枯れる。日に焼けたり、染料がはげたりして赤茶色になる。[会話] アカチャケル言うな (のは) あっこお (赤く) なって、しけてた (変色していった) 事をなあ 言うやんかい (言うのです)。

あかちやびん。あかちやびん。あかちやびん 【名詞】 赤毛 禿 [会話] 禿の事をよお言いおった (よく言っていました)。頭の禿とんのおを (ているのを) はげちやびん言うし (言います)、けえ (毛) な (が) あつかい (赤い) と、アカチャビンや (だ) あや (あれは、彼は) 言うて。

あかつき (垢着、垢付) 【名詞】 垢の多く付いて汚れて居る事、又その物。

あかつきだんご 【名詞】 垢が一杯ついて居る。団子は表面に餡などが沢山ついて居るのに例えて [用例] たまには (時には) 風呂も 入いらな (なければ) アカツキダngoやんかあ (でないか)。

あがった 1) 獲れた 2) 雨が止んだ 3) 月経が終わった (更年期、各月とも) 4) 終わった、あがる参照 (志 (布施田)) 5) 高い所に登った 6) 価が高くなった [会話] ⁶⁾ ねえな (値が) アガッタ、さがつた。今日は ねえな あがって どいらい (大変) ええ (よい) ねえ なした (がした) 言うてな、あおいお (青魚) 相場無し言うてなあ。⁴⁾ 磯 (海女作業) もまあ 最後になると 磯な (が) アガッタ言うし、漁師でも まあ 網掛も アガッタてわれ (のだそ) 言うしなあ、その時は終わった。¹⁾ 今日 市場へ かとな (鯉が) アガッタ。獲れた 市場えなあ 舟からあげるやんない (でしょう)。それをなあ かと (鯉) あげて まあ 言うてなあ、おおび (鮑) も あがって 大漁やなあ (だ) 言うて。²⁾ 雨な (が) 止んだ言うのも 天気な (が) アガッタ。雨もあがって ええ (よい) 日ん (に) なつてのお 言うて。⁵⁾ 磯人 な (海女が) 海から あがってくんのも (来るのも) アガッタ言うて、磯人 (海女) も あがる時分 (頃) やんかあ (でないか) 言うて、ひとかずき (一仕事) して あがってくんのも (来るのも) アガッタ言うね (言うので)。旗な (が) アガッタよってん (から) 磯人 あ (は) あがられ (上がるでしょう) 言うて、舟 い (へ) のんのを (乗るのを) アガッタ言うて。たっ かい (高い) とこ (所) のぼんのでも (登るのでも) あがる言うやんかい (言います)。あすこい (へ) あ

がって 見よまあ (見なさい) 言うて、登って見よ言うのを。³⁾ 月経な (が) おわんのも (終わるのも) アガッタ。

あがったり (上がった) 【名詞】 失敗すると手のつけようがなくなる、終了する。あがる (上がる) の連用形に助動詞たりのついて一語化したもの。商売や事業がうまくいかず、どうしようもなくなること。またそのさま。漁のない時。あがりたりの転か 動詞あがるの連用形に完了の助動詞たりが付いて一語化した。(日本国語大辞典) (志 (布施田)、員、松、多、北、尾、南) [会話] アガッタりや (だ) 言う事は、駄目やなあ (だ)、アガッタり言う事をよお (よく) 言うけど (けれど) あや (あれは) 今で言う倒産する言うよおな意味やのお (ですね)。はざん (駄目) 事を。漁な (が) 無かつたりすると、今日はさっぱり (完全に) アガッタりやったよお (だった) 言うて。

あかつち (赤土) 【名詞】 褐色または赤褐色を帯びる土。多くの場合火山灰の風化物で鉄分に富む。赤色土、または黄色土で亜熱帯気候下で生成したもの。西南日本に多い。粘性に富み、壁土に使用。(志 (国府、安乗、浜島、鶴方、神明)、南)

あがって お上り下さい。入って下さい。(南) [会話] 家え入って下さい言うのを、アガッてくれ言うて よお (よく) 言うやんかい。アガッてくれえとか、入ってくれえ (下さい) とも言うけどな。アガッてえ (下さい) 言うて、よお言うやんかいな (言います・言うでは有りませんか)。

あがって 1) 獲れて 今日 かとな よけアガッて (今日は 鯉が 沢山獲れて) 2) 貰らって あがりもんな よけアガッて (貰い物を 沢山貰って)。

あがって 終って [用例] たあもアガッて 楽やれ (田も終って 楽だ)

あがって 食べてください

あがってくれえ 1) 上って下さい あがって参照 2) 食べてください

あかっぱた 【名詞】 完全な下手 [用例] じい (字) 書いても アカప్పたで 読まれやせん (読めない)。

あがと (我徒) 【代名詞】 1) 対称:お前達 反称:自分が (志 (甲賀)、度、尾、北、南) 2) ひとりてに 自然に (志 (全域)、度、鳥、北、南、尾、熊) [会話] ¹⁾ アガト、われと言う事や (です)。話し相手の事を、われとや (だ) 言うて。男の話しは、われとな (が) のお 言うやんない (でしょう)。あんたな (が) とか、お前とか言う言葉や (です)。わがと言うと、自分の事

や(です)、われと言うと、相手の事。わがとばっか(ばかり)喋ってまあ言うて。

あかとり (関取り)【名詞】 船底に溜まった水(関)を取り除くための道具、又それを使って関水を汲み出す人。あか(関) 参照(鈴郡、鳥) [会話] アカトリ、杓、アカトリじゃく、アカトリ こしやえる(作る)言うてなあ、すくいみたいなのに(のようなのへ) てえ(手・柄)つけてなあ。ここらんな(此処らのは)杓でなあ、アカトリじゃくしや言うて。あか 取る杓、ちよいと(少し) こえびしゃく(肥替え杓)より ええな(柄が) 短こおて(短くて)。

あかとり (垢)【名詞】 肌襦袢

あかとりもち【名詞】 船のあか水を汲み出す者が食べる握り飯(志) [会話] あかとると、終いん(に)なると、アカトリモチや(だ)言うて、どいらいもちして(大きな握り飯を作って) こや(これは)、あかとりな(が)、食うねど(食べるのだ)言うて。あかかえもちに同じ。

あかとんぼ (赤蜻蛉)【名詞】 秋あかね トンボの種類のうち腹部が赤色、橙色、黄色などのもの、アキアカネの総稱。種名ではない。(尾、伊) [会話] アカトンボ言うな(のは) しょおるとんぼ(精霊とんぼ、盆な(が)過ぎると アカトンボな(が) やって来るやんかい(飛んで来ます)。

あがなう (あがなふ) (贖)【他ワ五】 1) 何かを代償として手にいれる、買い求める。2) 償う [会話] 1) 買うとか、貰うとか 言うのを アガナウ。

あかぬけする (垢抜) 容姿、態度、技芸などが洗練されて素人ばなれしている。すっきりと洗練されている。あかぬけ アカヌケ(灰汁抜)の転(日本国語大辞典)(上、阿) [会話] アカヌケな(が) しとる(している)。ひげもじや(髭だらけ) ん(に) しとんのを(しているのを) 髭すって(剃って)来ると、アカヌケしたない(しました)言うて、綺麗ん(に)なると、アカヌケしたなあ あの人、アカヌケスルなあ 言うやんかい(言います)。

あかぬけせん 野暮ったい。すっきりしない。(上、阿) [会話] アカヌケセン言うな(のは)、くらがり(汚い) よおん(ように) しとる(している) のおやなあ(のです)。暗がり よん(ように) しとると、汚れて しとると、アカヌケセンなあ あの人言うてな 言うし(言います)。にげの(人間) 性格な(が) 暗がり様 なのおでも(のでも) あの人まあ おどっしや(あゝ) 暗がり様な人やなあ(だ)、アカヌケセン様な

人やなあ。にげ(人間)の 性格の ぼやっとしたの(のを)、あの人 まあ、なんやら(なにか) アカヌケノセン様な人やなあ 言うてな。

あかぬ (茜)【名詞】 赤色の着物 赤色の布 [会話] 葉箱、手箱、手箱の中にあつかい(赤い) じょじょ(草履)と、汚いじょじょ(草履)とアカネ着て、御座る京へ参ろか、大阪へ参ろか、大阪の道でとんと(完全に)日が暮れて。

あかば【名詞】 枯れ葉、野菜類のうらがれになった葉 [会話] うましごえ、言うな(のは) 堆肥作んの(るのです)。勝手(台所)の野菜の喰い滓やどけ(など)、アカバ ん(に)なったの もじくやんない(もぐでしよう)。そして野菜やどけ(など)引いて来ると、根を切ったりして、それをひととこ(一か所)に 積むの(のを)、うましごえ。

あかはげ (赤禿)【名詞】 1) 山に全く木がなくなり、地肌の見えている状態。(志(鶴方、神明) あかちやびんに同じ) 2) 頭髮が禿げて全く無くなっている状態 [会話] 2) アカハゲ 禿 禿頭。どいらい(大変) よけ(沢山) 禿げとんのおをなあ(ているのを)、アカハゲや(だ)言うてなあ、よつけ(沢山) 禿とんのなあ(ているのです)。ぜんぶ(全部) 禿とる(ている)言うよおな意味やなあ(です)。色はともかくとして。

あかはじ (赤恥)【名詞】 恥を強めた言い方、多くは人の前で受ける恥(志(鶴方、鳥(石鏡)、鈴)) [会話] 恥かいた事なあ(です)。アカハジ かかされた言うてな、どいらい(大変) 恥かかされる事な(です)。そいな(そんな) 事 言うんなら(言うのなら) おんな(俺が) 人ん(の) とこいて(所へ行って) アカハジ かかしたろん(てやる) 言う時な(が) 有るやんかい(有ります)、ごおわかしたる(腹立てている) 時ん(に)。そすと(すると) かかされた人、あれん(彼に) まあ ほん(本当に) アカハジ かかされた よお言うてな、どいらい 恥じる事な アカハジ 言うのなあ(です)。

あかはだ【名詞】 やまとかます カマス科の海魚。全長60cmに達す。背は灰褐色で、腹は白色。鱗は小さく、剥げやすい。

あかはだか (赤裸)【名詞】 1) 何にも身につけていない状態、全くの裸。2) 比喩的に用いて家財を全く失った状態、皮や毛、草木がなくなって下地が表れる状態。 [会話] 1) 丸裸をなあ、アカハダカ、アカハダカで掛って来言うてなあ。

あかはっか【名詞】 薩摩芋の一種 はつかいも参照

あかばむ (赤)【自マ五】 赤くなる 熟す あからむ

あかはら (赤腹)【名詞】 1) 虚偽、嘘 2) 赤痢 (志)
[会話] 1) アカハラ、食べ申さん言うて、嘘言わん
(言わない) 言う事やなあ (です)。

あかはらか【名詞】 赤裸 丸裸 全身になにもまとって
いない様 [会話] 裸の事 はらか言うの アカハラ
カンなって

**あかはらたべもおさん (赤腹、食べ申さん)。あかはらつ
きもおさん (赤腹、吐き申さん)【俚諺】** 嘘は言いませ
ん あかはら参照

あかひかり (垢光)【名詞】 着物などに垢がつき擦れて光
って居る事 [用例] きもん (着物)の襟、アカビカ
リな (が) しとる (して居る)。

あかふぐ【名詞】 あかめふぐ 赤目河豚 マフグ科の海
魚 体の背部は赤味が有り、小黑斑が散在。眼球の紅
彩は赤黄色。皮膚に棘は無く、体長約30cmに達す。
卵巣、肝臓に強い毒のあるほか、皮膚、腸にも毒が有る。
精巣と、肉は無毒で食用になる。

あかぶね (絵船)【名詞】 浸水した船。水づかりになった
舟 [会話] あかな (が) 入って くんのをなあ
(来るのを)、潮な (が) 入ってくんのを、アカブネ
で まあ こいな (こんな) 舟 危ないわれ (です)
言うてなあ。はっしやんどて (乾燥して) あかば
つか (ばかり) 取つとらな (て居なければ) はざんね
(駄目なのです)。まあ 古舟の ことやわい (事で
す)。はっしやんどて あかなすと (が入ると) まあ
こんだ (今度は) まきはだ (杉の樹皮を乾燥させたも
の) で はっしやんどんの (割れ目を) 詰めな (なけ
れば) はざんわれ (駄目だ) 言うてなあ。舟 引き上
げといて (ておいて) まきはだ ちょんちょんと こ
めると (詰めると) 又 とまんねてや (止まるので
す) あかな (が)。あかな よけ (沢山) 入ると ま
あ 水舟ん (に) したんね (してしまうのです)、アカ
ブネや (だ) 水船や (だ) 言うて。あかな (が) よけ
(沢山) 入って 水舟ん (に) なったよお言うてな、
一杯 入って来ると。

あかふんどし (赤褌)【名詞】 赤い色の布で作った褌。初
めて男子が褌をつける時、伯父から送られる褌。初褌。
(志 (布施田))

**あかべ。あかべえ。あかべのべえ。あかべのべんないさ
ん。あつかんべえ (赤目)【名詞】** 赤目の転 下眼瞼を
指で下げ裏側の赤い所を見せる行為。相手をからかつ
たり、軽蔑したりした時にみせる。また仕事を拒否す
る時。アカベ、アカンペー (志、鳥) [会話] めえ

(目) ひっちゃけて (開けて) アカベノベエ言うて、
ちっちゃい (小さい) 時分にや (頃には)、言いおった
(言っていました)。あいな (あんな) 事すると、にく
たらしなあ (憎い、いやだ) 言うて。アカベノベンナ
イサン言うて、よお (よく) 言いおった。

あかべた (赤下手)【名詞】 全くの下手。あか (赤) は
明しの語源 明白の意なるべし (大言海) 全く何も無
い事を表す接頭語 赤の他人等 (志 (布施田、立神、
鶴方、甲賀、安乗、員))

あかべら (赤ベ羅)【名詞】 べら科の魚類、求仙の雌
あおべら参照 [会話] アカベラは 魚 べらのあつ
かひの (赤いのを)。

あかべんてんさんしりかんのんさん 戯れ言葉。いやだ。

あかばや【名詞】 赤く腫れること。疔、瘍、赤くなる
こと ボヤ、小火、小さな火事。ホ、火、物質が燃え
る時に出す炎や熱、燃えたり熱せられたりして、赤熱
したもの。火のように光る物、或いは海鞘 (ほや) に
見たててか。[会話] アカボヤみたいやなあ (のよう
だ) 言うて、顔な (が)、あっこお (赤く) しとると
(していると) 言いおったやんかい (言って居たで有
りませんか)。なんやかや (すべて) あつかいとこ (赤
い所) 見ると、アカボヤん (に) なって、脛のなんも
(なにもかも) アカボヤん (に) したんよお 言うや
んかい (言います)。あっこおなる事を アカボヤ言う
ね (のです)。まつか (真赤) になって、アカボヤん
(に) なつたんよお (なった) 言うやんかい。

あかます【名詞】 1) あかはた スズキ科の海魚 体長
約30cm。体は朱赤色で、体側に不定形の白い斑紋
がある。(志、四、津、度) 2) きじはた スズキ科の
海魚 体長約30cmに達す。体はやや長く側偏し、
紫褐色に橙色の円点が多数散在する。(志、鳥、三)

あかまつ (赤松)【名詞】 1) 樹皮の色が、赤茶色してい
る雌松。(上、員、名) 2) 頑強なさま。3) みにくい
さま。赤松うちゃったような。[会話] 1) 女松の事や
んかい (です) アカマツは、松茸な (が) ええんのな
あ (るのです)。幹な (が) あっこおてなあ (赤くて、
言うと 女や (です) そして かあ (皮) も やいこ
いしなあ (柔らかいし) はあ (葉) も やいこおてな
あ (柔らかくて)。

あかまつうちゃったよおなかお【名詞】 見にくい顔 気
持の悪い顔 [用例] あのおなご (女) の顔、アカマ
ツウチャッタヨオナカオやなあ (だ)。

あかまるけ (垢丸)【名詞】 垢だらけ あかまみれ

あかみ (赤身)【名詞】 1) 身の色の赤い魚 肉の脂肪の

少ないところ 2) 鰹節の中心部 3) 木の中心部の赤い所(南) 4) 魚群で海面の色が変わった所 (志(甲賀、鵜方、神明、国府、安乗)、鳥、桑市、鈴市、津、度、北) [会話] 1) アカミ 魚のアカミ。鰹やたら(だとか)、鮪やたらなあ(です)。魚の肉のあつかい(赤い)のを アカミ 言うて。アカミの刺身で旨かったなあ 言うやんかい(言います・言うでは有りませんか)。2) かつぶし(鰹節) 削つとて(ていて) 芯にあつかいのな(赤いのが)して来ると、アカミ 美しく 鼈甲みたいん(のように) 光ってなあ。3) きい(木)でも 芯の方であっこお(赤く) しとると(していると) あれも アカミなあ(です)。杉のアカミで いかつい(強い) 言うて 杉の芯ばつかわなあ(ばかりは) いかつうて(強くて) 節も無いしなあ。

あがみ(吾身)(あがみ)【代名詞】二人称、そなた、お前、特に男子の目上の人に対する敬称(参照 おみ 女性の目上の人に対する敬称) 一人称 わがみ(我身)が二人称になった語 あがみ、あがめとも。あがみら、あがらは複数。(志、度、伊、鳥(加茂)、南) [会話] アガミ言うのは、男の人とか、目上の人にアガミ言うて、言うんなあ(言うのです)。男の人んには よけ(多く)アガミ、言うなあ(言います)。女の人には おみ、おみげ(貴女の家)の言うて。目上の人におみ言うのなあ(のです)。母親とか、叔母さんとか、お婆さんとか、おみな(が)言うて。お父さんとか、お爺さんとか、伯父さんに アガミな(が)言うて。男の人らにアガミな。女の人におみな。そやけど(それだが)、今し(今)の子供らには、お父さんにでも おみな 言うのなあ。使い方な(が) 判らせんの(ないので)。私らは、叔母さんらには、おみな(が)言うて、叔父さんには、アガミ言え言うて教えてもらいおった けど(もらって居たが)。

あかみなさいとる 1) 赤くなっている 熟して居る 2) 魚の群で海面の色が変わって居る

あがみら(吾身等)【代名詞】貴方達 あがみの複数 あがみ参照(志)

あかむき(赤剥)【名詞】1) 鰹節の赤味を帯びたもの(北) 2) 皮がむける [会話] 1) うわかむ(上皮)を削つたた(てやった)のをな、アカムキ。うわかさ(表面)を へんだ(削った)のを。アカムキン(の)のは またな 味な(が) 違うねてや(違います)。けざりこ(削り粉)を、かよおったね(買って居たのです)。その時な アカムキや(と)言うのを、袋ん(に) 別ん(に)入れると ねえな(価が) よかよ

おったの(高かったのです)、そんな(それが) 美味しいの(のです)。2) 喧嘩しても、のら(お前) みたよな(のような) もん(者) アカムキに したろん(してやる) 言うて、言うやんかい(言います)。なんかだ(何か) かあな(皮が) 剥けると あかむけん(に) なつとる(なっている) 言うてな かあなぎちむけん したると(皮を完全に剥いてやると) あかむけん(に) なって ま こや(これは) 言うて。

あかむけ(赤剥け)【名詞】皮膚などがむけて赤肌になる事。またその部分。[会話] アカムけん(に) なった。猿の尻みたよん(のように) アカムけん(に) なったよお、言うやんかい(言います・言うで有りませんか)。なんやかや(いろいろ) 力、入れたりしてなあ すると、おおた てえ(手)も アカムけん(に) なつた ない(なった) 言うてな、かあな 剥けてくのをなあ(て行くのを) アカムけん(に) なつたよお 言うてな。

あかむつ【名詞】海魚。あかむつ。ハタ科の海魚。赤橙色で全長約50cmにもなる。目が大きく口の中は真っ黒。ムツに似るが尾鰭の軟条が7個でムツより少ない。[会話] アカムつ 言うな(のは) 沖で釣つて来んのな(来るのが) アカムつ 言うのなあ(です)。

あかむろ【名詞】アジ科の魚でむろあじの一種。体の背方は青く口辺やすべての鱗が赤味を帯びる。舌上の歯は他のむろあじと異なり全くないか、あつても極めて僅かである。全長40cm位になる。鮮度が落ちやすくあまり美味ではない。むろ 参照(志、熊) [会話] むろの背中ん(に) きいん(黄色の) すじな(線が) 入いっとなのなあ(入っているのです) アカム口は。

あかめ(赤芽)【名詞】かなのもち。バラ科の常緑小高木。暖地に生え、生垣や庭木にされる。高さ3~5m。葉は短い柄が有って互生し、草頂、両端の尖った長楕円形で長さ5~10cm、縁に細かい歯が有る。若葉は紅色を帯び美しい。五月頃枝先に径約10cmの半球状の花序を出し小さな白色の五弁花を多数つける。果実は球状で紅熟する。(張、名、南) [会話] アカメ 言うて 垣ん(に) しといて(しておいて) 有ると あつかい(赤い) めえ(芽) な(が) 花な(が) 咲いたよん(ように) 綺麗でなあ。いきがき(生垣) ん(に) しとんのなあ(しているのです)。

あがめ【代名詞】貴方。あがみに同じ。(志(浜島、甲賀、志島)、鳥(石鏡)、鈴、度、伊) [会話] あがみ(貴方) アガミヤ あがみ 言うてなあ。アガミヤ あがみ そげん(そんなに) 言うたてて(言つても) 言う

てなあ アガミヤ (は) 言うてなあ 目上の男の人に
そいな (そんな) 事 言うたてて あがあ 言うてな。
あかめし (赤飯) 【名詞】 小豆飯、赤飯 (志、桑郡、三、
 四、津、松、多、伊) [会話] アカメシは 小豆飯の
 事言わせんのかい (言わないのですか)、小豆の御飯の
 事 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。アカメシ、三
 杯、汁四杯、おおわり (尾張) だいこ (大根) を七十
 本、あえ (和物) の残りで胡麻さんじよ (三升) それ
 の残りを、戸棚な (の) 隅い (へ) 置いたなら 隣の
 お婆に盗まれて ごおなわく (腹が立つ) やら、腹立
 つやら はらたち川へ飛び込んで うなぎ (鰻) い
つぼ (一本) へえ (さえて) (押さえて)、てえ (手) で取
 るおも こおわいし (怖いし) 足で取るおも こおわ
いし、しゃくし 屋の婆に しゃくし いっぼ (一本)
 借って しゃくし (杓子) で しゃあ ながて (搦つ
 て) としみ (燈芯) で いいわえて (結んで) おんが
らぼおし (緒敷棒) で にのて 鍛冶屋のくちど (入
 口) へ 持てたれば 狼に おおて (逢って) せんち
や (便所) へ かあく くて (隠れて) びりくそ (大
 便) で すべ って あかみそで起きた 家のかか
 (妻) まあめ なか (丈夫か) へえ (屁) へって 寝と
 る。

あがめる (崇) 【他マ下一】 尊いものとして扱う。尊敬す
 る。敬う。大切に扱う。(志、南) [会話] アガメル言
 うのは、たつとぶ (尊ぶ) 言う事や (です)。尊敬する
 言う事をアガメル、あの人を アガメ とる (ている)
 言うてな、あの人 ほん とん (本当に) アガメル様な
ええ (よい) 人やなあ (だ)、偉いやなあ 言うてな、
 人ん (に) アガメられて言うて、よお (よく) 言うや
ん かい (言います)。

あかやがら (赤矢柄) 【名詞】 ヤガラ科の海魚。体は細長
 く、約1.5m、長い管状の口先を持ち、尾鰭の後端
 が長く糸状に伸びている、乾燥した物は漢方薬として
 用いられ腎臓病の薬とする 本州中部以南に産す。[会
 話] やがら、口のなあ がい (長いのです)、だつ
 (魚名) みたよ なの (のようなのです) やがら。それ
 の あつかい (赤い) のを 言うん やろな (言うので
 しょう) アカヤガラ言うて (言って)。

あがら (人称) 【代名詞】 貴方達は (北) [会話] あがみ
 らな (が) あん たら (貴方) な (が) 言うの (のを)
 アガラな (が)、磯 (海女) い てもなあ (行っても)、
 アガラな (が) あし こで (あそこで) 大漁した 言う
も んで (ので) 来たら なん も (全く) はざん わい
 (駄目です) 言うて。

あからがお (あからかほ) (赤顔、赭顔) 【名詞】 赤味を
 帯びた顔。赤らんだ顔。(志(布施田)) [会話] ○○、
金時 言うて、○小父や (は) 金時 みたよん (のよう
 に) 顔 な (が)、あつ がおて (赤くて)、いか つうて
 (強くて)、ど いらい (大変) お とこまいやけど (男前、
 美男子だけど)、顔 な (が) アカラガオで。

あがらしてもら 家の中へ入れてもらう [会話] ア
 ガラシテモラウワイ言うて 家の中い 入 らして
 (入れて) 貰う言う事をな。

あからしま (明らしま) 【形容詞】 有りのまま あからさ
 まの訛 [用例] アカラシマン (に) 人の悪口 よお
 (よく) 言う なあ (言える事だなあ)。

あがらせ 家に入れてやりなさい [会話] あの こお
 (子) も家い アガラセまあ言うて、はい らせえ (入
 れてやれ) 言う事をなあ。

あからぶ 【他バ下一】 1) 果物などが熟す、少し赤みを
 帯びる。2) 顔を赤くする。あからめる。(志、三、鈴
 市、安、南) [会話] 1) アカラブ言うのは熟す。熟し
 た事をアカラブ言う。2) 顔 な (が)、あつ がお (赤
 く) なるのも、アカラブ言うなあ (言います)。果物の
あ からだの (熟したのを)、アカラブ言うて。人の顔 な
 (が) アカラブな (のは) 顔あからめて 恥 ずかしん
 かして (恥ずかしいのか) 言うて。

あからません 熟さない 赤くならない [会話] まだ
 アカラマセンわれ (です)。麦も言うてな。熟させん
 (ない) 言うのを、アカラマセン。まだ 麦も アカ
 ラマセンわれ あ おくさ (青い) や れ (のだ) まだ
 言うて。麦だけやなしん (でなくて) なん ども (何で
 も) 熟させん と (ないと) アカラマセンわれ あ あお
 おい (青い) われ 言うて。

あからみほおける 熟し過ぎる あからむ参照

あからむ (赤) 【自マ五】 あからぶに同じらは添えたる語
 そのあからを活用する。赤玉と言うと同じ (大言海)
 1) 果物、植物の実が熟す (志(鶴方)、三、鈴、安、
 南) 2) 赤くなる (志)

あがられ あがるでしょう だろう あがった参照
 1) 獲れるでしょう 鯛もアガラレ 2) 雨も止むだ
 ろう 雨もアガラレ 3) 終わるだろう 仕事もアガ
 ラレ 4) 高価になるでしょう ねえ (値) もアガラ
 レ

**あがらんか。あがらんかい。あがらんかな (女性語)。あ
 がらんかれ** 1) 入りなさい 2) 上りなさい 3) 食
 べなさい [会話] 1) 2) 目上の人ん (に) 言う時 ア
 ガランカイ 言うしなあ、こ らら (子供) や ったら

(だったら) アガランカレ 言うてな、目上の人と、目下のもん(者)に言う時、使い分け。そして おなご(女)の人に言う時は アガランカ おみも(貴方も) 言うてな 男の人ら あがみも(貴方も) アガランカイ 言うしなあ。³⁾ そして飯もたべええ(食べなさい) 言うのを、アガランカイ言うて。

あがらんこ 上りなさい 入りなさい

あからんでた 熟した、熟し過ぎた

あからんどう 熟して居る(志(鶴方、神明、国府))

あかり(明)【名詞】 燈明 灯火 あかる(明)の名詞形

(志(鶴方)、員、四、松、鳥、南) [会話] 燈明の事は、アカリや(です)。アカリ、ともす言うて。

あがり(上がり)【名詞】 動詞の上がるの連用形の名詞化

あがる(終る)の名詞形 1) 不要になること またそのもの 無用(志(布施田、志島)) 2) 仕事が終了すること 完結すること 一日の仕事が終わること。

(志(布施田、志島)、南) 3) 目上の人などから貰ったお古 お下がり あがる参照(志(布施田)) 4) 天気が快復すること 5) 商売などがうまくいかないこと(あがったり) [会話] 一丁アガリ、²⁾ 磯(海女仕事)のアガリ、磯の終わる事(禁漁になる事)を、一日の仕事が終わった事をアガリや(だ) 言うて。³⁾ おんな(俺の)アガリくれる言うて、自分の着古しを、なんでも(何でも)、いらん(不要)の貰うと、アガリもろて(貰って) 言うて。²⁾ 一日の仕事が終わっても、アガリ言うし、一つの事が終わってもアガリ言うて、大工さんな(が)、仕事終わった時に大工アガリ(家が出来上がった) 言うて。

あかりい【形容詞】 明るい(志(布施田)、津、松、多、度、伊、鳥、北、尾、南、)

あがりいそ【名詞】 海女作業の漁期終わり頃 [会話]

アガリイソ 言うて 九月んなあ(に) まあ アガリイソやよってん(だから) まあ なんも(全く) はざんわい(駄目です) 言うてな。漁も終わるし、期間も九月十五日で 終わるやよって(だから)、九月頃にはまあ アガリイソやわい(です) 言うてな 九月頃になると、磯場もしらけて(白くなって) 来て はざんよお(駄目だ) 言うて。盆、過ぎると、磯場な ころと 替わってくのなあ(て行くのです)。のりななあ(海草が) なんも(少しも) 島ん(に) 付いとらんよおん(ていないように) なつてくの(なつて行くのです)。盆迄はなあ わかいしゅ(若い衆) で はりきって しとるしなあ(しているし) 盆過ぎると 年寄りみたいん(のように) なつてなあ、しいるお(白く)

なつて、しゅなあんとして、磯場のこび(海草)も無いよん(ように) なつてくのなあ(なつて行くのです)。

あがりおり(昇降、上下)【名詞】 上がった、降りたり、上がることと下りること(上、阿) [会話] アガリオリ 言うな(のは) 登ったり、下ったりする事な(です)。上がった、下がったりすん(するのを) アガリオリな(が) よけ(沢山) 有つて言うてな、上がり下がりな(が) よけ 有つて 降りたり、登ったり くたばったよお(草臥れた) 言うて。

あがりかずき【名詞】 海女の一日の作業の最後 [会話] アガリカズキや(だ) 言うて、まあ あがるよんなると(よくなると) 終わる頃ん(に) なるとなあ アガリカズキや 言うし。

あがりかまち。あがりがまち(上櫃)【名詞】 玄関などの家の上がり口の縁に渡してある横木。(志(鶴方)、鳥(鳥羽、坂手)、上、北)

あがりくち(上がり口)【名詞】 土間から座敷などへ上がる所。また、上ったばかりの所。家の入り口。(南) [用例] 雨な降ると アガリクチャ泥だらけや(だ)。

あがりごつお(上馳走)【名詞】 一つの仕事が終わった時、けじめをつけるためにするご馳走。[会話] アガリゴツツオ言うのは、仕事なあがった(が終わった) 時なあ(です)、漁師の人でも、アガリゴツツオや(だ) 言うて、最後ん(に) になると、網掛けな(海老漁が) 終わると、アガリゴツツオ。磯人(海女) さんも、九月の終わるん(に) になると、アガリゴツツオするし(します)。田や畑でも、その仕事な(が) 終わると、のあがり(野上がり)。漁師はアガリゴツツオ言うし、農家はのあがり。

あがりさか(上坂)【名詞】 登りになった坂 [会話] アガリサカで えらい(大変だ)。此の坂、アガリサカで ふいごな吹いて来る(息がきれる) 坂道の事 言うんけど(言うのだが)、あがつてく(て行く) 時に アガリサカ 言うて、同じ坂でも、降りて来る時 くだり坂、おり坂 言うね(言うのです) くだり坂 言わんと(言わずに) おり坂や(です)。

あがりさき【名詞】 土間、玄関などから座敷へ上がったばかりの所。[会話] アガリサキい(へ) 置いとけ(ておけ) 言うて、くちどい(入口へ) 置いとけ 言うのなあ。アガリサキい(へ) 置いといて(ておいて) くれえ(下さい) 言う時な(が) 有るんなあ(有るのです)。あがりはな 言うたりな。

あがりさんちは、あまどのままよ【俚諺】 海女漁の終る

前、三日間は漁も少なく、海女の思った様に行動出来る。

あがりしな【名詞】 しなは接尾語。上がる時、上がる時のついで、上がりがけ [会話] アガリシナン (に) おおび 見付けて言うて、舟い (へ) のろ (乗ろう) おもとんのおに (思っているのに) おおび (鮑) 見付けていて (ておいて) 来たや (ら) 獲りのくうて (にくくて) 弱ったよお言う時な (が) 有るわい (有ります)。アガリシナン (に) ええ (よい) とこ (所) 行き当たって あがんの (来るのに) 勿体なかったよお言う時も 有るしなあ。

あがりだか【上高】【名詞】 漁獲量 収入 [用例] 今日 は アガリダカな (が) すけなかつた (少なかった)。

あがりたて【名詞】 あがりさきと同じ、上がり口、玄關先 (志 (畔名、浜島)、鳥 (鳥羽、答志)、北) [会話] あがってすぐのとこ (所) を アガリタテ 言うのな (です)。アガリタテい (へ) 腰掛けて 言うてなあ 誰でも アガリタテい よお (よく) 腰掛けるやんか い (ではありませんか)、あがりはなや (とか) あがりさきも よお (よく) 似たもんやわなあ (ものです)。アガリタテい 置いて来た。

あがりたて 獲れたすぐのもの。出来上がったすぐの物。あがる参照。[会話] アガリタテ 獲れたて アガリタテで 旨いわれ (です) 言うて。

あがりだん【上段】【名詞】 高い所へ登るために設けられた段。階段。(桑) [会話] アガリダンは、段の事。階段。

あかりとり【明取】【名詞】 1) 集蛾燈 2) 窓 ガラス窓 障子 採光を目的とした窓 多くは、台所の天井に設けた (南) [会話] 1) アカリトリに言うてな たあい (田に) 菜種油をかわらき (土器) みたいな (のような) 皿に入れて としみ (灯芯) してな よさり (夜) ん (に) になると 畔い (に) 置いとくと (ておくと) それい (に) 虫な (が) 一杯、たかつてくんの (寄って来るのです)。アカリトリや (だ) 言うて しよおったの (して居たのです)。たあ (田)、作る時んな (に) 秋の浮塵子な (が) えろなつて (多くなつて) 来る時な (が) 有るやんない (有るでしょう)。その時な その皿い (へ) 菜種油、入れといて (ておいて) としみ 入れて 夕方に ひい (火) つけといて くと (つけておくと) そのあかりい (え) 皆、寄って くんの (来るのです)、虫な (が)。そげんして (そんなにして) 虫 とりおった (取っていました) もん な (ものです)。油の中い (に) 入って死んで。2) **勝手**

(台所) な (が) 暗がりもんで (暗いので)、ガラスを てんじよ (天井) の 窓い (に) アカリトリを拵えてある 言うて、電気な (が) のおてもな (無くても) あかるう (明るく) なるやんない (でしょう)。そんで (それで)、アカリトリな (が) つけて有る言うてな。

あがりはな【上端】【名詞】 1) 土間、玄關などから座敷へ上がったばかりの所。あがりかまち参照。あがりさき、あがりたて、でばな (出端) を思みて言う (大言海) (志 (志島、的矢、神明、立神)、津、松、多、度、伊、鳥) 2) あがるその時 (志)

あがりぶね【名詞】 廢船、古くなって使用しない船 [会話] アガリブネ。使かわれん (使えない、使わない)、ひきやげて (引き上げて) ある舟で、ふるぶね (古舟) で使かわれん 舟。

あかりまど【明窓】【名詞】 採光を目的とした窓 天窓 (南) [会話] アカリトリな (が) よお (よく) 切つて有るやんか い (有ります)。四角なのな (の) が くら があり (暗い) とこ (所) な (が) 窓な (が) 無い とこ (所へ)、てんま (天窓) みたよな (のような) 格好で切つて、アカリマドん なあ (に)。

あがりもん【名詞】 到来物、頂き物 上物 あがりもん なして参照

あがりもん なして 物を貰つて [会話] アガリモンナシテ 新しもん (物) な (が) そなわつて (貰つて) 言うて。

あがりゆ【上湯】【名詞】 入浴の終りに身に注ぐ湯。かかり湯。[用例] 風呂出る時、アガリユも、使こたか (使ったか)。

あかる【明】【名詞】 燈火 (志 (甲賀)、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、安、津、一、松、上、阿、度、伊、鳥) [会話] あかりの事をアカル。蠟燭やそいな (そんな) もん (を)、アカルもて (持って) 来い、くら がりわれ (暗いです) 言うてな。今し (今) なら 電池、もて来い 言うんけど (言うのだが)、昔や (は) アカルもて 来いまあ 言うて、蠟燭つけたり、ひよおそく 持ったり。昔、便所 アカル ついとらせんし なあ (ついていないし)、かめい (へ) 飛びこめや (込めば) はざんのん なあ (いけないのに) 提灯持ちな (が) いんねてや (要るのです)。なこと 親 (仲人親)、いてくれ (行って下さい) 言うて、弟や兄貴な (が) 有るとなあ。

あかる【自ラ五】 戸などが開く。[用例] とお な (戸が) アカル。

あがる【上、揚】【自ラ五】 1) 地面や土間から、部屋に

入る。海から陸に戻る。下から上へ進む。2) 入学する。進級する。(志、多) 3) 卒業する(志、鈴郡、多) 4) 物事が完了する、退く、退散する(あがり参照)、死ぬ(志) 5) 草木が枯死する。止まる。6) 神佛に物を供える、あげもん一あげる、上る 7) 高くなる。物価が上昇する。体温が高くなる。8) 獲れる、獲れた、魚が水揚げされた 9) 雨が止む(員、津、張) 10) 上気して度を失う。11) 月のもんがあがる。月経が無くなる(妊娠、更年期) 12) 入浴、海水浴等が終る 13) 物が古くなり使用に耐えなくなる 14) 当選する [会話] 1) 部屋へあがん(る)のも、階段あがんのもアガル。2) 磯(海女作業)あがんのも、アガル。一日の ひとかざき(一回の作業)して、あがんのも、アガル、最後のおわん(終わる)のもアガル言うし(言います)。磯(海女作業)あがった、一年中の磯がおわんのも(終わるのも)、アガル言うね(言うのです)。終りの事を言うわけや(です)。3) 学校アガル言うと、学校終る、卒業する言う事。学校へ登る 言いおった(言っていました)一年生になると。4) あがるや(あがりましょう)言うのは、海女い(へ、に) いとでも(行っている)、まあ(もう)あがるや言うて、船に乗る事を言うしなあ(言います、言うのです)。

あかるい(明)【形容詞】 1) 明るい(北) 2) 詳しい、よく知って居る [用例] 2) あの人 海の事 アカルイよって(から)海の事なら あの人に 聞けえ(聞きなさい)。

あかるなる 1) 夜が明ける 2) 雨が止む(上、阿) [用例] 1) 夜明け前は 東なアカルナル。2) 西な(が)アカルナッテ来たよって(から)雨あがられ(止む)。

あかるみ(明)【名詞】 1) 形容詞、あかるいの語幹に接尾語‘み’のついたもの。あかるむの名詞形。明るい所。明るい方。(員) 2) おおやけの場所、表立った所、世間。(員) [会話] 2) アカルミい(へ)出た。アカルミい 出したろん(出してやる)言うのな(です)。警察い(へ)とどける 言うたり すんのをなあ(するのを)アカルミい 出されて まあ言うてな。公にしやれる(される)とか、そげな(そんな)時んなあ(に)。内々で 納めてくれ(下さい)言うて たのみや(頼めば) よかったのん(のに)、アカルミい 出されて言うてなあ。1) アカルミ 言うて あかるいとこな(所です)、くらがりてなしたんど(どうしたのだ)アカルミいも 出よまあ(出なさい)言うてな。

あかれた(飽) 嫌われた。嫌になった。[会話] アカレタ言うの(のは) 愛想なつた(がつきた)わけやわいなあ(です)。嫌われた言うわけや(だ)。たんの(飽きた)した 言う事や(です)。

あがれやせん。あがれやん。あがれん 1) 上がれない 入れない(上、阿) 2) 風呂、海などから出られない [用例] 1) あしか(あの所は) 崖な(が)有って アガレヤセン。

あがる(上)【自ラ五】 1) 上がろう 入ろう 2) 風呂、海などから出よう [会話] 2) まあ アガロカ 言う時んなあ(に)、風呂もまあ アガロカ 言うて、風呂から 出ん(る)のを まあ 出よか(出ようか)言う人も 有るしなあ、アガロ 言う人も 有るしなあ。海から 上がんのも 有るし、坂あがん(る)のも 有るし、1) 家い(へ)入る事を。

あがるか 1) 風呂、海などから出ようか あがる参照 2) 上ろうか 入ろうか

あかるで【自ハ五】 赤くなって 熟して あかるむ参照

あかるでく 熟して行く

あかるどる 果物を始めなり物が熟して居る(志(布施田)) [用例] 蜜柑なアカロドル。柿もアカロドル。

あかるぶ 赤くなる 熟す

あかるむ【自マ五】 赤くなる 熟する あからぶ あからむと同じ(三) [会話] じくする(熟する)言うの(のを)アカロデ 言うて アカロム事を、あからんで来た 言うのな(です) 麦な(が)あからんで来た やとか(だとか)、びやな(枇杷が)あからんで 来たとか言うて 熟する事なあ(です)。あからみ ほおけて(呆けて) 来たれ(来た)言うて、麦な(が) よけて(あまり)あからんで 来ると あからみ ほおけて(ていて) ちよんなくびやれ(穂が垂れている)言うてな。

あがるや 1) 上がりましょう。あがる参照 2) 風呂、海などから出ましょう [会話] 1) アガロヤ 言う時は 家へ 入りましょお やし(です)。2) 風呂からは 出ましょおとか あがりましょお 言うし。風呂から出ました あがったれまあ 言うて 出たれ(出ました)言うたりな 今し(今)あがった とこやよお(所です) きもん(着物) 着とる(着ている)とこやれ(所だ)言うてな。

あかるどる 熟している [用例] 柿な(が)アカロドル、はよ(早く) 採れまあ(採りなさい)。

あかん(明) 1) 明るくならないの意。開かないの意。明かんの略と言われる。主に関西風 物事がうまく行

鱒や たかべを とて (獲って) 来て、たかべの しよから (塩辛) 漬けたり そいな (そんな) 時な (が) 一番美味しいね (のです)。

あきいく 農村へ秋の収穫の手伝いに行くこと **あき参照**

あきいそ (秋磯) 【名詞】 秋になり、本拠地の海女作業が禁漁になってから、他所にでかけてする海女作業、九月から十二月迄 [会話] アキイソ 言うと 盆すん ですから 熊野い (へ) 行くのなあ (です)。アキイソ 雇いん (に) 来て 行くねよお (行くのです) 言うて。そすと しょんがつ 過んでなあ 朝鮮行きやら (行くとか) ほかい (へ) 行く迄 行くのを はるいそ。しょんがつ (正月) 過ぎると すぐんなあ (に) 雇いん (に) くるとなあ、三月ん (に) なると 朝鮮行かんならん (行かねばならぬ) もんでなあ (ので) それ行く迄 はるいそ 行くねよお 言うて、熊野へ 行きおった (行って居ました)。正月 すんですから 行くのは はるいそ、盆すんから 行くのは アキイソ。ふゆいそ 言うななあ (のは) 冬の寒中でもなあ 雪な (が) 降つともなあ (ていても) 眞珠をかずいてくれ (採ってください) 言う時な (が) 有つてなあ、雪な (が) 降つとんの (ているのに) 行く事 ふゆいそ。夏の磯な (が) 終わって 盆すんから 行くの な (が) アキイソで、しょんがつ (正月) 前ん (に) すんの (するの) は ふゆいそで、しょんがつ (正月) すむと はるいそ そして 三月 過ぎると なついそん (に) なって 四季や (です)。

あきうみ (秋海) 【名詞】 秋の日の風のよい海の状態 [会話] 波のなんも (全く) 無い アキウミの すうつとしたおりやなけな (時でなければ)、なかなか いのかい 取りん行かれやせん (に行けません)。

あきがつお (あきがつを) (秋鯉) 【名詞】 秋にとれる鯉、三陸沖から下って来る鯉。戻り鯉とも。

あきぐち (秋口) 【名詞】 秋口。秋の始めの頃。(志 (布施田)) [用例] アキグチん (に) なって 朝夕冷えて来た。

あきぐろみ (秋黒) 【名詞】 秋の日射しで、日焼けて黒くなること [会話] アキグロミに だれんも (誰も)、惚れん (惚れない) 言うて。秋は照りな (が) きつ いもんでなあ (強いので) 色な (が) 眞っ黒んなんの なあ (になるのです)。

あきぐろみ だれんも ぼれん 【俚諺】 秋に日焼けて黒くなって居るのは見苦して誰も惚れてくれない、それ程秋はよく日焼ける。あきぐろみ参照

あきさふいと、はるひだりは、こらえられへん 【俚諺】

秋寒いと春ひだりは、こらえられん。耐えられない。辛抱出来ない。[会話] 春は 日な (が) なんがいも んで (長いので) 腹な (が) へるやんない (でしょう)。ひだりはら (空腹) は こらえな (が) 出来ん 言う事やなあ (です)。春のひい (日) すそつぎ したよおななあ 言うて なあがいと (長いと) 腹な (が) へるやんかいなあ (へります) ひだりい 言う事は 腹な (が) へる 言う事やよつてなあ (だから)。

あきし (秋仕) 【名詞】 秋の獲り入れに雇われて行く事、又その人。“し”は仕、士、師などでその職業に従事する人を表す語。(志 (鶴方、甲賀、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (長岡、石鏡)) [会話] アキシ 言うな (のは)、たあ (田) 刈りん (に) 行くのを アキシ 行くね (のだ) 言うて アキシ を たので (頼んで) 言うて。たあ (田) の 仕事すんの (するの) に 頼むと アキシ たのだ (頼んだ) 言うて。

あきしにいく 秋の農作業に雇われて、出稼ぎに出ること (志、鳥 (長岡)) [会話] アキシん (に) イク 言うな (のは)、あきん (秋に) 行くね (のだ) 言うてな、わしら (私) 朝鮮から 来ると ひとよさ (一晚) 寝 といて (寝ておいて) 秋い (へ) 飛んできおったね (行きました)。合切袋 ひつかづいて (かついで) 宿屋い (へ) 泊まん (るのは) 勿体のおてな (なくて)、河崎の船い (へ) 泊めて もろたり (貰ったり) してな、伊勢あきする時な、いて (行って) 直ぐに 雇 とて (雇って) 貰われんねけど (貰えるのだが)、二軒茶屋や 田尻の方い (へ) 行くんやんか な (行くのです) 伊勢秋は、そすと (すると) そんな (それが) 終わると こんだ (今度は) かみい (北の方に) のぼつて 津在や (た) 半田や (だ) とか 阿漕や (だ) とか そいな (そんな) とこい (所に) 登つてくんやん かい (上つて行くのです)。宿屋い (へ) とまん (泊まるのは) 勿体のおて (なくて) 船い (へ) 泊めても おたり (貰ったり) してな、伊勢秋な (は) 朝の五時から 夜の五時まで 尻から けぶりな (煙が) 出る程使われて 十七銭 貰らよおった (貰って居ました)。津在え 行くと 三十銭 もろたり (貰ったり)、三十三銭 もろてな (貰って) しまい (終わり) 頃は 四日市の 築港の方迄行くの (のです)。そすと (すると) 一円つ 貰いおったね (貰らつて居たのです)。

あきしよ (あきしやう) (鮑性) 【名詞】 1) 物事に持続性がない。2) 物事に持続性のない人 鮑性。あきつばい参照 (志 (布施田)、員、南) [会話] 2) おつ

かかり言うなあ (言います)。アキシヨの事をなあ (をです)。じっくん (すぐに) たんの (堪能) して来る事を、じっくん 飽きて来る事を、おっかかりや 言うて。

あきする 稲の刈入れ、収穫をする (志、鳥 (加茂)、南)

あきた (飽) いやになった (志、鳥、員、多、度、張)
[用例] 芋飯 ばっか (ばかり) 喰わされて (食べさせられて) アキタ。

あきつばい (飽) 【形容詞】 ぼいは接尾語、根気が続かないで物事に飽きがちで有る。飽きやすい。[会話] 仕事しとてもなあ (していても) じっくん (すぐに) 飽きて来る もん (者) を、あの人 アキッポオテ (くて) あきしよで 言うてなあ。まあ おら (俺は) 此れ したない (したくない) 言うて、又 こっちゃ (こちら) すると、又 こやしたない 言うて、する人な (が) 有るやんか (有ります)。アキッポイ 人 やなあ (だ) あのひた (人は)、あきしよ やなあ (だ) 言うて。なんさしても (何させても) ほんどん (本当に) あや (彼は) まとまって よおせんねない (する事が出来ないのだ)、あや (彼は) まあ あきしよやどお (だ) 言うやんかい (言います)。

あきない (商) 【名詞】 動詞あきなう (商) の連用形の名詞化。売り買いをする事。商売。[会話] アキナイに いて (行って) 言うて。なんやかや (いろいろ) 売りん (に) 行く事なあ。あきない屋、な (が) 来て 言うて、店 出すと あきない屋な (が) よけ (沢山) 出て 言うてな アキナイ、言う時は 商売なあ (です)。

あきないみせ (あきなひみせ) (商店) 【名詞】 商売をする店

あきないもん (あきなひもん) (商物) 【名詞】 買売をする品物、商品 あきなひ物 [会話] アキナイモンには 花飾れ 言うて、売りもん (物) は じっばん (立派に) せえ (しなさい) 言う事 やなあ (です)。じっばん うわべ (表面) だけでも 飾るやんかい (飾ります)。アキナイモン 言うのは 売り買いするもん (物) 売るもん (物) 言う事 やな (です)。

あきないもんにははなかざる。あきないもんにははなかざれ 【俚諺】 高い物には花飾れ 商品には花飾れ、嫁入り前の娘は人目につくようにしなさい。[会話] アキナイモンニワハナカザレ 言うて、わりもん (悪い物) は 下い (へ) 敷い (て) いて (ておいて) 上い (へ) ええのやるやんない (よいのを置くでしょう)。それを

うわぶき。綺麗にして下は誤魔かし いて (ておいて)、みとみないのおは (見苦しいのは)、下い (へ) し (いて) (しておいて)、品のええ (よい) のをすんので (するので)、すべっこい (ずるい) 事しよおったの (して居たのです)。今し (今) でも そおやわいなあ (そうです)。売りもん (物) 見た目だけ 上だけは綺麗 なお (のを) して あるわい (あります)。苺こおても (買ったも)、して有るやんかい (有るで有りませんか)。そいなもんやわい (そんなものです) 皆。

あきないや (あきなひや) (商屋) 【名詞】 行商人 露天商 あきない 参照 (志 (布施田))

あきなう (あきなふ) (商) 【他ワ五】 商売をする 売り 買いする

あきのくい 開きにくい [会話] めえな (目が) おわ (腫れて) アキノクイ 時 な (が) 有ると お (お) た (ああ) めえな おわ (って) 今日 は どいらい (大変) わりんよお (悪いです) 言うて。

あきのはがち (秋の歯がち) 【名詞】 秋の寒さ。耐えられない寒さ。[会話] アキノハガチ 言うて、秋は ぬくたいよおん (温かいようにしていても)、雨な (が) 降って来ると、さぶうて (寒くて)、親泣き 子泣き 言うて。ぬくたいおもて (思つて) 用意せん (とお) るやんない (せすにいでしょう)。そすと (そうすると) 西の風 な 吹いて来たりすると、そや (それ、アキノハガチやどお (だぞ) 言うて、ハガチ言う な (のは)、はあ (歯) を がつがつ する。さぶうて ふるう (ふるえる) のをハガチ言う の (のです)。アキノハガチで親泣き子泣き 言うて。

あきのゆうやけ、かまとんでまで 【俚諺】 秋夕焼鎌研待翌日は天気がよい。稲の刈り入れが出来る。

あきばこ (空箱) 【名詞】 中に物の入っていない箱。からばこ。[会話] アキバコ 今しや (今は) 土産 もら (う) よ (つて) (から) かしん (菓子) の アキバコ も 有 (つて) なあ、からばこ。

あきま (空間、間) 【名詞】 1) 物と物とのすきま。間隔 2) 人の使用していない部屋。3) 2) からの転未亡人。[会話] 1) 枝な (が) 裂ける程、ももな (果実が)、なつとるやんない (なっている、ついているでしょう)。よつけなつとんのお (沢山ついているのを)、こだれとる (木垂れている)。アキマ (隙間) が 無い よおん (ように) なつとるやんない (なっているでしょう)。それを、こだれとる。

あきまどおし (明眞年) 新年を祝つて言う言葉

あきまめ (秋豆) 【名詞】 大豆の秋に収穫するもの (上、

阿) [会話] あぜまめ 六月頃ん (に) 植えるとなあ
アキマメ。粒な (が) おつきいて (大きくて)、やいこ
おて (柔らかくて) 旨いぬ (のです)。大豆やけど (だ
が) 秋 獲るもんで (ので) アキマメ。豆のたて (性
質) もなあ 粒な (が) おつきいて、かあ (皮) も
やいこおてなあ、炊いても 旨いなあ、あの豆。

あきめ (空目) 【名詞】 隙間、間隔。あきまと同じ。(志
(布施田)) [会話] ぎちづみ言うて。きっちり、ア
キメな (が) 無いよおん (ように)、すんのを (するの
を) ぎちづめん (に) して。今日は舞台小屋 (芝居小
屋) も ぎちづめやれ (だ) 言うてよお言うやんか
(よく言うて有りませんか)。満員の事なあ (です)。

あきめくら (明盲) 【名詞】 1) 文字の読めない人 2)
目は開いて居るが視力のない人

あきや (空家) 【名詞】 1) 家、人の住んでいない家
2) 未亡人 [会話] 1) 家な (が) アキヤん (に) し
とんね (しているのだ) 言うてなあ。誰も人な (が)
入とらせんのをなあ (ていないのを) アキヤや (で
す)。2) 後家さん 未亡人も アキヤや (だ) 言うて。

あきやしき (空屋敷) 【名詞】 人の住んで居ない屋敷。建
物のない宅地。(度 (小俣)) [会話] アキヤシキな
(が) 有って、あしこらん (あの辺に) 言うて、よお
言うやんか (よく言います)。家な (が) 立とらん
(立っていない) とこ (所) を アキヤシキな (だ)
言うてな。家が立とて (立っていて) 人が 住んど
らんと (住んでいないと) 空家。屋敷な (が) あいと
らんと (ていると) アキヤシキ言うて。

あきやすみ (秋休) 【名詞】 秋の収穫後の休日。多くは御
馳走をして食べる。

あきやせん 飽きない (志) 【用例】 好きな事 しとる
と (して居ると) いつ迄しとても (して居ても) アキ
ヤせん。

あきやせんわい。あきやせんわな (女性語)。あきやせん
わら。あきやせんわれ 飽きない

あきやれる 飽きられる 嫌られる 【用例】 毎日、
毎日 あの家いておつたら (行って居たら) 終いに
アキヤれんど。

あきやん 飽きない。嫌にならない。(志、四、安、松、
上) 【会話】 アキヤん言うこた (事は) たんの しや
せん 言う事。いくらしても たんの (堪能) しや
せん (しない) 言う事な (です) アキヤん言うて あか
せんな (飽きないのだ) 言うて。

あきゅうど (あきうど) (商人) 【名詞】 あきんど。あき
びとの変化した語 商人。物を仕入れに来る人。仲買

人。(志 (片田、御座)) [会話] 仲介商人、市場で札
入れてすんの (するのを)、アキユド。市場でさいら
(秋刀魚)、こおたり (買った)、鯉こおたりして、
加工すんの (するの) 言うし、札 入れん (入札
に) 行く人ら (は) アキユド。札 入れる言うやん
ない (言うでしょう)。普通の店屋の人はあきんどとは
言わせん (言いません)。仲介人。

あきよ 開けよう 【会話】 ぼら (穴) アキョ おもて
も (思っても) あけられやせん (空けられない)。

あきる (飽、倦) 【自力上】 十分になってもう沢山だと
思う。嫌になる。興味がなくなる。(志、鳥、員、四、
安、一、飯、松、多、上、張、度、北、熊) [会話]
アキル たんの (堪能) した。あきて来て たんの し
て来て、あきしょ (すぐあきる性格) やよつてん (だ
から) 言うてな。

あきれる (呆) 【自力下】 驚く あまりひどく茫然とす
る [会話] アキレルなあ言うて。おおた (ああ) あ
の人 あげな (あんな) 人や (だ) おもわらつたなあ
(思わなかった)。アキレルな言うて、びつくりした
(驚いた) 言う様な意味やかな (でしょうか)。おもと
んのより (思っているのより) まあだ 良かつたり、
わり (悪) かつたりすると、アキレルな言うて。

あきん 飽きない (員、多、飯、張、度)

あきんと 飽かずに (尾) 【用例】 何でも アキント続
けやな (続けなければ) 事はならせん (成功しない)。

あきんど (商人) 【名詞】 仲介人 魚の仲介人 あきゅう
ど参照 (志 (片田、御座)) [会話] アキんド言うと、
魚、市場で こおて (買って) 他人に 仲買いした
りすんの (するのを) アキんドや (です)。市場で
こおて それを卸ろしたりすんのをなあ アキんド、
あきゅうど言うのを アキんドや (だ) 言うて。

あきんどぐち (商人口) 【名詞】 物を売る時の商人の説明
世辞 当てにならないこと (上、阿) [会話] アキん
ドグチや (だ) 言うてな、上手言うてだ 例えば 五
円で ええもん (よい物) でも 上手言うて 十円に
も売るよおな、魚 こや (これは) じよおと (上等)
の 魚やでえ (です) 此処らで よれ (沢山) 揚がら
ん (獲れない) ええ (よい) 魚や (だ) 言うて、まあ
な 上手言うの (のを) アキんドグチや (だ)。こいな
(こんな) 安いな (のは) めつたん (絶対に) 無いと
か言うてな アキんドグチで。

あく (灰汁) 【名詞】 1) 灰を水につけた上澄みの水
2) 植物の中にある渋味のある物質 人の性質 (志
(布施田)、南、熊) [会話] 1) 灰のアク。灰を水い

(に) 浸けといて (ておいて) 灰な (が) とごつて (沈んで) その上ん (の) の、灰のアクで洗うと 白いもん (物) よお (よく) おちる言うてな、すべすべしとんねてや (しているのです) また、せんだくもん (洗濯物) でもなあ、灰のアク出して 洗うと よお おちられ (落ちる) 言うて、すべすべと、石鹸 使うよおんなあ (に) しとんの (しているのです)、灰のアクで洗うと。よごめ (蓬) うでる (茹でる) 時もなきれ (布) の袋いな 灰入れといてなあ (ておいて) うでる。今しゃ (今は) 炭酸でするよつて (から) 灰のアク 使かわせんけどなあ (使わないが)、晒の袋のおといて (縫っておいて) それい (へ) 灰入れてなあ よごめ うでる 時ん (に) アク抜きやわいなあ (です)。

あく (明、開、空) 【自力五、他力五】 1) そこを占めていた物がなくなり空間が出来る 2) 差止められていた事がしてよい事になる。解禁になる。荒布の口がアク。3) うまく行く。運が開ける。(志 (布施田)) 4) 目があく 5) 暇になる 時間に余裕が出来る手があく [会話] 葬式の欠損もアクやし (です)。₂₎ ここん (に) 座つとた (ていた) のおな (のが) 席な (が) あいた 言うてなあ、お前や (は) まあ (もう) 行くんかい (行くのですか) 行たら (行ったら) まあ あいたとこい (所へ) 座らして もらおかいなあ (貰いましょうかなあ) 言うてな。₁₎ とおやんなあ (夫が) 死んでくとなあ (で行く) それも アク言うしなあ、あの家行くと あいとられ (ている) まあ 言うて。

あく (空) 【自力五】 1) 葬式の時、香典の金額が必要経費より少ない時。あきに同じ。あいた。欠損が出た。2) 収入、支出に偏りが出来て欠損が出る。[会話] ₁₎ 葬式な (が) アクと、志添せな (しなければ) 言うて、足すのを志添せな 言うて。今しゃ (今は)、あかせんかして (欠損がないと見えて)、言わせんなあ (言いません)。アク言うのは、金が足らんでくんの (来るのを)。葬式の費用で香典とおおするやんない (でしょう)。そとまあ (すると) 香典な (が) すけのおて (少なくて)、いりよお (入用、費用) がよけ (沢山) いつて (必要で) それをあいた言うの (のです)。₂₎ お金足らんのをアク。

あくさい 飽き飽きして嫌になる。もてあます。困りはてる。(志 (布施田、立神、甲賀)、鳥) [会話] アクサイした言うのは、たんの (堪能、充分だ) した事。飽きた (飽いた) 事やなあ (です)。アクサで鼻ついて

言うて、よお言うやんかい (よく言います)。アクサイする程嫌な事を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

あくさいうつ 嫌になった。あくさい参照

あくさいした 飽きた。嫌になった。あくさいする参照 (志、鳥)

あくさいする 嫌になった。飽きた。(志、鳥、阿、張、名) [会話] アクサイ、たんの (堪能) した言う事な (です)。飽きたのを アクサイスル言うてな。アクサイや (だ) 言うやんかい (言います)。物凄お 嫌いん (に) になったのを、アクサイシタ言うて、飯でも芋飯 ばっか (ばかり) 食うて、アクサイシタ言うて。飽きて来たとか 嫌になって来たとか 飽きて来た言う意味やな (です)。それを ひどく言うの アクサイスル 言うてな。

あくさではなつく (鼻つく) いやになる、飽きる あくさい参照

あくさもぐさ (悪作妄作) 【名詞】 芥、藻屑よりの転。人のあらを言う。欠点、短所をあげて人の悪口を言う事。芥、ごみ、ちり、くず、転じてつまらない物。藻屑、海中の藻のくず。あくたもくた (志 (浜島、布施田)) [会話] アクサモグサ言うのは、ちゃちゃむちやこ (目茶苦茶) に言われる、事やんない (でしょう)。ぼろくそに言われる事や (です)。ちゃちゃもちやくちやも、アクサモグサも一緒に意味やわい (です)。ぼろくそも。

あくしよ (悪所) 【名詞】 悪い所。博打場。淫売宿など。[会話] 淫売屋い (へ) 通とんの (通っているのを)、アクショ通いしとる (している)。

あくしよ (悪性) 【名詞】 悪性の変化した語。末尾うの発音をしない。悪い性格。意地の悪い人。あくしよお参照 (志 (布施田))

あくしよお (あくしやう、あくしょう) (悪性) 【名詞】 性格の悪い事。性質の悪い事。性悪 [会話] アクショオやよつて (だから) 言うてな、病気でもわり (悪い) と あく病や (だ) 言うも一緒に、にげ (人間) でも アクショオやよつて 言うて。酒 飲んだり、おなご (女) こさえたり (作ったり) すんのなあ (するのをです)。

あくしよもん (あくしやうもの) (悪性者) 【名詞】 悪性者。性格の悪い者。意地悪者。

あくたい (悪態) 【名詞】 悪戯。口答え。悪口、雑言。(上、阿) [会話] アクタイ、悪口言う事。あくたれぐち 言うやんかい (言います)。わるもん (悪者) 言う事。アクタイと、あくたれは よお (よく) 似た言

葉やんかい(です)。あくたれぐちとかも、どいらい(大変) おっちゃく(横着)して すかん(嫌な)子な(が) 有るやんかい(有ります)。おっちゃくよも(横着者)、あや(彼は) あくたれやれ(だ) 言いおったな あ(言っていました)。悪い子や(だ) 言う事やなあ(です)。

あくたいぐち【名詞】 悪口 雑言 口答え 反抗する言葉 憎まれくち [会話] あくたい、アクタイグチ言うて、わりくち(悪口) 言うの(のを)。アクタイグチ言うけどな(言います)。

あくたいつく 悪口雑言を言う。口答えをする。(上、員)

あくたいもん(悪態者)【名詞】 悪戯者。乱暴者。[会話] あくたれぼおざ(坊主は) 言うけどなあ。わり(悪るい) 事するこお(子)を あくたれやよって(だから) 言うてな。あくたれ言うのは わり(悪るい) 事する こお(子)をな。アクタイモン言うのは 厄介もん(者)をな(です)。

あくたもくた【名詞】 役に立たない物。塵芥。あくさもぐさに同じ。もくたはあくたの音にひかれてモクズ(藻屑)が転じたもの。(上、阿、張、名)

あくたれ(悪)【名詞】【形容詞】 不良。乱暴者。あくたいもんと同じ。あくたれる参照(南)

あくたれぐち(暴言)【名詞】 憎まれ口。口返答、人の嫌がる事を言う。(鳥) [会話] 憎まれ口言うのをなあ、アクタレグチばっか(ばかり) 言うて、人ん(に) 嫌らわれんね(われるのだ) 言うて。あの婆 まあ アクタレグチ言うて、みんなん(皆に) 憎まれて言うてな。アクタレグチばっか 言うて 憎まれて まあ言うて。わり口(悪る口) 言うたり 愚痴言うたり すんのなあ(するのです)。憎まれ口言うのなあ(です)、アクタレグチ ついて(言うて) まあ言うて。

あくたれこそお【名詞】 乱暴な子供。いたずらをする子供。

あくたれぼおず【名詞】 乱暴な子供(南) [会話] わり(悪い) 事すんのをな(するのを)、あや(彼は) アクタレボオズやれ(だ) 言うね(言うのです)。おっちゃく(横着)して わり 事ばっか(ばかり)すると、あや(彼は) あくたれやよってん(だから) 言うてな。

あくたれもん【名詞】 あくたれ者 乱暴者

あくたれる(暴行)【自カ下一】 1) 乱暴する。悪ふざけする。(志) 2) 駄々をこねる。悪口を言う。[会話] 1) アクタレル、あやまあ(彼は) なんやら(なにか) どく(確) な事せんと(せずに) あくたれ みたよな

(のような) 事ばっか(ばかり) して言うて、わり(悪るい) 事する言うのをな アクタレル。

あくち(悪血)【名詞】 病毒を含んだ血 悪い血 [会話] 昔しゃ(昔は)、こおもおけて(出産して)、おびや(産婦の居る所) へいても(行っても)、わりな汁食うと アクチな(が) 出てく(出て行く) 言うて。おびやに行くと必ず、わりな汁食べおった。産後のひだち(経過)に。

あくちながち【名詞】 女性器よりの長期間の不正出血 子宮癌を言う

あくどい【形容詞】 1) 同じ事を何度も言って煩わしい 2) 食べ物の味がしつこく濃い(上、阿) 3) 色合いや模様がどぎつい(ドギツイ、人に不快感を与える程強引なこと、やらしい程に激しい) 4) 悪い事をする。[会話] 4) アクドイ言うのは、くどい言う事やねえんかい(で無いのですか)。アクドイ事する言うねよって(言うのだから)、悪い事する。ものすごい悪い事する言う意味や(です)。アクドイ事ばっか(ばかり) するよって(から) 言うて。今しの(今の) 総理大臣な(が) 汚職するよおなもんや(ものです)。アクドイ事して金儲けて。

あくとお(あくたう)(悪党)【名詞】 悪事を働く者の集団。後には一人の場合もいう。[会話] わり(悪るい) 事する人をなあ、あや(彼は) アクトオで、まあ言うて、しばや(芝居)でも アクトオな(が) 出て来て、言うて、よお(よく) 言うやんかい(言います)。

あくどし【形容詞】 濃厚である。あつさりしていない。あくどいと同じ。[会話] 欲の深い事するとなあ アクドシ事ばっか(ばかり) して、あのした(人は) いやらし(嫌らしい) 人やてや(だ) 言うてなあ。欲どし(欲の深い) 事すると、アクドシ事して 儲けてまあ言うて。物、食べても アクドシよおな味しとる(している)、どくらし(毒々しい) となあ、油濃いとなあ、どくらしなあ言うて、あくどいなあ 言う時も あんなあ(有ります)。あんまり(あまり) しょからい(塩辛い) やら(とか) 苦いやら 言うよおなのな(が) 有るやんかな(有るで有りませんか)。あくどおて 旨まないなあ言うてな。

あくどし(悪年)【名詞】 悪るい年。凶年。(桑郡) [用例] 今年や(は) アクドシで病氣したり、怪我したり ほん(本当に) アクドシや(だ)。

あくばい(悪輩)【名詞】 悪い影響を与える仲間。悪い友達。あくはいの訛か [会話] 朋輩、アクバイ、せんちや(便所) 糞言うて、朋輩よい(呼び掛けの声) 言

うと、アクバイか、せんちや蠅か言うて。昔は 皆 朋輩、朋輩言うて男の人ら言いおったね (言うて居た のです)。朋輩言うな (のは) 友達の事を朋輩とか、きよおだい (兄弟) とか言うて。兄弟言うて、きよおだ いぶんろくおおぬすつと (大盗人) 言うて。朋輩言う 時や (は) アクバイ 言うんなし (言うのですし)。

あくび (悪日) 【名詞】 運の悪い日 [用例] 財布落とすやら てえ (手) 折るやら 今日 は アクビやわい (です)。

あくび 【名詞】 あけび 通草 アケビ科の落葉低木、茎はつる性で、直径1.5cm位、葉は五小葉からなる掌状復葉で小葉は細長い楕円形または倒卵形。春、新葉と共に淡紫色の花が総状に咲く。実は長さ8cm内外の長卵形で、淡紫色、皮が厚く熟すると縦に裂け、強い甘味がある。(志、鳥、員、鈴市、松、一、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南)

あくびやお (あくびやう) (悪病) 【名詞】 性質の悪い病気 難病 治りにくい病気 あくしょう 参照

あぐら (胡座) 【名詞】 足をくんで楽に座る事。(一、飯、上、阿、張、名) [会話] おおいざかくのアグラ アグラかいて おなござい (女の分際) で言うてな。

あくらかいん 【副詞】 無茶苦茶に。途方も無い。(志 (越賀、布施田)) [会話] 酒でも うもおて (美味くて) アクラカイン 飲むと あほ飲みで あやれまあ (あれまあ) 言うて。アクラカインに食うて 言うやんかい (言います)、無茶苦茶に食うとなあ。アクラカイン よけ (沢山) 食い込んで 腹、下すど (ぞ) 言うてなあ。買 いもん (物) でもなあ あれも これも言うて要る もんも 要らん もん (物) も 買 い込んで 来るとなあ、アクラカイン よけ 買 い込んで 来て 言うやんかい (言います)。けんとなしん (見当無しに) する言う事や (です)。なんもかも (なにもかも) どっさり けんとなしん 要る もんも、要らん もんも こおて (買って) 来るとなあ。必要 なもん だけ 買 うとええんけど (よいのだが) アクラカイン買 い込んで 来て言うて。

あぐらかく 足を組んで楽に座る あぐら参照 賤人の言にアグラカク、或は俗にアズクミヲスルと言う。アグラは安坐也。坐の訓クラ也、阿具美は足を結む(組む)と言うことにて、今の俗に丈六かくと言う坐様なり。これを予郷の方言にアグラカクとも、アズクミカクとも言えり。アズクミは、足組にて阿具美に同じ。(古事記伝) アグミ 足組み、跌坐 足を組んで座ること。胡坐。丈六、ジョオロク (チャウロク) 丈六

(広辞苑) 一丈六尺 また仏身は一丈六尺あったとき、この大きさに作られた仏像を言う。ただし原則として結跏趺坐の姿に作るので其の座高は八尺~九尺が標準。丈六の仏像が結跏趺坐して居るところからあぐら。かく 繋ぐ 構く 足を組んで座る。(広辞苑) (志摩市全域、鳥、桑市、員、鈴郡、鈴市、亀、安、一、松、多、上、名、伊、北、南)

あぐり (網繰) (揚繰) 【名詞】 あぐり網の略。鰯漁をする網船。アグリ網。巻網の一、網を打ち回し魚群を囲み網裾の沈子網を繰り上げて捕らえるもの。(志、鳥 (答志))

あくるあさ 【名詞】 翌朝

あくるとし 【名詞】 翌年

あくるひい 【名詞】 翌日 ひいは日の二拍化

あけ (明) 【名詞】 1) 期間の終る事 夜勤アケ 2) 期間の始まり。ロアケ

あげ 【名詞】 あぶらあげ。油揚げ。豆腐を適当に切って水気を取り去り食用の油であげたもの。揚げ油は本胡麻を上等とするが今は必ずしもそれに限らない。精進料理に主要される。(志 (志島))

あげ 【名詞】 あげく あげの果て 終り

あげ 【名詞】 鰓。あぎに同じ。(志、鳥) [会話] 鰓のほ がい (頬) に、へび言うの な (が) 有って、頬をあけると、アゲの つがい (番) ん (の) とこん (所)に、へび言うて ほっそい (細い) のおな (のが) あんねてや (あるのです)。

あげ 【形容詞】 そう。左様。あのよう。あんな。多くあげな、あげに、あげんの形で用いられる。あげこげ 参照 (三重県全域)

あげあぶら (揚油) 【名詞】 1) 料理で揚げ物に使う油 2) 油揚げを揚げる油 [会話] 2) アゲアブラで 揚げたらまあ どくらして (毒々しくて) 言うてなあ。とふ (豆腐) なら、アゲアブラ使うと よお (よく) 揚 つてええねけど (よいのだが)、他の もん (物) へアゲアブラすると 臭いしなあ、どくらし (毒々しいのです)。しつこい なあ (です) 油な (が)。これは あぶら揚げ作る時の油で、なんやかや (いろいろ) 炒めるとなあ きつすぎんねな (強よ過ぎるのです) どくらしの。お かざやどけ (など) する時は あんまり (あまり) しつこい なあ (です) アゲアブラは。

あげおろし (上下) 【名詞】 1) あげる事と、さげる事。人をほめたり、くさしたりする事。2) 嘔吐と下痢 [会話] 1) にい (荷) の アゲオロシに てつとてくれまあ (手伝ってください) 言うて、車 い (へ) 積 ん

だり 舟い(へ) 積んだりすんのを(するのを)、にいの アゲオロシも てつとくれまあ 言うて。二階いも(へにも) あげたり 降ろしたり アゲオロシなあ(です)。²⁾ あげたり(吐いたり) くだしたり(下痢したり) まあ よわたたよお(困りました) 言うて、あげさげ(下痢) 言うて 吐いたり 下したりしてえらかったよお(大変だった) 言うて。

あげく(揚句)【名詞】 1) 終わってからの結果。悪い結果。(員) 2) 終わってすぐ直後 [会話] ¹⁾ なんやかや(色々) した後、後の事をアゲク言うて、後で アゲクんなれ(あげくにですね) 言うて、よお言ういうやんかい(よく言います)。寄って来たアゲク言うて。

あげくだし(上下)【名詞】 吐き下し。嘔吐と下痢。あげおろし参照

あげくのはてに 終りに。最後には。[用例] アゲクノハテニ 泣きみんねやれ(辛い目に合う)。

あげくれ(明暮)【名詞】 毎日。日々。[用例] ととな(夫が) 死んでて(で行って) アケクレ泣いとる(て居る)。

あげこげ あれやこれや、あんなに こんなに [会話] アゲコゲしとる(している)、あげん(あんなに) して、こげん(こんなに) しとる うちん(間に) 言うんけどな(言うのです)。それを まあなあ アゲコゲしとる(している) なあ(です)。アゲコゲ しとる うちん まあ 日な(が) 経ってて なんも(少しも) 出来らったれ(なかった) とか、アゲコゲヤ 言うとる(言っている) うちん まあ こやれ(これ) 日な(が) 暮れてたない(で行った) とか、言うてな。

あげこげしとるうち いろいろとしている間に。又うろうろとしている間に。あげこげ参照

あげさげ(上下)【名詞】 1) あげおろしに同じ。箸のアゲサゲにも文句言う。2) 嘔吐と下痢 3) 煽てたり腐したり [会話] ¹⁾ 箸の、アゲサゲにも 言うし。³⁾ 人をなあ アゲサゲ言うて 煽てたり くさしたりするやんない(でしょう)。人ん(に) 物やんのん(やるのに) あげよ さげよ ぼぼ入れよ 言うて、くよ(あげましょう) 言うて 出してなあ、まあ やや(嫌だ) 言うて して わがとな(自分の) 懐い(へ) 入れんのなあ(るのを) ぼぼ入れよ 言うて。

あげしお(上げ潮)【名詞】 潮が満ちて来る事(鳥) [会話] 潮な(が) みって(満ちて) 来るのも、アゲシオヤ(とか)、さげしおや(だ) 言うて、ひいて(干いて) 来たり みって(満ちて) 来たり 言うのなあ(です)。

あげしお(上げ塩)【名詞】 刺身や鰯、鯨等の小魚に塩を振って身を固める事。[会話] アゲシオ 言うなあ(のは)、魚い(へ) 塩しといて(しておいて) 箒い(へ) しとくのなあ(しておくのを)、アゲシオ しとくとなれ(しとくと)、旨いわれ(です) 言うて。塩をびちゃびちゃん せんと(せずに)、箒か すう(箒) の上い(へ) 塩、塗っといて(ておいて)、しとくの(しておくのを) アゲシオ。アゲシオン(に) しとくと あんまり(あまり) 効き過ぎてかんでなあ(て行かなくて) すう(酢) で 食うのん(食べるのに) 旨いよって(から) アゲシオン(に) しとけよお(しておきなさい) 言うてな、箒やすう(箒) い(へ) 汁 垂らしとくの。

あけず 三日にあけずのあけず 間を置かない事

あけすけ【名詞】 隠しだてせず、あけっぴろげの事。又そのさま。あけほけ参照(志(布施田)) [会話] アケスケ言うな(のは) しまり(隠し事) が無い。

あげそこ。あげぞこ(上底)【名詞】 底が二重になり外見より内容の少ないこと

あげだし【名詞】 大漁が続く 魚獲物を市場へ水揚げし、すぐ漁に出港すること。[用例] かと(鰹) な(が) 大漁で、かとぶねな(鰹船が) アゲダシやてわれ(だそうだ)。

あけだした 1) 雨が激しく降るさま 2) 物を多量に出す さらけだす [会話] ²⁾ アケダシテおこした 言うて、なんやかや(いろいろ) くれんのん(呉れるのに)、好きなにげな(人間が) アケダシやよってん(だから) 言うて。アケダシで なんもかも(すべて) 呉れたる(てやる) 言うて。なんでも 口な(が) おっきい(大きい) のおから(のから) 出すと アケダシタ 言うて、にげ(人間) でも アケダシタ よおな(てやったような) にげ やなあ(だ) 言うなあ。¹⁾ 雨な(が) アケダシテ 来た言うて 土砂 降り言う時も有るし、物凄お 降る時をアケダシタ、あけだして来た。

あけだしてきた 雨が激しく降ってきた あけだした参照

あけだす 1) 雨が激しく降る(志(布施田、甲賀、志島)) [用例] 雨な(が) アケダシテ 来た。2) さらけだす。

あけたて(開閉)【名詞】 戸、障子などを開けたり閉めたりする事。(志(布施田)) [会話] と(戸) を開けたり、閉めたりする事。たてる 言うと 閉めんのなあ(るのです)。アケタテばっか(ばかり) しとんね

(しているのだ) さぶいのん (寒いのに) 言うて、よお (よく) わるわれよおったやんかい (叱られて居ました) 冬ん (に) なる。

あげたりくだしたり 嘔吐と下痢 [会話] アゲタリクダシタリ まあ 弱ったよお (困った) 言うて。あげさげ 言うて 吐いたり、下したり (下痢したり) して えらかったよお (大変だった) 言うてな。

あげたりさげたり 1) 褒めたり くさしたり 2) 嘔吐と下痢。あげさげ、あげおろし参照。[会話] 1) アゲタリサゲタリ ひやかされたり ほんに (本当に) お前さん 撥釣瓶 言うて、煽てたり くさしたり すんのなあ (するのです)、アゲタリサゲタリ 言うて。2) げえ (嘔吐) すんのと (するのと) びいびい (下痢) すんのも アゲタリサゲタリ。

あげたれ 1) 家などへ入れてやれ 2) 神佛に供えなさい。供えを下げて来なさい 3) 終わりにしなさい 4) 嘔吐しなさい [会話] 3) アゲタレまあ きもん (着物) も、破れたれ (てしまった) こればな (これを) アゲトイテ (ておいて) ええ (よい) の おろせ 言うてな。 きもん (着物) な (が) 破れてたよって (て行ったから) ほったれ (捨ててしまえ) お終いに せえ (しなさい) 言うのも アゲタレ言うの (のです)。2) 神さんに、御神酒もアゲエまあ (なさい) 言うたり、佛さんへも あげとけまあ (ておけ) 言うて、供え (供えなさい) 言うのを。1) あのこお (子) も 家い アゲタレまあ 言うて 入らせえ (入れてやいなさい) 言う事をなあ、家い (へ) あがらせまあ 友達やんかあ (でないか) 言うて。

あげたれ 1) 家の中へ入れました 2) 供えました 3) 終わりました 4) 嘔吐しました

あげっぱなし (明放、開放) 【名詞】 【形容詞】 開けはなし、開放している事 1) 戸などが完全に開いている 2) 隠し事が無い 3) 着物などの前が開いている [用例] 1) 朝ん (に) になったら ととお (戸) も アケツバナシにして 空気も入れ換えなはざん (なければ駄目だ)。2) あや (彼は) 何でも アケツバナシで かくす事知らんお (のだ)。3) 前 アケツバナシで 道具あ (生殖器) まる見えやない (だ)。

あげっぱなし (開放) 【他サ五】 開放する

あげて。あげてえ 1) 家などへ入れて下さい 2) 供えて下さい [会話] 2) アゲテ なんやかや (いろいろ) 物、船から揚げるとか、神さんえ (に) 物あげるとか、神さんえ 御神酒あげたれ (てやれ)。1) 家アゲテもろて (貰って) 言うて、あがらしてもらわ

い 言うのな (です)。家の中い (え) はえらして貰う 言う事を あがらして貰うわいと、あがらんかい (入りなさい) とか 言うて。こっちは あがらんかい 言うし、アゲテもらおかいなあ 言うて あがらしてもろて 言うてな。

あげてくれ。あげてくれえ 1) 家の中などへ入れて下さい 2) 神佛に供えて下さい [会話] アゲテクレ言うのは、1) 家の中い (え) 入れてくれ (下さい) 言うのと、2) 供えてくれ 言うのと、神さんにあげる (供える)。

あげてこい 1) 供えなさい (鳥) 2) 供物を降して来なさい。終りにする。3) 生簀の魚を持って来なさい [会話] 2) 供えてあんのを (有るのを) ほとくさん (仏壇) から、神さんから アゲテコイ あげたれまあ 言うて 下げたれ 言う事。 下げたれ (てやれ) 言う家も有るし、あげたれまあ 言う家も有るし。降ろして来い、言う事を アゲテコイ 言うてな。 取ったれ (てやれ) 言うのを あげたれまあ 言うて。1) 供える時も あげたれ 言うて、また 降ろすおりも (時も)。2) あげたれ は、それ終わりにしとく (しておく) それも たいがい (大抵) ん (に) して あげとけ あげたらんかれ 言うて、仕上たれ (仕上げてやれ) 言うのをな。 あげたれ 言うて きもん (着物) きやんで (着なくて) あげたれ 言うて、ほったれ (捨てよ) 言う事。そして あがり (お古) もおた (貰った)、あがり もおて (貰って) 着た言うやんかい (言います)。

あけてもくれても 明けても暮れても 何時も 毎日 (伊賀地方) [用例] アケテモクレテモ 芋飯ばっか や (ばかりだ)。

あげてもら 家の中に入れて貰う。[会話] 家の中い (に) はいらして (入れて) 貰う事を アゲテモラウ 言うて。

あけとく 1) 開いておく 戸締まりなどをしないでおく 2) その時間を予定を入れないで居る 3) 留守にする (北) [会話] 物を、入れもん (物) から アケル 言うのも有るしな。入れもん を アケトク 言うのも有るし、1) 戸をアケトク 言うのも有るし。2) 時間をあける、時間アケトク言うて 3) 家におらん (居ない) のを 家 アケトク 言うて 留守にする事なあ。

あげとく 1) 供えて置く 2) 上に乗せておく [会話] 1) アゲトク 供えん (る) のアゲトク。2) 上に乗せん のも (乗せるのも) アゲトク。 あげとけ (ておけ) 上

い 乗せとけ 言うのも 有るしな。そして すえと
け (据えておけ) そこい (そこい) すえとかんかれ
(置いておけ) 言うのも有るし。すえとけ アゲトケ
おいとけ言う。

あげな 開けなければ (一、松、多、度) [用例] 朝ん
(に) になったら、とお (戸) も アケナ はざん (駄
目だ)。

あげな 【形容詞】 あのような あげ参照 (志 (布施田、
片田、志島、甲賀、安乗)、阿、松、多、度、鳥羽市全
域)

あげなもん 【名詞】 あんな者 (物) つまらない者 (物)
[会話] あいな奴ら言うよおな意味で、あのやから
(輩) 言うて、アゲナモンやてやら (とか)、あいつ
(奴) やら (とか) 一緒にの事やわい (です)。そのにげ
(人間) を軽蔑して言う事やなあ (です)。あの餓鬼な
(が) 言うたり 皆 一緒にわい (です)。

あげなや 【名詞】 納屋の土間に板を張った所の有るもの
あげま参照 (志)

あげに 【形容動詞】 あんなに あれ程 (志 (御座、布施
田)、鳥 (国崎)) [会話] にげ (人) ん (に) よって、
アゲニ言う人も有るし、あげん言う人も有るなあ。ア
ゲニ 言うてあんのん (有るのに) 言う人な (が) 有
るしな。あげん言うのな 多いな。あげん 言うて、
あげんして あんのん とか言うてな、言うたよおな
事ばっか 言うとる (言っている) 事をな、あげんば
っか (ばかり) 言うとんね (言っているのだ)。

あげのしごと 【名詞】 陸の仕事 [会話] 磯 (海女) は、
はざん (駄目) でも、アゲノシゴトえらいね (よく出
来るのです)。いくら アゲノシゴト、えらおても (よ
く出来ても)、磯行くとははざん にげ (人間) な (が)
有るし。海女な (が) えらいよって (よく出来るから)、
おか (陸) の仕事な (が) えらい訳や (で) ないんて
や (無いのです)。アゲノシゴト言うな (のは)、おか
の仕事。海でえろおても、おかの仕事な (が)、なん
も (全く) はざん にげな (が) 有るし、おかのしご
た のろまみたよんしととも (のようにしていても)、
海い (へ) おりると (入ると) 海雀 でえらい にげ
な (が) 有るしなあ (有ります)。

あげのすし 【名詞】 油揚げで包んだ寿司 いなり寿司
(南) [会話] アゲノスシ言うな (のは) あげずし
いなりずし。

あげのはて あげくの果。最後に。[会話] 船越の馬助
言うのな (が)、あんごしのおで (馬鹿なので)、あん
ごし ねえけど (ののだが) 親な (が) 死んでたのん

(行ったのに)、いくら 阿呆やてて (でも) 焼香さす
のん (に)、やらな (行かさなければ) はざんわれ (駄
目だ) 言うて、そしてしたや (そうしてしたら)、仏さ
んの前で 首あげて来やせんねてわい (来ないそうで
す)。いくらあんごし言うたてて (言っても)、親な
(が) 死んだねよって (のだから) 悲しわれなあれ
(悲しいのだなあ) 言うて、はたのものな (周囲の者
は) 言うとるし (言っているし)、わがた (自らは) じ
っとして、きんだま握って、うつぶいとて (うつむい
ていて)、アゲノハテ、ひよっと首あげて来たや (ら)、
やっぱし (矢張り) ちんば (ちんばは) どおほね (胴
骨) のおおやのお (尾だ) 言うて。

あげのみよおじん 【名詞】 金星 明方東の方で輝く
(志) [会話] アケノミヨオジン 言う、星な (が)
あや (あれは) アケノミヨオジンや (だ)、暮れのみよ
おじよおや (だ) 言うてな。しよんべ (小便) しいん
(しに) 出ると 空、眺めよおったけど (眺めて居た
が)。

あげば (上場) 【名詞】 舟を引き上げる所

あげほけ 【名詞】 1) 隠さない事 あけすけに同じ参照
2) 中が空になった状態。[会話] ① アケホケ やな
あ (だ) 言うて、なんもかも (なにもかも) アケホケ
で、まあ あけだしたて (てしまつて) 言うてなあ。
呉れたり、ほったたり (捨ててしまつたり) すんのな
あ (するのです)。アケホケで、なんもかも たぼる
(貯える) 事、知らんね (知らないのだ) 言うて。気
前よお (よく) 誰ん (に) でも 呉れたり すんの
(するのを)、アケホケで言うたり、あけすけで 言う
たりなあ。② あや (彼は) まあ あけすけで どいら
い (大変) さっぱり しとんねてや (しているのだ)
言うてな。隠し事せん (しない) 言うのか、欲な
(が) 無い言うのか、欲無しや (です)。さっぱり し
とる (している) 言うな、欲な (が) 無い事をなあ。
③ 西瓜やどけな (なども)、うれ過ぎてて (熱し過ぎ
てしまつて) 中な (が) がさがさん (に) なつとると
(なっていると) アケホケん (に) なつとるなあ (な
っている)、たなおち (熱れ過ぎ) しとるとなあ (して
いると) こや (これは) アケホケで まあ なんも
(少しも) うまねえわれ (旨くない) 言うてな。

あげま (上間) 【名詞】 納屋の土間の一部に床を張った所
(志 (神明、立神、甲賀、国府)) [会話] 納屋ん
(に) アゲマ言うな (のが) 有って、一部屋アゲま
(に) して有って。床ん (に) 張って 有るとこ
(所)、アゲマや (だ) 言うて。納屋へはんぶ (半

分) 土間ん (に) して、はんぶ 床張ると、アゲマヤ (だ) 言うて。アゲマ一つ作って有ると、なん (何) 入れても、土間で藁仕事したり、なんやかや (色々) もて (持って) 来て、どしやげとくのに (放り込んでおくのに) 土間もほしなあ (欲しい) 言うて、アゲマと土間とこしやえて (作って)。

あげもん (上物) 【名詞】 進上する品物、進物。神仏に差し上げる品。[会話] アゲモンは、仏さんや神さんにあげん (あげる、供える) のもあげる。天麩羅あげるのも、アゲモン言うやんか (言います)。人にくれるのもあげる。

あげもん (揚物) 【名詞】 野菜や魚、肉などを油で揚げる ことまたはその物。テンブラ、カラアゲ、フライ等 前項 あげもん参照 (桑郡、三、四、鈴市、張、伊、北)

あげや (上屋) 【名詞】 一段上った場所 [会話] アゲヤにして有るとこ (所)、しゃじきや (棧敷だ)。アゲヤ言うて一段上って二階に、二階に段して芝居見るよおになつとと (なっていると) しゃじき 言うて。

あげやこげや あれこれ ああだこうだ あげこげ参照

あけやん 開かない 開けない (志、四、安、多、上、張、尾) [会話] アケヤン言うて あかせん (開かない) とか、よおあけんよお (あけません) 言うて、と お (戸) も、詰まつとと (ていとう) よおアケヤン で (開かなくて)。

あけやんか。あけやんかれ。あけやんかな (女性語)。あけやんかれ 1) 開きなさい 開けなさい (尾) 2) 空にしなさい 3) 隙間をつくりなさい 隙を作って席を作りなさい [会話] 1) アケヤンカレ 言うて、おらま (私は) このとお (戸) よおあけんない (開けません)。かつとお (堅くて) 言うて、アケヤンカレ あけんかれも 一緒。

あけよ 1) 開きなさい 2) 場所を開きなさい (志、鳥、員、四、安、一、松、飯、上、張、度、北、尾) 3) 空にしなさい [会話] 1) 2) 3) あけえまあ (あけなさい) 言うてな。アケヨ言う事。

あける (空、開) 【他カ下一】 開く。開ける。1) 戸などを開く (志 (布施田)) 2) 留守にする 3) 時間の予定を入れないで置く 4) 空にする [用例] 1) とお (戸) アケル 2) 家 アケル 3) その時間アケルわい (です) 4) バケツから水アケル

あける (明ける) 【自カ下一】 明るくなる 夜がアケル (志 (布施田))

あける 【自カ下一】 雨が激しく降る (志 (布施田))

あげる (上、揚、挙) 【他カ下一】 ① 1) 下の物を上へあげる。低い所から高い所へ移す。2) 髪を結う。3) 水中、水上から陸へ移す。4) 熱い油で煮て食べられるようにする。5) 屋外から人を部屋に入れる。6) 一度食べた物を吐く、あます、溢れる。(志 (鶴方)、鳥、桑市、鈴市、張、北、南) 7) 学校を卒業させる。8) 入学させる 9) 物事を完了する。総てをしあげる (あがり参照) 10) 網を繰る。② 地位、体勢、価値を高める 1) 物の価、給料を高くする。2) 技能を上達させる。3) ほめる 4) 心にもなくほめる、おだてる。(志 (浜島)) ③ 物事を終りまでする 1) しあげる (南) 2) ある費用ですませる 3) 漁獲物を水揚げする 獲る ④ 敬意を表す人に物を渡す 1) 神仏に供える (桑市、鈴市) 2) 経を読む (志 (布施田)、桑市、鈴市、北) 3) さし出す [会話] ①-1) 下から上へアゲル、もちやげる (持ち上げる)。①-7) 学校を卒業した時はあがる。入学する時は登る言いおつた (言っていました)。①-6) 吐く事もアゲル 言うて、昔のひた (人は) ゲーゲー吐いて言うて、ゲーゲー言うて別に (大変、特に) 汚いなあ (です)。①-10) 綱くりん (手繰る) 行くのも、ちんと (きちんと) 舟へアゲル事を綱くる言うて。“地山のほつぼな (鳥が) 鳴いて来た。爺やんも婆やんも早よ起きよ、おらげ (俺家) のととら (父) は、綱くりりにいたわいのお (行きました)” (和具民謡) ①-4) 天麩羅あげん (る) のもアゲル。②-2) 腕 (技量) あげん (る) のもアゲル、あげた。①-9) 畑言うて、かつとて (借りていて)、地主にかやす (返す) と、あげた言うて。①-9) 仕事終るのもあがる。③-3) 市場い (へ) アゲル言うてなあ 市場い (へ) 今日は魚よけ (沢山) あげて まあ言うて、市場い (へ) 渡すのをなあ、今日は かと (鯉) 舟な (が) 来て かと よけ (沢山) アゲル 言うて。

あげん 【形容詞】 あんなに、あれ程、あのよう。あいな、あげ、あげに参照 (志 (布施田)、度、鳥)

あけんか。あけんかな (女性語)。あけんかれ あけなさい。閉じているものを開きなさい。空いた所を作りなさい。あけやんかれ参照 [会話] あけやんかれもアケンカレも一緒。あけなさい言う事。

あげんく 揚げに行く 網アゲンク

あげんした 1) ああした ああ言った あんな 2) あんなにしたら

あこおだい (あかをだひ) (赤魚鯛) 【名詞】 魚、うけくちめばる カサゴ目フカカサゴ科の海魚 下顎の先端の歯群は口を閉じたときに一部露出する。

あごおとす 1) 美味しい 2) 大笑いする 3) 死んだ
(多) [会話] 2) わろて (笑って) アゴオトシタよお
ったよお (落とすところだった) 言うて、1) うもおて
(美味くて) あんごな (顎が) 落ちる程 美味かった
言うて。

あごがおちる 美味しい あごなおちる (上、阿)

あごがたっしゃ 雄弁 能弁である あごなたっしゃ
(員)

あごがだるなる 1) 喋り疲れる (上、阿) 2) 食べ疲
れる あごなだるなる

あごぎ (阿漕) 【形容詞】 過酷な事

あごた (顎) 【名詞】 あぎと (鰓) の変化した語 下顎
あんご参照 (志 (鶴方、立神、神明、国府)、鳥 (加
茂)、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、安、津、一、多、
飯、上、阿、張、名、度、伊) [会話] 顎、今し
(今) は 顎や (と) 言うけど (けれど)、アゴタ、は
ずしたたら (とか) 言うて、アゴタな (が) はずれる
程 わろた (笑った) 言うて。

あごたたき (あんごたたき) 【名詞】 寒さのため顎が震う
こと [会話] アゴタタキ 言うてな ワ、ワ、ワ、
言うて 震うのを アングタタキ 言うてな。アゴタ
タキする。さぶうて (寒くて)、アゴタタキしとんね
(しているのだ) 言うて、さぶうて 震うと、ワ、ワ、
ワ、 言うて あんごな (顎が) 震うと 言うて来るや
んない (でしょう)。さぶうて アゴタタキする言うて。

あごたたく 1) 喋る [用例] 九年 久右門 (クヨ
モ) は鍛冶屋を習うて、鍛冶屋叩かず アゴタタク。
2) 口答える (上、阿) 3) 大言壮語する 4) 約束
束する

あごつる (顎吊) 食べられなくなる 生活が苦しい [用
例] 稼ぎな (が) のおて (無くて) アゴツル。

あごなおちる 美味である [用例] うもおて (美味
で) アゴナオチルような (ようだ)。

あごなたっしゃ よく喋る

あごなだるなる 1) 喋り疲れる (上、阿) 2) 食べ疲
れる [用例] 2) よけよばれて (沢山食べて) アゴナ
ダルナル。

あこなる 1) 赤くなる [用例] 恥かして (しくて)
顔な アコナル。(志、桑郡、桑市、安、一、松、上、
阿、張、名、度、伊、北、南) 2) 熟くす

あこや (阿古屋) 【名詞】 米の粉の皮で出来た饅頭 表面
に、二、三粒の米粒のつきのを特徴とする。(志 (布施
田)、伊) 伊勢には女の業に、小さき美しき団子を作り
ありくとて、アコヤ、アコヤ召さぬかと言うよし、ア

コヤ玉に、似たる故に云々。アコヤと言う餅は他国に
無き商号也、団子にアンを入れたる故に、アンダンゴ
の略にアコヤと言うなり。ヤは言の余りなり。(伊勢の
浜荻) 阿古屋 アコヤ貝 アコヤ珠の略。阿古屋貝
(阿古屋の浦に多く産したから言う) ウグイス貝科の
二枚貝、形は四角形に近くやや膨らむ。長さ6cm
殻表は灰褐色。内面は美しい真珠光沢がある。阿古屋
珠 アコヤ貝から出る球 即 真珠 アコヤ 阿古屋
餅 阿古屋珠に見立てて作る米粉製の小さな団子 [会
話] 米の餅いなあ (へ) 餡つつで (包んで) そして
めつつぼ (米粒) も 一つつつ (一つづつ) 蒸したの
を 上ん (に) すわつとんのなあ (乗っているのです)。
アコヤやなあ (だ) こや (此は) 言うてな、芋飯炊く
と 芋い (へ) 米な (が) 一つつつ ひつついとると
(ていると) アコヤ食うくらいやなあ (だ) 言よおつ
たやんかい (言って居たで有りませんか)。

あころぶ 1) 果実などが熟す あかろむ参照 2) 赤
くなる

あころむ 【自マ五】 1) 果実などが熟す (志 (鶴方、立
神、国府)、鈴郡、一、度、伊、南) 2) 赤くなる
[会話] あかろむ 言う事かい (ですか)。あからませ
ん まだ 言うて、アコロで (赤くなって) 来た 言う
の (のです) アコロで 来た言うてな。柿もまあ だ
いぶ (大部) アコロで来たれ、密柑もまあ だいぶ ア
コロで来たれ言うてな、あからんで 言わんと (言わ
ずに) アコロで来た言うね (言うのです)。アコロぱた
ら (とか)、アコロもたら 言うて あかるんで 来た言
うたり、アコロで来て てつとられ (照っている) 言
うてなあ。

あざ (痣) 【名詞】 1) 皮膚の一部に局限する色の変化。
外傷による皮膚の内出血によるもの。血友病や血管の
異常による紫斑病等の皮下出血。2) ほくろ 黒子
[会話] 2) 顔のアザ、顔な (が) アザだらけや (だ)、
ほんとん (本当に)、ほくろついで 来て (黒子が多く出
来て)、顔も 皺 と黒子と。

あさあらし (朝嵐) 【名詞】 朝吹く風 [会話] 朝ん
(に) になると 必ず そよそよと 出てくるわな (出
て来ます)。あらし (風) な (が) そや (それ) アサア
ラシン (に) 早よ (早く) 出よや (出ましょう) 言う
て。そすと (すると) 夕方 日のおちやい (日没) 頃
ん (に) になると、ゆうあらし (夕風) な (が) 出てく
んねてや (くるのです)。夜嵐 な (が) 出て来た よつて
ん (から) 早よ (早く) まこや (帆をあげよう) 言う
て、夜舟 走りおつた (居ました)。

あさい (浅) 【形容詞】 日がアサイ (日が経って居ない) 山がアサイ (樹木が少ない) 等のあさい、少ない。

あざい 【名詞】 紙膏薬 浅井万金膏 あさいの訛か (志 (布施田、立神)、南、熊) [会話] 膏薬、アザイ膏 まごえ屋な (が) アザイごおやく 売つとよおった (売って居た)。

あさおき (朝起) 【名詞】 朝早く起きる事。早起き (上、阿) [会話] 氷張らして、朝ん (に) になると、それみんのな (見るのが) 楽しみで、アサオキして、しよおったの (して居たのです)。

あさがお 【名詞】 男性用小便器

あさがけ 【名詞】 朝の早い時期。早朝。あさがた。(桑) [会話] 明け方の事をアサガケ 言うの (のです)。朝がた 雨な (が) 降つとて (ていて) 言うて。アサガケん (に) なって来ると、よさり (夜)、まあ 布団 要らんな (要らない) おもとでも (思っている) さぶなつて (寒くなつて) 来て。

あさがけ (朝暉) 【名詞】 朝早くから出かけて行く事。もともと軍陣用語から出た語。(桑郡)

あさがた (朝方) 【名詞】 朝のうち。朝のあいだ。夜明頃 (志 (浜島 布施田、鶴方)、鳥 (坂手、鳥羽)、北) [会話] 夜明け頃とか、朝ごろ (朝頃) とか アサガタ言うのも有るし、朝頃言う人も。

あさかづき (朝) 【名詞】 午前中の海女作業 (志) [会話] アサカヅキ、今日は、なんもはざんかったよつて (全く駄目だったから)、中かづき 大漁せな (しなければ) とか、タかづき 採らな (なければ) とか言うて。アサカヅキ、朝の九時頃から十一時頃まで入つとんの やろなあ (海に入っているのでしょう)、二時間位。

あさからばんまで 【名詞】 一日中。終日。[用例] あの親父 アサカラバンマデ 怒つとる (て居る)。(志 (安乗))

あさからよさまで 【名詞】 一日中 終日 [会話] アサカラヨサマデ 食い通しやない (だ) てやら (とか) 言うてな。一日中、アサカラヨサマデ 立ち通しやつた (だった) とかな。

あさきげん 【名詞】 朝、起きた時の気嫌 [会話] 朝、起きてきても、ににこと すぐん (に) 話したり、もの言うたりする にげ (人間) は、アサキゲンな (が) ええ (よい) し。朝、起きて来て ぶつとしとる (している) にげや (人間は) アサキゲンな (が) わり (悪い) 言うて。

あさくらがりうちから 早朝から [会話] アサクラガリウチカラ、よさり (夜) のくらがり迄、働いて言うて

な。くらがりから くらがり迄 働いて言うて。よ (夜) な (が) 明けん (ぬ) うちから (間) 日な (が) 暮れる迄、働いて 言う事。

あさくらがりから 早朝から (北)

あざける (嘲) 【他ラ五】 馬鹿にして、悪く言ったり、笑ったりする、嘲笑する、物笑いにする。(南) [会話] あざ笑いして言うてな アザケツテ (嘲どつて) 言うて、あの人 あざ笑いして わしら (私達) を あなどつとんね (見下しているのだ) 言うて。

あさごえ (浅肥) 【名詞】 土地の表面近くに施す肥料 浅い所にする施肥 [会話] アサゴエ 言うのは、肥な なあ (が) あつそおて (浅くて) そして それい (それに) 植えつけんね (るのです)。ふっこお (深く) 掘つといて (ておいて) こやし (肥料) やつて それい (へ) 植えると ええねけど (よいのだが)、こやし を あつそお (浅く) 埋めといて (ておいて) それい (に) すると 枯らしたる (てやる) 時な (が) あんの (有るのです)。アサゴエ ははざんね (駄目なのです)。ちよいと (少し) 削つといて (ておいて) こやし ふつて それい (それに) 植えつけると ねえ (根) な (が) こやしい 直接当たつてもんで (行くので) 枯れてくね (行くのです)。濃いのおを (のを) やつても 枯らしたる (てやる) 時も あんね (有るのです)。

あさごさえ、**あさごしらえ** (朝食) 【名詞】 朝食の用意、朝食を作る事 (上、阿) [会話] 朝食の用意すんの をな (するのを)、アサゴサエ言うて。

あさごぜん (朝御膳) 【名詞】 あさめし、朝食。ごぜん、御膳。食事、飯を丁寧に言う語。あさはん、朝飯。(松) [会話] 朝飯の事や (です) アサゴゼン言うのは、昔や (は) 朝飯言いおつたなあ (言っているのです)。

あさごと (朝毎) 【副詞】 毎朝 (志 (布施田)) [会話] アサゴツト 泣いてまあ 言うて。毎朝 言うのを、アサゴツト、まあ 猫な (が) 鳴いたり 鳥な (が) 鳴いたり すんのなあ (するのです)。アサゴツト、まあ あしこい (あすこへ) 来て うとたり (唱ったり) 鳴いたり 言うてなあ。朝ん (に) になると すわる (止まる) 鳥は 決まつとんねなあ (ているのです)。毎朝、言う事をなあ アサゴツト、あしこの (あすこの) きい (木) え 来て 止まって うととられ (鳴いている) 鶯な (が) 言うたりな。

あさしごと 【名詞】 朝食前の仕事 (南)

あさじぶん (朝時分) 【名詞】 早朝 朝 (北) [会話] ア

サジブンに来た 言うて。朝方ん (に) 来たとか、言うのな (です)。アサジブン迄かかって 言うて よお (よく) 言うけどな (言います)。

あさずみ【名詞】 木質の軟らかい木で焼いた炭 (北、南、熊) [会話] アサズミ 言うな あ (のは)、桜や (だ) とか、ししばや (だ) とか、あいな (あんな) 雑木で 焼くのを アサズミ 言うて。安いし、そして (そうして) じっきん (すぐに) たつてくの (のです)。ひい (火) の持ちな (が) わり (悪いのです)。

あさだち【朝立】 旅など早朝に出発すること

あさだれゆだれ【朝夕】【名詞】 朝、仕事にかかるのが遅く、夕方いつ迄も仕事をしている事 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗)) [会話] 仕事でも、はよ (早く)、おきやええのん (終えればよいのに)、いつまでしとると (していると)、あの家や (は) アサダレユダレでまあ言うて。朝おっそおて (遅くて)、よさり (夜) いつまでしとると (していると)、あの家や (は) 朝おっそおておて (遅くて居て)、よさや (夜は) いつまで見切り (決断) なつかんで (つかなくて)、いつまでしとて (して) いて、アサダレユダレで言うて 嫌うんなあ (嫌うのです)。アサダレユダレ、朝はよおして (早くして)、よさや はよおくとええんけど (早く終わるとよいのだが)、朝出てくよおん (出て行くように) になると、いつまで家でまいまいと昼前まで、まいまいして、夕方、日な (が) 暮れても、人ら入り込んでくんのん (終わって帰って来るのに)、仕事しこつとる (夢中になっている) 家な (が) あるわい (あります)。あやまあ (あれば) アサダレユダレで言うて。

あさぢゃ【朝茶】【名詞】 朝食前の軽い食事。起きてすぐ食べる軽食。(志 (浜島、越賀)、度、南) [会話] あさぢゃ 言うよおな もんやわい (ものです)。あさぢゃちと アサぢゃとは よお (よく) 似たよおなもんやわい。朝起きて 仕事い (に) かかるまでん (に) のおだり (飲んだり) 食うたり すんねよってんなあ。(するのだから)

あさづけ【浅漬け】【名詞】 野菜を短時日、糠や塩で漬けること。またその物。当座漬け。一夜漬け。薄く塩に漬くる意 (大言海) (桑市、員、鈴市、安、多、松、上、阿、名、尾、南) [会話] 塩で揉んどいて (で) おいて 宵に漬けといて (て) おいて、一夜漬けを、アサヅけや (だ)。宵に揉んどいて 朝食べる のを アサヅけ。

あさって【明後日】【名詞】 1) あさての変化した語。あさての急呼。明日の次の日。2) 見当違いの方角。あさって向く。話しを取り合わない。横を向く。(志 (神

明、立神、志島)、員、鈴郡、津、松、張、上、阿、名、伊、鳥、北、南) [会話] 1) あした、アサツテ、ささって 言うて あしたの次のひい (日)。

あさつぱち。あさつぱら【朝腹】【名詞】 早朝。朝早くから。朝腹の変化した語、促音化。朝食前の空腹の意から あさつぱち (志 (鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗、浜島)) [会話] 朝、早よ (早く) から言うやんかい (言います)。アサツパチから言うにげ (人間) も ありや (あれば)、アサツパチから言う人もおるなあ (います)。おなじ (同じ) 意味やけど (だけれど) 朝はよから (早くから)、アサツパチから来て、喋って言うやんかい (言います)。

あさて【明後日】【名詞】 明日の次の日。あさって参照 (志 (国府 志島 御座)) [会話] あさって 言う人と、アサテ 言う人も有るなあ (有ります)。あさって言わんと (言わずに) あした、アサテ 言うてなあ。

あざとい【形容詞】 1) 深い考えがない。あさはかである。(員、鈴市、津、度) 2) 押しが強い。3) 狡猾だ (一) [会話] 3) あくどい 言うのんなあ (言います) アザトイ言うのを。あの人、あくどおて 言うて、わり (悪い) 事ばつか (ばかり) する人なあ (です)。おなご (女) も無理やりしたり、人のもん (物) 無理やりん (に) 取ったり、そして 人だましたり する人を あくどい、あくどして (しくて) まあ だます事ばつか (ばかり) 考えとんね (ているのだ) よってなあ (から)。

あさなあさな【朝朝】【副詞】 毎朝、朝毎にアサノマアサノマ (朝間朝間) の約、夜な夜なと言うも同じ。(大言海)

あさなゆうな【あさなゆふな】【朝夕】【副詞】 毎朝毎晩 常時

あざになる 皮下出血する。あざ (痣) 参照 (鈴、北) [会話] やけずり (火傷) を そんなり (そのまま) ほっとくと (放っておくと)、ひきつりん (に) なつたり、アザン (に) ナツタリすんど (するぞ) 言うてな。くろろお (黒く)、治つた後な (が) なんのな (なるのが) 有るやんかい (有ります)。あいなのなあ (あんなのを) アザンナツテまあ 言うて。そんげん (そんなに)、きつう (強く) 打つたら、アザンナンド (なるぞ) 言うて、うるくさな 入るのも (出来るのも) アザニナル 言うて。昔や (は) あつ灰を ちよいと (少し) ぬくみな (温味が) あんのを (有るのを) 紺のきれ い つつどいて (包んで) おいて 当てると うるくさな (皮下出血が) 取れる言うて、そげん (そ

んなに) しよおった (して居ました)。紺のきれい (布へ) 灰のちよいと ぬくみなあんのを つつで (包んで) 当てると うるくさな (が) 取れてきおった (取れて行きました)。

あさねこき【名詞】 朝遅くまで寝ている人。朝寝坊。(志(畔名、甲賀、神明、志島、国府)、鳥、(国崎)、上、阿、名、伊) [会話] よいまだおしの、アサネコキ言うて。よさりも (夜も) はよ (早く) 寝るくせん (のに)、朝もよお起きんのおを (起きないのを) よいまだおしの、アサネコキで、どいらい (大変)、わり (悪い) 癖やなあ (です)。

あさねこく いつまでも寝ている 朝寝する (志(神明、立神、志島、国府)、上、阿) [会話] 朝 いつ迄 寝とると (ていると)、アサネコクよって (から) 言うて。

あさのうち【名詞】 午前中 (北) [会話] アサノウチ言うな (のは)、アサノウチん (に) はよ (早く) 仕事したろや (してやりましょう)。アサノウチん 涼し (涼しい) うちん、仕事せな (しなければ) 言うてな。朝、夏の頃なら、涼しもんで (涼しいので) アサノウチん はよ ちゃつと (早く) して せな はざんわ れ (駄目だ)、はよ 起きよまあ (起きなさい) 言うて午前中なあ (です)。

あさのごや【名詞】 朝の暗い内、朝のぼや、朝っぱら。ごや、五夜、一夜を五つに分けて、甲夜 (一更) 乙夜 (二更) 丙夜 (三更) 丁夜 (四更) 戊夜 (五更) を一まとめに言う。また戊夜の事も有る。後夜、朝六時、夜を三分した最後の時間。現在の二時から六時迄。(志(布施田、志島)) [会話] アサノゴヤ言うのは、朝早いこと。朝っぱちから、言うのもよお (よく) 似たよおなもんやなあ (ものです)。アサノゴヤから来て、まあ (もう) 言うて。朝 早いと、よお言うやんかい (よく言います)。アサノゴヤも一緒に意味やわい (です)。朝 早い事や (です)。

あさのぼや。あさのぼや【名詞】 早朝、朝の暗いうちあさのごや参照

アサハルト【名詞】 アスハルト

あさはん (朝飯)【名詞】 朝の食事 (桑市、鈴市、安、松、多、上、阿、張、名、熊) [会話] 朝の御飯。あさめし言うの (のを) アサハンや (です)。あさめしも アサハンも一緒に事や。

あさばん (朝番)【名詞】 朝の当番 朝の間 又 朝早く勤務につく事 その人 [用例] 今日は アサバンで早や出 せなはざん (しなければいけない)。

あさばん (朝晩)【名詞】 朝夕 いつも (上、阿) [会話]

アサバン 言うな 朝とよさり (夜)、アサバン かよ て (通って) まあ 言うてな。

あさぶち (朝物)【名詞】 あさぶち。漁師が浜に出る前、家で食べる軽い朝食。前夜の残り物です。あさぶち [会話] アサボチ言うて、じよおし (漁師) の人ら、アサボチ炊いとかな (ておかなければ) はざん (いけない) 言いおった (言っていました)。アサボチをアサボチ言う人もあんね (有るのです)。アサボチな (が)、のおて (無くて) 言うて、飯持って 沖行く迄、飯炊く迄、アサボチ食う言うて、朝飯迄に ちよいと 食い おったんなあ (少し食べて居ました)。アサボチ言うのは、朝起きてすぐ食べて、そして又 今度 仕事に出 て く (出て行く) 時、朝飯食う時も有ったなあ (ありました)。アサボチ言うのは、晩 にして (晩に炊いて)、あくる日の朝、朝飯炊く迄にそれ食うて、炊いたのおは (のは)、弁当に持って行くの (のです)。アサボチ食や (食べれば)、そんな (それが) 朝飯やんかい (です)。

あさぶら【名詞】 あさぶら。あさぶら。あさうらざうり麻裏草履ふじくらざうりの底に粗なる麻糸の組緒を縫いつけたもの。現在は緒の代りに皮をつける。下略してあさうら、訛ってあさぶら (大言海)。(志(浜島、片田、甲賀、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南) [会話] アサブラ言うと、はきもん (履物) で、アサブラ言うのがありよって (あつて)、せきだ (雪駄) の事。アサブラ言うんやんない (言うのでしょうか)。アサブラ履いて言うて。昔や (昔は) チャラチャラと金がついて。あや (あれは) せぎ言うね (言うのです)。せきだ、あれもだ、アサブラや (と) 言いおったやんか (いつて居たではありませんか)。

あさぼしよぼし (朝星、夜星)【俚諺】 夜明けから夕方暗く迄 朝早くから夕方遅く迄働く事 (北)

あさぼち【名詞】 朝食前の軽い食事。あさぶち参照

あさぼば【名詞】 朝の性交 (志(布施田))

あさまし (浅)【形容詞】 情けない。語末の母音いのがなくなった状態 [会話] アサマシ言う事は、わろべし (子供のようだ)。アサマシ事言うて、言うて、わろて (笑って) 来るよおな事言うと、あいな (あんな) アサマシ事言うて。人間が、あさやかんななあ (馬鹿なのだ) 言うやんかい (言います)。わろべし言うな (のは)、大人でおって (ありながら)、子供みたいな (のような) 事言う、わろべ (童) みたいな 事言う、言うんやろなあ (言うのでしょうか)。子供の事、わろべ

(童子) 言うやんかい。

あさまずみ。あさまずめ【名詞】 あさなぎ。朝凧。朝方の最も漁獲のある時刻 (志 (国府、布施田)、鳥 (相差)、鈴) [会話] アサマズミ、ゆうまずみ言うて、漁師の事言わせんのかい (言いませんか)。ゆうまずめや、かいまずみや言うて。かいまずみ言うのは、夕暮れの事をかいますみ言うて。

あさまら【名詞】 朝の陰茎の勃起 (志 (布施田)) [用例] アサマラ立たんは男の恥

あさみ (浅)【名詞】 形容詞あさいの語幹にみのついたもの。海や川の浅い所。(桑市、南) [会話] アサミかづきや (だ) 言うて、あっさい (浅い) とこ (所) ばつ (ばかり) かついとるとなあ (潜っていると)、あや (彼女は) アサミかづきで、まあ 言うてな。アサミ、言うて、あっさいとこ、あや (彼女は) くだめ (流貝子) とんな (とるのは) 上手なけど (だが)、アサミカヅキやてや (だ) 言うて。

あさみかづき (浅潜)【名詞】 浅い所で漁をする海女。あさりかづき参照 [会話] あっさいとこ (浅い所) するもな (者は)、アサミカヅキ。ふっかいとこ (ふっかい所) 行くもな、ふかりかづきや (だ) 言うて。

あさめし (朝飯)【名詞】 朝の食事、あさはん (志、桑市、員、多、上、阿、名) [会話] アサメシも、あさはんも一緒に事や (です)。朝の御飯。

あさめしまえ (あさめしまへ) (朝飯前)【名詞】【形容詞】 朝食を食べる前。きわめて簡単なこと。非常に容易なこと。[会話] アサメシマエ言うのは、朝食食う前、朝早い時を言うの。そやけど (それだけれど)、そいなこた (そんな事は) アサメシマエやれ (だ) 仕事をちよこちよこつしたる (してやる) 言う事を、アサメシマエや、てやら言うて (とか、言って)。簡単に。朝食食わんうちん (食べない間に)、そいなものはしたる言う事やろなあ (でしょう)。

あさもよさも 朝も晩も。毎日毎晩。終日。[用例] あのかあ (子は) アサモヨサモ 泣いとんね (て居るのだ)。

あさやか【形容詞】 馬鹿。あさはかの転か [会話] あさはかな事、言うて おおた あの人、あさはかな人やわなあ (だ) 言うて。落ちつきも無いし なんでも無い事 ごおわかしたり (腹立てたり) 怒ったりする人なあ (です)。あの人 あさはかな おなご (女) みたよん (のように) あんだけ (あれだけ) の事怒ったり 言うてなあ すんの (するのを) アサヤカな 人やなあ (だ) 言うて。

あさやか (鮮)【形容詞】 鮮やか

あさやみ (朝闇)【名詞】 満月以降の月が朝方に出る闇夜。朝の日の出前の闇。[会話] 月の出とらん (出てない) 時は暗闇で、宵のうちや (あいだは) 宵闇言うし、二日やとか (だとか)、三日のおや (時は) 宵闇や (と) 言うて。満月十五日迄は宵闇や (だ) 言うて。アサヤミ言うな (のは)、夜明けに月な (が) 出て来んのなあ (来るのです)。

あさよさ (朝夜)【名詞】 朝と夜。いつも あさばんに同じ [会話] 朝と晩、あさばん言う事をなあ、アサヨサ まあ 決まって、まあつて (廻つて) くんね (来るのだ) ひとくらあつ (一度ずつ) 言うて。アサヨサ、佛さんえ せんこ (線香) 焚くな (のは) おんな (俺の) 役やれ (だ) 言うて。朝とよさり (夜) は せんこ 焚くのん (に) 婆らな (の) 役 (役目) や (だ) 言うて する家も有るし、若いもんな (者が) アサヨサ せんこ 焚くな (のは) おんな 役や 言う人も有るし。

あさよなべ【名詞】 未明に起きて行う作業 [会話] 朝はよ (早く) 起きてすると、アサヨナベ、よさり (夜) いつ迄しとると (していると)、よなべ、アサヨナベに、皆 はよ (早く) 起きて 三時頃ん (に) なって、起きて 藁打つと、隣近所な (が) 喧しよつて (から)、なあのおたり (縄なったり)、じよおり (草履) 作ったり、アサヨナベしよおった (して居ました)。アサヨナベもなんたとせな (なにかしなければ) 言うて、早よ起きると、夜な (が) 明けて来る迄、時間な (が) 有るもんで (ので)、なんやらかやら仕事すんのなあ (するのです)。

あさり (浅処)【名詞】 浅い所 主に海について言われるふかり (深い) に対してアサ (浅) るを活用した語の名詞化。(大言海)

あざり【名詞】 鋸の目の大きさ [会話] がんど (鋸)、のこ (鋸) でも、おっきいのおは (大きいのは)、アザリな (が)、おっきい、めえな (目刃が)、たっかい (高い) のおと (のと)、ひっくい (低い) のおとあんなあ (有ります)。アザリ言うのは且 (刃) を、アザリ言うの (のです)。高っかいとか、低っくいとか言うて、アザリな (が) おっきいと、きい (木)、きんのだ (切るのに) ざらざらするし、アザリなこまかいの (小さいのは)、おがぐずな (が)、こまこお (小さく) なるやんない (でしょう)。

あさりかづき (浅潜)【名詞】 水深の浅いところで潜る海女。あさみかづき参照。あさり。浅り。漁り。かづき、

海中に潜って魚介をとること。(志) [会話] アサリカ
ヅキ言うのは、ふくだめやたら (流れ子とか) なんや
てやら (とか)。あさって言うと (漁って例えると)、
あさみかづきの事や (です)。浅見を潜る事を。稽古中
で、はまこ (浜子) したりする時のそれやろ (でしょ
う)。稽古すんのを (するのを)、はまこ。大島の浜へ
降ろして貰うんやんかい (貰うのです)。浜へ降ろして
もおて (もらって)、浅っさい (浅い) とこ (所) かづ
くんなあ (潜るのです)。はまこや (だ) 言うて。そし
て浅見をかづいとりおったやんかい (ていたで有りま
せんか)。アサリカヅキ。あさる言う事は昔の人らもぐ
らんと (潜らずに)、目鏡で顔かくして、あさりおった
やんない (ていたでしょう)。そやよって (だから) は
まこらは、あっさいとこしか (浅い所より) よお探ら
んよって (から)、はまこ、アサリカヅキ 言うんやろ
なあ (言うのでしょうか)。

あさる (漁る、求食) 【他ラ五】 1) 魚介類や海藻を探し
て採る、漁をする。餌を獲物を探し求める。探し図る。
して図る。2) 泥棒等が家の内を物色するような時にも
使用。(志 (鶴方)) [会話] 2) 家中、アサッて、
物さらえる言うんなあ (捜し出して持ち出す言うので
す)。なんもかも (すべて、なにもかも) アサッてまあ
言うて。

あざれとる 魚肉が古くなっている (志 (甲賀))

あざれる (鮫れる) 【自ラ下一】 魚肉が腐る。古くなる。

(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、志島、甲賀、国
府)) [会話] 魚な (が) アザレル、腐ってく 言う事
や (です)。はよ (早く) せな (しなければ) アザレテ
カレ (て行くぞ) 言うて。アザレテく (て行く) 言う
て 曲がってぐたぐたんなってくやんない (になっ
ていくでしょう)。あいなのおを (あんなのを)、アザレ
ル言うやんかい (言います)。

あざわらい (あざわらひ) (嘲笑) 【名詞】 軽蔑の気持ち
をこめて笑う事。せせら笑い。[会話] あ、しぐさ
見よまあ (動作見なさい) 言うて。ええ (よい) 時ん
(に) には使わせんなあ (使いません)。わり (悪い)
時ん (に) あの時ぐさ 見よまあ言うて。えせら笑い
するよおな、アザワライするよおな時ん (に)。

あざんなる 皮下出血する。あざになる参照

あし (脚) 【名詞】 堤防の下部 高いものの下部を示す
[会話] 崖なぞれて (がくずれて) 来た言うのも有る
し、なぞえ (斜めに) になつた (なつていった) と
か言う。はすかい (斜めに) になつとると (なつてい
ると) なぞえん (に) なつて来た言うて。そして ア

シヤ (だ) とも言うしなあ (言います)。土堤な、ぞれ
て (崩れて) 来ると、アシな (が) ぞれて来た言うて、
土堤のアシとつたらなはざんわれ (取ってやらなけれ
ばいけない) 言うて。アシ取つたら (てやったら)
土な (が) ぞれて (崩れて) くんど (来るぞ) 言うて。

あし (足) 【名詞】 不足 欠損 (北) [用例] そんげん
(そんなに) ねえまけたら (値引したら) アシな
(が) 出るわい (出ます)。

あじ (あぢ) (鯆) 【名詞】 魚 真鯆 アジ科の海魚、ア
ジの代表種。全長35cmに達す。体は長い紡垂形で
やや側扁する。背方は灰青色、腹方は銀白色、体側には
楯鱗と言う特有の隆起した鱗が鰓蓋の直後から尾柄
部迄連続して並ぶ。

あしあらい (足洗) 【名詞】 足洗い下駄、足を洗うこと
[会話] アシアライゲタ 言うて、外へ履いてかれやへ
ん (ていけない)、びたびた (薄く) ん (に) なつたの
をなあ アシアライゲタん (に) しよおやんかれ (し
ましよう) 言うて。人中へ履いてくと (て行く)と、お
おた アシアライゲタみたよなの (のよなのを) 履
いて来て言うて 笑われるもんで (ので)、そんで (そ
れで) わりい (悪く) なると、まあ アシアライゲタ
ん (に) したろや (してしまおう) 言うて。こおとな
(質素) 家や (は) それい じょおり 打ち付けてな
あ、じょおりげたや (だ) 言うて、下駄のびたびた
のおん (の)に じょおり 作って 打ち付けて履いと
りおつたなあ (て居ました)。じょおりげたや (だ) 言
うて。アシアライ言うのは 古いわりの (悪いのです)。
人中へ履いてかれやせんのをなあ (て行けないのを)
放つたんな (捨てるのは) 勿体ないし びたびた ん
(に) なつたのを 藁ですげといてなあ (鼻緒つけ
て) 畑から来ると 足洗うのん (に) アシアライゲタ
もて (持って) 来てくれまあ言うて。そして 履くと
庭い (へ) せんと (入れずに) 軒い (へ) 立てかけて
なあ しよおつたわい (して居ました)。そすとまあ
うつすう (薄く) なつてて (なつていって) 割れてき
おつたやんかい (て行ったのです)。しもいそ (熊野方
面) 行くとなあ アシアライゲタな (が) 浜い (へ)
行くとなあ 浜い (に) 寄つとんね (寄って居るので
す)、よせ (波打ち際) に、そすと (すると) その下駄、
拾るて (拾って) 来てなあ はなわ (鼻緒) すげてな
あ 磯から来て、足あるてなあ (洗って) いんのん
(の)に やい 下駄 拾^ろて来たよお言うてなあ、
みんなな (皆が) 拾いん (に) いてなあ (行って)、波
な (が) うちあげて (打ち上げて) 来る、ないざ

(渚) へ行くと、よけ (沢山) 寄つとんね (ているの
です)。それ たきぎ (薪) 拾いん (に) 行くやんかい
(行きます)。そすと、そのたきぎ 拾う あいんなあ
(間に) 下駄な ええのな (よいのが) おっとるとな
あ (落ちてると) アシアライゲタ 拾ろて来たよお
(来ました) 言うて。

あしあらいげた (足洗下駄) 【名詞】 杉等で出来た粗末な
下駄 あしあらい参照 (鳥 (菅島))

あしあらいみず (あしあらいみづ) (足洗水) 【名詞】 葬
式から帰った時玄関前を出して有る盥に入れた水で手
足を洗う、その水を言う。(志)

あしあらう 改心する [用例] たいがい アシアラ
わな (なげれば) はざん (駄目だ)。

あしうつ 足運ぶ。通う。[会話] はっち飛んどる (蜂
飛んでいる)。はっちに刺された。わしらよお (私よ
く) 刺されて、お医者さんのとこい (所へ) アシウツ
タネ。

あしえ (あせ) 【名詞】 汗 (志、鳥 (国崎)、一、飯、度、
伊)

あじえ (あぜ) 【名詞】 言葉がもつれる事、又その人。

あじえ (あぜ) (畔) 【名詞】 田と田の境界 (志、鳥、鈴
市、安、一、飯、松、多、度、伊、北、尾、南)

あしえがえる (あせがえる) 沢山汗をかく [用例] 走
ったら アシエガエッテ アシエミズやよう (だ)。

あしえかき (あせかき) 【名詞】 汗をすぐ沢山かく人

あしえみず 【名詞】 汗水 (北)

あしかず (足数) 【名詞】 歩いて行く回数。訪問する回数
[会話] アシカズ運んで言うのかい (ですか)。何回も
足、運ばしてなあ 言うて、何回も来て貰うと いく
くらも (幾度も) 足かよわしてのお 言うて。アシカ
ズも運ばな 言うて、何回も行くと言うのを アシカズ
も 運ばな (なげれば) 話もまとまらせん (まとまら
ない) 言うて。

あしがはやい 腐りやすい、あしなはやい参照

あしくずす 正座して居るのをやめて、楽に座る 胡座
をかく。(上、阿、張、名) [会話] 膝くずす。正座せ
んと (せずに) よこむかいすん (横座りするのを)
アシクズス。

あしくせなわり 他人の履物でも平気で履いて行く (志
(布施田)) [用例] よけよると (多くの人が集まる
と) アシクセナワリ人な 有るやんかい (有ります)
人のもん (物) 平気で 履いてく人な (が)。

あしくび (足首) 【名詞】 足のくるぶしの上の少し細くな
ったところ (一、名)

あじけ (味気) 【名詞】 状態

あじけない 【形容詞】 1) 味が無い 2) 趣が無い

あしこ (彼処) 【代名詞】 他称。話し手、聞き手、両者か
ら離れた場所を指し示す。あすこ。かしこ。あしこと
同義のあすこは後に発生し共通語になったが、あしこ
は上方などに方言的なものとして残ったものと思われ
る。あしこんこし参照 (志 (磯部、布施田、浜島、立
神、志島、国府)、桑市、員、三、安、一、多、度、伊
鳥、上、張、名、北、尾、南、熊) [会話] あすこ言
うのを アシコ言うたりなあ。

あしごさえ。あしごしゃえ 【名詞】 歩きやすい様に準備
する事。足拵え。

あしこなと あすこでも [会話] アシコナト 行こか
(行きましようか) 言うて。アシコナト こおて (買
って) 家建てると ええんなあ (よいのだ) 言う時も
アシコナト言うて。あげな (あんな) とこなと (所で
も) 買うと ええねなあ 言うわい (言います)。アシ
コナト かおやんかれ (買いましよう) 言うてなあ。
納屋な (が) ほしなあ (欲しい) 言うと、なんも (全
く) 屋敷な (が) のおて (無くて) アシコな (あすこ
が) 空いとるやんか (ているでないか) てや (言えば)、
あげな とこ (所) でも 買おてなあ (買って) 言う
てなあ。気に入らんけど (ないが)、あまりええとこや
(よい所で) のおてもなあ (無くて)、無いと アシ
コナト 言うてなあ。あすこでも言うたりなあ あげ
なとこでも 言うたりなあ。

あしこのとこ 【代名詞】 あの場所 あの所 [会話] アシ
コノトコや (とか)、ここんとこん (に)、置いて有つ
たやんない (有ったでしょう)。

あしこら 【代名詞】 あすこら。あの辺り。(多、南) [会
話] アシコライ、いて (行つて) 見て来いまあ (来な
さい)、アシコらん (に) 有るか 判らせんわれ (判ら
ない) 言う時んなあ (に)、アシコラや (だ) 言うてな
あ。アシコらん (に) 無いかいなあ (無いだろうか)
言うたり、探しもん (物) する時んなあ (に)。

あしこらあたり。あしこらへん 【代名詞】 あの辺、あそ
こらの付近 (伊)

あしこんこし。あしこんとこ 【代名詞】 あそこの所 [会
話] あしこらあたい、あしこらへん、アシコントコ
同じや (です)。アシコントコ言うたら、アシコン
(に) 置いて有るやんない (でしょう)。アシコらん
(を) 見て見よまあ (見なさい)、あすこ 言わんと
(言わずに) アシコ。アシコ 見て見よまあ、アシコ
い (に) 置いたね (のだ) 言うて アシコい置いと

たのんなあ (ておいたのに) 言うて。

あしさき (足先) 【名詞】 足の先。つま先。少し前の所。
[会話] 足の先、頭の前から、アシサキまで 調べて、
几帳面やなあ (だ) 言うてなあ。じっばん (立派に)
しとる (している) 人 見るとなあ、あの人 きれん
しゃ (綺麗好き) やよって (だから) 見よまあ、頭の前から
アシノサキまで きちんと しとられ (して
いる) 言うてなあ。アシサキに有るやんか (でないか)、
言うて 近くに有る言う事。

あしずり (足摺) 【名詞】 足を地につけるようにして、じ
たんた踏んだり、前後に動かしたりすること。嗅いたり
怒ったりする時の動作を言う。(志) [会話] そいな
(そんな) 事したらはざん言うても (駄目だと言っ
ても)、いやや (だ) 言うて、甘えるよおん (ように) 言
うて、駄々こねて、じたんた踏んだり、アシズリした
り言うて、アシズリ言うな (のは) 尻つけて 足立て
て、前後ろに足を 右と左と別々ん (に) すべらすの
(のを)、アシズリして言うて。

あした (明日) 【名詞】 あす。翌日。次の日。(志、鈴市、
津、久、一、松、多、阿、伊、北、南) [会話] アシ
タ 言うて、明日、一晚越えたの (のを)、アシタ、ふ
た (二) 晩越えると、あさって、みい (三) 晩越える
と ささって。

あしだ (足駄) 【名詞】 歯のついた下駄、台は普通桐で歯
は樫等の堅い木を用いる

あしたあさって 【名詞】 明後日 (志 (片田)、鳥 (坂
手))

あしたあさって、そのあした 【名詞】 明後日 (鳥 (坂
手)) [会話] あした、あさって、ささって、ささって
言うねんなあ アシタアサツテソノアシタ言うな (の
は)。

あしだい (足代) 【名詞】 外出、通勤などの乗り物にかか
る費用。交通費。車代。[会話] アシダイも無かった
よお言うて なんも (少しも) とりえな無いとなあ
(収権が無いと) 物 貰らいん (に) いても (行って
も) 貰らわらつたり (なかつたり)、買われらつたりな
あ、かけ (借金) 取りん (に) いても くれらつたり
(呉れなかつたり)。おおた アシダイも無かったよお
遠いとこ (所) いたけど (行ったが) 言うてなあ、歩
き賃言うの (のです)。歩き代も無い言う事やわいなあ
(です)。アシダイも無い言うの。乗りもん (物) に
乗った時の運賃も アシダイや (です)。

あしたええ また、明日。別れる時の挨拶。[会話] ア
シタエエ。あした、言うたてて (言っても) あした用

事な (が) 有って 言うて、そいな (そんな) 時んな
あ (に)。別れる時ん (に) また、あした、言うのを
アシタエエ 言うて、また、あしたねえ (です) 言う
けど、アシタエエ 言う人も おんねやろなあ (居る
のでしょうか)。

あしたのよさ。あしたのよさり 【名詞】 明晩 明日の夜
(志) [会話] アシタノヨサもアシタノヨサリも同じ
事やけどな (です) よさ (夜) と夜と 同じ言葉やけ
どな (です)。

あしだす 不足を生じる

あしため 【名詞】 明日目、翌日 次の日 (志) [会話]
伊勢さんぐ (参宮)、昔や (昔は) 山田行くの (のに)
一日逗留せな (しなければ)、日帰りやつたらえらいわ
な (だったら大変です)。歩いて行くねもんで (のだから)。
ほいで (それで) 今日いといて (行っておいて)、
その晩泊って、アシタメ山田見物して、一日逗留して
帰る言うると三日かかる、伊勢参りすんのん (するのに)。

あして あんなにして あの様にして

あしとられる 1) 泥酔する 2) 躓く

あじない (味無い) 【形容詞】 食べ物や飲み物がまずい。
あじきない。まずい。小豆なしの転。味気は誤用。(志
(浜島、鶴方、甲賀、神明、安乗)、鳥、員、鈴市、安
久、一、飯、上、阿、張) [会話] うまない (旨くない)、
なんも (少しも) うまない 言うて、アジナイな
あ言うてなあ。味な (が) 無いなあ 言うの (のを)
おいしくない言うの、アジナイなあ 言うて。なあ
んも (少しも)、うまないわれ (旨くないです) こや
(これわ) 言うて、なあんも アジノオテ (無くて)
言うて、味付な (が) 下手なとなあ (だど) なあんも
味も しゃしゃらも無いわれ (です) 言うて。

あしなおぼたい。あしなおもたい 1) 疲れた 2) 気
が進まない。行きたくない。[会話] 1) アシナオボ
タイ 言うにげ (人間) も有るし、アシナオモタイ 言
う人もおる (居ます)。歩きのくうてなあ (にくくて)
アシナオモトオテ 言うやんかな (言います)。足な
(が) 腫れとる (ている) 時な (が) 有ってなあ、足
な (が) 腫れとて (ていて) どいらい (大変) アシナ
オボタイんよお (のです) 言うて 歩きのくい時。歩
き疲れた時も、アシナオモタイ言うしなあ (言います)。
よお (よく) 歩くかんもんで (歩けないので) 足な
オモトオテ まあ歩くかれやへんわ (ません) 言うて
疲れた時んなあ (に)。2) アシナオモタイ言うて 不
義理しとる (している) とか、嫌な (だ) 言う時に、
お前、あしこい (あすこへ) いて (行って) 来い言う

と、アシナオボタイよ 言うて、行きたない (たくな
い) もんで (ので) あしこい 行くな (のは) アシナ
オモイナア言うて。あの家や (は) しきな (敷居が)
たっこおて (高くて) 足な重いよお 行くのん (に)
言うて、行きたねえ (行きたくない) 言う事。あの家
行くのん (に) まあ 気づつないなあ (心苦しい) お
もたいなあ 言うてなあ。

あしなか (足半) 【名詞】 草履の前鼻緒が普通でなく、角
の出たもの (伊藤氏) 足の裏半分位迄の長さで踵の部
分のない草履 (大辞林) あしなかじょおり参照 (志
鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、安、
松、多、上、阿、伊、鳥、北)

**あしなかじょおり (あしなかざうり) (足半草履) 【名
詞】** 前鼻緒が長く足の甲の半ばまで来ている草履 (老
人の語) あしなかに同じ [会話] アシナカ言うのは、
じょおりなあ (草履です)。昔や (昔は)、てんでんじ
よおり (葬式草履) 言うて、死んだおりん (時に) 履
くので、さいわら (打ってない藁) で、死んでくと
(いくと)、すぐん (すぐに) じょおり 作りおったの
(作って居たのです)。そして、ひつつめといで (引っ
張っておいて) すげんと (すげずに)、玉結びにして、
さきばなおな (前鼻緒が)、なんごおて (長くて)、足
の真ん中へ来るもんで (ので) アシナカ。昔や (は)
死んでくと (いくと) 三人、よったり (四人) で じ
よおり 作る。さあ死人な (が) 有る言うと、じよお
り作りおったなあ (居ました)。わしら (私達) それ拾
いんいて (に) 行って、島 (海の岩礁) 歩くのん (の
に) 墓でひろて (拾って) 来て、磯桶へ入れといて
(ておいて)、島 渡んのん (るのに) 履きおった (居
ました)。いざれな (が)、しやせんねてわい (しない
そうです)。てんでんじよおり 履くと。

あじなぐち 【名詞】 物を食べるのに如何にもまずそうに
して食べる事 あげなぐち

あしなはい 1) 腐りやすい。2) 歩くのが早い
3) 物の速度が早い (台風、船、車) 4) 商品の売れ
行きが早い [会話] 2) 歩くのん (に) 足の早いいげ
な (人間が) 有るなあ (有ります) アシナハイ言う
て。よちよな (下肢が) なんが長い (長い) よつてなあ
から 歩くのな (が) 早いの (のです) その人ら。
1) 腐りな (が) 早い言うのも、アシナハイ言うて、
3) そして 時化でも すうっと 行くと 此の時化、
アシ (ナ) ハヨオテ (早くて) 早よ あつちやい (あ
ちらへ) いたて (行ってしまつて) よかつたなあ言う
時な (が) あんなあ (有ります)。4) しなもん (品

物) でも よお 売れるとなあ アシナハヨオテ (早
くて)、よお (よく) 売れたなあ言うて。

あしなひろわれん 歩けない [用例] 靴な (が) おつき
いて (大きくて) アシナヒロワレン。

あしならし (足馴) 【名詞】 1) 遠出に備えて足を訓練す
る。足の調子を整える。2) 新しい履物を履いて、行
く前に足になじます事。[会話] 1) アシナラシん
(に) そこら 歩いてこおか (来ようか) 言うて、遠
足い行かんならん (へ) 行かぬばならない よつて (か
ら) アシナラシしよおか (しようか) 言うて。

あじのうらがやし 【名詞】 鯨の身を皮を取らず、皮の方
をを飯の上に乗せて食べる事 [会話] 鯨な (が)、ぜ
めな有るもんで (有るので) それを、表にすると舌い
(へ) かかるもんで (ので)、ウラガヤシ言うて、ぜめ
のほおを飯にして、そすと最後、舌え当たらせんやん
ない (当たらないでしょう)。そんなり食われんの (そ
のまま食べられるのです)。アジウラガヤシして、食
べよおった (食べて居ました)。

あしのうらのめつっぽ (足裏飯粒) 【俚諺】 1) なかなか
離れない 2) 離婚しない 3) 年上の妻 [会話]
1) アシノウラノメツツボあ (は) なかなか 取れやへ
んやんかい (ません)。そやよつてんなあ (それだか
ら) めつたん (絶対) 離れやせん (ない) 言う事やわ
い (です)。2) ま 離婚しやへん (しない) 言う意味
やわい (です)。3) めつっぽと おいによおぼ (古い
女房) はな 踏んでも 離れん 言うてな、そやよつ
て (だから) 一つ年上は ええねど (よいのだ) 言う
やんかい (言います)。

あしのごお (あしのこう) (足甲) 【名詞】 足の甲、足背
(桑市、津、上、阿) [会話] アシノコオ。死んでく
(で)いく よんなんと (ようになると) アシノコオな
(が) 腫れて来て 言うやんかい (言います)。ちいな
(血が) 通わせん (ない) 言うてな。

あしのごんぶ (蹠) 【名詞】 1) 足首の所にある、内外両
側の突起。内、外蹠。くるぶし。(志 (船越)) 2) 座
りたこ (志) [会話] 2) すわりごんぶ アシノコンブ
言うやんかい (言います)。

あじのせごし 【名詞】 鯨を背開きにしたもの [会話] ア
ジノセゴシ 言うな (のは) 背開きを 言うんかい
(言うのですか)。せ (背) から 開くのを 背開き
腹から 割ると (開くと) 腹開き。

あじのたたき 【名詞】 鯨を骨ごと包丁で叩き潰し、ミン
チ状にしたもの。味噌、塩で味付けし、薬味として大
葉、生姜等と一緒に叩き混ぜたもの。(度、北、熊)

あしのたてばもない 1) 乱雑に散らかって足のやり場が無い 2) 多人数で混雑している [用例] 2) 人な(が) よけおって (沢山居て) アシノタテバモナイ。

あしのとも【名詞】 かがと 踵 (志 (浜島、布施田、甲賀、神明、立神、安乗)、度、北、尾、南) [会話] かがとの事をなあ、アシノトモや(だ) 言うて。アシノトモ あかぎれな(が) 切れて 言うて。ばんばんと大口あきおったのなあ (開いて居たのです) 痛いなのんの 言うたらなあ。足袋もろくに 履かせんし (ないし) あぶらもんも (油物も) 食わせんし (食べないし)、そしといておって (それでいて) 土仕事 ばっか (ばかり) するしなあ、そやもんで (それで) あかぎれの どいらいのおな (大きなのが) 切れると いと おてなあ (痛くて)。そすとなあ (すると) 山いて (行って) こおぶしやらみたいな (のような) ねえ (根) の あんの (有るのを) とてきて (取って来て) それを こそげといて (削って) 貼っついて (ておいて) あかぎれの口い (へ) こめんね (詰めるのです) それを、そして 紙貼つとくと (ておくと) 朝ん (に) になると ひっついとて (ていて) ええねけど (よいのだが)、まあ その 痛いなのなあ (のが) 踵き立 (てて) 足の先で歩いてしよおった (して居ました)。

あしのばす(足伸ばす) 1) 楽に座る 2) ゆっくり寝る 3) 目的以外更に遠くへ行く、ついでにより道をする。[会話] 2) あんな (彼が) おとしのおで (怖いので) アシノバシテ 寝やれやせんわれ (寝ることが出来ない) 言う時な(が) 有りよおった (有りました)。おちおち 寝やれやせん (ない) 言うのなあ (です)。鉄火きって来たり なんやかや (いろいろ) する人な(が) おると (居ると)、あの人な(が) おとして (怖くて) よさり (夜) も アシノバシテ よお寝やんよ おななあ (眠れないようだ)。3) あしこい迄 アシノバソ (そう) 言うて、わしげ (私の家) 迄 アシノバシテ 来てくれるかい (くれますか) 言うて、来てくれ (来て下さい) 言うのをなあ。遠いけど(が) アシノバシテ わしげも 来てくれるかい 言うて。1) アシノバシテ 楽んせんかい (にしなさい) 言うて、楽ん (に) になって むこてくれまあえ (座って下さい) 言う時も 有るしなあ。

あしのひら【名詞】 足の裏。足跡。(志、南) [会話] アシノヒラな(が) かいわれ (痒いです) 言うて。昔や(は) 畑 裸足で行くもんで (ので) こえかぶれ (肥料による皮膚炎) して アシノヒラな(が) かゝりて なあ (痒くて) むしくりおったんよお (居ました)。裸

足で畑も とび歩くもんでなあ (ので) こえかぶれ (で) アシノヒラ かぶれて 言うてなあ。畑い (へ) 行くとなあ 草履ばな (を) のんどいて (脱いでおいて) 裸足で仕事すんねやんかい (するのです)。草履、土な(が) 付いて来ると おもとおて (重くて) するもんで (するのです) 裸足ですんねやんかい。そすと 竹とて (取って) 来て、もおで 付けると なおんど (治るぞ) 言うて、もおで つけたりしおったやんかい (して居たで有りませんか)。竹はそれ ひりひりするやんない (でしょう) そすと (すると) かいの (痒いのを) 忘れるもんで (ので) 竹もおで (揉んで) 付けとけ (ておけ) 言うて 足の裏をなあ アシノヒラ言うの。

あしのむくほお 気の向くままに。行方を定めずに出て行く事を言う。足の向くまま [会話] アシノムクホオ 言うの 足の向くまま、気の向くまま 言うて。何処い (へ) でも おもわく (計画) 立てんと (立てずに) 行くと、何処い (へ) 行くんどうい (行くのですか) 言うて、ま 何処言うたてて (言っても) 足の向くまま 気のむくまま やわい (です) 言うて 言う時な 有るやんかい (有ります)。何処い (へ) 行く当ても 無いのん (のに) 歩るいとんのなあ (ているのです)。ぶらんぶらんと 放浪しとんね (しているのです)。何処とも 方角判らず なあ、こおいて 見よか ああ いて (行って) 見よか (見よか) 言うて。嫁姑の事なら 姑にむつかし (嫌な) 事言われて 親元いも (へも) 行こてて (行こうおもっても) 行かれやへんし (行けないし) そこらぶらぶらしとるのを (しているのを)。

あじのわたほどけ 細い事の形容詞。鯨の腸の細い事から [会話] 鯨のわた (腸) ほっそいやんない (細いでしょう)。道な(が) ほっそいもんで (細いので) おた アジノワタホドケ (程) より無い道やなあ (だ) 言うて。道な(が) ほんどん (本当に) アジノワタホドキより 無いね (無いのです)。足なふたあつ (両足が) 揃ろわせんのなあ (ないので) たがいちがい (交互に) 行かな (なければ) そいな (そんなに) ほっそい (細い) 道。

あしば(足場)【名詞】 土木工事、建築作業などを行うため働きやすい様に周囲にめぐらす丸太、板を組み合わせた場所 (名、北)

あしはこぶ(足運ぶ) 1) 訪問する 2) 歩く [会話] 1) いくくらも (幾度も) アシハコバシてのお 言うて 何回も行く事をなあ。来てもおてのお (もらって) 言

うのを アシハコバシてなあ 言うてなあ。訪問するとか 頼み事しにいくとかなあ いくくらも アシハコバシ (なければ) かなわせんわれ (かなわない) 言うて、金 借りん (に) いくとか 嫁もらいん (に) 行くとかなあ。

あしひろう 1) 歩く 2) 揚げ足をとる [用例] 2) 人の言う事一つ一つアシヒロて。すかん人や (だ)。

あしまあり (足回) 【名詞】 1) 立って居る足の周辺 [用例] アシマアリも えごつと (充分に) きいつけよお (気をつけなさい)。2) 舟、車などの速度

あしまかせ (足任) 【名詞】 1) 行方を定めずに出歩く事。あしのむくほおに同じ 2) 自分の足の能力に応じて歩く事。

あしまめ 【名詞】 【形容詞】 面倒がらずに気軽に散歩すること、またそのような人、状態を言う。まめ。忠実。まじめによく働く事。面倒がらずによく働くこと、またその状態。誠実であること、またその状態。体が丈夫であること、またその状態。実際に役立つこと。[会話] どっこい (何処へ) でも 歩いとる (ている) 人を アシマメな 人やなあ (だ) 言うて、てえよけ (手沢山) 仕事すると てまめな 人やなあ 言うし。あのひた (人は) どっこいでも 歩いとんなあ (ている) アシマメななあ (だ) 言うて、幾らでも 何処い (へ) でも よお 行くとなあ アシマメに よお通うのお (通います) 言うて。

あじみ (味見) 【名詞】 1) 飲食物の味を見るため少量を口に入れて見ること 2) つまみぐい (南) [会話] 1) アジミ 言うな、ちよいと 最初に 美味しいか 美味しくないかを アジミ。2) しよずみぐい (つまみ食い) する。

あじめし (味飯) 【名詞】 五目飯、炊き込み御飯、加薬飯 (志 (磯部、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鈴市、亀、安、津、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊) [会話] アジメシ 言うと 五目飯の事をなあ。味付けて有るもんでなあ (ので) アジメシ 炊いて 言うてなあ。

あじも 【名詞】 甘藷 ヒルムシロ科の海水生の多年草。茎は扁平で淡緑色。根茎は横に長くはい、節からひげ根を出す。葉は長さ50~100cm、幅1cmほどの線形で縦脈がある。初夏、さや状の総包の中で淡黄色の小さい花が咲く。幼茎、根茎に甘味が有るので、この名が有る (志 (立神、鶴方、国府))

あじもしやしやらない 【形容詞】 1) そっけない、とりつくしまもない、愛想がない (志 (布施田)、南)

2) 不味い あじもしやしやらない 味より転じて阿字も砂舎利も無いと言う。阿字 (梵語の第一字音) 密教で阿字は万物の根源であり不生不滅の原理を象徴的に表現するとされる。(広辞苑) 舍利。死骸を火葬にした時に残った骨。シャシャリ (日本国語大辞典) 名詞 さりりとして粘り気の無いこと。多く 味もシャシャリもないなどの形で用いて少しも味わいも無い意に用いる。(上、阿) [会話] 2) 美味しくない言う事な (です) なんもな (全く) こや アジモシャシャラモネエヤンカア (無いでないか) 言う。なんも (全く) おいしない (美味しくない) 言う事や (です)。1) 人と話し しとたら (していたら) あの人 アジモシャシャラモナイ 面白をもなけな (くも無ければ) なんも 感心するよおな事も無いと アジモシャシャラモナイ様な話して 言うて あいそな (愛想が) 無いのの (のを) 通り越したのやなあ (です) アジモシャシャラモナイ言うな (のは)。

あしもと (足許) 【名詞】 1) 道中、歩く道、足の回り。その人のごく身近の所 2) 履き物 (志、阿、張、名) [会話] 1) アシモト言うたら (言ったら) 足とこや (所です)。アシモトえごつとみやんと (充分見なければ) 言うて、アシモトみやな (見なければ) 危いどお (ぞ)、言うやんかい (言います)。歩いとる (ている) 時ん (に) アシモト見やな。そや (それは) 下見やな、危ない言う事や (です)。危いもんな (物が) 有るよつて (から)、アシモト見よ言うて。アシモト言うのは歩いてく (て行く) 時に、たかびくな (高低が) 有るとか凸凹な (が) 有るよつて (から) 危いよつて アシモト見よ、言う時のアシモトやなあ (です)。

あしもとにもおよばん 及ばない、かなわない [会話] アシモトニモオヨバン言うて。あの人 えろおて (偉くて) わしら (私は) アシモトニモオヨバン言うて、偉い人の事を言うの (のです)。おら (俺は) あの人のアシモトイモ 行かせんわれ (行かない)。

あしもとみる 弱身につけこむ [会話] アシモトミヤレタ (見られた) 言うて、わり事しとんのおを (悪い事しているのを)、考えられた (見破られた) 言う意味 やろなあ (でしょう)。アシモトミヤレタ 言うんよつて (言うのだから)。そんで (それで) つけこまれる事 やなあ (です)。

あじよる 嘩す [会話] 鯆やとか、底でおるのを獲る時、錨打つといて (ておいて)、かぶせ (撒き餌) やつて魚を寄せて、アジョツテ、網の真ん中い (へ) 寄つて来た時分 (頃)、そら引け言うてあげんね (引き揚げるの)

です。

あしよわ (足弱) 【名詞】 歩行の遅い人、又すぐ疲れる人。老幼、女性などに使う。

あしらい (あしらひ) 【名詞】 1) 相手を待遇する事。客アシライ もてなし (員、上、阿) 2) 料理などの取合わせ。配合。刺身などのつま。(上、阿) [会話] 1) アシライな (が) よおて (よくて) 言うてな。あいな (愛想が) ええ (よい) 事なあ。なんも (なんにも) くええ (食べなさい)、かも くええ、これも 持てけ (持って行け)、あれも 持てけ 言うて、人をアシライのに 上手で 言うて、人扱うのな (が) 上手で 言うの。もてなしな (が) ええ (よい) 言う事をなあ。あしこ (あすこ) の家 行くと アシライな (が) よおて 心地な (が) ええよお (よろしい) 言うてなあ。男アシライのん (のに) 上手で 男よけ (沢山) する 言うて、後家やどけなら (などが) 男らな (が) 行くと まあ ちややほや すると、あしこい 行くと あしこのかか (嬢) もてなしな (が) よおて まあ 言うて 引っ張り込まれてくね (て行くのです)。

あしらう (あしらふ) 【他ワ五】 1) 応待する 接待する あしらい参照 2) 適当に接する 3) からかう

あじろ (網代) 【名詞】 1) 網漁業の漁場。転じて海山の獲物の多くとれ、人に知られない所。漁場。(志 (布施田、浜島)、北、尾) 2) よく釣れる所、釣り場 (志 (神明、志島、甲賀)) 3) 行きつけの釣りは [会話] 1) アジロ言うて、わがと (吾輩、自分) の場所や (です)。自分と (が) 得意の場所。鮎採んのん (採るのに) 島の下、採るやんない (でしょう)。そすとアジロや (だ) 言うて、じよおっく (いつも) そこ行くとおんねやんかい (いるのです)。そすと、そこアジロんしといて (にしておいて) そこ行きさいしゃ (行きさえすれば)、おんな (いるのは) 判つとるもんで (ているので)、アジロいてこお (行ってこよう) 言うて、行くん (行くのです)。他の人もよお (よく) 知つとりさいしゃ (知っておりさえすれば)、行かれるけれど (が)、人が知らんと (知らずに)、わがとだけやおもて (だ思つて)、わが (自分の) アジロん (に)、しとんね (しているのです)。行き当たりさいしゃ (当たれば) 採るわい (採ります)、人のアジロやてて (でも)。3) 漁師でもアジロな (な) あつて、山あわして (合わせて) 此処なアジロやおもて (だ思つて)、錨打つて、釣つとるけど (が)、錨揚げてきや (行けば)、他のもん (者が)、其処へ錨打つても、おんな (俺の) アジロや

よつて、つんな (だから釣るな) 言われやせん (言えませんが)。

あしろとく 1) 適当に交際しておく 2) からかう しておく

あすあさつて (明日、明後日) 【名詞】 翌々日。あした、あさつて参照 (志) [会話] あした あさつても 一緒やわなあ (です) アスアサツテ。

あずかつてもらふ 嫁を実家に帰す。離縁する。

あずかつてもらえ (あずかつてもらへ) 嫁に対して一時実家に帰って居なさいと言う時に使用する。離婚の時に言う言葉 [会話] 嫁んいて (に行つて) その家 (家の人が) 気に入らんと (入らないと)、お前 ひと ばか (少しの間) アズカツテモラエ 言うて。行くと (帰ると) あや (彼女は) 戻されて来たんてわい (来たそうだと) 言うて、返されたことも 言うし 戻されて来た言うて。

あずかりもん (あづかりもん) 【名詞】 預かつたもの

あずかる (あづかる) (預) 【他ラ五】 1) 子守する 育てる 子をアズカル 2) 引き受ける

あずきささげ (あづきささげ) 【名詞】 ささげの一種マメ科の一年草。ササゲの変種。茎は多くは直立し、豆果は若い時は上を向く。種子は小さく長楕円形。食用。[会話] ささげ、アズキササゲ 嫁なかし。婿だまし、言う ささげも 有るしのお (有ります)。しろささげに、くろささげ いろいろ あんね (有るのです) アズキササゲの事を よめなかし 言うの (のです)。よめなかし 言うのは よけ (沢山) なつて、ちつちよおて (小さくて) 旨ないんてや (旨くないのです)。そして もじくのん (もぐの) よけ (沢山) もじかん ならんもんで (もがねばならないので) 嫁な (が) 泣くねやんない (のでしょう)。よつて (沢山) なつて すずこなんねてや (鈴生りになるのです)、そやけど (しかし) 旨ないの (のです)。

あずきます (あづきます) 【名詞】 海魚 のみのくち あずきはた スズキ目ハタ科マハタ属。体は長楕円形で側偏する、口は大きく尾鰭後縁は円形、両眼間隔は平坦、体は赤茶褐色で朱色の円点が密に分布する。体の背側に3個の黒色斑が有る。(北、尾、松、伊) [会話] アズキマス 言うのは 小豆位の くろろい (黒い) 粒々な (が) あつかい (赤い) のおえ (の) あんの (有るのです)、うまいのなあ (です) あれわ。

あずきめし (あづきめし) (小豆飯) 【名詞】 赤飯。小豆の入った、赤色の御飯。祝事に用いる。(志、桑市、多、上、阿、度、北、南) [会話] アズキメシ 炊いて

いわおや(祝いましょう)。赤飯の事 アズキメシや(です)。今日は あのおおな(子が) おお(子) もおけたよって(生んだから) よろこび祝い アズキメシ炊いた 言うて。赤飯 言うな(のは) おこわやけど(だが)、あずき入れて。ふる(振りかける) 家も有るし、そんなり(そのまま) 炊っ込んだる(炊き込んでやる) 家も有るしなあ。アズキメシや(だ) 言うて おおかた(大体) 炊き込みおった(居ました)。小豆ちよっと(少し) 固い目ん(め) 炊いといて(ておいて)、ささげは 振り掛けるけど(が) ささげは あんまり(あまり) 黒いもんで(ので) ささげの 御飯にする と 振り掛ける。ささげ飯なあ(は) 不祝儀の時や(です)。祝いの時は アズキメシ。

あずける(あづける)【預】【他カ下ー】 1) 物を貸す。田畑を借りさせる。ある物を他人にまかせる 2) 任せる 面倒を見て貰う 3) 離縁する [会話] 3) 嫁もろても(貰っても) 気に入らんと(入らないと) アズケといて(ておいて) 来た 言うてなあ。実家いなあ(へ) ひとばか(少しの間) アズカッてくれ(下さい) 言うてなあ、要らん 言われやせんし(言われないので) ひとばか アズカッてクレエ(下さい) 言うてなあ。2) 銀行へ金アズケル、なんやかや(いろいろ) 物でも あんたげい(貴方の家に) アズカッてえ(て下さい) 言うて、ちよいと(少し) アズカッててえ(ていて下さい) 言うて、アズカッてもらいん(に) 行くのなあ(のです)。まあ わしげい(私の家に) アズカッてくわい(ておきます) 言うてなあ。1) たあ(田) や、畑 貸すのも アズケル。まあ よお作らんとなあ(作れないと) たあも アズケタタ(てやった) 言うてなあ。作って貰う事をなあ。畑も よお作らんで 皆 アズケタ 言うてなあ うわさくん(小作に) かける(出す) 言うてなあ。無い家や(は) うわさくづくり(小作) したんね(しているのだ) 言うて。作らして 貰うのを うわさくづくりや(だ) 言うて、そして うわさくん(に) 皆 かけたた(出してやった) 言うてなあ 作らしたる(てやる) 家やなあ(は) それを アズケたた(てしまった) 言うの(のです)。

あすこ(彼処)【代名詞】 話し手、聞き手から離れた所、あそこ(志、員、三、鈴郡、鈴市、一、多、張、伊、鳥、北) [会話] あそこ 言うのを アスコ言うね(言うのです)。アスコの 家ん(の) のおを(のを) 貸してもろとんね(貰っているのだ) 言うたりなあ。アスコの家で もろて来たね言うたりなあ。アスコや

(だ) 言うしなあ。

あすこら(彼処)【代名詞】 話し手、聞き手から離れた場所を示す。あそこら(多) [会話] アスコラ 言うの(のを)、あしこら 言うのなあ(のです)。あそこ 言うて 決めとなあ(決めずに) 其処ら辺を アスコラ 言うね(言うのです)。アスコラや(だ) 言うて その周辺をなあ。

あすだ(遊) 遊んだ、あそだ

あすだれ(遊) 1) 遊んでやれ、あそだれ 2) 遊んでしまった

あすばす(遊)【他サ五】 遊ばせる、あそばすの変化した語

あすぶ(遊)【自ハ五】 遊ぶ(志(浜島)、鳥、桑郡、桑市、員、三、鈴市、安、久、一、松、多、上、阿、張、名、伊、尾)

あすんだらせん 遊んでやらない、遊び相手としない [用例] あんたやどけ(貴女など) わり事(悪い事) するよって(から) アスンダラセン。

あぜ(畔)【名詞】 田と田の間に土を盛って堤を作り、水を貯め、また境とするもの(桑市、員、四、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、松、多、上、阿、名、度、伊、鳥、尾、南、熊) [会話] たあ(田) のアゼ、くる。たあ(田) の間のほそみちなあるやんな(細い道があるでしょう)。あれを、アゼ。畑はくる。

あぜ【名詞】 舌がもつれて言葉のはっきりしない人。あぜる参照。[会話] アゼコゼ。あやまあ(彼は) 舌な(が) 短こおて(短くて) アゼコゼや(だ) 言うてなあ。それを あや(彼は) アゼで 判らせんわれ(判らないです) 言うて、舌な(が) 短いな(のです)。

あせいれる 休憩する [用例] よお(よく) 働いて汗水や、一息しよおや(しましょう) アセイヨヤ(汗を入れましょう・休憩しましょう)。

あせがえる 沢山汗をかく [用例] ひなたで働いて暑つつうて、アセガエツタよう(強調の語)。

あせかき(汗掻)【名詞】 よく汗をかく人(志(布施田)) [会話] 汗よけ(沢山) かく人 アセカキ。波切のじぞさん(地藏さん) アセカキじぞさん。

あせかぶれ【名詞】 汗を多くかき、その後に出る湿疹状の皮膚炎 [会話] あせぼみたいんなって(あせものようになって) 来るわい(来ます)。きりもん(着物) の 汗かいたのを そんなり(そのまま) 着とるとなあ(着ていると)、アセカブレ すんど(するぞ) 言うてなあ。あせぼみたいん(あせものように) なって くん(の) (来るのです) アセカブレしてまあ 言

うて。

あせぎ【名詞】 稼ぎ。収入。(志(片田、甲賀、鶴方、安乗)) [会話] 稼ぐ事をアセギ。金アセギなわりいて(が悪くて)言うて、金 稼ぐ事をカネアセギ。金アセギな(が) のおて(無くて) まあ 言うてなあ、働くとこな(所が) 無いとなあ、アセギん(に) いとん ね(行っているのだ) おらぎや(俺の家は) とおさん な(夫が) 言うてなあ。稼ぐ言わんと(言わずに) アセグ 言うてなあ ぜんアセギや(だ) 言うて。

あせぐ【他ガ五】 稼ぐ(志(布施田、片田)、鳥(国崎)、度) [会話] アセグは、稼ぐ事。お金 稼ぐのを、アセグ言うの(のです)。

あせぐむ(発汗)【自マ五】 汗が出ようとする 少し汗をか くむは含むの約(大言海)

あせごしらえ【名詞】 畦を修理すること、あせぬり、あせつくる参照

あせこぜ 呂律が回らない。物を言うのがはつきりしない。(志(布施田)) [会話] アゼコゼやどお(だぞ) 言うて。なんやら(何か) まつのつたよおん(もつれたように) 言うにげなあ(人間です)、あや(彼は) アゼコゼやなあ(だ) 言うて。

あせじむ(汗染)【自マ五】 汗をかく 汗が出て衣服にしみる

あせじんどる 汗をかいて居る

あせする(汗)【自サ変】 努力する

あせつくる 田植え前に畦から水洩れがないように、又草が生えないように整えること。あせぬりに同じ。[会話] アゼツクル 言うのは、たあ(田) 植える様ん(に) なるとな、草な(が) 生えんよん(生えないように) 泥を 新し(新しい) のを、塗んのをなあ(塗るのを) あせごしらえ 言うて、畦塗る言うて。

あせつとる 舌がもつれて言語が不明瞭である。あせこぜ。ぜぜる。(志) [会話] 舌な(が) ぜぜつとる(ている) 言うて。アゼツトルと(ていると)、あせこぜで、もの言うな(のが) 判らん。呂律な(が) 回らんの(ないのを) ぜぜつとる 言うて、ものな判らせん(が判らない) 言うて、アゼツトルのも、ぜぜつとる 言うのも 一緒やなあ(です)。

あせとり(汗取り)【名詞】 直接肌につけて上衣に汗のしみるのを防ぐ肌着。シャツ。[会話] アセトリも きやんと(着ずに) すぐん(に) シャツ着て 言うてなあ。ダンニング(ランニング) 中へ きやんと、カッターシャツ それの下きんのをなあ(着るのを) アセトリ、汗を吸わすのん(の)に 肌着をアセトリや

(だ) 言うのなあ。

あせなぐち【名詞】 物を食べる時如何にも食べたく無い様な様子(志(布施田)) [用例] 腹一杯かして(と見えて) アゼナグチしとられ(して居る)。

あせぬり(畔塗)【名詞】 水田の畔へ泥を塗りつけ水洩を防ぐ作業。同時に雑草も生えない。(鈴市、安、上、阿、北、南) [会話] たあ(田) の畔ぬんの(塗るのです)。植えるよおん(に) なると、とこ(底)、こつといて(つついて) 泥をこつした後、ぎゅうぎゅうつめる。そして上をなでる。畔塗る言うのは 草な(が) 生えん(ぬ) よおに、たあな(田が) 稔るまで、たあうえすんのん(田植するの)に、ちやんと(きっちり)と 畔塗って 綺麗になって、草も生えやせんし(生えません)、水な(が)、すきのくいよおん(洩れにくいように)、穴も、足のともで(かかと)で ぎゅうぎゅう蹴つて。がにぼら(蟹穴)、穴な(が)、あいとらせんか(あいていないか)、穴なあいとると(があいていると)、草やなんかこめて(つめて) 水なすいてかんよおん(が洩れないように)。最初は草な生えとるやんかな(が生えています)。それをけつといて(抜いて)、ええ(よい) 泥つけといて、こんだ(今度は) 鍬で塗って。それをアゼヌり。

あせばむ(汗)【自マ五】 汗が滲み出る

あせびたし【名詞】 汗を多くかく事

あせびっしょ【副詞】 全身汗で水をかぶった様な状態。汗でずぶ濡れになる。びっしょ、びっしょりの末尾の省略。びっしょりは濡れる状態、ずぶ濡れになる様。

あせふき(汗拭)【名詞】 汗を拭く布、手拭など

あせぼ【名詞】 高温のため過度の発汗があると生ずる粟粒程度の痒みを伴った水泡性湿疹。汗疹、あせも。(志(鶴方)、員、伊、南、熊) [会話] あせもの 事をアセボ。

あせぼち【名詞】 あせものよく出来る皮膚、その人 [会話] アゼボチやなあ(だ) 言うて。あせぼな(あせも)が 出る人は 又違うてや(違うのです)。体一面にまつかん(に) なって、ぢなりん(一面に) なってなあ、おおた あ の あせぼな なつとなるや(どうなるだろう) 思おったね(思っ居たのです)。体中一面になあ 一枚板に 出んてや(出るのです)。粒々やなしん(でなくて) アセボヂ 言う と 年中出来とんの(出来ているのです)。体中どこもかも 顔も まつかん(真っ赤に) なってなあ、おおた あげんよお(あんなによく) あせぼな 出来る事や(だ) 思うん なあ(思うのです)。

あせばなくいつく あせもがひどくて皮膚に強い痛みと痒みを生ずる [会話] アセボナクイツク言うて。いらいらとなあ いたがいの (痛痒いのです)、あんな (あれが) こららな (子供が) 泣くと そや (それ) アセボナクイツクど (ぞ) 言うてなあ、苛ら苛らすると まっかん (真っ赤に) なって 痛痒いの。あせばな (あせもが) よけ (沢山) 出来ると 体な (が) ちゃきちゃき すんね (するのです)。そすと アセボナクイツク 言うね (のです)。

あせぼのより 【名詞】 汗疹が多く出来、一か所が毛嚢炎を起こしたもの。また、あせもが盛り上がった様

あせまぶれ 【形容詞】 汗まみれ 汗でびっしょり濡れるさま

あぜまめ (畔豆) 【名詞】 田の畔で栽培する大豆、枝豆。あきに収穫する。味噌豆一大豆。春収穫する。(志) [会話] アゼマメ、秋豆、大豆、味噌豆やけどなあ (だが)、植えるじき (季節) は、ちょいと (少し) ずれる。春に植えるのおは (のは) 味噌豆にするしだ (するのですし)、アゼマメは煮豆にするのに、やいこいもんで (柔らかいので)、秋十一月頃にとれんの (採れるのです)。秋に採れるもの。あれ、また、おいしいのんなあ (のです)。

あせまめぐり 沢山汗をかく事 あせみどれ参照

あせみず (あせみづ) (汗水) 【名詞】 汗が水のように流れること。はなはだしく汗をかく事 [会話] アセミズ 言うな (のは) いっしょけんめ (一生懸命) 汗たらたらかいて 仕事をした 言う事な (です)。アセミズかいて 言うてな。

あせみずく (あせみづく) (汗水漬) 【名詞】 汗でびっしょり。汗みどろで水にひたったように濡れること (上、阿) [会話] 汗水垂らして言うて、ものすごお (大変に) 汗な (が) 出る事アセミズク。あせみず 言うな (のは)、いっしょけんめ (一生懸命) 汗たらたら かいて 仕事した 言う事な (です)。汗水かいて 言うてな。

あせみだり。あせみだれ 【形容詞】 沢山汗をかいている状態 (志 (鶴方)) [会話] 汗よけ (沢山) かいてなあ びちよびちよん (に) なるとなあ、おおた アセミダレン (に) なったよお 言うて。みだれ 言うたり、みだれ 言うたり、アセミドリん (に) なった 言うたりなあ。汗でなあ 体中びちやびちや なって すん の (するのを) あせびたしん (に) なった 言うたり なあ アセミドロ かいた 言うたり なあ。

あぜみち (畔道) 【名詞】 田と田の境で通行出来る所 (桑

郡、桑市) [会話] たあ (田) のアゼミチ。たあ (田) のアゼミチ みたいな (のような) ほっそおいとこ (細い所) 通って 言うてな。たあ (田) の 畔は じよおふちや (両側は) たあ やもんで (なので)、ほっそいとこ なあ (細い所です)。たあ と たあ の 仕切みたよんなあ (のように)。

あせみどれ 【形容詞】 汗を一杯かく事、汗だらけ [会話] 汗かいて びっしょん (濡れると) になると、アセミドレン (に) なったとか、汗まめぐりん (に) なったとか。

あせみどろ 【形容詞】 汗を沢山かく事。汗で一杯になること。[会話] アセミドロ かいて 言うて、汗よけ (沢山) かくとなあ。

あせる (焦る) 【自ラ五】 気をいらいらさせる。気をもむ。気がいらだって暴れる。せく。急ぐ。早くしようとあせる。あせっていらいらする。息づかいなどが荒くなる。せわしくなる。いそがせる。せかす。(員、鈴郡、松、多、度、北) [会話] アセル言う事は、気を揉む 言う事かい (ですか)。急いで言う事やなあ (です)。アセル言う事は。

あせる (褪) 【自サ一】 色がさめる。色が薄くなる、淡くなる。容色、光沢、勢いなどが衰退する。衰える。[会話] 色な (が) アセル。色な なあ さめてくの を なあ (退色するのを) 色な (が) あせてた (ていった) なあ 言うて。退色して て (して行く) 言うんか、し けて た (白くなっていった) 事をなあ。

あぜる 【自ラ五】 発音が不明瞭で聞き取り難い時に使用。吃とは異なり舌がもつれる時に発する言語動作。あぜつとる参照 (志 (布施田)) [会話] アゼル言うの (のは)、ども (吃り) より違うし なあ (違います)。舌な (が) もつれるの なあ (のです)、あぜつて言うて、よお言うやんかい (よく言います)。あや (彼は)、あぜやれ (だ) 言うて。

あせんだ 稼いだ あせぐ参照

あそおだ (あそうだ) 遊んだ (志)

あそこ (彼処) 【代名詞】 あの場合 特定の場所 (三重県 全域)

あそこら 【代名詞】 あの場合 (三重県 全域)

あそこらまあし 【代名詞】 あの場合 (志 (布施田))

あそこんところ 【代名詞】 あの場合、あの辺 (鈴市、伊、鳥) [会話] そおや (そうだ)、あしこや (だ)。あしこの とこや (所だ)。アソコンと こ ん (に) 置いて有 ったやんない (有ったでしょう)。

あそだ 遊んだ

あそだた 1) 遊んでやった、仲間に入れてやった。

2) 遊んでしまった

あそだて 1) 遊んでやって 2) 遊んでしまつて

あそだらせん 遊んでやらない 仲間に入れない

あそだる あそんだる (遊) 遊んでやる。仲間に入れてやる。だる、してやる、でやるの変化。[会話] 遊ぶ言う事やけどなあ(です)、アソンドル(でやる)言うのは、仲間へ入れてやる言う事やんな(です)。お前もアソンドルわい(遊んであげます)言うて、よお(よく)子供の頃言いいおったやんか(言つて居たではありませんか)。してやる言うのをだる言うて。遊んでやるわい(あげます)言うのを、アソンドル言うて。友達にしてやる言う意味やけど(です)。アソンドル。アソンドルわ。

あそだれ 遊んでやれ 仲間に入れてやれ

あそで 遊んで

あそでええ (遊) 遊んで下さい

あそでかんかい 遊んで行きなさい あそでく参照

あそでく (遊) 遊んで行く [会話] ひとばか (少しの間) あそでこいえ (来なさい)。あそでこかいなあ (行きましょうか) 言うたり。アソデクわい (行きます)。あそでけえ (いきなさい) ひとばか あそでかんかい (行きなさい) 言うてなあ。遊んで行く 言うのをアソデク 言うて。ひとばか あそでけえ 言うて、他処から 来た人ん (に) なあ 二、三日 遊んでかんかい 言うて。そしたら まあ アソデコかいなあ 世話やけど (だが) 言うてなあ。“ん” な (が) 抜けてくわけや (です)。遊んでく 言うのな アソデクになって、あそでけたら (遊んで行けどか) あそで来いたら 言うてなあ。遊んで来い 言うのを あそでこいや (です)、そして あそでけは 遊んでけ (で行け) 言うのをなあ。

あそでけ 遊んで行け あそでく参照

あそでこ 遊んで行こう あそでく参照

あそでこい 遊んで来い [会話] 遊んでこい 言うのを アソデコイヤ (です)。

あそでこかいなあ 遊んで行こうか。あそでく参照

あそどた 遊んで居た [会話] 今日は、ひがないちんち (一日中) なんもせんと (何もせずに) アソドタ

あそどる (遊) 遊んでいる (志、度) [会話] アソドルは、自分勝手 (すきなように) に遊んどんね (でいるのです)。あそんだる言う事は、友達が来て遊んだる (でやる)。仲間に入れたる (てやる) 言う事や (です)。一人で遊んどんのは (でいるのは) 遊んどんねけ

ど (でいるのだが)。

あそどれ 遊んでおれ

あそどんね 1) 遊んで居ます 2) 遊んで居る

あそばかす。あそばす (遊) 【他サ五】 かすは接尾語。遊ばせる。遊ばす。子供に遊ぶようにしむける。[会話] 此の こお (子) を ひとばか (少しの間) アソバカシテくれまあ (下さい) 言うて、おいて (子守りして) 言うのをなあ、アソバカシテくれまあ。守りな (子守が) のおて (無くて) よわつとられ (困っている) 言うてな。預かつてくれ (下さい)、預かつて 遊ばしてくれ 言うのをなあ。アソバカス言うのは 遊ばせる言うの (のです)。

あそばせん 遊ばない

あそばせんね。あそばせんねない 遊ばないのだ

あそばまい 遊ばない 仲間として遊ばない

あそばまいや。あそばまいやねえ 遊ばないでおきましょう 仲間に入れないでおこう

あそばれる 愚弄される。弄りものにされる。[会話] アソバレル言うて、人ちよらかしたよおん (馬鹿にしたように) して、わしら (私) を あそびもんにして 言うて、よお言うやんかな (よく言います)。

あそばれる 遊ぶことが出来る。(志、度) [会話] 今日は 休みで ひい一杯 (一日中) アソバレンなあ (る) 言うてな。仕事せんと (せずに) なんもせんと おる (居る) 事なあ (です)。遊ぶ アソバレンなあ (る) まあ 日がな いちんち (一日中) 今日は 言うてな。

あそばん 遊ばない

あそばんか。あそばんかい。あそばんかな (女性語)。あそばんかれ 遊びなさい

あそび (遊) 【名詞】 余裕 余る所

あそびあかす (遊明) 【他サ五】 仕事もせず遊んで居る 遊び暮らす

あそびあいて (あそびあひて) 【名詞】 一緒に遊ぶ仲間

あそびあるく (遊歩) 【自力五】 遊びに夢中になる。あちらこちらに遊びまわる。[会話] アソビアルイテ なんもせんと (なにもせずに) 言うてなあ。何処の家い (へ) でも いて (行って) あそんどん (遊んでいる) のをなあ、アソビアルク。ただ あつちやこつちや歩るいとる (でいる) だけでも アソビアルク言うし、そして家家を 訪問してくのも (して行くのも) アソビアルク。ほんどん (本当に) 歩るいとらんでも (ていなくても) あそびまおけるとと (でいると)、アソビアルイトル言うの (のです)。あつちやこつちや

(あちらこちら) いとるとな (行っていると) アソビアルイト言うて、あっちゃの家 行き、こっちゃの家 行きして あそんどん (遊んでいる) のをなあ、アソビアルイトンネ (ているのだ)、あんげん (あんなに) 毎日 言うてな。

あそびがてら (遊) がてらは助詞。ついでに、遊びながら [会話] アソビガテラ 出て来てくれえ (下さい) 言うてな。がいん (あまり) 用事も無いけど (が) アソビガテラん (に) 出て来てくれまあえ (下さい) 言うて。なんも (なにも) 用事や (は) ないんけど (無いのだが) 逢いとおてなあ (逢いたくて)、ちよいと (少し) 話もしたいなあ 思う時ん (に)、アソビガテラ 来てくれえ、(下さい)、来いまあ (来なさい) 言うてなあ。

あそびこ【名詞】 遊屋に集まる若い衆 [会話] アソビコな (が) 来てまあ言うて。そこむいて (向かって) 遊びん (に) 来る人を、何処い (へ) でも 寄るとこな (所が) 有って。あそびやや (遊屋だ) 言うてなあ、人な (が) 寄る家な (が) 有ってなあ ねんない (一年中) 男、おなごな (女が) おってなあ (居て)。

あそびごと (遊事)【名詞】 遊び [会話] 麦藁のひご (芯) で、つなげて (繋いで) 帽子みたいにして (のようにして) 編みおったわい (しました)。ちっさい時分 (小さい頃) に、帽子はよお編んけど (編まないが)、アソビゴトん (に)。

あそびじかん (遊時間)【名詞】 授業と授業の間の休憩時間 [会話] がっこ (学校) の 休憩の時間、アソビジカン言うて。アソビジカン言わんと (言わずに)、あいの時間 言よおった (言っていました)。

あそびしごと (遊仕事)【名詞】 1) 容易に出来る仕事 2) 身を入れてしない事 [会話] ① アソビシゴト言うのは 遊んどても (でいても) 出来るよおな 簡単な仕事。アソビシゴトやあれ (だ)、こいなしごた (こんな仕事は) 言うて、簡単に 出来ん (出来るのです)。② アソビシゴトやなあ (だ) 言うて、ちよいと してな (少ししては) 遊びん (に) いてな (行っては)、又 来てな (は) しいすんのなあ (するのです)、アソビシゴトやれ (だ) 言うて、アソビシゴトん (に) しとんね (しているのだ) 言うて。

あそびど (遊人)【名詞】 特別の用もなくその家に入出している者 (志 (布施田)) [会話] アソビド言うのは ぶらぶらと、なんも (なにも) 仕事せんと (せず)に 遊んどる (でいる)、言うたら 怠けもんやわな (者です)。

あそびどおぐ (あそびだうぐ) (遊道具)【名詞】 遊びに用いるもの、玩具 [会話] 子供らわなあ アソビドオグな (が) 要るけど、大人は 今しゃ (今は) ゴルフやら ゲートボールやら アソビドオグするけど (が)。遊ぶための道具。なあやたら (縄だとか)、石けりの石やたら (だとか) かべうちのでぎ。

あそびとぎ (遊伽)【名詞】 遊び相手 [会話] 友達をアソビトギ、友達を とぎ。とぎな (が) の おて (無くて) 言うて、とぎらな (の) とこ (所) いて (行って) あそでこお (遊んでこよう) 言うてな。

あそびともだち (遊友達)【名詞】 一緒に遊ぶ相手

あそびこん (遊人)【名詞】 定職を持たず遊び居て悪事をする者

あそびば (遊場)【名詞】 1) 遊ぶ場所。運動場。2) 余裕の有る場所 [会話] ② アソビバ ちよいと (少し) ひいろいとこ (広い所) アソビバ。

あそびはんぶ (遊半分)【名詞】 物事を真剣にしないで半分は遊んだ気持ちでいる事。またそのさま。[会話] アソビハンブで その仕事あ (は) なんどお (なんだ)、アソビハンブやんかあ (でないか) 言うて。怠けもて (ながら) 仕事しとんのをなあ (しているのを) アソビハンブん (に) 仕事して言うて、アソビハンブやない (だ)、もつと 真面目ん (に) せえまあ (しなさい) 言うて、そげん (そんなに) アソビハンブん (に) しとたら (していたら) なんな (ななが) ええもん (よい物が) 出来んねど (出来るのだ) 言うて 怒られてなあ。

あそびほおける (あそびほうける) (遊呆)【自カ下一】 遊びに夢中になる。すべてを忘れて遊ぶ。(南) [会話] アソビホオケトル (でいる) 言うて、あそでばっかお (と) (遊んでばかりいると) アソビホオケテ言うて。遊んで、昼も家い (へ) 帰らんと (帰らずに)、昼飯やてのん (だと言うのに) 来やせんねない (来ないのだ)。俺家のかあ (子は) アソビホオケトンネナア (でいるのだ)。遊び のとて (ていて) 昼ん (に) なつても 来やへんねやんかい (来ないのです)。

あそびもん (遊者)【名詞】 1) 遊びどに同じ。遊び者 (南) 2) 弄ばれる人。人に馬鹿にされる人。騷り者 [用例] ② 俺ばな (を) あやかして (からかって) アソビモンにして。

あそびもん (遊物)【名詞】 玩具 おもちゃ (南) [会話] 亀のこおやどけでも (子などでも) とて (取って) 来て やうちな (一同が) アソビモンに しとるとな (していると)、なぶりもんにしてまあ 言うてなあ。

あそびや (遊屋) 【名詞】 人の寄り集まる所。特に若い男女の集会所。(志) [会話] アソビヤ言うのは 人な (が) よけ (沢山) 集まって来てなあ。男、おなごな (女が) よけ 寄ってく (集まって行く) 家な (が) 有るわい (有ります)。仕事すんねやなしん (するのでなくて) 遊んどるもんでなあ (でいるので) アソビヤ (だ) 言うの (のです)。無駄口たたいて いろいろの事言うてなあ。

あそびんのる 他の事を忘れて、遊びに夢中になる。

あそばや 遊びませんか。遊びましょう。あそんだる、あそだる。あそんで、あそで。あそんどる、あそどる。参照 [会話] アソボヤ言うのは、みんな言い寄って (皆で集まって)、こやってアソボヤンカア (こうして遊びましょう) 言うて。

あそんだ 遊んだ。時間を無駄に過ごした。[会話] なんもせんと (なにもせずに) アソンダ。なんもせんと (なにもせずに) おった (居た) 言う事。

あそんだた 1) 遊んでやった。仲間に入れてやった。2) 時間を無駄に過ごした。[会話] アソンダタ。今日は あそんだて (でしまつて) なんもせんでええし (なにもしなくてよいし)。1) おらな (俺が) アソンダタね (のだ) 言うて。

あそんだらせん 遊んでやらない。仲間に入れてやらない。

あそんだる 1) 遊んでやる。2) 仲間に入れて一緒に遊んでやる。3) 時間を無駄に過す。遊んでしまう。[会話] アソンダル 言うのは、仲間へ入れてやる言うことやんな (です)。アソンダルも あそんだたも 一緒やんかい (です)。一緒ん (に) 遊ぶのを アソンダル。あそんだた 言う時は 遊んでやったやし (ですし)、アソンダルは 一緒ん (に) なつて アソンダルわい 言うて、今し (今) 来たもんで (ので) あんた (貴方) も アソンダルわい 言うて、かい 行ってよん (帰って行くように) となると 遊んだた言うねやんかい (言うのです)。遊んだたは 済んだこと。アソンダルは 始まりの事。

あそんだれ 遊んでやれ 仲間に入れてやれ

あそんで。あそんでえ 遊んで下さい。仲間に入れて遊んで下さい。[会話] アソンデ言うのは 私な (が) 此処い (え) 来て、人な (が) 遊んどて (でいて)、私も アソンデエ 言うて 仲間入りさして (させて) くれ言う事。遊んで下さいとか、仲間い (に) 入れて呉れとか 言う事やな (です)。

あそんでく 遊んで行く。[会話] 一日 此处で あそ

んでえ言うて、此处で アソンデクわい 言うて。

あそんどる 1) 遊んで居る。2) 仕事をしないで居る。[会話] 1) アソンドル、こやってして (このようにして) 今し (今) 遊んどんの (でいるのです)。

あそんどれ 遊んでおれ

あそんどんね 遊んで居るのです (自分が) [会話] アソンドンネ、なんもせんと (何もせずに) 言うて。なんもせんと あげん (あんなに) アソンドンネ 言うて。

あた 後は

あだ (徒) 【形容詞】 1) 無駄、無用。徒。実を桔ばないさま。かいのないさま。むだ。2) 誠実さにかけて浮ついているさま。3) 容易、たやすい 4) 復讐 [会話] 3) 仕事なえろおて (が大変で) アダやおろかや (で) なかつたね、言うやんかい (言います)。えらい (大変な) 事を言うのな (のです)。4) 恩をアダで返す言うて、ええ (よい) 事を、こちらは、してやっても、それを わり (悪い) 方へ取つて恨む事を。

あだぐち (仇口) 【名詞】 実のない言葉。無駄口。悪口。(南) [会話] あやまあ (彼は) 頭なおつきいて (が大きくて) 過半数やなあ (だ) 言うて。頭な大ききいて、うわかぶき (上がぐらつく) な (が) しとられ (している) 言うて、よお (よく) アダグチ 言うのな (言うのです)。

あだごと 【名詞】 むだな事 実のない事

あだことば 【名詞】 無駄な言葉 [会話] 芋のとおろくやとか (だとか)、麦のとおろく食うたてやら (とか) 言うて、麦ばつか (ばかり) 言うのを、麦のとおろく、芋ばつか 言うのを、芋のとおろく食うたね (食べたのだ) 言うて、アダコトバやわい (です)。

あたし 【名詞】 附近 近く場所 (志 (布施田)、員、鈴市、津、一、多、上、阿、張、名、伊、北) [会話] あしこら (あすこら) アタシ。あしこら アタシん (に) 有るやんない (有るでしょう) 言うて。あたりや (です)。何か探すとん (に) あしこらアタシん あんど (有るぞ) 見て見よまあ (見なさい) 言うて。

あだする 【自サ変】 1) 報復する 仕返しをする 2) 意地悪をする

あたたあい 【形容詞】 熱い。あたたいより更に強い調子。[会話] 熱いのを なあ、此のちやあな (茶が) アタタアイよお 言うて 言うしなあ (言います)。ひい (日) が てんのも (照るのも) あたたい なあ言うて。照ると あたとおて (熱くて) 言うて、あたたい (熱い) 言うな (のは) 普通の あたたいのおて (熱いの

で、アタアイ言うて 引つ張る時 よけ (より) 熱いの (のです)。

あたたかい (暖) 【形容詞】 あたかかいの変化した語 1) 熱い (志 (浜島、布施田、鶴方、甲賀、立神、神明、志島、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、国崎)、桑市、員、三、鈴市、安、多、上、阿、張、名、北、尾、南、熊) 2) 暖か (志、桑市、鈴市、安、上、阿、張、名、度、北、尾、南) 3) 経済的に潤う 4) きつい。咎める所を指示する。(志、鳥) 5) 目下熱愛中 6) 暑い (三、鈴市、熊) 7) 馬鹿だ 8) おべっかを露骨に表す時に言う語 [会話] 1) 熱い事、ものすごお (ものすごく) 熱いのを、アタアイ言うの (のです)。冬ん (に) 日向ぼっこして 暖かくなんのは (なるのは)、ぬくたい。6) 夏にてりつけ (日光のよく当たる所) へ行くと、ものすごお アタアイ。潮浴びんいて (海水浴に行つて)、砂の上 あたとおて (熱くて) まいきる (舞い切る、飛び上がる) 言うて、裸足で歩くと アタタイよお (熱い) 言うて、走つて ぼら (穴) 掘つて 足つつこみして (突っ込みながら、入れながら) 浜のすそ (裾、下の方、波打ち際) へ行くの (のです)。じょおり (草履) でも履くと、ええんけど (よいのだが)、潮浴びん (に) 行くと、きもんので (着物脱いで)、すそい迄歩いてくの (て行くのが)、アタタイヤんかな (熱いのです)、裸足で行くの (のが)。

あたたしや。あたたしやお。あたたしや 【感動詞】 これはまあ。大変だ。失敗した時の言葉。惜しい。もつたない。わたつしや。わたつしやよー。おとつしや。おとつしやよー。あたらの変化した語か。あたらおしや (惜) (志 (志島、国府、安乗)) [会話] えらい (大変な) 事した、やつてしもた (しまった)。アタッシャヨオ 言うやんかい (言うで有りませんか)。わたつしやお、アタッシャヨオも、そのにげ (人間) によって、うなし (同じ) 意味やけど (だが)。おとつしや言う人も有る。おとつしや言うて、比処らの人は えてやわい (得意です)。おとつしやほんまあ言うやんかい (本当に言います)。

あたってきた 1) 雨が降り出して来た。2) 触れてきた、さわつてきた。3) 分け前を貰つて来た [会話] 3) 魚な (を) 分けて、アタッテキタとか。なんか (なにか) 分けて ひとしろをつ 十人おると 十に置く やんない (でしょう)。そすと (すると) ひとしろ (一人前) アタッテキタよお 言うて。2) 人にさわんのも (触れるのも) アタツタ (当たってしまった) 言うて、あの人ん (に) アタツタタンよお (て、しまつ

た) 言うて。1) 雨な (が) アタッテキタ、降り出して来た、雨な (が) アタッテキタれ (来ました) はよ (早く) 取り込まな (なければ) 言うて。雨な (が) アタッテキタのん (の) はよ 出て 取り込めまあ 言うて、家ん (の) 中ん (に) 入いっとて (ていて)、知らんとおつて (知らずに居て)、干しもん (物) しと となあ (していると)、雨な (が) アタッテキタどお (ぞ) はよ 出て来い言うてな。

あたってくる 1) 雨が降つて来る。雨が降り始めた。2) 分け前を貰つて来る [会話] 2) 物をアタッテクル、分けてもろて (貰つて) アタッテクル。1) 雨な (が) アタッテクル。雨な (が) ぽつぽつ 降つて来ると、雨な (が) アタッテキタレ (来たぞ) はよ (早く) 取り込め言うて。

あたとおて 熱くて [会話] アタトオテ言うて、熱い事をな (です)。アタトオテ 持たれやせんない (持てない) てえ (手) で。ちやあな (茶が) 熱かつたりな、おつゆな (吸物が) あたた (熱つ) かつたりするとな、アタトオテ 持たれやへんない (持てない) とか、飲まれやへんない (飲めない) とか言うし。ひい (日) が あたた (熱い) のもな 今日 ひいな (日が) きつうて (強くて) アタトオテ 言うしな (言います)。

あたつとる 当たつて居る 1) 雨が降つて居る 2) 海女が暖を取っている 3) やつ当たりしている 4) くじなどに当たっている

あたふた 【副詞】 あわてふためくさま。また、その人。その状態 (上、阿) [会話] 焦つて、急いで、忙しいのおで (ので) アタフタしたよお (しました)。

あだべる (仇) 【自ハ五】 暴れる あだ (仇 害となる事 危害。損害) に動詞びるの変化したべるのついて動詞化した語。[会話] 〇〇なしじつ (手術) して、リカバリに入つてしとると (入つてしていると)、気な (が) 狂乱してくよん (していくように)、なつてくん ねてわい (来るのだそうです) ひいて (一日) や ふつか (二日) はええんけど (よいのだが) 三日も四日もおると (入っていると) 気な (が) 錯乱してくよおん なつて来て、アダベテくんねてわい (来るそうです)。きいな (気が) 立つて来て、ごおなわく (腹が立つ) やら、なんやら (何か) 其処らのもんな (物が)、虻に見えたり、むかじん (むかでに) めえたり (見えたり) して、気な (が) なつちやらしてくんねてわい (変になって来るのだそうです)。そげんして てきたや (そんなにしてして来たら)、アダベテ なん

もかも ひきさきやあるいて (すべて裂いて)、うつつ
きやあるいて (打つつけて、叩きつけて) しとんね
(しているのです)。

あたま(頭)【名詞】 1) 頭 動物の頸から上の部分
2) 山頂 物の上の部分 3) 頭髪 4) 物の最初

あたまあげる(頭上) 1) 枕から頭をはなす。病気がよくなる。2) 勢力を得たり能力を発揮して人から認められる出世する。3) 芽を出す。4) 干潮になって海中から島が表れる。[会話] 3) アタマアゲテ来たれ (来ました) 言うて、小豆や豆 植えてもなあ、首あげて来たれ 言うたりなあ、なたかずいて来たれ 言う。1) 病氣しとて (して) 寝込んだのおな (でいたのが) アタマアガッタ、まあ 今日は アタマナアガッタンてわれ (そうだ)、まあ 頭な(が) おもとおて (重くて) あたまな(が) あがらんで (なくて) 寝とんね (寝ているのだ) 言うし。よお (よく) なって 起きると アタマナアガッタンてわれ 言うてなあ。2) 出世すんのも (するの) まあ あの人どいらい (大変) アタマナアガッタンてわれ (そうだ) 言うし。4) 潮な(が) ひいて、隠れとた (ていた) 島な(が) めえて (見えて) 来ると、あしこ (あすこ) の 島な(が) アタマアゲテキタ あれい (へ) 渡って ふのり摘んで こお (来ましよう) 言うたりなあ。まあ だいぶ (大分) アタマアゲテ来たよつて (から) 入いろやんかあ (入りましよう) 言うたりなあ。よけ (沢山) ひいてきや (行けば) ひつ乾いて くんけど (行くのだが)、アタマアゲテキタおりか らなあ (時から)、取りかけな (なければ) はざんね (駄目なのです)。

あたまあらう(頭洗) 1) 頭髪を洗う。洗髪する。2) 島の頂上を海水が流れる。[会話] 1) 髪 洗うのを アタマアラウ言うの (のです)。

あたまいあがる 1) 腹が立つ。のぼせる。逆上する。怒る。2) 味の濃い物を食べて、又食べ過ぎて頭痛がする。[会話] 2) アタマイアガル言うな (のは)、よけ 食うて (沢山食べて) アタマイアガッタよお (あがりました) 言うて。ぜんざいの さと (砂糖) の 効いとん (ているのを) 食うと おおた どくらして (味が濃くて) アタマイアガッタよお言うてな。1) そして 人ん (に) なんやかや (いろいろ) 言われた時でも ごおなわくと (腹が立つと) まあ アタマイア ガル言うて。

あたまいう あたまゆう 髪を結ぶ。頭髪を整える。[会話] 髪まるける (まるめる、まとめる) 事。髪結うの

を、アタマイウて 貰いん (に) 行く言うて。磯 (海女) 行くのん (のに)、磯まげ結うて 磯だて (鉢巻) を しよったやんかい (して居たで有りませんか)。磯だて言う (言います) 鉢巻き二つに折つて (おいて) 後ろで結んどいて (でおいて) 今の人は ほっかぶり (頬かぶり) するけど (が)、昔や (は) 磯だて。磯 (海) へおりるよおん (入るように) なったら、髪がばらばらすると、いかんもんで (いけないので)、しじくな (雫が) 落ちる。ほんで (それで) 磯まげ結うて、かんじょくり (勘世振り)、ほっそお (細く) して、根巻よつて (振つて) 磯まげ、いわへといて (結んでおいて)、鉢巻きして、髪な (が) ばらばらせんよおん (に)。

あたまいくる 腹が立ってかつとなる

あたまいた【名詞】 頭痛。いつも頭痛を訴える人。(志)
[会話] アタマイタ 言うのは 頭な(が) やめる (痛む) 言うのをなあ、頭な(が) 痛い言うの (のです)。

あたまかず(頭数)【名詞】 1) 人数 2) 人かず。人数を揃えるだけ。軽輩。仲間の数に入っているだけのつまらない人間。[会話] 1) アタマカズには まだ足らん言うて、人数の事 アタマカズや (です)。八人よき (より) 無いのん (に) ふたんな (二人が) 行くと、丁度 アタマカズな そろて (が揃つて)、十人 いんのん (要るのに) アタマカズに 行こやんかい (行きましよう) 言うて 行くね (行くのです)。

あたまがち(頭勝) 体が小さくて頭の大きい人。福助頭 あたまでつから でつかちはデカチ (出勝) の急呼 (大言海) [会話] 頭な(が) おつきいてなあ (大きくて)、体な(が) ちっそおて (小さくて)、アタマガチや (だ) 言うて。

あたまかぶ(頭株)【名詞】 首領 主だった人 幹部 (員) [会話] アタマカブ その時の大将。

あたまがやめる 頭痛がする あたまいた参照 (志 (国府、甲賀、鵜方、神明、立神、安乗、畔名、片田、越賀、浜島、御座)、鳥 (桃取)) [会話] 頭痛な(が) すんのをなあ (するのを)、アタマガヤメル。

あたまから(頭)【副詞】 初めから。いきなり。(員) [会話] 怒られる時でもなあ、いきなり (急に) 怒られるとなあ、アタマカラ どじかられたんよお (た) 言うてな。アタマカラ言うのは 始めから。

あたまかる 散髪する 整髪する (志 (浜島))

あたまくじく 鰯、鯆などの頭を手でもぎとる

あたまくだし。あたまごなし(頭下)【名詞】 1) 言訳も

何も開かず最初から言ひつづす事。急に、まっさきに。最初から。(志(志島) 2) 頭上から浴びせかけるさま [会話] 2) 頭からかぶせんの(かぶせるのを)、水をかぶせんのと、1) アタマゴナシン(に)、わるわられて(叱られて)、叱られる事を、アタマゴナシン わるい殺された(叱られた) 言うて。ものすごお(ものすごく) 怒られる事を言うねやろ、あんで(言うので) しょう、あれで。アタマゴナシも一緒や(です)。

あたますりい 整髪に行く。散髪に行く。[会話] 床屋い(へ) いて(行って) 来る。アタマスリンイク言よおったの(言って居たのです)、散髪言わんとのお(言わずに) アタマスリンいかなあ(行かなければ) 言うて、アタマスツテ来たか言うて。

あたまする 散髪する、するは剃る、月代の名残りか

あたまだす(頭出) 1) 芽を出す。2) 出世する。3) 潮が干いて海中の島の頂きが表れる。[会話] 1) 植物植えてもなあ によこつと めえな(芽が) 出てくんの(来るのを)、アタマダゲテ来た言うてなあ。でえ(出) 過ぎたらんとしとる(たらずにしている) とこ(処) を、アタマダシテ来た言うの。2) 出世すんのも(するの)も アタマダス。下から上ってく(て行く) のをなあ、あやまあ(彼は) ちよいと(少し) アタマダシテ来た。出世しいかけたり(しかけたり)、金な(が) たまって来るとなあ ちよいとアタマダシテキタレ(来た) 言うてな。

あたま、ちのさんごもない【俚語】 頭血の三合も無い馬鹿。のぼせている。夢中になっている。[会話] 今し(今)、のぼしとんね(のぼせているのだ)。あれん(彼に) 惚れとて(ていて)、惚れて曲がとんねど(ているのだ) 言うて。ほかのこた(事は)、なんも(なにも) せんと(せずに) それぼつかなあ(ばかりです)。アタマチノサンゴモノイねど(のだ) 言うて。のぼしてとて(のぼせていて)、頭からつぼやよつて(だから)、血なさんご(が三合) も無い言うて。

あたまとく 髪を梳かす。整髪する。[会話] 髪とく言うて、アタマトク言うて。頭もトカント(とかずに) 来たよお(来ました) 言うて。

あたまなあがらせん。あたまなあがらん 1) 頭が上がらない、相手に負い目が有ったり権威に圧迫されたりして対当に振舞えない。2) 病気が重い [会話] 1) 何処い(へ) いたてて(行っても) おらまあ(俺は) なんも出来んで(なにも出来なくて) アタマナアガラセン言うて。ぜん(銭) も無いし、仕事もよおせんし(出来ないし) 何処いいたてて、アタマナアガラセン

言うて。

あたまなあ 賢い

あたまなあえ 賢い 利口だ [用例] あや(彼は) アタマナエエよつて(から) 何でもよお(よく) 知つとられ(知って居る)。

あたまなあやめる(頭痛) 頭痛がする(志(国府、甲賀、畔名、片田、越賀、浜島、御座)、鳥(桃取)) [会話] 頭痛な(が) すんのをなあ(するのを)、アタマナヤメル。

あたまにない 1) 思っても居ない 2) 記憶にない

あたまのきりかえ 考えを変え 改める

あたまのくろいねずみ【名詞】 家の中の物をかすめ取る者

あたまのけえ【名詞】 頭髪

あたまのさら(頭蓋)【名詞】 頭蓋骨。頭蓋を形成する骨が皿状になっているためか。(志、尾) [会話] 頭や(です)。よお(よく) 皿や言うやんかい(だ言うではありませんか)。赤ちゃんの時からアタマノサラや(だ)、爪のさらや言うやんかい。

あたまのてっぺん(頭天辺)【名詞】 頭の天辺、てへんの転、物の一番高い所 [会話] アタマノテッペンえま(で) 言うて。アタマノテッペンな(が) やめて(痛んで) 言うて。一番上 一番すこつべ すこつべな(が) やめてくんね(痛くなって来るのです)。

あたまのはち(頭鉢)【名詞】 頭蓋骨。頭の周囲。(張)

あたまはげる 心配する。(上、阿) [会話] 心配してアタマハゲル 言うやんかいなあ(言います)。心配すな(が) よけ(沢山) 有るとなあ。あげん(あんなに) 禿げる程 心配して言うの。頭 禿げても 心配するな言うて 歌に有るけどなあ(けれど)、心配するわいなあ(します)、頭、禿げてくや(来れば)。

あたまはさむ(頭) 頭を刈る。散髪する。[会話] アタマハサム言うのは、床屋すんのを(するのを)、アタマハサム。散髪すんのを アタマハサンデでもおて(貰らつて) 来い言うて。昔や(は) 鉄で はさみおつたもんで(挟んで居たので)、虎刈りや(だ) 言うて、わろた(笑った) 言うて 泣きおつた。男の子ら 家で刈つたると(てやると) 虎刈りや(だ) 言うて わらうんどや(笑らうのだ) 言うて。

あたまはねる(頭禿) 他人の利益の一部をかすめ取る あたまは上米(ウワマイ) を言いかえたもの、はねるは削りとするの意

あたまやみ。あたまやめ(頭病、頭痛)【名詞】 いつも頭痛をしている人。(志(鶴方、神明、立神、国府、安

乗)、鳥(相差) [会話] 頭がやめる(痛い、病める)言う事なあ(です)。じょっく(常に、始終やめる)言うて。アタマヤメヤ(だ)言うて。年中(いつも)頭なわり(が悪い)、頭なわり言うるとる(言っている)人を、アタマヤミ言うねんなあ(言うのです)。風邪引いた時ばかやなしん(ばかりでなくて)。

あたまゆう(頭結) 髪を整える。頭いう参照 [会話] アタマユウて貰らう。髪結うのをなあ、丸髷やたら(だとか) ちょおちよやてらなあ、大人 丸髷げん(に) ゆうし、子供 ちょおちよにして、牛若丸みたよん(のように) たっこお(高く)して頭の上へ。

あたまわり(頭割) **【名詞】** 均等割。人頭割。頭は人数を表す。金銭の據出、分配をする時、人数に応じて平等に割り当てる事。人頭。人のあたま。人のかず。人数。にんとう。(南) [会話] アタマワリ言うのは 平等言う事。平等に割る。あんた(貴方)も、そなた(そなた)も言うて。

あたまんない 1) 思っても居ない 考えても居ない
2) 記憶にない

あだやおろか(徒疎) 容易なことでない。下に否定語を伴う。他人の恩恵や物の価値を軽視するさま。いかげん。容易な事で。徒 実を結ばないさま。かいのないさま。むだ。誠実さに欠けて浮ついているさま。はかなくもろいさま。扱いが疎なさま。浮ついているさま。つまらないさま。疎 程度が不十分なさま。充分心を盡していないさま。通り一遍。おろそか。その表現が不十分であるさま。[会話] アダヤオロカで 出来よかれ(出来ない)、そんな(それが)、言うやんかい(言います)。いっしょけんめ(一生懸命) でせな、いかん(しなければ駄目だ) 言う事やわな(です)。

あたら(惜、加惜) **【形容詞】** あたらし(惜 あまりすばらしいのでその価値にふさわしい扱いをしないでおくのは惜しい残念だ)のもとになる部分。感動的語勢をもつ。1) 体言の前に置かれ連体詞のような働きを持つ一方、独立語としての性格も強い場合、惜しい。2) 文の始めに置かれ半ば独立的に、半ば副詞的に用いられる。もったいない事にも、残念な事にも。

あたらし(新) **【形容詞】** 1) 新しい。初めてである。物が出来たばかり。また使い始めたばかり。2) 魚、野菜が新鮮である。(志) [会話] 1) しんどお(新道) 言うな(のは)、アタラシ出来た道を、今し(今) 美珠通りの方を わしら新道言いおった(言っていました)。

あたらしがりや(新屋) **【名詞】** 新しい物を有り難がって誇示する人。流行を追う人。新しいものを特に好む人。

[会話] アタラシガリヤや、しんまいくい。しんまいくい なんでも(なにでも)、人でも、今し(今) Aとなあ ちんちん(親しく) 言うかと思うとまあ ひと月かふた月すると たんの(飽きて)して、こんだ(今度は) 又 B家へまあ しこって(熱心に) いて(行って) そげんして(そんなにして)、しんまいへ、しんまいへ 食うの(のを) しんまいくいや(です)。あたらしもんぼつか(物ばかり) きもん(着物)でもなあ、人でもなあ 一人の人と とことん迄 つきやわんとなあ(つきあわずに) 新しもん 次々と 変えてくのな(て行くのです)。

あたらしきもん **【名詞】** 新しい着物。新調の着物。晴衣。(北)

あたらん 貰えない、割当が無い

あたり(辺) **【名詞】** 近所。そば(側)。その範囲に有る場所を明確に定めないで言うその辺の場所 [会話] 其処らアタリ、其のあたり言う事やなあ(です)。其処らアタリでとてきたれ(取って来た) 言うて。

あたり(当) **【名詞】** 取り分。分け前。割り当て。配当。同意語 代、しろ、代金、代価、くいしろ、飲食代金 ひとしろ 一人の取り分(志) [会話] お前のアタリや(だ)。おんな(俺の) アタリや言う。分け前や(です)。昔の人な(が)、一代(ヒトシロ。一人前の手当)、二代、言うて。

あたり(当) 様子を探る事。目標を定める事。見当をつける。手掛かりを見つける(当たりをつける)

あたりきんじょ(辺近所) **【名詞】** 近い所。周囲。附近。

あたりさがす **【自サ五】** 1) あたり散らす。さがすはあれこれするの意。怒りを他に当てる。心中に不満がある時、周りの人にむやみに怒りをふりまく。あたん参照(北、尾) 2) 物に触れまわる。あれこれと触る。[会話] 1) あたんする事。アタリサガシテ、ごおなわくもんで(腹が立つので)、おらん(俺に) アタリサガシテ。

あたりさわり(あたりさわり) **【名詞】** さしさわり 障碍 支障 同じ意の語を並べた [用例] そいな事しとたら(そんな事して居たら) アタリサワリな(が) 出て来んど(来るぞ)。

あたりちらす(当散) **【自サ五】** 1) やつ当たりする 怒りを他に移す [用例] 先生に怒られたもんで(ので) おらん(俺に) アタリチラシテ。2) 盛に触る

あたりどこ(当所) **【名詞】** 打った場所。当たった所。[会話] アタリドコな(が) わりいて(悪くて) 気絶してた(していった)。うちどこな(が) わりかったんな

あ (悪かったのだ) 言うて。叩かれたりした時んなあ (に)。うちどこな (が) わりいて まあ どいらい (大変な) 怪我しとられ (している)、あや (あれは) アタリドコな (が) わりわれ (悪るい) 言うてなあ。急所どこい (所へ) いとるとなあ (いっている)、うちどこな わり とか、アタリドコな わり 言うてなあ。

あたりどし (当年) 【名詞】 豊年 よい事の多く有る年
あたりまい (当前) 【名詞】 【形容詞】 あたりまえ。当前。

本当であること。当然だ。(桑市、度、南) [会話] こや (これは) お前のする事や (だ) 言うて、アタリマエみたいん (のように)、おれん (俺に) 言うて、言うやんな (言うでしょう)。当然や (だ) 言う意味やなあ (です)。お前な (が) する役やろ (役目だ)。すんのな (するのが) 当然やれ (だ)、アタリマイ言うて、お前のすんのな 役やれ。

あたりもん (当り物) 【名詞】 1) 食べて食中毒を起す事。食中毒。2) くじ 籤 (南) 3) 授かったもの [会話] 1) アタリモンな (が) した時や (は)、白南天のはあ (葉) を きれ (布) へつつで (包んで) 金槌でついでいいて (叩いておいて)。その汁しぼって飲むと、アタリモンな (が)、観面に、吐いたり、下したりすんのな治おんね (するのが治ります)。

あたる (当る) 【自ラ五】 1) 触る。ふれる。(志 (浜島、布施田、立神、神明)) 2) 中毒になる。蕁麻疹が出る。あたりもん。(志 (浜島、布施田)、度) 3) 訪ねる。4) 仇をする。あたん。(志) 5) 配当を受ける。あたり 6) 雨が降る。(志、鈴) 7) 数をかぞえる (一) 8) 火で暖をとる。(志 (浜島、布施田)、松、多、北、尾、南) 9) ひげを剃る。整髪する。(上、阿) 10) 車、舟が衝突する。(志) 11) 人に物を尋ねる。[会話] 8) 火にアタル。1) 物にアタル 腹が立って人にアタル。4) 人にアダスル。5) 分前、分けんのおも (分けるのも) アタル。お前の当りや (だ)、こや (これは) 言うて。6) 雨な降ってくんのも (来るのも) 雨な (が) アタル言うのなあ (のです)。3) 人に聞いて見る言うのも アタル。何か問う (尋ねる) 事や。

あたん 【名詞】 仕返し。意趣反し。八つ当たり。あた (仇) の変化した語 あたんする参照 (志 (布施田、浜島、甲賀、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] アタン言うのは、腹立てて人に、わざ (業・悪い事) する言う事や。

あたんする 仕返しをする。当り散らす。(志 (浜島)、

鳥、貝、鈴市、安、津、一、上、阿、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] アタンスル言うのなあ (のは)、ごおなわいて (腹が立って)、アタンニ あや したんなあ (あれはしたのだ) 言うて、口で言うて あれやもんで (いけないので)、口で言わんと (言わずに) なんやかや 当り散らす事を、アタンシテ あやれ (あれ) 言うて。ごおなわいて あや (あれは) アタンシタンなあ言うて 腹いせん (に) する言う事やろなあ (でしょう)。

あたんな 触るな。当たるな。[会話] 壁 ごぶな (中塗り) が かけてあるよって (してあるから) アタンナ 言うて。

あちゃけた ふざけた。馬鹿馬鹿しい。[会話] アチャケタこと言うて、ちょおけた (ふざけた) 事をなあ、ちょおけたよん すると さいご (その時)、そげん (そんなに) 言うわい (言います)。冗談やわな (です)、冗談ばっか (ばかり) 言うて ふざげるとかなあ 言う意味やわな (です)。

あちやこちや 【副詞】 1) あちらこちら 2) 反対になる 逆になる (松、名) [用例] 2) のおの (お前の) 言う事と おんな (俺の) 言う事と アチャコチャやれ (だ)。

あちやら (彼方) 【名詞】 あちら。あの方向。[会話] アチャラや、こちやらや (こちらだ) 言うて。アチャラ言うな (のは)、あちやらや (あちらです)。

あつあつ (熱々) 【形容詞】 非常に熱い事 1) 炊き上つてすぐの物 2) 恋人同志 [用例] 2) ふたんな今し (二人が今) アッアッや (です)。

あつい (厚) 【形容詞】 密度が濃い 種を撒いて密生している (北)

あついた (厚板) 【名詞】 絹織物。厚い地の織物。たて糸は練糸、よこ糸は生糸を用いて、地紋を織り出した絹織物。女帯地を主とした用途とする。厚板帯、厚板織もと中国から輸入された厚地の織物が厚い板を芯にして畳まれて居た事に依る (広辞苑) [会話] アツイタ言うな (のは)、うけおりん (に) なって、金欄 通してな、うけおりん (に) なつとんの (なっているのを)、アツイタの帯言うて。

あついのお (あついなう) 暑いですね 夏の暑い日の挨拶

あついで 1) 厚くて 2) 熱つくて 3) 暑くて (鈴市、伊、尾)

あついでえ 1) 厚いのです 2) 熱いのです 3) 暑いのです

あつうて 1) 厚くて 2) 熱くて 3) 暑くて (志、鈴市、伊、北、尾)

あつかあい、**あつかい** (赤) 【形容詞】 赤い (志 (布施田、鶴方、立神、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、浦村)、三、鈴市、津、久、一、松、多、度、伊、北、尾、南) [会話] 赤い物を言うの (のです) アツカイ言う。

あつかい (あつかひ) (扱) 【名詞】 1) 動詞あつかう (扱) の連用形の名詞化。待遇 2) あれこれと世話をする事。仲介。両者の間に立つてとりなす事。3) 人の相手になって話したり、もてなしたりする事。対応。仲裁 (南) [会話] 1) アツカイなよおて (がよくて) 言うて。人でも上手ん (に) 言うとなあ、人、扱かうのに 上手で言うし。しなもん (品物) でもなあ大事ん (に) 使う にげやええし (人間はよいし)、てあるお (手荒く) 扱うにげや じっきん (人はすぐに) なんもかも、うちやったり (なにもかも壊してしまったり)、しもたたりして (壊してしまったりして)、あいな (あんな) にげ (人間) なんもやりたくないわ (なにもやりたくない)。じっきん うちやったりもん (壊してしまうから)。あの人まあ ほんどん (本当に) アツカイな (が) ええよつて (よいから) あいな 人ん (に) なら、なんでも やりたいけどなあ (が) 言うて。ざっぱ (乱雑) で あの家や (は) アツカイな (が) わりいて (悪るくて) 言うて、ぞおらくなあ (乱雑だ) 言うて。自墮落で、物てえねえしやせん (丁寧しない)、アツカイな (が) まあ てあるおて (手荒くて) 言うて。アツカイ言うのは いろんなこと 取りあつこたり (かったり)、物のアツカイな (が) 手荒いしなあ、人のもんやら (物か) わが (自分) もんやら 判らんよん (ように) 使う家な (が) 有つてなあ、無茶苦茶ん (に)。3) 人な (が) 来た時ん (に) その人 扱うのん (に) 丁寧に扱う家と、うすらみたよん (空呆けたように)、さいぎ (薪) で 鼻こすつたよおん (に)、しとると (していると)。人アツカイな (が) 荒い 言うてな、そやまあ 使い殺すの (のです)。人使いな (が) あるおて (荒くて) あの家や (は) 人やとたら (雇ったら) 一服 (休み) もせんと (せずに) いうて、気の利いとる (ている) 家や (は) ゆざげん (夕方に) なや (なれば) 一服 しよおやんか (休みしましょう) 言うし、朝と昼のあい (間) も、一服 しよおやんか 言うて、きい (気) 使う家も有るし、それな (が) 無い家は 人アツカイな (が) あるおて 言うて。

あつかいにん (あつかひにん) (扱人) 【名詞】 中に立つ

て物事の処理に当る人。仲買人。仲介人。仲裁人 [会話] アツカイニン 世話をする人を、雇てく (雇って行く) 人をなあ、アツカイニンや (だ) 言うて。人と人との間に立つ人をなあ。物 うん (売る) のでも まんなかい (間へ) 入いって、市場へ揚つたのおを (のを) 仲買師や (です)。それも 扱いやよつてなあ (だから) アツカイニンや (です)。しなもん (品物) アツカウね (のです)。人、アツカウのと しなもん 扱うのとなあ。

あつかう (扱) (あつかふ) 【他ワ五】 取り扱う。買う 仲介する。

あつかつたのお (あつかつたなう) 暑かつたですね。夏の暑い日の挨拶。

あつかない (赤無) 赤くない。熱してない。あつかねえ 参照 (北、南)

あつかねえ 赤くない。熱していない。[会話] アツカネエ。まだなあ あつこおならせんわれ (赤くなりません)。熟しやせん (熟しません) 言うのを、なんやかや まつかんならなあ (真赤にならなければ) うまかろかれ (うまくない) 言う時も有るしなあ。まだ あからませんわれ (熟しない) 言う時も有るしなあ。あかるで (熟して) こやまあ まつかんなつとられ (真赤になっている) 言う時も有るし。まだなあ、あおくそ (青い) やれ (だ) 言う時も有るしなあ。

あつかまし (厚) 【形容詞】 厚顔である。押しが強い。恥知らずである。(南) [会話] なんやかやくれ (下さい) 言うてとか、頼むとか、人になんでもないのん (のに)、頼んだりして アツカマシ、おら (俺は) あの人らなんも (全く)、知らんのん (知らないのに) 言うよおな。

あつがみ 【名詞】 1) 厚い紙。ボール紙。板紙。馬糞紙。厚紙。(南) 2) 髪の毛の多いこと。毛深いこと。厚髪。[会話] 1) アツガミ こいな (こんな) あつつい (厚い) 紙とかなあ、紙な (が) あつついと、こや (厚いとこれは) アツガミやなあ (だ)。2) そして 髪な (が) よけあんのもなあ (沢山有るのも)、おた (ああ) あつついなあ (あついです)、よけあんなあ (沢山有るな) 言うて言うなあ (言います)、普通の髪より よけあんのもなあ (沢山有るのも) アツガミ。

あつがりや 【名詞】 普通の人以上に暑さを感じて苦にする人 [会話] 暑い 暑い言うていうにげや (人間は) アツガリヤや (だ) さぶい (寒い) さぶい 言うにげや あや (彼は) さぶがりやで さぶや虫で、言うて。

あっかんぺ。 **あっかんべえ**【名詞】拒否。指を下眼瞼にあて赤い所を見せ、同時に舌を出して拒否の態度を表す。(南) [会話] あかべえ言うてな、めえひつちやけよおった (目を開きました)。子供の時分 (頃) は、あかべえ言うて。あかべの尻は くるべな (が) ねずれ (舐れ) 言うて。あかべえは アッカンベエ、そのにげ (人間) によって、あかんべえ言うのも有るし。そやけど (しかし) あかべえ言うのな (が) 多いなあ (です)。それも あかべえも言わんと、べえやれ (だ) 言うて。

あつくるし。 **あつくろし** (暑苦)【形容詞】湿度が高くて熱気がこもった感じで苦しい。息がつまるように暑い。またそのように見える。(志 (布施田)、上、津、安) [会話] アツクルシ、うっとし (うつとうしい) 言うて。アツクルシ言うのは暑い。あつついのおな (暑いのが)、えらいと (大変だと) 暑さな (が) えらいと、アツクロシなあ。

あつけ (暑気)【名詞】1) 発熱。体温が上がって熱くなる事。あつけ、さぶけ 2) 夏の暑さ。炎暑。熱気。(北) 3) 暑気当り 暑さ負け かくらん。(北) [会話] 1) 風邪ひいて熱なすんのを (がするのを) アツケな (が) する。アツケでおこつて言うやんかい (生じてと言います)。アツケさぶけもおこつて。アツケさぶけ言うて、こや (これは) 熱な (が) 出る言う事や (です)。さぶけ (さむけ) 言う時 よおふるて (よくふるえて) くるのを、ふるうのを、さぶけな (が) して言うやんかい。さぶうて (寒くて) 布団着ても、さぶうて言うのなあ (言うのです)。3) アツケは熱い、熱い言うて、言うて かくらん (霍乱) すんのを (するのを) アツケ言うし、昔や (昔は) アツケン (に) 当てられんのを (るのを)、かくらんする言うて。

あつけあたり (暑気中)【名詞】暑気あたり。暑さまけ。熱中症。(桑市、員、多)

あつけさぶけ【名詞】寒さと発熱。熱の出る前に寒さでふるえること。[会話] アツケサブケで おこつて言うてな。ぞおぞおすと さぶうい (寒く) なって来て、ふるて (ふるえて)、こんだまあ (今度は) あつけん (に) なって来て言うて、汗 ぷうぷうかくのなあ (です)、あや (あれは) 熱な (が) さめんと (冷めると) 発生した時との、のを言うんやかなあ (言うのでしょうか)。アツケサブケでおこつて言うて 言よおったけど (言っていました)。わしら (私の) 子供の時分にや (頃には) アツケサブケで よんべや (昨夜は) 言うて、よおなあ (よく) そいな (そんな) 時

な (が) 有ったけど (が)。おおた (ああ) ぞおぞおおこつて 気持なわりわ (が悪るいです) 言うて。

あつけない (呆気)【形容詞】物事が思ったより貧弱、簡単でもの足りない。予期に反し簡単で張り合いがない。

あつけにとられる 事の意外さに驚きあきれてぼんやりしている状態 [会話] おどける (驚く) 言う事やなあ (です)。驚く言う事、もつけな (驚いた) 顔しとる (している)。あの人みよまあ言うんなあ (見なさい言います)。アツケニトラレル言う事やわな (です)。もつけな顔しとるのは一緒や (です)。

あっこ【代名詞】幼児語。あそこ (彼処) の変化した語。あっち、あつちや参照。(志 (布施田)、鳥 (浦村、加茂)、三、鈴市、鈴郡、久、一、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊) [会話] 子供な (が) 言う言葉、あそこへ 行こや (行きましょう) 言うの (のを)、アッコへ行こや 言うやんかい (言います)。アッコへ行て あそでこお (遊んでこよう) 言うて、あすこよお言わんで アッコ言う。

あっこお 赤く (志、北) [会話] アッコオ腫れて言うて。まっかん (真赤に) 腫れて こやれ (これ) 言うて、アッコオなった言うのと、まっかん (真赤に) なって腫れて言うて。できぶつな (出来物) 出来ると こやれ (これ) まっかん (真赤に) なって来たど (来たぞ) 膿んでくんねなあ (来るのだ) 言うて。

あっこおなる。 **あっこなる** 1) 赤くなる 2) 赤面する 3) 熱す (度、北、南) [会話] 1) アッコオナルは まっかん (真赤に) なる。

あつさ (熱、暑)【名詞】暑さ。形容詞あついの語幹に接尾語“さ”のついたもの。温度が高いこと、またその度合。[会話] アツサも寒さも彼岸まで言うて、暑い感じ。アツサな (が) くや (来れば) 寒さ忘れる言うな (のは) びんぼ (貧乏) な時の事 忘れて (てしまつて) なんもかも (すべて) ぜえたく (贅沢) する言う意味で。

あつさ (厚)【名詞】形容詞あついの語幹に接尾語“さ”のついたもの。厚い事、またその度合。

あつさい【形容詞】浅い (志摩市全域、鳥、三、鈴市、久、一、松、多、伊、北、尾) [会話] 水な、すけな (が) 少ない (と)、あそか (あそこは)、アツサイ 言うて。

あつさり【副詞】淡泊なさま。人格、交際、味付け、色彩等に使用。反対どくらし [会話] さっぱりしとる (している) 言う事なあ (です)。味付けもアツサリ。着るもん (物) でもしろっばい (白い) よおな、あや

(あれは) アッサリしとんなあ (している) 言うて。
くろいなあ (黒いのは)、どくらしよおなあ (毒々
しいようだ)、あのいろあ (色は) 言うて、言うやんか
い (言います)。

あつたしや。あつたしやよう。あつたつしやよう【感動

詞】 惜しい。もったいない。困った。あつたしやよう
に同じ参照。あたらおしいの訛りか あつたしや参照
(志) [会話] わつたしやよお、言う人も有るしなあ、
アツツシャヨウ言う人も有るなあ。器量のわり (悪
るい) の見ると、男の人ら アツツシャ あの顔
見よまあ (見なさい) 言うて。おなご (女) は そい
な (そんな) 言葉 使かわせんけど (使かわないが)、
おおたえれ言うの、おおたけれ言うたりなあ。びつくり
して おおた 器量な (が) わりよお (悪るいで
す) 見よ (見なさい) おもた (思った) 時んなあ
(に) おおた、おおたえれ 言うてなあ、言われやせん
し おおたえれまあ めよおな (変な) 事したたん
よお (してしまった) 言うてなあ。

あつただけ 全部、ありつたけ

あつたな 有つたのは

あつたない 有りました

あつたやんか。あつたやんかい。あつたやんかな (女性
語)。あつたやんかれ 有りました 過去、現在共に用
いる

あつたやんない 有つたでしょう

あつたわな 有りました

あつたんかい 1) 有りましたか 2) 有つたのですか

あつたんこ 有つたのですか、有りましたか

あつたんてわい 有つたそうです [会話] あすこい
(へ) いたら (行ったら)、アツタンテワイ言うて。有
つたそおです。有つたそおな (だ) 言うのをなあ。

あつたんやて 有つたそうです、有つたそうだ

あつち (彼方)【代名詞】 あちら、あそこ (志、鳥、三、
鈴市、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、張、名、度、
伊、南)

あつちや【代名詞】 あちらの方。あそこ。(志 (布施田、
鶴方、神明、志島、国府、安乗)、鳥 (加茂、浦村))
[会話] あちら、こちら、アツチャ、こつちや、向こ
う言う事を アツチャ言うて。あちらこちら言うのを、
アツチャこつちや言うて、アツチャべたも一緒や (で
す)。あちら側言うのを、アツチャべた。

あつちやこつちや (彼方此方)【代名詞】 1) あちらこち
ら、方々。(志 (浜島、布施田)、鳥 (鳥羽、加茂)、桑
郡、員、三、四、鈴、安、一、松、上、阿、名、伊、

北、尾、熊) 2) あべこべ、反対 (志 (鶴方、神明、
志島、国府、安乗)、松、名) [会話] 1) アツチャコ
ツチャで 金、借りさがして、戻すの (のを) 知らん
と (知らずに)、アツチャコツチャで 借りさがしとん
ね (ているのだ) 言うて。2) 反対ん (に) なつとん
も (ているのも) アツチャコツチャ向いとる (ている)。
おおたまあ そや (それは) アツチャコツチャや (だ)、
そや 反対やんか (でないか) 言うてな。アツチャコ
ツチャやんかあ (だ) 言うて、反対ん (に) すると
右、左 変つとるとなあ (していると) そや アツチャ
コツチャん (に) しとんない (している) 言うて。

あつちやべた (彼方辺)【代名詞】 あちら側、むこう側
あつちや参照 (員、北、南、熊)

あつちやむき。あつちやむけ 向こうむき [会話] ア
ツチャムケん (に) しとけ (しておけ) 言うて、こつ
ちや (こちら) むけ言うて。あちら向きに しとけ
言うのを、アツチャムケとかんかれ (ておきなさい)
言うて。

あつちやむけ あちらを見なさい

あつつい (厚、暑、熱) あつつう。あつつうい【形容
詞】 1) 厚みがある。物体の一面から反対の一面まで
距離がある。(志 (布施田、神明、立神、志島、国府、
安乗)、三、鈴市、鈴郡、安、津、一、松、多、伊、北、
尾) 2) 熱、暑 物体や液体の体温が自分の体温より
著しく高く感じられるさま。あつい (志 (布施田、神
明、立神、志島、国府、安乗)、三、鈴市、鈴郡、安、
一、松、多、度、伊、北) [会話] 2) 羽虫なわいて、
たあい (田に) 油引きに行くの、つらましかりおつた。
アツツウて。

あつつうう【形容詞】 1) 厚く 2) 熱く 3) 暑く 4)
密に、多く (北)

あつづら (厚面)【名詞】 1) 面の皮の厚い事。ずうずう
しい事、またそのさま。2) 器量の悪い顔 [会話]
2) 顔なだ (が) あつつうて (厚くて)、あつつうい
(厚い) 顔の人な (が) あるやんかい (有ります)。う
すづら言うな (のは) うすすら (薄く) した、器量の
ええ (美しい) ひた (人は) うすづらやなあ (だ) あ
の人言うし。あつつうい (厚い) 人間は、顔な (が)
アツツラで おとしよおなあ (怖いようだ)。1) 面
のかあな (皮が)、あつつうい (厚い) 言うて、アツツラ
で、あんな (彼が) アツツラで、こお (子供) もあつ
たんけど (あつたが)、いきうせん (行失、夜逃げ、蒸
発) して、こらつたやんかい (来ませんでした)。

あつてものおても 有つても無くても 有ろうが無かる

うが どおしても 寄附 税金などに言う。

あつてこのよのばしよふさぎ【名詞】【俚諺】老人を言う
あつてや(あてや) はいそうです(志) [会話] 返事、返事すんの(するのです)。アツテヤ言うのは、いっぺん(一変)言うても 又 聞くやろ(でしよう)。くどく(うるさく、何度も)聞いて来た時ん(に)、いっぺんやどきは言わせんねけど(などでは言わないが)、何度も聞くと、せせかし(面倒に)なって来て、アツテヤ言うて。

あつとふまえ【名詞】舟の櫓を漕ぐのに力を入れる踏み台、同時に小物も入れている あとふまえ参照

あつない【形容詞】 1) 厚くない 2) 熱くない 3) 暑くない(松、尾) [会話] 3) 今日ではまあ アツナイなあ(です)言うて。秋口になるとさぶい言わんと(寒い言わずに)アツナイ。

あつなる 1) 厚くなる 2) 熱くなる 3) 暑くなる 4) 熱中する 夢中になる(伊) [会話] 2) 3) アツナツテ来たなあ言うて。

あつば(厚歯)【名詞】下駄の歯の厚いもの [会話] アツバヤ(だ)言うて高下駄のはあ(歯)のあつつういのおで(厚いので、学生な(が)、しろい(白い)鼻緒の、ふつといのお(太いのを)つけて履いとりおったやんない(履いていたでしょう)。

あつばい(あつばい)(熱灰)【名詞】熱気の残っている灰 [会話] 芋 焼くのん(に)アツバイへ埋めとくと(ておくと)ふうわりと、よお(よく)焼けて 旨いわれ(旨いです)言うてな。ぬくたみ(温かみ)の有る、熱い ひい(火)焚いた後の灰なあ(です)アツバイや(だ)言うて。磯(海女)いて(行って)ひい焚くやんない(でしよう)、そすとなあ(すると)砂も あたたいし(熱いし)、灰な(が)残つとるやんない(ているでしょう)、それい(へ)芋を 突つ込んどいてくと(でおいで行くと)、こげえもせんと(焦げもせず)ふうわりと 焼けんねてや(るのです)、蒸し焼きん(に)。熱気な(が)残つとる(ている)言うんか(言うのか)余熱やわいなあ(です)言うて。

あつぱっぱ【名詞】 1) 下着をつけていない事 2) しまりのない人 3) 婦人の単服(志(鶴方、立神、神明、国府、安乗)) [会話] 1) あや(あれ)、アツパツパでおんね(いる)言うて、下着つけんとおる(つけづにいる)事なあ(です)。2) しまりな(が)、のおて、なんも(無くて、全く)とんちやくな(頓着が)無いにげな(人間を)アツパツパや(だ)言うて、あけほけみたいなにげやなあ(のような人間だ)言うて。

3) いじん(異人服)や、単服言うのは、アツパツパ言う。単服言うのを、いじん言うたり、アツパツパ言うたり。

あつぷあつぷ【副詞】 1) 水に濡れかけて、もがいているさま。非常に困って苦しんでいるさま。濡れている状態 2) 転じて生活の苦しいさま。(上、阿) [会話] 1) 水に濡れてアツプアツプしとる(している)言うて。濡れて、浮いたり、沈んだりすんのを(するのを)アツプアツプしとる言うやんかい(言います)。

あつぷう【感動詞】赤ん坊をあやす言葉 赤ん坊の始めての発音(志(布施田))

あつぺ【名詞】 1) 汚い事。汚い物。ぺっぺとも 幼児語(多) 2) 馬鹿 3) 嘔吐(南) [会話] 2) アツペ言うて。あんごし(馬鹿)事を アツペよ。3) よけ(沢山)食うとなあ 出て来ると アツペする程 食うて(食べて)言うて。今日は うもお(美味くて)アツペする程 よばれたよお(食べた)言う時な(が) 有るわい(有ります)。食べ過ぎて げえげえ(嘔吐)して来る事を アツペする。1) 汚ない言うな(のは) ぺっぺやなあ(だ)言うて、2) わり(悪るい)ことすると アツペよいうて。

あつべたい。あつべたい【形容詞】 厚い(安、上、阿、張、名)

あつぼ【名詞】 1) 馬鹿 幼児語(多、上、阿、張、南、熊) 2) 帽子 仏語 Chapeauから [会話] 1) 阿呆の事、子供にアツボよ(奴)言うて。

あつぼけ【名詞】阿呆。馬鹿(志) [会話] 阿呆よ言うのなあ(です)。アツボケよ、アツボケや(だ)言うてな。

あつぼったい(厚)【形容詞】 厚くてふくらみを感じさせるさまである。紙、織物、唇などに用いる。[会話] かさな(高さが)厚い事を、アツボッタイ言うね(言うのです)。服でも よけ(沢山)着るとまあ おとっしや アツボッタいなあ言うて。きもん(着物)の生地でも厚いと、こや(これは)アツボッタいなあ、アツボットオテ(たくて) こしらえにくいなあ(作りにくい)言うて。

あつぼち。あつぼちや【名詞】馬鹿 馬鹿者め 幼児語 [会話] 阿呆の事を アツボチよ言うねな(言うのです)。子供に言う時は アツボチよ、アツボチャ言うてな、ちよいと(少し) わり(悪るい)事すると。

あつぼん【名詞】 1) 帽子 幼児語(志、阿、上、張、北、尾) 2) 愚か者。愚者。馬鹿。阿呆。(多、阿、上、南、熊) [会話] 1) アツボン言うて シャツボン(帽

子)を。子供らな(が) えごと(完全に) よお言わんもんで(言えないので) 帽子の事を アッポン。シャッポン言うて よお言わんやんない(言えないでしょう)。そやよって(だから) アッポン 被れよお(被りなさい) 言うてな。

あつまり (集) 【名詞】 集会、会合、よりあつまり [会話] 集まって来る。こやええ(これはよい) アツマリ やなあ(だ) 言うて。今日は ええ(よい) アツマリ や(だ) 今迄 こんだ(来なかった) 人も来たよって(から) ええ(よい) アツマリ やなあ(だ) 言うて、よけ(沢山) あれもこれも寄って来た時ん(に)。

あつみ (厚) みは接尾語。厚さの程度。厚い事、また厚い感じ。[会話] アツミな(が) あんなあ(有る) 言うて、こや(これは) 厚つついなあ、うっすい(薄い) なあ言うてなあ。おおた 此の布団 どいらい(大変) アツミな(が) あんなあ 言うて、嵩な(が) たっかい(高い)、厚さな(が) たっかいと こやどいらい(これは大変) アツミな(が) あんなあ 言うて。

あつらえ (あつらへ) (詠) 【名詞】 1) 特に注文して作ってもらう事またその物 2) 依頼する 3) 買う手に入れる [会話] ② アツラエといたよお(ておきました) 言うて、こおて来といてくれえ(買って来ておいて下さい) わし(私) も お前な(が) いたら(行ったら) 言うのなあ(です)、伊勢行くね(行くのだ) 言うたら、おれげ(俺の家) も あれ こおて来てくれえ 言うて、頼むのをなあ アツラエた(てやった) 言うて。① きもん(着物) や 服でも注文して作って貰らうのを、アツラエといて (ておいで) 来た アツラエもんやどお(物だ) 言うて。

あつらえもん (あつらへもの) (詠物) 【名詞】 1) 注文品 既製の物でなく特に頼んで作った物 あつらえ参照 2) 買い物に依頼した品物 頼んで買って貰った品物

あつらえる (あつらへる) (詠) 【他ア下一】 1) 頼む。注文する。(志) 2) 頼んで手にいれる。預ける、話す。3) 托す [会話] ② 物を頼む事な(です)、あの人ん(に) アツラエてあんね(有るのだ) 言うて。これ こおて(買って) 来てくれえ(下さい) 伊勢行くん(なら) 言うて頼むとなあ、あの人に アツラエトイテあんね(ておいて有るのだ) 言うて、頼んで有る 言う事を。こおて 来てくれえ 言うて頼のんだり、もおて(貰らって) 来て呉れ言うて 頼のむの、アツラエル アツラエテあんねよってん(有るのだか

ら) 言うて。

あて (当) 【名詞】 頼りにする。頼る。見こみ、期待 あつるの名詞形 (伊) [会話] アテンしとる(している)、おまえげ(お前の家、アテンしとんねよって(しているのだから) 言うて、アテンしとたのん(していたのに)、すっぽかされたよお言うやんかい(言います)。お前家な(が) してくれる言うもんで(ので)、アテンしとんのん(しているのに)、すっぽかされた言うて。

あて (当) 【名詞】 酒の肴 アテとは酒を飲むに肴あり、飯を食するに菜あり、是をアテと言う。心当たりにして楽しむ、則ち 当 (アテ) なり、(宇治秘言) (多、張、伊、度) [用例] 酒のアテン (に) しょから(塩辛) こさえた(作った)。

あて (償) 【名詞】 なれる [会話] アテンなつとんね(なっているのだ)。わるいて(叱って)、わるいて、じょつく(いつも) わるいとるとなあ(叱っている)、まあ じょおくの事やのん(だのに) 言うて、知らん顔しとんの(しているのです)、アテン (に) なつとんねやれ(なっているのだ)。いつでも あいな(あんな) 事言うとんね(言っているのだ) おもて(思つて) 知らん顔しとるやんかい(しています)。言われた事ばつか (ばかり) 言うて、知った事か おもて(思つて)。勉強しええよお(しなさい)、勉強しええよお 言うてすると、アテン (に) なつて(なつていて) 聞かせんのなあ(聞かないのです)。聞き慣れとて (ていて) 耳い(へ) 入れやせんの(入れないのです)。そいなの (そんなのを) まあ アテン (に) なつとんね、まあ あや(彼は) 言うて。じょおく 言うてばつかおるよって (ばかり居るから) アテン (に) なつてかれ(なつて行く) 言うてなあ。

あて 【名詞】 皮肉 あてうた あてこすり参照

あて …づつ 一人千円アテ出して

あてうた (当歌) 【名詞】 人にあてこする意味を持って歌う歌。皮肉を込めて歌う歌。[会話] 秋しにいて(秋の収穫に雇われて行って)、よなべん(に) 白 摺らすんやんかい(すのです)。そすと最後(その時)、わがとら(自分達) こそこそ食うとると(食べていると)、アテウタん(に) “団子したとて、わがとばつかくろて(自分ばかり食べて)” 言うて、白 摺りもて(ながら)、そげん(そんなに) 言うて、歌、唱いおったの(唱って居たのです)。アテウタしとると(していると)、気な(が) ついて、あんたら(貴方達) も食わんかい(たべなさい) 言うて、来ると、又 白 摺すつとるもんな (者が) “そやあれみいたけなあ、食わんか

と言うて来たぞよおい”言うて 白 摺りおったの (摺って居たのです)。あんまり、わがと (あまり自分) ばっか食らおて、言うて唱うもんで (ので) 気なつくんやろなあ (がつくのでしょうか)。

あてがう (あてがふ) (宛行) 【他ワ五】 1) 当てる。当てはめる 2) 与える (志 (布施田)) [会話] 1) たあ (田) のすんぼ (寸棒、長さを決める棒) 言うのは、たあうえ (田植え) の間隔、すんな取って (長さが決めて) あって、綱ん ちよぼな (点々が) 打ってあんの (あります)。それい (それへ) アテゴといて、それめあて (目印) に植えてくと (て行くと)、まっすぐんなんの (になります)。

あてごお (あてがふ) (宛行) (先行) 【他ガ五】 1) 分配する。与えた。あてごた 2) ぴったりと当ててくっつける。

あてこすり (当擦) 【名詞】 他の事にかこつけて悪口や皮肉を言う事。またその言葉。皮肉。あてこする参照。[会話] アテコスリ言うて、直接なあ あんた (貴方) どけな言わんとなあ (どんなの言わずに)、とおまあし (遠回し) かけて言うのを、アテコスリンなあ (に)。例え事みたよん (のように) して言うのを アテコスリや (だ) 言うて。歌はうとでも (唱つても) あて歌 嫌い、たばか (煙草は) 吸うても やにや (は) 嫌い言うて。

あてこする (当て擦る) 【他ラ五】 あてつける 付ける 他的话に事よせ、遠まわしに悪口や皮肉を言う。他のことにかこつけて、又それとわかるように相手の気に障ったりするようなことを、言ったりしたりする。[会話] アテコスル言うな (のは)、直接言わんと さぐる (探る、相手の気持ちを推測する) よおに言うのをアテコスルや言う (だ言います)。あてつけるもよお (よく) 似たもんや (ものです)、一緒みたいな (のような) 事や (です)。

あてこと (当事、当言) 【名詞】 1) それと当てて頼みにすること。期待。2) 皮肉。風刺を言う時に使う言葉。(津) 3) 謎々 [会話] 1) そおやろ (そうだろう) とか、今日は来るやろど (だろう) とか言うて、此処らの考を やろ言うて。アテコトみたよん (のように) えごつと (完全に) 判らんで (なくて) 来るやろ (だろう) ぐらいで、話しする時な (が) 有るやんかい (有ります)。

あてごとく 1) 当てておく 2) 与へておく

あてごとけ 1) 当ておけ 2) 与えておけ [用例]

1) えごつと (完全に) アテゴトケよう。かいつて (倒

れて) 来ると はざんよつて (駄目だから)。

あてこむ (当込) 【他マ五】 1) 期待する。よい結果になる事を期待する。2) 期待以上の好い結果が出る [会話] 2) アテコンダナア 言うて、大漁して来ると今日はまあ なんもはざん (全く駄目) おもとたのん (思っていたのに) アテコンダナア言うて。大漁して来ると ええあたりやつた (よい結果だった) 言う事を。風な (が) わりのん、なんも (悪るいのに全く) はざんやろ (不漁だろう) おもとたのん 大漁して来ると、アテコンダナア今日は言うて。1) あれん (彼に) 頼んで有るよつて (から) あてんしときやええね (しておけばよろしい) 言うて、アテコンどんね (でいるのだ) あてんしとんね (しているのだ)、たので (頼んで) 有るよつて。

あてざけ 【名詞】 自棄酒 [会話] アテザケ 飲んで言うやんかい (言います)。あてんなつて 言うて言うてと 自棄ん (に) なる 言うのなあ。

あてして 期待して

あてすつぽ。あてずつぽ 【名詞】 【形容詞】 いい加減な推量で事を行うこと。又そのさま。目的なしに行うこと。当て推量。おおよそ。あてずつぽうの急呼 (志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、松、上、阿、張名、鳥、北、尾、南) [会話] アテスツポとか、アテズツポ言うな (のは)、けん (見討、考へ) 無しん (に) しとる (している) 言う事や (です)。まと (目的) 無しん (に) する言う事や。

あてた 1) 目的通りになった 2) 儲けた 3) 偶然に利益を得た (志 (布施田))

あてつけ (当付) 【名詞】 皮肉、他の事にかこつけて皮肉な態度をとること。いやがらせ。(上、阿、南) [会話] アテツケ言うのは、直接言わんとなあ (言わずに) おおへち (大外) 廻つてな、アテツケン (に) あや (彼は) あげな (あんな) こと おらん言うねどお (俺達に言うのだ)、アテツケやどよ (だぞ) 言うてなあ。直接言わんとなあ (言わずに) すかん (嫌な) ことを言うのなあ、皮肉やなあ (です)。〇〇な嬬な 後妻やつたもんで (だったの) こじと (小姑) に アテツケン (に) ど (樽) 漕んどて (漕いでいて) “ああ 飲まれん群飲んで 尻の先迄突き通つたてや” 言うてな。飲まれん すう (酔) 飲んで、ごおなわいて (腹が立って) ごおなわいてしとんの (しているのを) しんぼ (辛抱) して、しんぼしとて (辛抱して) 尻の先迄 突き通つた言うてな。

あてつける (当附) 【他カ下一】 1) 人の心に当てて覚る

様に言う あてこする 2) 割り当てる 3) 男女の仲のよいのを見せつける

あてど (当所、当処) 【名詞】 目あて 心当り 目的 目標 [会話] アテドも無しん (に) 言うやんかい (言います)。目標も無しん (に) 言う事を、当もなしに何処い (へ) でもいて (行って) 言うて。銭ものおておつて (無いのに) 物を買うとなあ、当ものおておつて (無いのに) あげん (あんなに) 買いまくつて (沢山買って) 言うて。アテド言うのも 一緒やわいなあ (です)。アテドも あても無く言うのも。

あてにしやせん 頼りにしない 期待しない

あてにする。あてんする 1) 信用する。信頼する。2) 頼りにする。[会話] 1) アテンスル言うのは、註文もん (物) を その人な (が) してくれるよつてん、おもて (から思つて)、こつちや (こちらは) 思い切つとんのん (て居るのに)、信用しとる (している) 言う事や (です)。

あてにならせん。あてんならせん 期待出来ない。あてになる参照

あてにならん。あてんならん 期待出来ない。信用出来ない。

あてになる。あてんなる 信用出来る。頼りになる。[会話] アテニナル言うのは、頼りになる言う事やわい (です)。頼りになる言う事やし (です)。あてんする言うのは 頼りにしとる (している) 言う事。アテナラセンラ (ならない) 言うて。あいな (彼は) あてんしたらはざん (してわ駄目だ) アテナナロカレ (無らない) 言うてな。

あてになる。あてんなる 1) 慣れる。すれてくる。(志 (布施田)) 2) 自棄になる。[会話] 1) 言うても聞かんと (幾度言つても聞かない)、あや (彼は) アテナツテタ (なつて行った)。じよつく (いつも) 言われとるもんで (ているので)、まいんちまいんち (毎日毎日) うなし (同じ) 事、言うもんで (ので) アテナツテ来た、アテナツテ 聞かせん (聞かない)。あて言うて、すれてく言う事、いくら言うても 聞かせんね (聞かないのです)。2) アテナナル言うて、自棄になる事を アテナナル言う事も有るなあ (有ります)。あて (自棄) 酒飲んで 言うやんかい (言います)。アテナツテ言うて 自棄ん (に) なる言うのなあ。

あてもん (中物) 【名詞】 1) くじ引き 2) 推理 などかけ (熊)

あてやい 【名詞】 当て合い 推理を働かせいづれの考え

が勝るか競う事 アテヤイしょおや (しましよ)。

あてよみ (当読) 【名詞】 いい加減に推量して読むこと。

[会話] アテヨミ言うのはなあ、勸進帳の空読みも一緒に、知らんとおつて この字や (は) “カ” のじいや (字だ) 言うこた (事は) 知らんとおつて (知らずに居て) “カ” かいな (だらうか) おもて (思つて) アテヨミ。父さん じい知らんし (字知らない)、子供らん (に) 問われても、甲と言う じいやろなあ (字でしょう)。引つぱつとると (ていとう) ええな (柄が) 長いもんで (ので) そや (それは) 杓と言う じいやれ (字だ) 言うたや (言つたら)、なしてえ (どおしてですか) 言うたや、ええな なんがいやんかあ (長いでないか) 言うて。

あてらあ はい、返事の言葉。当つて居ます。その通りです。[会話] 挨拶や (です)。はい言う事や (です)。畑、行くんかい (のですか) 言うやんない (言うでしょう)、それを いくんこお 言うて、アテラア 言うねやんかい (言うのです)。あんたら (貴方方) 畑 行くんかな (のですか) 言うて、はい言う事を、わいら (貴方方) 畑い (に) いくんこ言うて、アテラ 言うてな。

あてられる あたる (当、宛) 【他タ五】 1) 蕁麻疹の出ること。害になる物によって体などが損なわれること。あたり 飲食物や暑さなどで健康が害される事。あつけあたり、みずあたり 2) のろけ話しを聞かされた時。3) 勢いよくぶつつける [会話] アテラレル 1) 蕁麻疹の時もあるし、3) けつまげ (つまづく) たりして、あてたんのも (てしまうのも) アテラレル言うやんない (でしょう)。あてて、うるくさないつたんよお (皮下出血が入った、できた) 言うて。

あてる (当) 【他タ下一】 与える。分配してその一部を与える。[会話] なんか (何か) 分けて、お前も 一代 (ヒトシロ) アテル。一代 あんた (貴方) も アテルわい (当てます) 言うて。三つん分けて あんたも 一代あたれえ (当りなさい)、あんたも 一代アテルわい言うて。

あてんしやせん 期待しない

あてんする あてにするに同じ

あてんなる あてになるに同じ (志 (布施田))

あてんなるかれ 信用出来ない 頼りにならない あてになる参照

あてんもこてんもならん 期待出来ない

あと (後、跡) 【名詞】 1) 跡目。後継ぎ。あとたてる参照 2) 残り 3) 以前 (志) 4) 以後 のちほど

5) 後任

あとあと (後後) 【名詞】 これから先 以後 向後 将来

【用例】 アトアトの事も考えて

あといざり 【名詞】 前を向いたまま、後ろにさがること。

尻込みすること、後ろの方へのがれること。あとひざり参照 (阿) 【会話】 アトイザリ言うん (言います)。アトイザリ言う人もおるやろの (いるでしょう)。いろいろそのにげ (人間) によって。さがることをなあ、アトイザリ。

あといりさんばい 【俚諺】 酒席に遅くなった者に酒を進める言葉 おそいりさんばい (上、阿、張、名)

あと生まれ (後生) 【名詞】 四月二日から十二月三十一日

迄に生れた子供。学令期が四月一日からのため、翌年の一月一日から四月一日迄に生れた子供を、はやうまれと言うのに対して、おそうまれとも。【会話】 はやうまれやよってんな (だから)、ななつやなあ (七才です)。しんがつ (四月) 迄な (が)、それ迄ん (の) のは やっつかい (八才ですか)。七つのぼりと 八つのぼり (入学) と、はや生れと おそ生れん (に) なくてくんなあ (行きます)。おそ生れ言うのを アトウマレや (だ) 言う人もあんの (有ります)。

あとおい (あとおい) (跡追) 【名詞】 1) 先に行く者の

あとから追って行く事。又その人。2) いつも人 (母親) につきまとっている子供 (あとつき) 【会話】 1) 後 おおてたんでわれまあ (追っていったそう) あの人あ (は) 言うて。とおさんな (主人が) 死んでたら (でいったら)、かか (妻) も アトオオテ、いたんでない (追って死んで行ったそう) 言うてなあ、死んでくと (で行くと) 言うやんかい (言うで有りませんか)。2) 親の後ぼつか (ばかり) 付いとんのを (ているのを)、しりつきしとるとなあ (している)、おおた さへじみたいん (小判鮫のように) アトオイヤ なあ (だ) 言うて。後い (へ) ぼつか (ばかり) 付いとるのおを (ているのを)、さへじな (が) ついた位やなあ (だ) 言うてなあ。しりづき、あとづき 後い 付くのを アトオイ、親のアトオイで言うて。

あとおさえ (後押) 【名詞】 食事の後、物をすぐ食べる事、又その物

あとおし (後押) 【名詞】 1) 荷車などの後を押して助ける事 2) 転じて助力する事、その人。後盾。後援。

あとおもい (後思) 【名詞】 自分が嫁に行った後の実家の生活を心配する事 (志) 【会話】 家思いとか、アトオモイとか 言うてな。家思いで どっこいも行かんと (何処にも行かずに) しんしよ (身上) のたそく (助

け) して 言うて、家 思うのを アトオモイヤ (と) 言うのなあ (言のです)。後 思うもんでなあ (ので) 言うて。思う言う事は考え 後の事を考えて嫁にも 行かんと 家の たそく して、わし (私) が いたら (行ってしまったら) 後が なっとなるかい なおもて (なんとなるか思つて) 心配して すること やるな (でしよう)。

あとかき (後昇) 【名詞】 棺の後棒をかつぐ事、またその人。喪主以外の最も近親の者がこれに当る。あとつり参照。(志)

あとがね (後金) 【名詞】 支拂いを後でする事 あとばらい参照

あとがま (後釜) 【名詞】 1) 後任 (上、阿) 2) 後妻

(志、鳥、(坂手、鳥羽)、上、阿、張、名、南) 【会話】 2) アトガマ 言うな (のは)、後妻に 入ると、あの人 アトガマ に 誰それな (が) 入つて言うな (言います)。後妻 言うてもええし (よいし) アトガマヤ (だ) 言うのも 有るしな、同じ意味やけどな (です) 男でも女でも 一緒やわいなあ (です)。アトガマん (に) なつた 言うてな 後添 言う事やわいな (です)。

あとから 後刻 うしろから 遅れて (志 (志島、浜島)、

鳥 (鳥羽、坂手)、上、阿、張、名、尾) 【会話】 これしたたのん (してしまったのに) また アトカラ 来て言うのと 一緒 だな、アトカラ くんのも (来るのも) アトカラついて来た 言うし、遅れて くんのも (来るのも) アトカラ来た 言うし (言います)。

あとからこい。あとからこいや 1) 自分の優位を誇示する (志 (布施田)) 2) 簡単だ

あとくち (後口) 【名詞】 1) 食べた後の口の状態 2) 順番が後である事 3) 喋つた後 【会話】 1) 食べた後の口の状態や。アトクチ言うのは。

あとくちわり 1) 食べた後が悪い (上、阿) 2) 何かした後、そのした事に後悔する 【会話】 1) アトクチワリ 言うななあ (のは)、なんやかや (いろいろ) 食べて、どいらい (大変) 美味しい おもて (思つて) 食べても 油つ濃いもん (物) 食うたり (食べたり) すると、アトクチナワリ いて (悪くて) 口直しん (に) なんかほしなあ (欲しい) 言うて。おいしい おもて 最初のうちや (内は) 食べんねけど (るのだが) あとでなあ、油濃いもんや (物とか)、あんまり (あまり) しょからいもん (塩辛い物) 食べたりすると、アトクチナワリやんかい (悪いです)。口直しん (に) なんか ほしなあ 言うて。2) 自分が人ん (に)

なんか したて (してやっ) 後で わりおもた (悪い思った) 時も 言うなあ (言います)。あれ したたけど、あんな (してやったがあれが) よかったんかいな (のだろうか)、わりかったんかいな (悪かったのだろうか) おもてな (思って) そお言う事も 有るなあ (有ります)。そして あいな (あんな) 事 言うたて (言ってしまった) アトクチナワリな 言う時な (が) 有るんな (有ります)。人ん (に) もの 言うた (言った) 時でも、ちよっと (少し) 気に入らん様な事 言うたて (言ってしまった) 後悔する様な もんやなあ (ものです)。

あとこと (後事) 済んでしまった事。それに対する愚痴。
あとことば参照 (志 (布施田))

あとことば (後言葉) 【名詞】 あとにつける言葉。余分な喋り。[会話] アトコトバな (が) わりわれ (悪いです) 言うて、よお言うやんかいな (よく言います)。後でだ 言う事をなあ、言い残すよおな事 言うて、アトコトな わりわれ 言うて。後でなんやかや (いろいろ) 小言言うて、アトゴト 言うな 言うてなあ。あの時 こげんしたや (こんなにしたら) よかったのん (のに)、あげんしや (あんなにすれば) よかったのん、そいな (そんな) 後から幾ら言うても 間に合わへんやんない (合わないでしょう)。そいな (そんな) アトコト 言うな 言うてなあ。アトコト 言うのは 後から言う言葉。仕事な (が) 済んだのおになあ (のに) 後でなあ 言うの (のです)。

あとごり 後ろから盗んでいく [会話] あんたな (貴方が) なんか こおて (買って) 来て、貯めとくと (ておくと)、それを 後から盗んだり、持てたりすんの (するのを)、しりごりした 言うて。アトゴリ とか、しりごり とか言うて。

あとさき (後先) 【名詞】 1) 前後、場所、時間のあととさき。少しの間。(上、阿、北) 2) 前後して 間隔を置かずに [会話] 1) アトサキ 考えんと 喋ってまあ 言うてなあ。なんでも (何でも) 人な (が) おんのん (居るのに) その人げ (家) の わりくち (悪口) 言うたり するやんない (するでしょう)、その人な (が) おんのん 後も前も 考えんと (考えずに) あいな (あんな) 事言うてまあ 言うてなあ。2) アトサキ ん (に) になって いて (行って) 言うて 前と後ろになって 行くのを、道 歩くのも あの人と アトサキ (に) になって いたねよお (行ったのだ) 言うて。アトサキ で 来た 言うて、ちよいと (少しの) 時間で。

あとさきかんがえて。あとさきふまえて 前後の事 周囲の状況を考えて あとさき参照 (志 (布施田))

あとさし (跡差) 【名詞】 一組または一枚の布団に枕を両端におき頭、脚を互いに反対に置き寝る状態。一方の頭側に他方の脚がくる。(志 (鶴方、神明、安乗)、松、多、阿、張、名、北、尾、南) [会話] 寝る時、互い違いに寝る言う事やアトサシは。

あとさす 1) 収支つぐなわす支拂が多くなる 欠損が出る (志 (布施田、甲賀)) 2) 後に影響が残る [用例] 2) 人の悪口を言うて、アトサスよって 言うなよ (言うてはいけない)。

あとざん (後産) 【名詞】 胎児を分娩した後、胎盤が卵膜や臍の緒とともに排出されることを言う (員、四、多、上、阿、名、度、北) [会話] こおもおけた (子供産んだ) アトザンな (が) 出やんで (出なくて) 言うて。アトザン ひっぱとて (ていて) 言うて、よお (よく) 言うやんかいな (言います)。子供と一緒ん (に) 出てくんのも (来るのも) 有るし、アトザンな (が) 後から 出て来んのも (来るのも) 有るしなあ。

あとしまい (跡仕舞)。あとしまつ (跡始末) 【名詞】 後片付け [会話] 最後を片づけん (る) のをなあ アトシマイ。アトシマイ も えごとせんと (十分にしないで) 言うてな 広げさがしとくと (ておくと)。

あとぜん (後銭) 【名詞】 品物を買う時、先に品物を貰って、銭を後刻支払うこと [会話] 品物こおて (買って) アトゼン 払いんいて (に行つて)。今し (今) ぜん (銭) 持つとらせんよって (持っていないから) あ とばらいん (に) してくれえ (下さい) 言うて。節季に取りに来る つけとちごて (違つて)、もおて (貰つて) 来て、又後で ぜん (銭) 払いん (に) 行く アトゼン。

あとたてる (跡立) 当主が死んだ後を継いで、家督を相続する (四) [会話] しんしょもち (身上持ち、跡継ぎ) 跡取の事 アトタテル 言うてな。アトタテルも んなのおて (者が無くて) まあ 言うて。跡持ちな (が) 無いとな、婿もおて (貰つて) アトタテルも んな (者が) 有るけど (が)、婿な無い と あの家や アトタテルもんな 無いね (のだ)、こおなのおて (子供が無くて) とか、他所いたて (行ってしまつて) とかな 言うてな アトタテルもんな 無い。

あとつき 【名詞】 いつも母親にくっついている子供 [会話] アトツキかい (ですか)。しりづき あとおい と一緒で いつも 母親 おわえとる (追つている)、しりづき 言うの (のです)。

あとつぎ (跡継) 【名詞】 家督をつぐ人 家督相続人 (上、阿) [会話] アトツギ 言うな (のは) 跡取りの事をな。アトツギ 言うねよってな (言うのだから)。

あとつり (後吊) 【名詞】 棺の後を持つ人 あとかき参照 (志) [会話] 葬式の時、二番目に濃い (血縁の近い) 人 アトツリ。一番濃い人は位牌持ち、その次男の方で、おなご (女) は 水持ちな (が)、こいね (濃いのです)。

あとで 後刻 (志 (鶴方、御座、片田)、鳥 (相差、答志)) [用例] アトデ もて来るわい (持って来ます)。

あととあとと 【感動詞】 となえ言葉 祭りの唱え言葉 [会話] アトトアトト 言うて、おしよおじ (祭り) でな、てえ (手) 合わせて とごつてきおって (沈んで行きました) 潮浴びん (に) 行くと アトトしよおやんか (しましょう) 言うて。

あととう (跡坊) 【自五】 亡き人を弔らう 法事をする

あととり (跡取) 【名詞】 跡を継ぐ人。相続人。長男。男子。あととりむすめ参照 (志 (全域)、鳥、鈴市、上、阿、張、名、南、熊)

あととりむすこ (跡取息子) 【名詞】 家督を継ぐ男、長男、一人息子 (桑) [会話] アトトリムスコ 言うと 家を継ぐ男の子。兄貴な (が) 弱いと、兄貴、隠居さして (させて) 弟でも 誰でも 兄貴な (が) おや (俺は) 此の家いなんよって (要らないから) おととん (弟に) 継がして わしゃ (私は) 他所出てくねよってん (出て行くのだから) 誰ん (に) でも 継がしてくれ 言うて 言や (言えば)、誰ん (に) でも 継がしやえ (承) えけど (せよい) (が)、兄貴な (が) しよおたく (承諾) 無しには 出来やせんわい (出来ません)。

あととりむすめ (跡取娘) 【名詞】 長女、一人娘。婿を貰って家を継ぐ娘 [会話] おなご (女) なら 婿取り なしな (ですし)、アトトリ 兄貴な (が) 嫁貰う 家継いでくれるのを。

あとに (後荷) 【名詞】 車、船などに、荷物を積む時、重心が後ろにあり、平衡がとれない状態の積み方 [会話] アトニん (に) になって 引かれやせんわれ (引けません) 言うてな。車、荷物積むとな 後ろな (が) おもたい (重い) と 最後 (その時)、おり坂 (下り坂) になると つつと して来てな、あぶのおて (危なくて)、ちよいと (少し) 前 積んで 前な (が) おもたい (重い) 位な (が) 前上げて、後下げるよって (から) ええんけど (よいのだが)、おり坂ん アトニつけると、引かれやせん (引けないのです)。あぶのおて そやよって (だから) 荷積む時 前荷ん (に)

程 積み言うて。

あとのからす 遅れているもの。遅れているものが先になること。(上、阿) [会話] アトノカラス な (が) 先ん (に) なったとか 言うてな。物の例えを 言う時、そいな (そんな) 事 言う時も あんなあ (有ります)。アトノカラスな 先ん (に) なって まあ 言うて。

あとのつき (後月) 【名詞】 過ぎ去った月。前の月。先月。(員、上、阿) [会話] 過ぎてた (ていった) 月、すんだ (終わった) 月。それを アトノツキ。

あとのとし 【名詞】 過ぎ去った年。前の年、先年 [会話] アトノトシ 言うて、去年言う事やわい (です)。アトノトシになれ (です) 言うて、まへのとし 言うのも 一緒やけどな (だが)、アトノトシ言うて 去年になつてくんかいなあ (なるのです)。

あとばら (後腹) 【名詞】 出産した後の腹。特に腹痛を言う。(志 (布施田)) [会話] こおもおけた (子産んだ) 後なあ、アトバラな (が) いとおて (痛くて) 言うてなあ。あとざんな (後産が) 出た (出ていった) 後でもなあ ま、一週間位 アトバラ いためとる (痛くしている) にげな (人が) 有るなあ (有ります)。アトバラな いたいのも どいらい (大変) 気持ちの わりもんや (悪いものだ) 言うて、ものすごお (大変) アトバラ 痛いんわな (そうです)。

あとばら (後腹) 【名詞】 後妻の生んだ子供

あとばらい (あとばらひ) (後払) 【名詞】 代金を後で支払う事 [会話] 運賃アトバライ 言うのと、先払い言うのと有るやんかな (有ります)。しなもん (品物が) こんうちん (来ない先に) 先払いして、しなもん (品物が) 来て 払うな (が) アトバライな (です)。買う時でも しなもん (品物) もるといてから (貰っておいてから) 後で払う、今し (今) ぜん (銭) 持っとらせんね (てないのです) 貸してくれえ (下さい) 言うて、かって来るやんかな (借りて来ます) そして 後で 払いん (に) 行くの (のです)。

あとひく 1) 食べた物が美味で更に食べたくなる
2) 後々に結果が残る色々な事が起る (志 (布施田))

あとひざり 【名詞】 あといざりに同じ。あとしざり (後退) の変化した語。(志 (鶴方、神明、甲賀、国府、安乗)、鳥、度、) [会話] アトイザリ。後ろ向いて行くのを、敵あげても アトイザリん (に) あげる やん (ない) (でしょう)。打つのは 先、向いて打つてくし (て行きます)、あげんな (あげるのは) アトイザリん (に) あげてくし。何か物事する時んなあ (に)、むつ

かし(難しい)よおな 時んなあ(に)、よおせん(出来ない)人を アトヒザリ したんでわれ(していた) そうだ まあ 言うてなあ。商売する時やと(だと) 出来やんもんで(出来ない)ので やめる。競争する時でもなあ 人はまあ 皆 行くし、わがた(自分は) それ よお行かんと(行かない)と アトヒザリしとて(して)いて。おとしがって(怖がって) アトヒザリしとる(している) 言う時も あんなあ(有ります)。あしこい(あすこへ) 行かんか(行きなさい) 言うど、おら(俺は) いんな(犬が) おとしもん(怖い)ので 言うて アトヒザリ しとる(している) 言うてなあ。

あとふまえ【名詞】 櫓を漕ぐ時、力を入れるために足を乗せる台にすると共に、舟の修理用の小道具を入れる小箱。あととはあと(踵)の転か【会話】はよ(早く)、どおぐい、くれ(下さい)、へしよったたよお(折ってしまった) 言うど、アトフマエ言うて、後ろのふまえに四角なのおな(のが) 有って、それん(それに)、たいがいの(大体、一応) 替えな(が) 皆 いっとんねやんかい(入っている)です。とまえさん(船頭)のどお(櫓) 漕ぐ足許へ、アトフマエ、置いてあって、それん(その) 中、たいがい道具の替えな入とんの(が入っている)です。アトフマエ言うのは、道具な(が) 入って、ともの(艫櫓) 漕ぐの足のふまえに 地場い(船底へ) すると、ひっくいもんで(低い)ので それを台にすんの(する)です。そすと わしらな(私たちが)、ふまえや(踏み台だ) 言うな、ちよいと(少し) 先を板つけて、後ろはつけんと(つけず)に 先たっこおして(高くして) 後ろひっくうすんのを(低くする)を、あいども(右舷) や、こまいどや 言うのな(が)、そいな(そんな)を) ふまえんすんの(にする)です。

あとみる【後見】 家督を相続し祖先をとむらう【会話】 跡取り、跡継ぐ人、跡見て貰うもんなのおて(者が無くて) 言うてなあ。世話する人をなあ 跡継ぎな(が) 無いとなあ。跡見て貰うもんなのおて(者が無くて) 養老院行かなはざんなあ(なければいけない) 言うて、アトミル 言うど 相続する事をなあ

あとみごろ【名詞】 和服の後の部 うしろみごろ

あとめ【跡目】【名詞】 当主の死亡、隠居により相続されるべき家の地位、身分、家名、家産等、又それを相続する事、又その人。相続人。【会話】 アトメ もろた(貰った) 言うて、跡見の人を アトメや(だ) 言うて、アトメも 貰わんと(貰わずに) まあ言うて。

あとめつぐ 家督を相続する(四)

あともち【後持】【名詞】 1) あととり、あとめと同じ、相続人(熊) 2) あとかき、あとつりと同じ。棺の後ろをかつぐ人

あとやく【後厄】【名詞】 厄年の次の年、男は26歳、43歳、女は20歳、34歳【会話】 初午のうしろやく。前厄、今年、はつんま(初午) すると、だいねん(来年) は うしろ厄。その前はまあ 前厄。四十一の時は前厄で、四十二は本厄で 四十三はアトヤク うしろやく、うしろやく 言うのと アトヤク言うのと 一緒の言葉やけど(です)。

あとをとう【訪】 なくなった人の霊を弔う。またその仏事を行う。【会話】 年忌すんのをなあ(する)を)、アトトウ にげ(人間) も無い 言うやんかい(言います)。年忌する人が無い言うて。跡取りが 無いと アトトウ にげ(人間) も 無いな(のだ) 言うて。アトトウ事は 先祖を弔う、先祖を まつる 人も無い 言う事やな(です)。跡立てる もんな(者が) 無いと、誰も 年忌とおてくれるにげ(人間) も 無いやんかい(有りません)。

あとをとる【取る】 あとを継ぐ。家督を相続する。【会話】 跡取り あとつぎ すんのを、アトヲトル言うて。跡取りな(が) 出来て 言うて、男のこお(子) もおけると(生む)と 言うやんない(言うでしょう)。跡継ぐにげ(人間) をなあ 跡取りや(だ) 言うね(言う)です。

あながえる【名詞】 家の中ばかりに居る者【会話】 あや(彼は) 何処へも 行くやなし(行かず)、アナガエルで、家ばっか(ばかり) 居って(居て)。

あなご【穴子】【名詞】 まあなご。アナゴ科。形はウナギに似る。多く内湾の砂泥地に住む。日中は砂泥中にもぐり、夜間活動する。(志、鳥、伊) おきあなご クロアナゴ亜科 尾端部は適度に鈍いが、曲げやすい。上唇の辺縁には上方に反転した遊離縁が有る。鰭条に分節が有る。両顎歯の多くは門歯状。尾部後端の近くに、背鰭と尾鰭におよぶ大きな黒色斑が1個有る。全長40cm。

あなずる(あなづる)【侮】【他ラ五】 侮る。あなどるの古形(志(布施田)、鳥、員、三、鈴市、一、多、上、阿、度、伊、南)【会話】 アナズツテ 人を舐めて 言うてなあ。人、舐める事を アナズル言うの(のです)。あげなもんな(あんな者が) 言うの、人アナズツテ 言うてなあ。あんな(彼が) するぐらいな(なら) おらやてて(俺でも) よおすられ(よくする) 言うど、まあ そのにげ(人間) をなあ アナズトル(てい

る) 言うの (のです)。俺、アナズル言うてなあ。

あなぜ【名詞】 北東の風。アナジの転。上古、風をシ、チと稱す。神社の千木も風木とも書く(物類稱呼) あなぜべつとお参照(度)

あなぜべつとお【名詞】 北北東、北北東の風。[会話] アナゼベットオ時化風言うて、昔や(昔は)ベットオ風言うてよけ(沢山)吹くと、よお(よく)時化なしよおったけど(がして居ましたが)、今しゃ(今は)よけ吹かせんなあ(吹きません)。アナゼ言うと北と東のあい(間)から吹いてくんの(来るのを)、アナゼや(だ)言うて、アナゼは いつとき(短時間) 吹くのなあ(吹くのです)。

あなた。あなたさん【名詞】 太陽 ああとさん。仏さま。(志)[会話] お日さんを、アナタや言うて。昔の人等な(が)、今しのもんら(今の者達) 言わせん(言いません)。昔の人ら、アナタさん拝め。アナタさんな(が) 出て来た言うて。そして お月さんは、ああとさんな(が) 出て来た言うて、ああとさん拝めよお(拝みなさい) 言うて、お月さんな(が) 出て来ると。仏さんも、ああとさん言うてなあ(言います)。

あなばち【名詞】 あらばち。新しい擗鉢の意から処女の女陰、または処女。あなは、あら(新)の変化したものの(志(布施田)、張、度)[会話] せだの人らな(が)、アナバチ割りで、強姦される事やわ(です)。今で言うたら、やや(嫌だ)言うのを連れてくんよつて(行くのだから)、知らんとおんのおを(知らずにいるのを)、かずいてくんよつて(担いで行くのだから)、で、すんのを アナバチ割られた言うて。女になる言う事や(です)。

あなばちわる 1) 処女を失う。処女が始めて性交すること。2) 処女を奪う(志、鳥、員)

あなばり【名詞】 処女。あなばちに同じ[会話] 女になった言う事や(です) 処女膜な破れたとこや(所で) アナバリ言うてなあ。

あなほり【名詞】 墓穴を掘る人(志(布施田))

あに(兄)【名詞】 あにい あにき あにこ あにさん あにやん あによ あにんこ 年長者の他人が名前のわからない不特定の青年に対し呼びかける時に使用。あに 長男(志摩市全域)[会話] 他人にでも、其処らにおる人に 名前知らんと(知らないと)、あしこ(あすこ)の家のアニコ言うわい(言います)。誰でも だんねえね(かまわないのです)。男の人やったら(だったら)男のこお(子)の時、年上の人が、下の人にアニコよ言うて、名前 しつとや(知っていれ

ば)、名前言うんやろけど(言うのだろうが)知らんと、あしこ(あすこ)の家のアニコな(が)言うて。アニコな(が)とか、あねんこな(が)とか、兄も姉も言う。あねと、あねやんと、あねんこと、ねえやんも、ねねも一緒や(です)。あにきは 長男の事だけ、あねきも 一番上を あねきや言うわい(言います)。

あに(兄)【名詞】 1) 兄(志摩市全域、四、度、鳥、北、南、熊) 2) 長男、跡継ぎ(志摩市全域、鳥、桑市、安、松、多、上、阿、張、名、南)

あにい(兄)【名詞】 1) 兄(志、三、伊、南、熊) 2) 他人に呼びかける時

あにき【名詞】 1) 兄君からの転。兄弟または仲間内で使用。兄を敬って言う語。自分より年長であること。また年長者。2) 若者、職人、またはやくざ等の間で年長者または勢力のある者。(志(布施田))

あにこ(兄)【名詞】 兄(志(布施田)、鳥(国崎))

あにさん【名詞】 1) 兄(志(畔名)、一、多) 2) 知らぬ男性に呼び掛ける言葉

あにやん【名詞】 兄(志、松、多、上、阿、張、北、南)

あによ 知らぬ男性に呼び掛ける語(志)

あにんこ【名詞】 兄(志)[会話] おれげ(我家)の アニコな(が)言うてな。アニコ 言うにげ(人)も あや(有れば)、アニヤン 言うにげ(人)も有るしなあ。おれげの アニキな(が) 言うにげ(人)も有るし。皆、お兄さんの意味。アニコ 言う時は 自分の兄。おれげの アニな(が)は 男の子言う意味と、息子が言う意味と。アニイは 弟が 自分の兄を呼ぶ時 他所の男の人にも、アニイ 何処え行くんど(行くのだ) 言うて 知らん人にも アニイ言う。なあ(名前) よお知らんと(よく知らないと) アニイ アニコ な(お前) 何処い(へ) 行くんどい(行くのですか) 言うてな、何処の こおどお(子供だ) 言うてな、アニコ な(お前) どこのこおどお 言うて。アニコも 一緒の意味やなあ(です)。アニサンも アニイも 一緒で、知らん人ん(に)も、アニサン 何処い(へ) 言うしなあ。此の家の アニサンな(が) なれ(です) 言うて、なあ(名前) 知らんもんで(ので) 家の兄貴で 本当の兄さん言うのやなしん(のではなくて) ありとあらゆる 所で 使うもんなあ(使います)。名前知らんと アニサン 言うて 言うし。

あね【名詞】 女性に使用。あにいと同じ。あねき(三重県)あねこ(志)あねさん(志)あねやん(志、松、多、上、阿、度、伊、南)あねよ あねら(志(鶴方、

神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(答志、浦村)
あねんこ 姉 姉さん(志) あねき 長女。年上の女
兄弟。兄弟と同じ使用。[会話] アネヤン 言うて、お
なごやったら(女だったら)。アネヤン な(お前は)
何処の こおど(子だ) 言うて、なあ(名前) 尋ねる
時にや(には)、あや(彼女は) 何処ん家の こおやか
な(子供だろうか) 言う時ん(に)。アネンコや 言う
てな 今しや(今は) アネヤン 言うけど(が)、アネ
ヨ 言うたり、アネラ 言うと、なあ(名前) 知らん
もんで(知らないの) 秋(秋収穫の手伝い) 行くと
家のアネラな(が) 言うて。

あねさん【名詞】【代名詞】 姉以外に女の人を呼ぶのに
(嫁、主婦、奥様、娘さんの意にも) (志)

あねさんかぶり(姉類被)【名詞】 女性の手拭のかぶり
方。手拭の中央を頭部に乗せ、両端を後ろで結ぶかぶり
方。(志) [会話] 手拭をなあ被って、うしろい(後
ろに) 結ぶと アネサンカブリや(だ) 言うてな。後
鉢巻き言うてな 鉢巻の代わりん(に) 端と端を結ぶ
だけを アネサンカブリ。そして(そおして) 皆 囲
んで 結ぶとなあ 後鉢巻やとか(だとか)、とらさや
(だ) 言うて、言よおった(言っていました)。

あねさんにんぎょ【名詞】 人形

あのおり あの時

あのがき あの子(子供) (三)

あのがきや あの子は

あのかた【代名詞】 あの人。話し手、聞き手以外の第三
者をさす。(鈴、多、伊) [会話] アノカタ。名前知ら
んと 最後(その時)、アノカタや(だ) 言うてな、話
しのつてに(ついでに) アノカタな(が) こげん(こ
んなに) 言うてな 言うて。

あのがらい【副詞】 あれほど。あれだけ。あんなに。[会
話] アノグライならなあ おらもよおすられ(俺もよ
くする)。アノグライの事なら 言うたりなあ。アノグ
ライ 言うて、なんでも 物 較べる時んなあ(に)、
アノグライ もて(持って) 来てくれ(下さい) とか、
これと 同じ物を 言うのをなあ これぐらい 言う
たり、アレグライ 言うたり。しなもん(品物)を較
べる時ん(に)。アノグライ 言うというてあんのん(言
っておいて有るのに) 言う事 聞かせん(ない) 言う
て。いくら言うても 聞かせん 言うのをなあ。アノ
グライ 言うてあんのん こいなわり(こんな悪い)
事して 言う事 聞かへんねない(聞かないのだ) 言
うて。

あのか(彼子)【代名詞】 対称 他人の子供を親しんで言

う語。(上、阿) [会話] アノコ、言うのは自分より下
(年齢が若い) の子を、アノコや(だ) 言うて。上の
人はあの人や(だ)。

あのかた【代名詞】 あの人、話し手、聞き手以外の話題
の第三者。(員、北) [会話] 一緒やわいな(です)。
あのかたや(と) 言うのも、アノシト 言うのも、ア
ノシトより あのかた 言うな(のは) ちよいと(少
し) 丁寧な言葉やな(です)。あのかた 言う(と) 言うのも
一緒やなあ(です)。あのかた 言うたら(言ったら)
目上の人とか 値打ちのある人を 言うけどな。同輩
のもん(者)に あのことか。そやけど(しかし) 一
緒おっても 友達な(が) きとらせんと(来ていな
いと) あのかたな(が) おらんでなあ(居なくて) 言
うしなあ。ほんとの意味は あのかた 言う時は 人
をあがめて(崇めて) 尊敬して使う言葉や(です)。

あのかたら【代名詞】 あの人達 (南)

あのかぶん【名詞】 あの時、過ぎた時代 (北) [会話] 人
な(が) 来た時、アノジブンに 来たやんかい(来ま
した) とか、時期の事を あんで(あれで) 言うんや
るんなあ(言うのでしょうか)。

あのかそれ【感動詞】 言葉が充分に出て来ない時、あのか
あのか。あのか。あのか。あのか【感動詞】 親しみを込めて
呼びかける語。接頭語。(あのか) 1) 話しの始めや、
間にはさんで言葉を継ぐ言葉。2) 呼びかける時の言
葉 (志、三、鈴市、上、阿、張、名)

あのから【感動詞】 あのか。呼び掛けの語 あのかのお参
照 (志)

あのかなれ。あのかなれ【感動詞】 あのか。呼び掛けの語。
あのかのお参照 (志 (波切))

あのかのお。あのかのお【感動詞】 あのか。呼び掛けの語
(志、三、上、阿、南) [会話] アンナラ、アンナレ、
アンノオ、皆一緒。アンナア 言うのを、アンナラあ
言うて、男の人や(とか) 大人のん(に) 言うのん
(に) アンノオ 言うのなあ(です)。目下のもん(も
の)に 言うな(のは)、アンナレ 言うて。呼び掛け
の言葉やなあ(です)。別に意味は無いけど アンノオ
言うて、あのですなあ 言う意味や(です)。あのかねえ
言うて 今し(今) の人やたら(だったら) 言うの
を。

あのかひた(彼人)【代名詞】 あのかは (志、鳥)

あのかひと(彼人)【代名詞】 あのか 第三者を指す (鈴、
多、伊)

あのかひとら【代名詞】 あのか人達 (度、鈴市、多、伊)

あのかほれ【感動詞】 あのか、完全に言い表したり思い出し

たり出来ない時 あのそれに同じ(北、南、熊)

あのやつ【代名詞】 あいつ(多)

あは【名詞】 馬鹿(志)[会話] 阿呆言う事を、アハ言うてなあ。阿呆よ(奴)言うのをアハ 言うて、どいらい(大変) ごおなわく(腹が立つ) 時 言うのなあ(です) アハ言うのは、

あば(浮子、網端)【名詞】 うき、うけ、うかしなどとも呼ばれる。釣具に用いる浮子は小形で種々細工をほどこし、種類も多い。釣漁の中でも大規模な延縄や流し網などに用いる物は大きなガラス球(ピン球)を浮子とし、これに竹竿や旗を組み合わせて目印をする。さらに灯火を備える金属性のものや、音波を発信するものも使用される。漁網を水中に広げるための浮子は網の縁に浮子網(あばな)などと呼ぶ。網に取り付け浮力を均等に働かせるようにする、主に浮力の勝れた桐を用い、ヒノキ、スギ、ウルシの材などを用いる。定置網に必要な特大な浮子にはモウソウ竹を束ねたものを用いたりする。最近では人造ゴム、ビニール、ポリエチレン等を用いた浮力耐久力のすぐれたものが進出している。(志(浜島、布施田、甲賀)、鳥、鈴市、津度、伊、尾、熊、北)[会話] 網ん(に) ついとる(ている) 上にうけ(うき) になんのを(なるのを) アバ言うんなし(言うのです)。下ん(に) 石なついとるやんない(がついているでしょう)。あれで 吊るすもんで(ので)、上へアバナ(が) 有ると浮いとんの。アバで浮いとんの(浮いているのです)。大敷な(が)、なんや今し(なにか今)、どいらい(大きい) ガラスのうけピンダマや(です)。養殖屋(真珠養殖業者)の、今し 皆 あれでしとるやんかい(しています)。真珠筏も皆あれやんない(あれでしょう)。

あはあ【名詞】 馬鹿、馬鹿め。(志)[会話] アハア。腹な(が) 立つとる 時やなあ(です)。短く言う時は腹な立つとんの(が立っているのです)。ちよいと(少し) なあごお(長く) ひっぱんのはなあ(引っ張るのは)、まだちよいと(少し) のんびりした時なあ(です)。

あばあば【形容詞】 弛くしまりのない状態 [会話] アバアバ言うとなあ おっきなつてく(大きくなって行く) 事を、アバアバ言うてなあ。いれこと どおぐいと 丁度ええよおん(よいように) してあんのをなあ(有るのを)、漕ぎ漕ぎしとると(していると) アバアバん(に) なつてくやんない(行くでしょう)。ゆるなつてく事を おっきなつてく事を アバアバ 言うね(言います)。

あばう(あばふ)【他ワ五】 いたわりかばう(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鈴市)[会話] 人をアバウ言うのは、あんだ(貴方) 年寄りやよつて(だから) 私なしたるわい(がしてあげます) 言うのをなあ(です)。アボテもろて(もらった) 言うて、

あばえ【他ア下一】【名詞】 1) 甘える事 2) 甘えん坊(鳥(答志))[会話] 1) あまえる事をアバエ。アバエてまあ 言うて。2) 甘つたれると 最後(その時) アバエやよつてん(だから) ま あや(彼は) 言うて。

あばえかす 甘えさす[会話] あまやす、あまやかす言うのをアバエカス。あばえるも、あばえとるも(ている) 一緒や(です)。うなし(同じ) 意味や(です)。あばえ子も一緒や(です)。

あばえくさる 甘えるを侮つて言う(志)

あばえこ。あばえた。あばえたれ【名詞】 あまえつ子 あばえかす参照(北)

あばえごえ【名詞】 甘つたれた物の言い方 あばえた参照

あばえごんじ【名詞】 甘えて駄々を言う事、又その者。

あばえた 甘えた

あばえた【名詞】 甘えん坊 [会話] あばえとる(甘えている)。あばえ(甘え) 声。幼いおな 言葉使うとなあ、あばえたよな 言葉言うてなあ あばえとんねどお(あまえているのだ) あや(彼は) 言うてなあ。アバエタ 言うの(のです)。あばえとる(甘えている) 子供を 駄々つ子や(です)。いつも 親にすがつて 一人立ち よおせん(出来ない) よおなのおをなあ(のを)、あばえんぼやよつて(甘えん坊だから) 言うてなあ。あばえんぼの事 アバエタ言うの(のです)。団子すや(すれいば) 彼岸かおもて、甘々言や(言えば) 親か おもて(思つて) 言うてな。あばえとるとなあ(甘えていると) そんげん(そんなに) 言うてわるうやんかい(叱ります)。

あばえたがり。あばえたがりや【名詞】 甘えん坊

あばえたれ 1) 甘えん坊 2) あまえてやれ [会話] アバエタレ言うのは あまえとる 言うのと、あばえとる やんかあ(でないか) 言うのとなあ。2) アバエタランカレ(てやりなさい) 言うてな、かあやん(お母さん) 来たや(ら) あばえて あやれ 言うて。子らん(子供に) 言うやんかい(言います) 母親な(が) 来て じゃれてすと。

あばえとる 甘えて居る [会話] アバエトル。あばえて あやれ(あれ) 言うて あまえとる言うのなあ(です)。

あばえて あやれ 言うて、あばえて (ていて) まあ 言うて、甘える言う事を あばえる。あばえて じゅうよお (勝手) 言うて いじる (駄々こねる) 事をなあ あばえて 言うて。

あばえる【他ア下一】 あまえる。甘つたれる。ことさらなれなれしくする。(志 (片田、志島、浜島、鶴方、立神、神明、甲賀、国府、安乗)、松、北、尾、南)

あばえんちよ【名詞】 甘えん坊 [会話] あばえて ばっか (ばかり) おる こお (子) を 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。あばえんぼ だとか、アバエンチヨとか、言うてなあ。年がら年中 (いつも) あばえてぐちゃぐちゃ 言うてる (言っている) 子 な (が) 有るやんかい (有ります)。 そいなのを (そんなのを) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

あばけ【名詞】 風による波の飛沫 あばく 荒廢 動詞 あばくの連用形の名詞化 [会話] 波のアバケ。波の しぶちな (が) 掛かる。 しぶち言う事やなあ (です)。アバケ な (が) かかった 言うて、アバケで しじくだったよお (ずぶ濡れになった) 言うて、 こべりい (船側へ) 風で打ちつけて くんのなあ (くのです)、 しぶちな (が) かかる やんない (でしょう)、それで、 しぶちで しじくだった 言うて しぶちは しぶき。

あばずれ (阿婆擦)【名詞】 悪く人ずれがして厚かましい事。またそのような人。現代では女に言う。[会話] 厚かま し (しい) 人、面の皮千張り。 せんまいづら 言う の (のです)。顔の事は千枚面 言うの。 あやまあ (彼女は) ほんどん (本当に)、アバズレ千枚面 やれ (だ) 言うて。

あばた (痘痕)【名詞】 1) いもくさ。痘痕。凸凹。痘瘡が治ったあとに残る跡。そのような形のもの。(志 (片田、志島、答志、神明、越賀)、鳥 (答志)、張) 2) かじめ あんろく参照 海草 (志 (御座、越賀、甲賀、神明、志島、国府) [会話] 1) 昔や (昔は)、アバタを いもくさや言いよったわい (と聞いてました)。言うとき凸凹。

あばたづら【名詞】 面疱などで表面が凸凹している顔

あばば【感動詞】 子供をあやす時手を口に当ててする動作 (志、上、阿、張)

あばば。あばばい【形容詞】 まぶしい。目伏す。目を細める。ばばいひ (土佐) の関係有るか。バの濁音はマの清音に通う (物類稱呼) マバ化となりマボソシ (目細) と類似し、まぶしい時は目を細めるからか。(志摩市全域、鳥、鈴市、一、飯、松、上、阿、張、名、伊、度、北、尾、南、熊) [会話] 眩しい事をアババ

イ。

あばひき【名詞】 網の浮きを引き上げる人。あみひき参照

あばやかす 甘えさせる

あばら (肋)【名詞】 わき腹。側胸部 [会話] 横の腹の事なあアバラ。あばら骨は肋骨。

あばらぼね (肋骨)【名詞】 肋骨。胸廓を作る12対の弓状の長骨 (津) [会話] アバラボネ へしよったた (折ってしまった)。アバラボネ な (が) へしよれとん ねてない (折れて居るそうだ) 言うて アバラボネ二本も折れ とる (ている) 言うて。胸の骨の事。

あばり (網針)【名詞】 あみばり。あみすきばりの略。網針の変化した語。網を手編みするのに用いる竹製の針。平たく、細長く、特異な形で糸巻きを兼ねる。(三重県全域) [会話] 網きよる (修理する) アバリ。竹でして有る。アバリ い (へ) 糸 入れとけ (ておけ) 言うてなあ ちょんぎって (尖って) 眞ん中 ん (に) ぼお な (棒が) して有って それい (へ) 糸 入れんね (入れるのです)。

あびき【名詞】 潮の底流。波の寄せたり引いたりする流れ。(志 (布施田)) [会話] アビキ な (が) 来て言うて、アビキ言うて 波 な (が) 寄せたり 干いたり すんのなあ (するのです) 波の アビキで 引きずって (ていった) とか 言うてなあ。

あびせる【他サ下一】 1) 水等の液体を大量に相手の体に勢いよくかける。(三) 2) 赤ん坊を湯に入れて体を洗う。沐浴させる。[会話] 1) 湯あぶせるとか、潮 (海水) あびせられたとか、言うて。あぶせる言うに げ (人間) もありや (あれば)、アビセル言うに げもあんの (あるのです)。 おなし (同じ) 意味やけど (です) が。その人 ん (に) よって、 そのぼん (その場) に よって アビセン てわあれ (るのだそうです) 言う人もある。

あひる【名詞】 甲乙の乙の字 (上、阿、張) [会話] アヒル。乙をなあ アヒル 言う の (のです)。 ゆりのと (潮溜りの戸) を 開めて あいる (あひる) 泳がし とる (ている) 言うてな。丙と乙と言うとなあ 乙はアヒルで 丙は ゆりの戸 言うてなあ、 たあ (田) の尻 ゆりの戸 や (だ) 言うて。丙の字 みたよんかいなあ (のようなのでしょうか) 波 な (が) 来ると、開めて、干く時 や (は) 開けて すんのをなあ (するのを) ゆりの戸 言うね (言うのです)。 そや (それ) ゆりの戸 開めて アヒル おえがしとられ (泳がしている) 言うて、通信簿 も ろ (貰って) 来ると、

はいたたきなのおて (が無く) ゆりの戸 閉めて
アヒル おえがしとられ 言うて。甲な (が) 無いと
甲は はいたたきや (です)。

あびる (浴) 【他バ上一】 1) 水などを大量に体全体に受ける。(度) 2) 水泳する。入浴する。(桑、上、阿)
3) 大量に酒を飲む

あぶくぜん (泡銭) 【名詞】 正しい方法に依らずに手に入れた金。終には消える意か。

あぶご 【名詞】 鰻の幼魚 (志 (片田、浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、度、伊、北、熊) [会話] アブゴ
言うて 鰻のこおなあ (仔です) アブゴから いなだん
ん (に) なって 鰻なんの (になるの)。

あぶせる (浴) 【他サ下一】 湯水をあぶせる。入浴させる。水泳させる。(上、阿、南) [会話] ゆう (湯) アブセルとか、潮 (海水) アブセル とかなあ。水をかける事をなあ アブセル 言うてな、かぶせる事を、水をかけたんのを (てやるのを) アブセル 言う。産湯使わすのを ゆう (湯) アブセル 言うてな。産婆さんに ゆう アブセテ もらわな (貰わなければ) 言うて。じんじ (祭) え いて (行って) 潮 (海水) アブセラレタ 言うて。

あぶな (危) 【形容詞】 危い事。望ましくない結果が予想されて、気がかりの状態を言う。[会話] 危ないよお言うね (言うのです)。危ない事をなあ あやふい (危ない) 事をなあ、アブナ 危険となあ (だと) あぶな_いよお 言うてなあ。

あぶなかし (危) 【形容詞】 危険である。危ない様子だ。危ない。[会話] アブナカシなあ まあ あの子 一人やんな (やるのは) 言うてなあ。弱々しよおんしと
ると (ようにしていると) なあ。

あぶながる (危) 【他ラ五】 危なく思う あやぶむ

あぶなめえあろたよんしとる 【俚諺】 面白味が無い 効能が無い [会話] アブナ (虻が) メエ (目) アロタヨ
ンシトル (洗った様にして居る) 言うて、しゃぼしゃぼ しとるとなあ (していると)。粘りな (が) 無かったり いろめな (色調が) うっすいと (薄いと) アブナメエアロタ よおなやんかい (ようでないか) 言うて、なんも (少しも) 効能が無い様なもん (物) 見るとなあ。

あぶのおて 危なくて (北) [会話] 危険なこと アブノオテ言う。危険なとこい (所に) 行くと アブノオテ、あぶないとこ (所) 行くなよお (行くな) 言うて。あぶないど (ぞ) そや (それ) 落つてくんど (落ちるぞ) 言うて。

あぶら (脂、脂、膏) 【名詞】 1) 動物の脂肪、植物の、種子、鉱物などから取れる水に溶けない燃性物質。燈火、食用、薬用、燃料として用いられる。特に石油、重油類をさす。(漁船の燃料用) (志 (片田)) 2) 酒 [会話] 1) アブラな (が) 切れて来て 言うて、アブラ ささなはざんわれ (なればいけい) 言うてな。栄養な (が) 切れて来るとなあ。そして 2) 酒飲みな (が) 酒 飲まんと (飲まずに) しおしおしとると (していると) まあ アブラ、ひか (なれば) アブラな (が) 切れとんのかして (ているのか) 言うてなあ。酒飲みな (が) じよおく (の) んで (いつも飲んで) ふらふらしとん (の) な (しているのが) しよぼんとしとると (とまあ) あや (彼は) アブラな (が) 切れとて (ていて) まあ 言うて。

あぶらうり (油売) 【名詞】 怠け者 (飯) [会話] 怠けもん (者) の 事なあ (です) アブラウリ。じよお (いつも) 仕事しとん (の) ん (しているのだが) たまん (稀に) まあ ちよいと (少し) 何処かい (かへ) 出
てたおりを (な) あ (出ていった時を) まあ 何処やらい (かへ) アブラウリん (に) いとられ (いつている) 言うて。なんもしやせん (なにもしない) 人は ほん (と) (本当) の アブラウリ やわい (です)。

あぶらうる 怠ける

あぶらがきれる 活動の原動力がなくなる 1) 元気が無くなる 2) 酒の気が無くなる。あぶらなきれる参照

あぶらかす (油粕) 【名詞】 植物 (大豆、油菜、椿の実等) の種から油を抜き取った後の粕。家畜の飼料。または作物の肥料とする。[会話] アブラカス。はたぶ
ら (椿の実) をなあ 油 搾った (てやった) 後をなあ 石みたいんしとんのおを (のようにしての) を) 鈍でつか (な) はざん (の) な (なればいけい) (です)。髪洗うのん (に) きれい (布に) 入れて 洗い
おった (洗いました)。ゆう (湯) で 溶 (いて) 頭洗 (う) の その アブラカス で よお (よく) 落 (ちて) なあ 後 (な) (が) つる (つ) となあ、油 (な) (が) 残 (つ) となる も (んで) (ているので) はたぶら び (しゃ) いて (潰して) こおん (粉に) して かな (ずい) (の) 篩 (で) 振 (る) うん (け) (の) (のだが) 油 や (も) んで (なので) ね (ち) や (が) え (って) (て) (粘りついて行って) すい (の) 篩 (の) めえ (な) (目が) と (ま) (つ) (て) 落 (ち) や (せん) ね (て) や (つ) (ま) (つ) (て) 落 (ち) (ない) (のです)。そすと その あ (ら) く (たい) (の) 粗 (いの) (を) 白 (い) (へ) 入 (れ) (と) (いて) (て) (お) (いて) 又 こ (ま) こ (お) (小) (さ) (く) (なる) 迄 ちよ (お) (い) (と) (ん) (少し) (に) (なる) 迄 び (しゃ)

くんでや(潰すのです)。そして かなずいので 振るとなあ こおんしとして(粉にしておいて) そしとして(そうしておいて) 蒸して 麻の袋い(へ) 入れとして(ておいて) ジャッキで 絞めんねてや(絞めるのです)。油ん(に) する迄 はたぶらを あいなりすきなり(暇が有れば)、あいな(暇が) 有ると 雨な(が) 降ると はたぶら うちやらな(壊さなければ) はざんわれ(駄目だ) 言うて、石の上で びしゃいとして(潰しておいて) かあとみいと(皮と実と) しわけんねやんかい(区別するのです)。はたぶらとて(取って) 来ると ともとい(庭へ) あけとして(広げておいて) きいで(木で) してなあ、そして 日な(が) 照って はしゃぐと(乾燥する) 口な(が) 割れて来て それ取ったと(てやると) みい(実) になるやんない(でしょう)。そすと 冬の畑のあい(暇な時に) 今日はさびよって(寒いから) はたぶら うちやらやんかれ(壊しましょう) 言うて、ひなた(日の当たる所)で はたぶら うちやって(壊して) 剥いてみいん(実に) して 春ん(に) になると ひい(日)の 長い時ん(に) 搾って。

あぶらがのる。あぶらのる 1) 脂肪が多くて美味である 2) 調子が出て物事が面白いようにはかどる 3) 肉体的にも精神的にも成熟し仕事が調子よく出来る状態 [会話] 1) アブラナノル 乗る言うのは、あぶらっこいのを。秋のさんまな(が) あぶらな(が) 乗ってきて、美味いやんか(です) 言うてなあ。なんでも 魚のアブラガノツてきて、おいしい言う事を。

あぶらけ(油気、脂気)【名詞】脂肪分を含むさま。多少にかかわらず使用する。[会話] からからしとるとなあ(していると) アブラケな(が) のおて(無くて) 言うやんかい(言います)。汗かいてしとると(していると) あぶらこい様なあ(だ) 言うて。あぶら汗かいて 言うて。なんも(少しも) アブラケな(が) 無いなあ 言うて、からからやなあ(だ) 言うて、そして 汗だらだらかくと あぶら汗かいて あやれ(あれ) 言うてな。

あぶらこい。あぶらっこい【形容詞】1) 油脂が多い 2) 男女の仲がよく、いちゃつく [会話] 1) 一緒やなあ(です)、あぶらな(が) 乗とて(ていて)、アブラッコイ言うねよって(言うのだから)。2) 男とおなご(女)の仲な(が) ええ(好い、良い)のも アブラッコイ。いちゃいちゃとしてなあ。おおた(感動詞)、アブラッコイよおなあ言うやんかい(だ言います)。あんまり(あまり) 人前でいちゃいちゃしとると

なあ(していると)。

あぶらざかな【名詞】脂肪の多い魚 [会話] アブラザカナ 言う時は あぶらな(が) 多い魚なあ(です)。ひしかい(ですか) あぶらな(が) 多いな(のは)、ひしやら(か) なんやら(なにか) あぶらな(が) 多いやんかい(です)。こいな(こんな) あぶらっこい魚 おら(俺は) 要らんわれ(要らない) 言うて。

あぶらさし(油差)【名詞】機械に油を差す道具、又その人。機械助手。[会話] アブラサシ言うど、ちっちやあい(小さい) インチチャッパも アブラサシ言うし。それを つこて(使って) 油さす人も アブラサシ言うね(言うのです)。アブラサシを たのんどる(頼んでる) 言うてなあ、ちっさい(小さい) がっこあがり(学校出たばかりの人)を アブラサシん(に) つことると(使っていると)、そいら(その人は) 見習いでまあ そげんして(そんなにして) その人な(が) すんの見とて(するのを見ていて) 試験受けん(に) 行くねやんかい(行くのです)。見習いで そいな、しいおったんやんかい(そんなのをしていました)。

あぶらせん(油銭)。あぶらだい(油代)【名詞】燈明用の油を買う銭。少しの銭。[会話] アブラダイも なららったよお(ならなかった) 言うてなあ。大漁な(が) 無いと、今日は漁なのおて(が無くて) アブラダイもないよお(ありません) 言うて。ちよっと(少しの)の お金、魚 三匹か五匹釣って来ると まあ おかずだけやったよお(だった) 言うたりなあ、アブラダイも 無かったよお 言うたりなあ。舟の行くアブラダイも 有るし、お燈明あげる アブラダイも言うし。そげなのおわ(そんなのは) まあ おとっしや おらげや(俺の家は) ぜんなのおて(銭が無くて) 油 買うぜんも(銭も) ねえわ(無い) 言うて。あかる(燈明) 点すのおも(のも) そげん(そんなに) 言う時も有りおたんなあ(有りました)。米 買うぜん(銭) も無いな(のは) 大きなね(おおきいのです)。それから すう(酢) や、しよい(醤油) も一合買いたりなあ(に行ったり)。すう 買うぜんも(銭にも) なららったよお(ならなかった) 言うて、磯いて(海女行って) はざんとなあ(駄目だ)。

あぶらでり(油照)【名詞】1) 風が無く薄日が照りつけて暑い天気 2) かんかん照り(桑市)

あぶらとろましとる 髪に沢山油をつけて光らして居る [会話] 油つけとる(ている) 人でも、ぴつたりと、あやれ 光つとんない(光って居る)、よけ(沢山) つけ

て アプラトロマシトル 言いおった (言っていました)。

あぶらなきれる 精力が続かなくなる。元気がなくなる。転じて酒の気がなくなる。[会話] アプラナキレテ ひよおそくのひいな (火が) とぼしなって来たれ (少なくなつて来た)、油ささなはざんわれ (なければいけない) 言うてなあ。ランプやどけん (などに) 夕方 ほやも磨いて、油も さしとけよお (入れておけ) 言うて、夕方沖から来て ランプ出して あかりつけ (火つけなさい) 言うて、油なのおて (が無くて) つかせんやんない (つかないでしょう)。油もさしとけ (ておけ) 言うたのん (のに) 言うて、わるわれえおったの (叱られて居るたのです)。元氣な (が) 無しん (に) なる 言うのも、しおつと しとるとなあ (していると) アプラナ (が) キレトナナイ (切れて居る) あや (彼は) まあ がいな (大変) アプラナキレトル かして (のか) 元氣な (が) 無いわれ (です) 言うてな。酒のけえな (気が) 無しん (に) ながらも 油な (が) 切れた言うしなあ。

あぶらみ (脂肪) 【名詞】 肉のうち脂肪分の多い部分。主に魚鳥獣の肉にいう。脂肪 (南) [会話] 魚のアプラミかい (ですか)。あぶらさかなやなあ (だ) こや (此は) 言うて。こいな (こんな) あぶらさかな おら (俺は) 嫌いや (だ) 言うて。あぶらさかな 言う時は あぶらの多い魚なあ (です)。アプラミ 言う時は そのみい (身) に あぶらな (が) あんのなあ (有るのです)。大きな魚 こしらえるとなあ (調理すると) 鯛とか アプラミもて (持って) 来い 言うやんかい (言います)。はらも (腹) の方をなあ あや (あれば) 旨い 言うてなあ。とろや (だ) 言うてなあ とろ 一番 旨い言うて 食べるやんかい (食べます)。

あぶらもん (油物) 【名詞】 油、脂を使用した料理

あぶりだされた 追い出された。居る事が出来なくされた。仲間外れにされた。[会話] アフリダサレタ 言うのは、なんやかや (いろいろ) 嫌味言われて、そこんおられんで (そこに居れなくて) 行く事やわい (です)。

あふる あおる 【自ラ五】 疲れる。疲れ切った。(志 (布施田) [会話] くたばる。くたばった事やなあ (です)。疲れる言う事や (です)。アフル言うな (言うのは)、疲れ切った言う事や (です)。まあ、アフツタ今日は言うて、疲れ切った言うことや (です)、つかれたやなし (なくて)、疲れ切った言うね (のです) アフル言うのは。あわぶく言うのもよお (よく) 似た意味やなあ

(です)。あわぶいたなあ今日は 仕事よけ (沢山) し言うやんかい (言います)。泡吹く言うよおな意味やなあ (です)。泡吹く程も疲れてきた。使い殺されて泡ぶいたれ言うやんかい (言います)。

あふる 酒などを大量に飲む

あふる 煽てる。そそのかす。[会話] 煽てる。おだてもつこに乗りもつこ 言うて、煽てるもん (者) もあや (あれば)、乗るもん (者) も有る。アフル 言うのは 煽てる言うなあ。煽てられて 歌うとて (唱つて) まあ あんごしねよつてん (馬鹿なのだから) 言うて。

あぶる (焼) 【他ラ五】 火で焼く。特に食物を程よく焼く。火にかざして焼く。(志 (鶴方)、鳥、津、多、名、伊、北、南) [会話] 魚 焼くのを アブル言うて、餅アブツてくれ (下さい) 言うたりなあ。焼くのをなあ アブツてくれ 言うて。そして てえ (手) も 冷めたいと、てえ (手) アブラシてくれえ (下さい) 言うてなあ、てえな 冷めとおて (たくて) こつてた (凍っていった)、ひい (火) に あたらしてくれ 言うのをなあ。てえ (手) も アブラシてくれえ 言うてなあ。

あぶれる 【自ラ下一】 1) 不漁である。漁が無い。2) 当てが外れる (桑郡) [会話] 1) 不漁を 今日 は アブレタ言う時な (が) 有るなあ (有ります)。なんも (なにも) 無かった言う事を 今日 は まあ アブレタ よお言うて。

あほ (あほう) (阿呆) 【名詞】 あほうの変化した話。馬鹿。知能が劣って居るさま。またそのような人。行動。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、桃取、坂手、浦村)、桑郡、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、津、松、上、阿、張、名、度、伊、北、南)

あほか 馬鹿な

あほかいな 馬鹿な。馬鹿だろうか。人の言う事を批判して言う語。(員) [会話] アホカイナ言うこた (事は)、あほやなあ (馬鹿だ) 言うのを、アホカイナ言うてな。そいなこた (そんな事は) アホカイナ言うてな 変な事言うて来ると。

あほかお 【名詞】 馬鹿面

あほかぐい 【名詞】 暴食する事。異常に大量に食べる事。あほのおおぐい参照 (南)

あほくさ (あほうくさい) (阿呆臭) 【形容詞】 1) あほくさい、馬鹿々々しい、あほうらしい (志 (立神)、安) 2) あほおくさい。いかにも馬鹿げてる。つまら

ない。(員、上、阿、張、名) [会話] 1) あいな (あんな) 事 アホクソオテ (くさくて) 出来やせんわれ (出来ません) 言うて。あほらし (馬鹿らしい) 言うのなあ (です)。アホクサイ、あの人と話ししとると (していると) なんなんやら (何が何だか) さっぱり判からんで (判からなくて) アホクサイわれ (です) 言うてなあ、馬鹿馬鹿しい言うのなあ。

あほぐち (あほうぐち) (阿呆口) 【名詞】 馬鹿話。実のない話。(上、阿、張、名) [会話] 馬鹿な事ばっか (ばかり、のみ) 言うて、とりとめのない (しまりがなく、際限がない) 事をな、アホグチたたく言うねやろな (喋る言うのでしょう)。冗談ばっか 言うのい (のを) アホグチ、馬鹿話して アホグチ たたいて いろんな (いろいろな) 事 言うて。

あほぐちたたく 冗談を言う。無駄話して時を過す。あほぐち参照

あほして 馬鹿な事をして

あほだら (阿呆陀羅) あほんだら 【名詞】 ひどい阿呆。馬鹿者。阿呆を擬人化した阿呆太郎の訛 (大言海) (志 (立神、神明、国府)、鳥 (加茂)、鈴市、鈴郡、安、上、阿、張、名、度、南) [会話] アホダラも アホンダラも一緒や (です)。阿呆よ言う事を アホダラよ言うたり、アホンダラよ言うたり。

あほたれ (阿呆垂) 馬鹿者。阿呆。あほに罵声タレのついたもの。

あほとん 【名詞】 ひどい阿呆 あんごし。あんたらたん。ぬんたらたん。(北) [会話] あんごし (阿呆、馬鹿) 言う事や (です)。馬鹿や (だ)、アホタン言うのは。

あほぢから (阿呆力) 【名詞】 馬鹿に力が有ると言う事から驚くべき力を出す事。

あほとちがうか 馬鹿じゃないか

あほとちやうんか 馬鹿でないのか

あほな 1) 馬鹿な 2) 馬鹿が (上、阿) [会話] 2) アホな (が)、あすこのアホな 言うて。あんごし (馬鹿な) 人な (が) 来ると、ちよいと (少し) 気な (が) 抜けた様なな (が) 来ると、あや (あれ) あのアホな 来たれ言うて。その時は 阿呆が、馬鹿な人が来た 言う事を アホな (が) 来たれ言うて。1) そいな、アホな 事言うな言うて、変な話しすると アホな 事言うな言うてな。

あほなこと 馬鹿なこと。つまらぬこと。(一) [会話] あんごし (馬鹿な) 様な事ばっか (ばかり) 言うもん で (ので)、アホな 事言うな 言うねわい (言うのです)。人な (が) 聞いても もつともな (だ) 思う様な

事 言うんなら (のなら) ええねけどな (よいのだが)、要らん冗談言うたり 阿呆口たたいたりな。

あほにする 馬鹿者扱いにする (南) [会話] 馬鹿にする言うのアホニスル。人を馬鹿にして言うて 人をあなずって (侮って) 言う事やろなあ (でしょう)。侮って、なつとでも言うとなあ、ほん (本当に) 人、アホンシテ言うて。

あほにつけるくすりやない 馬鹿は如何ともし難い。馬鹿は治らない。(上、阿) [会話] アホニツケルクスリヤナイ 言うたら、飲み薬おくれ言うて 医者に言うて それも一緒や (です)。そお言うのを あほぐち 言うの。

あほのおおぐい。あほのおおぐらい 【名詞】 馬鹿は見当なしに食べることから、大食いの人をののしって言う語。(上、阿) [会話] アホノオオグイ、けんと (見当) 無しん (に) 食べんのをなあ (食べるのを)、あんごしのは (馬鹿な者は) よお食うわい (よく食べます)。そやもんで (それで) アホノオオグイ言うてなあ。

あほのさんはいじる 【名詞】 【俚諺】 汁は一杯が礼儀、それをお代わりするのは馬鹿だと言う事。食事の礼儀を知らない人をののしって言う語。又汁を三杯もお代わりする程大食いする馬鹿と言う意味も持つ。(員) [会話] アホノサンバイジル言うてな、おつけ (味噌汁) 三杯飲むと、アホノサンバイジル言うて、言うやんかい (言います)。おつけな うもおて (美味しくて) また一杯呉れ言うとなあ アホノサンバイジルや (だ) 言うて。

あほのみ (阿保飲) 【名詞】 暴飲 (南) [会話] アホノミ 言うて、無茶苦茶ん (に) 飲むとなあ、アホノミして、まあ言うて 言うやんかい (言います)。酒でも うもおも (美味しくも) 無しん (に)、味 見やんと (見ずに) あくらかいん (無茶に) 飲むと アホノミで あやれま (あれ) 言うて。

あほばかまぬけ、ひよつとこなんきんかぼちや、やまんなかのくそさがし、とつてねぶるはいやしんぼ 【俚諺】 子供の戯言葉。人をからかうのに用いる。(上、阿) [会話] ヤマンナカノクソサガシ 言うやんかい (言います)。そやまあ (それは) 若い子供な (が) ちよおけて (ふざけて) よお (よく) そいな (そんな) 事 言よおったわい (言いました)。

あほほどけ 【形容詞】 度はずれて程度の甚だしいさま。無暗に。(鈴市、安、上、阿、張、賀) [会話] アホドケ、そう言う事すられ (する) とか、言われ (言う) とか、よお食われ (よく食べる) とか言うてなあ。

阿呆を例えて アホホドケ 飯をよけ (沢山) 食うたとか、並はずれて言う事やなあ (です) あほぐい言うねよってんなあ (言うのだから)、そして 長いもん (物) 見ると 阿呆のじみよお (寿命) 程 長いなあ 言うて、長生きするもんで (ので)。

あほみたいな【形容詞】馬鹿馬鹿しい(鈴市、安、久)
[会話] アホミタイナ言うて。なんでも 例えごとん (に) アホミタイナ言うてな、何か どんな (下手な) 事すると、喋るので 変な事 喋って来たり、人な (が) 話ししとんのえ (しているのに) 割り込んで来たりすると、アホミタヨン (に) まあ言うて アホミタヨナなあ (ようだ) 言うてなあ。

あほみたけやおやをみよ【俚諺】親馬鹿を言う語(上、阿)

あほみたよん【形容詞】馬鹿の様に、非常識なさま。馬鹿のする様なさま あほみたいな参照

あほゆう 馬鹿話をする。冗談を言う。

あほらし (阿呆)【形容詞】ばかばかしい。つまらない。
(阿、度、北、尾) [会話] 夜磯行くと ひんなか (昼中)、腰ざり (腰迄) 入らな (なければ) おもとる とこ (思っている所) でも、皆 ほんにやがとるもんで (放り上っている)ので、ひんなか (昼中) 行くとアホラシて、よんべや (昨夜は)、かんからこやったのん (干上がっていたのに)、海んなつとんない (になっている) 言うて。あの人と 話ししとると (していると) わけな (が) 判からんで (判からなくて) アホラシわれ (です) 言うて、馬鹿馬鹿しい言うのなあ (です)。

あほんだら【名詞】馬鹿者。あほだら参照(志、鳥(加茂、鳥羽)、鈴市、安、多、一、上、阿、張、名)

あま(尼)【名詞】1) 海女 アマビト(海人)の下略(大言海)(志(国府、畔名、片田、鶴方)、鳥(坂手)) 2) 女(志(全域)、鳥、三、鈴市、松、多、度、北、尾、南、熊) 3) 少女(志(畔名、片田、名田、国府、立神)、鳥(鳥羽、浦村、国崎)、桑郡、鈴市、安、津、度、北、南、熊) [会話] 1) 磯人のアマ。2) 女の事をアマ。娘の事をアマや (だ) 言うて。あしこ (あそこ) のアマン子な (女の子が) 言うやんかい (言います)。まん (の) 人らな (が) なあ (です)。おなご (女の人) はよけ言わせんけど (あまり多く言わないが)、男の人らな (が) アマンコ、アマ言うて。

あま(天)【名詞】かまどの上につるした、簀の子や竹を並べた棚または板。火の粉が天井に入るのを防ぎ、ぬれた物を乾かすのに用いられる。(志(布施田、立神、

志島)、飯、松、度) [会話] てんじよ (天井) のアマ、煤板。アマへ上げとけ (ておけ) 言うて。なんでも。

あまあい(あまあひ)【名詞】雨の止んで居る時。あま

あまあし【名詞】雨が降りながら通りすぎて行くさま、又その時間。[用例] 俄雨でアマアシな (が) 早いよって (から) じっきんあがられ (すぐ止む)。

あまあましとる 可愛がる 甘えさせる

あまい【形容詞】1) うすい。考えに深みがない。馬鹿たりない。(多) 2) 塩分が少ない時にアマイの表現あり。塩アマイ。(員、久、一、松、度、伊、鳥、熊) 3) 刃物が鈍い(北) [会話] アマイ言うのは、子供をあまやかす (甘えさせる) 言うのもあるしなあ (有ります)。あの家や (は)、とおさんな (夫が)、かか (妻) にアモオテ (甘くて) 言うのもあるやんかい (有ります)。1) そいな (そんな) 考えや (は) アマイやんか (です) 言うて、そいな アマイ考えで出来 よかれ (出来ない) アマイ言う事はやすい (容易だ) 言う事かいなあ (でしょうか)。アマイ言うのを アンマイ 言うて、御菓子な (が) アンマイ言うて、食べも ん (物) のアンマイ言うのと、3) 刃物も 焼きがアン マイ 言うて。焼きなアマイと、切れやせんね (切れないいです)。はあ (刃) は、こぼれやせんけど (ないが)、切れやせんね。

あまいた【名詞】甘えん坊 泣き虫(上、阿) [会話] アマエタ、あまえん坊よ言う。あまたれて (あまえて) まあ言うてなあ、あまたれて ぼつかおんねない (ばかり居るのだ)。このかあ (子は) アマイタで 言うて。

あまいもん【名詞】菓子

あまえかす 甘えさせる [会話] おとご (末っ子) 血の余りや (だ) 言うて、末っ子を血の余りや 言うて。こお (子) も、あばえるし (甘えるし)、親も アマエカスもんで (ので) おとご 血の余りやもんで (なので) 言うて。

あまえた(甘)【名詞】甘えん坊 あまえんちよ参照(志、鳥(答志)、上、阿、張、名)

あまえんちよ【名詞】甘ったれ。甘えん坊。だだっ子。
(三重県) [会話] アマエンチョと、アマエター緒の意味や (です)。甘えん坊も一緒や (ている)。甘えと る (ている) 言う事。

あまおち【名詞】あまたれの落ちる所(南)

あまがいの【名詞】アマガエル科の蛙。体長3~4cm体色は黄緑、緑等周囲の状況に応じ変色し頭側に

黒い帯状のすじがある。四脚の指には吸盤が発達し多く樹上に住む雄は喉に鳴き袋を持ち、大声で鳴く。皮膚が湿度に敏感で雨が降りそうになると樹上に登って鳴いたりするのでこの名がある。(志、鳥、伊) [会話] 木のはあ(葉) え、ちよいと(少し) 座り、人な(が) さわれば しょんべ(小便) こいて にげやがる(逃げる)。青いのなあ(です) 雨蛙の事。水よけ(沢山) 飲むと アマガイラ(雨蛙は) 言うて、アマガイルな(が) よけ(沢山) 鳴くと 雨な(が) 降る言うて。アマガイル とびき、切りん(に) 行くと、はあ(葉) え よお(よく) 座とって(ていて) すぐん(に) しょんべしておこして 人な(が) さわると。

あまがさ(雨傘)【名詞】 1) 雨を除けるための傘。番傘。

(三) 2) 月にかかる輪。月暈 雨笠(志) [会話] 2) アマガサ お月さんな(が) 出て来ると あや アマガサ取つとるよつて(取っているから)、二、三日のうちん(間に) 雨やなあ(だ) 言うて。アマガサふちな(周囲が) おつきい(大きく) なつて来るわい(来ます)。そすと(すると) 二、三日うちん 天気な(が) 落ちんのかして(悪くなるのか)、アマガサとつとられ(取っている) 言うて、1) それと 普通の 番傘と。

あまかす 1) 余す あます参照 2) 嘔吐する

あまかわ(甘皮)【名詞】 1) 樹木、果実の外皮の内側に
ある薄い皮。アマカワ(淡皮) にて薄き意(大言海)
(津) 2) 爪の根本を覆う薄い皮膚の部分 [会話] 1) アマカワな(が) 付いとる(ている) 言うて、皮、剥いたると(てやると)、その下にうっすいのなあん
なあ(薄いのが有るのです)。あれ アマカワや(だ) 言うなあ(言います)。蜜柑剥くと しいろいのおな
(白のが) 付いとん(の) (ているのです)。アマカワも 取らんと食うて(取らずに食べて) 言うてな。 きい
(木) でも 一つ 剥いたるとなあ(てやると) 中に
アマカワな有るわい(が有ります)。らっかせ(落花生) 中でも一つうちやつたると(壊してやると) 中にまだ 皮な有るやんない(が有るでしょう)、あいな
(あんなのを) アマカワ。

あまくち(甘口)【名詞】 1) 食物の味付けが甘い時
2) 酒を飲まない人 3) 甘い物を好む人 [会話] 1) おかずななあ(が)、こや(これは) アマクちやな
あ(だ) とか、醤油でもアマクちやなあ(だ) とか、
薄いとさいご(時)、ちよいと(少し) アマクちやな
あ言うて。3) 酒飲まんとおつて(飲まずにいて) 甘い
もん(物) 食べる人 あや(彼は) アマクちやよつて

ん言うやんかい(言います)。酒は飲まん。

あまくち(甘口) 気を許すこと。態度が手ぬるいこと。

優しい言葉

あまぐも(雨雲)【名詞】 雨になる雲

あまけ(雨気)【名詞】 雨の降りそうな気配(名)

あまこ【名詞】 娘。少女。(志、鳥(国崎)) [会話] アマコよ、せだ(布施田) は あねよ言うのを アマコ言うのなあ(です)。おなご(女) のこお(子) 呼ぶのを アマコよ言うてなあ。あまよ言うて、それとまた、びくよ言うのも 有るしなあ。おれげ(俺家) のびく
な(が) 言よおつたわい(言っていました)。

あまごい(あまごひ)(雨乞)【名詞】 雨乞い 晴天続きの為、雨を求める行事

あまごや(海女小屋)【名詞】 常設の海女の休憩所、バラック建てが多い。(志) [会話] 海女さんの小屋。磯人(海女) の ひい(火) 当る小屋 アマゴヤ。

あまざらし(雨曝)【名詞】 雨の降るままに濡らしておく(志(布施田))

あまし(余)【副詞】 あまり、あんまり。物事の程度が度を越しているさま。多少にかかわらず言う。(志、上、阿) [会話] あまり言うの(のを)、よお言わんで(言えなくて) アマシ言うて。あや(彼は) かたこと(片言) より よお言わんねど(言えないのだ) 言うて、言よおつたなあ(言っていました)。

あまじお(甘塩)【名詞】 塩気の薄い事。特に魚などに塩をする時に、うすじお。[会話] うっすい(少ない) 塩、塩な(が) うっすいとなあ、こや(これわ) アマジオやなあ(だ) 言うてなあ、うすじおを。うす塩ん(に) しとけよお(しておきなさい)、あんまり(あまり) 濃いと旨まないわれ(です) 言うて。魚や なんやん(何かに) 塩する時ん(に)、ちよいと(少し) 塩気 すけのお(少なく) する。うす塩ん(に) しとけよお 言うたり。

あます(余す)【他サ五】 1) あふれ出させる。とび出させる。溢す。2) 残す 3) 吐く。もどす。嘔吐する。[会話] 2) アマス言うのは残す。物を残す事を アマシテまあ言うし(言います)。3) 子供らな(が) 乳吐いて来ても、アマシタ言うて、乳あげる(嘔吐する) 時 アマス言うて。

あまづくい(甘酸)【形容詞】 甘い 酸味の有る甘さ あまづくばい [会話] アマズクイ、甘いのおを(のを) アマズクイ言うの(のです)。アマズクウテ(くくて) 味なええのなあ(がよいのです)。つぶ(貝の名前) や、まがり(貝の名前) 吸ると うまいなあ(で

す)。アマズクウテ。

あまだい (あまだひ) 【名詞】 海魚。シロアマダイ、アカアマダイ、キアマダイを区別せずアマダイと呼ぶ。体長約40cmでマダイより細長い。前頭部が隆起して頭部の前背縁がほぼ方形で有るのが特徴。(志、鳥)
[会話] アマダイ言うな (のは) 有るけどなあ 食うたこたねえけど (事は無いが)。

あまたるい 【形容詞】 甘すぎる。甘味が強い。非常に甘い アマタユ (甘弛) しの訛 (津、桑市、鳥) [用例] 此のぜんざい アマタルイ

あまだれ (雨垂) 【名詞】 雨の滴。あめだれ。[会話] 雨な (が) 落つとるのおを (ているのを) アマダレ。雨な (が) 樋、掛けとらん (ていない) 家はなあ ぼったんぼったんとなあ 穴な (が) あいてく (ていく) 程 アマダレな落ちるやんかい (が落ちます)。

あまだれおち (雨垂落) 【名詞】 雨の滴がおちる所。庇の下の部分。(上、阿) [会話] 雨なおって (が落ちて) 来るとこ (所) アマダレオチや (です)。アマダレオチて (と) 言うのは、下の方やなあ (です)。

あまたれる (甘垂) 【自ラ下一】 1) 味が甘くなり過ぎる。(志 (布施田)、南) 2) 甘える。甘えて相手に気持ちの上でよりかかる。[会話] 2) アマタレル言うのは、あばえる (甘える)。なんして (何か) くれとか、どげな (どんな) とか言うて、へえ (屁) でもないよおな事頼むのおと (のが)、アマタレテ、まああげんなんもかも (あんなに何もかも) 頼んで言うて、言うよおなもんやわい (ものです)。自分でせんと (せず) に人にばっか (ばかり) 頼む事を言うんやろな (言うのでしよう)。1) それと 味付けな (が) 甘いのも アマタレルなあ。

あまつかえる 充分にある。十分すぎる。余分がある。ありすぎる。十分すぎる程ある。[会話] アマツカエル ちんぼ (陰茎) のかあ (皮) なんやかや (いろいろ) 余るとなあ、あまたつたよお 言うと ちんぼのかあやれ (だ) 言うて、有り過ぎると まあ余ったよお言うてなあ。

あまど (海女人) 【名詞】 海女 (志、鳥) [会話] 終りさんち (三日) はアマドのままよ

あまだい 【名詞】 雨樋 庇の下につけ屋根の雨水を集め流す物

あまとお (あまたう) (甘党) 【名詞】 酒類よりは甘い物や菓子類を好む人。[会話] あや (彼は)、呑む口やよって (だから) 酒 呑むもんで (ので)、アマトオや (で) 無いし 甘いもん (物) やつてもはざんわれ

(いけない、駄目だ) 言うて。

あまどし (雨年) 【名詞】 雨のよく降る年

あまなきじお 【名詞】 七日汐。旧三月三日前後の長時間に渡り干潮が続き、またよく干いている潮の時。(志 (布施田)) [会話] アマナキジオ言うのは、三月三日アマナキジオ言うて、海女な (が)、潮なよお (がよく) 干くので、磯端いいたや (海岸へ行ったら)、あまな (小児が) 泣いて、泣き死んどたんで (泣き死んでおったので) アマナキジオ言うん (のです)。おなかが空いて、乳がほしおもても (欲しい思っても)、食べるもん (物) がほしおもても かあさん (母親) が夢中ん (に) なつとて (ていて) 海のもん 採つとて、そいで 家へきたやなあ (来たら)、その子な死んどたんでわい (死んでいたそうです)。泣き死んでたんやろなあ (いったのでしょうか)。海女さんが泣くんやなしん (のでなくて)。子供のあま、泣き死んでた (でいった)。“三月三日の汐日には淡路島へも徒 (かち) 渡る” 言うて、なんも (なにも) 無いよおん (に) なつとて (ていって) 淡路島へも徒渡れんねて (渡れるのだそうです)、その日だけは よお潮な (が) ひくので、それは旧 (太陰曆) の三月三日やわい (です)。節句の潮、節句潮。せつくじおのあまなし言うて、今し (今) の四月か五月の始めぐらいんなつてくんのお (始め位になって行きます)。子供らが泣いてすんね (するのです)。アマナキジオ言うて、ちっさいこお (小さい子) を、あまよ、あまよ言うやんない (でしょう)。そのあまな (が) 泣いとる (ている) 言う事やんなあ (です)。かあさんな (母親が) いくら待つとても (ていても)、潮な (が) 干いとて、いっしょけんめ (一生懸命) で、漁しとて、来やへんもんで 子供らが泣いて泣き死んでたりしとんのおを (でいったりしているのを)、アマナキジオ。海女さんな (が) 自分らな (の) 仕事なえらいもんで、泣きた (大変なので泣きたく) なって来る程、仕事せんならん (しなければいけない)。それとは違うの。

あまのり (甘海苔) 【名詞】 紅藻類ウシケノリ科の海草の一種。小柄を持ち岩、貝類などにつく。体は低状で種類や環境によって線状、長楕円形、円形など黒紫色、赤紫色でアサクサノリ、ツクシアマノリなど多くの種類を含む。(志摩市全域、鳥、津、張、度、伊、尾) [会話] アマノリ、島い (に) つく アマノリ。

あまぶね (海女舟) 【名詞】 海女が沖へ乗っていく舟。(志) [会話] 海女さんの舟。海女さんな (が) 乗つとる (乗っている)、商売 (仕事) する舟 アマブネ。

あま (雨間) 【名詞】 雨の降り止んでいる間。雨の晴間。
(南) [会話] 雨な (が) 降る、止んだあい (間) を
なあ、アママな (が) 有る。アママに はよいか
(早く行かなければ) 言うて、雨な (が) 止んどう
ち (止んでいる間) 言う事をなあ。

あまえれ。**あま**まけれ。**あま**ま **【感動詞】** さあ大変
だ。おやおや。(志 (神明)) [会話] アママ言うて。
失敗したとなあ (してやると)、なんやかや まけた
たり (いろいろこぼしたり) するとなあ、まま まけ
たたれ (こぼしてしまった) まあ言うて。ちゃあまけ
たと (茶こぼしてしまうと)、ままま そや、ちゃ
あ (それ茶) まけてまあ (こぼして) 言うて、アママ
言うやんかい (言います)。まま言う時もあるしなあ、
アママ言うて、おどけてする (驚いて) 事をなあ、ア
ママママ、そや 言うて。

あまみ (甘味) 【名詞】 うまい味 (志 (布施田))

あまめ 【名詞】 1) 火に当たっていたため皮膚に生ずる
斑紋。火だこ。(志、鳥 (国崎、鳥羽)、尾) 2) ごき
ぶり。油虫。伊勢にてゴキクライムシと言う (物類稱
呼)。ゴキクライムシは御器喰虫か、食器を舂める虫の
意か。(志 (磯部、浜島、布施田、甲賀、立神、神明、
志島、国府、安乗)、鳥、松、多、伊、尾、南、熊)
3) 船虫 浜辺に引き上げられた船中をはいまわつて
いるのでこの名がある。体長4 cm余りになり触覚と
尾のひげが長い。足音を良く感じ、すばやく散らばつ
て逃げる。岩の上など湿った所をはい回り、空気中の
生活に慣れている。岩かげにある動物の死体や水垢な
どを食べている。夜 休息する所と、昼間 活動する
所と異なり群をなして移動する。4) 人の後を追う人。
[会話] 2) ごきぶりの事やんかな (です)。1) いそど
な (磯人、海女が) 火にあると これえ (大腿内側、
内股) あつこおしてくんね (赤くして来ます)。筋な
(が) それを アママ言いよつた (言っていました)。
アママな出て来た言うて、あんな (あれが) 出ると
磯人みたいん (のように) 言うてなあ。あつこお美
しなあ (赤く美しく) 赤と白とでてくんねてや (出て来
るのです)。そおすと アママな (が) 出て来た言うて、
うれして (嬉しくて)、磯人ん (に) なつたよおな気分。
3) そすと 船におるふなむしも、アママ。2) 家におん
のをだ (いるのを) アママ言うて、ごきぶりをなあ。
あれのちつさいな (小さいのは)、へいはち言うて。

あまやかす (甘) 【他サ五】 甘えさせる。あまゆの他動詞
[会話] 大事過ぎて アマヤカシテ (させて) 言うこ
と。頭なやめて (が痛くて) まあ言うて そすと (す

ると) じょおくあいな (いつもあんな) 事言うて あ
まえとんねど (ているのだ) あや (彼は) 言うて。

あまよ 女の子を呼ぶ時 [会話] おなご (女) のこお
(子) 呼ぶのをなあ、アママ 言うてなあ。

あまよせ 【名詞】 一集団として出稼ぎに行く海女を寄せ
集め、各自を紹介すること。その為寄せ集める事。

あまらかす (余) 【他サ五】 1) 余す。残す。2) 吐く。

あまりもん (余物) 【名詞】 使った後で残った物。残り物。
(北) [会話] アマリモンやけど (だが) お前げ (貴
方の家) も、食べてくれえ (下さい) 言うてなあ、残
つたもん (物) を なんやかや (いろいろ) 呉れん
(に) 行く時なあ。こや (此わ) まあ アマリモンや
けど 食べてくれるかい 言うのを、くてくれえ (食
べて下さい) 言うてなあ、残つたのおをなあ (のを)
よその家い (へ) やる時ん (に) アマリモンやけど
言うて。

あまる (余) 【自ラ五】 残る。余分がある。(南) [会話]
まあ あまつたよお言うて、かんじょ (計算) して
残るとなあ。こや (此わ) あまつたよお言うてなあ、
余分な (が) 出て来たとか、あまつたぜん (銭) なら
積立てしとけ (しておけ) 言うたりなあ。しなもん
(品物) でも アマルと あまりもんには福な (が)
有る言うて、あまつたのおを貰う人を言うやんかい。

あまんじゃく (あまのじゃく) (天邪鬼) 【名詞】 意地を
張ったり何でも反対したりする人。わざと人と違うこ
とをする人。邪思多く他人の心をさぐるに長じ、姿や
物をまねし、口まねをして、人にさからい遂には滅ぼ
される。仏教では毘沙門天の腹部にある鬼面の名を俗
に海若 (あまのじゃく) といい、水神と考えられてい
たが、後にはその足下に踏まえている鬼を天邪鬼と称
する様になった。[会話] アマンジャク言うのは、人
な (が)、なんをゆうても (何を言っても)、人な
(が) 西や (だ) 言うて、東や (だ) 言うてすんのを
(するの)、あや (彼は) アマンジャクやつてん (だ
から)、そいて (そして) 人な東や (だ) 言うて、わ
しや (私は) 西や (だ) 言うてすんのを、アマンジャクゆう
るなあ (言うのでしょうか)。

あまみあげる (網揚) 海中に張っていた網を取り出す。[会
話] 大敷な (が) あみあげたや (たら) 大漁やてわい
(だそうだ)。鰯な (が) よけ (沢山) のつとんねてわ
い (掛かっているそうだ) 言うて。網な (が) 張つ
いてあんのを (ておいて有るのを) 舟い (へ) 引き上
げる時なあ (です) アミアゲル言うてなあ。

あまみかけ (網掛) 【名詞】 網を用いて魚、海老等海産生物

を獲ること。特に伊勢海老漁。またそれを行う漁師。
〔志(布施田)〕〔会話〕海老網 かけん (に) 行くの なあ (です)。アミカケな (が) 今日は 休みやてわい (だそうだ) 言うてな。海老網かけん (に) 行くのを、アミカケ。そすと それ商売ん (仕事に) しとるしと (している人) あの人 アミカケやてわい 言うて、あの家や (は) アミカケな (が) 商売で 夏あ (夏は) いそどこぎ (磯人を連れて行く) でああ言うて。

あみかけのひまち【名詞】 あみかけを行う漁師が、集まって大漁祈願をしたり、また休日時に集まって、骨休めの宴を持ったりする事。〔会話〕信心日待と、ごひまち (御日待) と、磯人 (海女) 日待と、アミカケノヒマチ。網かけ (は) 網かけで日待ちするし、こじよおしや (小漁師は)、こじよおしで、わがとらなすんねやろ (自分達がするのでしょうか)。

あみきより【名詞】 漁網を修理する事。(志(布施田)) 〔会話〕アミキヨリは、破れとんの (破れているのを)、そそくんの (のです)。破れとんのを、また元のよおん糸でつなげんねやんかな (繋げるのです)。それを アミキヨリ言うの (のです)。そそくる事を、沖よお行かん人らな (が) アミキヨリ 頼まれてくやんかい (て行きます)。

あみきよる 漁網を修理する。〔会話〕破れとんのをなあ (ているのを)、そくらうのおを (修理するのを)、あみきより言うてなあ。あみきよりのたのであね (頼んで有るのだ) 言うてなあ。アミキヨル言う時は そそくる (修理する)、破れとんのをなあ (ているのを) つなぐのをなあ あみきより。

あみくい【名詞】 蟹の一種 (志(布施田)) 〔会話〕アミクイガニ、アミクイ言うて 蟹な (が) 缺のなあ、かったいのおな (堅いのが) 有ってなあ、アミクイや (だ) こやまあ (これは) 言うて、網を 皆 切ったりりおったんてわい (切ってしまうそうです)。蟹な (の) 缺な (が) かつとおてなあ (堅くて) 網の糸皆 くたるもんで (食べてしまうので) アミクイや (だ) 言うてなあ。

あみくる あみあげと同じ。海中に張った網を引き揚げる。くるは手繰る。〔会話〕あげん (揚げに) 行くのをなあ、アミクリん (に) 行く言うの (のです)。“おらげ (俺の家) のとら (父) は アミクリん行たわいなあ (に行きました)” 言うて あげんのを くりん (に) 行く言うね (のです)。

あみさばき【名詞】 網に掛かった獲物はずし、海藻、その他不用物を取り除き、きれいにする作業。

(志(布施田)) 〔会話〕アミサバキ言うな (のは) 海老網もてきたのおを (沖からあげてきたのを)、海老はずしたり、さざえはずしたり、藻はずしたり。

あみしろ【名詞】 漁獲の内 網の持主に対する配当 (志、北)

あみすく 新しく網を作る事。あみはアム (編む) の名詞形 すくはスク (梳く) 〔会話〕アミスク言うて 網こしらえんのを (作るのを) アミスク。きよる言う時は修理すんのなし (するのですし)、あらたになあ (新しく) つくんのおを (作るのを) アミスク。あいな (暇が) 有ったら 網すかなはざん (なければいけない) し、あみかけの人ら (は) よさり、やすどても なあ (夜休んでいても)、すいとるわい (梳いています) 網を、わが (自分の) 家で使うだけわ。

あみだれ【名詞】 1) 藁 麦藁等で編み蓆の様にして海藻等を積み重ねたものの横側に巻き付けて雨風をしのぐ物 2) 便所等の入り口にかけて戸の代わりにする物 〔会話〕 1) アミダレ言うのはなあ (です)。こおぎや、藁で編んで。昔 あらめ積むと、ふち巻くのを、アミダレ言いよつたんなあ (言っていました)。小麦藁やら、編んで巻くのを、アミダレ言うて、たらさして (垂らして)、そしといて、その上へぼおし覆ぶせて。あらめん (に) 雨な (が) 入らんよおん (ように) ふちいまくの (のです)。

あみのめえ【名詞】 網の編んである糸と糸に囲まれた隙間の部分。網目。〔会話〕アミノメエ こぐつてでも (くぐつても) 探してこなとか (来なければとか)、草のねえ (根) さぐつても 探さな (なければ) とか、言うやんかい (言います)。アミノメエ こまかい (小さい) しよおめな (が) 有るやんかい (有ります)、あらくたい (粗い) のはがらめ。しよおめ ちっさあいのな (小さいのが) 有るやんな (でしょう)、どぼ (沙魚) 掬ったり、じゃこ掬ったりすんのなあ (するのです)。しよおめでしとかな (しておかなければ) 抜けてくもんで (て行くので)。

あみぶね【名詞】 1) 四艘張り漁の網を積んでいる船。(志、北) 2) 網で漁をする舟 〔会話〕 1) アミブネ言うてなあ、まあみや (だ) 言うてなあ、まあみや (と) 言うのは 網 積む舟で どこい (へ) でも磯場 替る時にやなあ (にわ) まあみい (へ) 積んどいて (でおいて) 行くの (のです)。

あみぼ【名詞】 編み物に使用する棒状の用具。毛糸などを編む棒状の物。あみぼうの下略。編針。〔会話〕毛糸編むおりぼ、アミボ、おりぼ言うのなあ (で

す)、編針の事を。店い(へ) 買いん(に) 行くと編針
言うて買いん(に) 行くけどなあ(のだが)、おりぼや
(だ) 言うて、鯨の おりぼや(だ) 金のおりぼや
(だ) 言うて。

あみめ (綱目) 【**名詞**】物を編み合せた隙間

あみもち 【**名詞**】海中の網を引きあげる事、またその人。

あみもつ 網を揚げる [会話] アミモツ言うの(の
は) 網引くのを、今日は大敷な(が) 網、持ちんいた
(に行った) 言う。あげんく(揚げに行く) 言う。揚
げる言う事を 網、持ちんた。

あみもん (編物) 【**名詞**】毛糸、本綿糸、レース糸などで
編んで作った物。あみもの。[会話] アミモン言うた
ら 毛糸編むのなあ。

あむあむする 嘔むの幼児語

あむない (危) 【**形容詞**】あぶないの変化した語。1) 危
害または、損害を受けそうではらはらす。(志、三、
鈴市、久、一、伊、北) 2) じきにだめになりそうだ。
死、破棄などの状態に近づいている。[会話] 1) 危な
い あっちゃい(あちらへ) 寄っても危ないよお(で
す)、こっちゃい(こちらへ) 寄っても危ないよお言
うて、あぶない。アムナイ言うて。

あめあげく 【**名詞**】雨の降りやんだ後 あめふりあげく
参照

あめおとこ (雨男)。**あめおなご** (雨女) 【**名詞**】出かけ
る時よく雨の降る男、または女。[会話] あの人な
(が) 来ると最後(その時) 雨な(が) 降ってなあ言
うのも一緒、わしらな(私達が) 習字やつと(する
と) 最後、雨な(が) ふんのも(降るのも) 一緒で、
その人な(が) 来る時ん(に) 限って 雨な(が) 降
る。あや(彼、彼女は) アメオトコやなあ(だ) とか、
アメオナゴやなあ 言うて 来るごつとん(毎に)、雨
な(が) 降つとる(ている) 時に来たりするもんで
(ので)、まあ、言うねやら(言うのか)、その人な
(が) 来ると 雨な(が) 降んねやら(降るのか) 知
らんけど(知らないが)、アメオトコやなあ、アメオナ
ゴやなあ、あんな(彼、彼女が) 来ると、まあ 雨な
降んね(降るのだ) 言うてなあ。

あめがし (あめぐわし)。**あめがしん** (飴菓子) 【**名詞**】
飴を材料として作った菓子。飴を引き伸し空気をいれ
白色化したものを菱形に切った物。[会話] 飴伸ばし
たの はすかんに(斜に) 切ったの アメガシン。引
いといて(ておいて) ほつそお(細く) したのをなあ、
鉄で菱形ん(に)。

あめがち (雨勝) 【**形容詞**】晴れる日より雨の日の多い

事。

**あめがふつてもやりがふつても。あめなふつてもやりな
ふつても** どうしても

あめぐそ 【**名詞**】耳糞の柔らかいもの [会話] アメグ
ソ言うて。耳ぐそな なめなめしとるおな(のが)
有ると、あいな(あんな) 耳は よお聞こえんねてわ
い(よく聞こえるのだそおです) 言うて。耳にからん
からん(乾燥する)になる糞は、耳な(が) ずんた
ん(聾に)なる言うな(のは) ほんとやわい(本当です)。
わしや(私は) 耳の糞なあ、からから言うとんね(言
って居るのです)、そやよつて(だから) 耳な(が) ず
んたんなつてく(聞こえぬくなって行きます)。アメグ
ソな(が) 出ん(る)のは 耳の しよおなええね
(性格がよいのだ) 言うて、ずんたんならせんね(聾
にならないのです)。

あめくさい (體臭) 【**形容詞**】くさり腐い。すえた臭いが
する。

あめぐも (雨雲) 【**名詞**】雨を降らす雲

あめけ (雨気) 【**名詞**】雨の降る気配

あめごむ 【**名詞**】赤褐色をした硬化度の少ないゴム、又
それで作った靴。

あめじけ 【**名詞**】雨の特に多い時化(志(布施田))

あめたもれ 祈りの言葉、雨乞いの言葉。[会話] いな
さ(南東)の沖からアメモタレ言うて、雨乞いなあ
(です)。蓑と笠 被って 雨乞いや(だ) 言うて し
よおつたけど(して居ましたが)、雨な(が) ふたあ月
(二ヶ月)も降らせんねよつて(ないのだから) 雨乞
いしよおや(しましう) 言うてな。蓑と笠と被って
いなさの沖からアメモタレ 雨なら怖いにげえ(逃げ
よ) 言うて、雨乞いや(だ) 言うて。そすと(する
と) 二、三日すると、雨な降りおつてなあ(が降りま
した)。

あめとる 腐って居る(志(甲賀)) [会話] アメトル
腐敗しとる言う事やなあ(です)。腐つとんの(腐って
居る) ねぐさい飯喰わして言うて よお(よく) 昔の
人ら ねぐそ(腐り臭く) なって来る迄置いといて
(置いておいて)。今しや(今は) 冷蔵庫な(が) 有る
よつて(から) ねぐそならせんけど(腐りくさくなら
ないが)。

あめなかかる 1) 雨で濡れる 雨が当る 2) 雨にな
る

あめねぶらす 甘言などを用いて人を喜ばせる。おだて
る。(上、阿、熊) [会話] ぎよおせん(上質の水飴)
舐ぶらされてまあ言うて。まいない(賄賂) なあ、あ

やまあ (彼は) ぎょおせん舐つとんねよってん (ているのだから) 言うてな、まいないつかますのを アメネブラス。

あめふりあげく (雨降揚句) 【名詞】 雨の降り止んだ後。
[会話] 雨な (が) 降った後、アメフリアゲクン (に) 畑へ はいんなまあ (入るな)、やいこいのお (軟わらかいのを) 踏んだると (でやると) かつとなつてくんのん (硬く、なってくるのに) 言うて。

あめふりしごと (雨降仕事) 【名詞】 雨降りの日にする仕事。(桑市) [会話] 雨な (が) 降ると、じょおり (草履) 作ったり、なあのおたり (縄なったり) ふご (畚) 編んだりすんの (するのです)。アメフリシゴトに こや (これは) 取つときやええわれ (取っておけばよしい) 言うて、空豆剥いて 煎つといて (ておいて) それ噛みもて (ながら) 草履作って 吠い (に) 一杯たまったや (貯ったら) 一年中こんで (これで) 有るかいなあ (だらうか) 言うても めったんあるかい (絶対に有りません)。五人も六人も履くねよってんなあ (のだから)、雨な (が) 降るごと (毎に) じょおり作くんね (草履作るので) 藁打って。そすと (すると) 吠い (に) つめんね (入れるのです) 今日とは十足作った、今度の雨も 十足作って 百から上 溜ったよって (から) こんで有るかいな 言うて、めったん無いね じつきんたたきつたて (すぐに叩き切ってしまう)。

あめみみ 【名詞】 粘っている耳垢 (三重県全域)

あめやすみ (雨休) 【名詞】 雨が降って仕事が休みになる事。休み事。[会話] 雨の降るひい (日) に仕事休み、アメヤスミ。雨な (が) 降ってなんもかも (なにもかも) 仕事休みのおを、休み言うて 休んどらせんけどなあ (でないのだが)、内仕事をなあ、じょおり (草履) 作ったり 針仕事したりすんのを (するのを) アメヤスミに 針仕事しよおや (しましょう) 言うて、そんな (それが) 休みやわい (です)、藁仕事すんのな (するのが)。畑へ行かせんだけで (ないだけで) なあのおたり (縄なったり) 裁縫したり 今日こそそくりもんしとる (修理物している) 言うてな、破れつぐのん (修理するのに)。アメヤスミ言うて 体使う 外の仕事しやせんだけで (しないだけで)、内の仕事は 雨な (が) 降らん (ぬ) 日和 (天候) に 気な (が) 揉めてしておられん仕事まあ 雨のひい (日) になあ、天気な (が) ええ (よい) 時や (は) 家ん (の) 中で裁縫したりしておらよかな (しておられません) 勿体のおてなあ (なくて)。こいな (こんな) ええひい (よ

い日) 家ん (の) 中 入いっとる (ている) 言うて 姑婆な怒って来るわい (来ます)。

あめやます 雨やどりする (南) [会話] アメヤマス言うのはなあ。軒下え隠れて、きい (木) の下からすくどて (かくれて)。雨 やましてこやんか (行きましよう) 言うて すくんどる (かくれている) 事をなあ、あまやどりの事やなあ (です)。あまやどり しといていこや (しておいて行きましよう) 言うのをなあ、雨やまそや (しましょう) 言うてな、此の家の だれ (軒の庇) で 雨やましてこや (行きましよう) 言うて 庇の下で かくれて。

あめる (鮓) 【自マ下一】 飲食物が腐ってすっぱくなる。すえる。(志 (神明 国府 浜島) 布施田、鶴方、立神、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、加茂)、鈴郡、一、飯、松、多、度、伊、北、尾、南) [会話] アメル言うのは、いたんでく (痛んで行く、傷んで行く) 言う事や (です)。ねぐさい (古くなっていやな臭いがする) 言うて、物な 腐敗した言う事。物な (が) 腐さんのおをなあ (るのを)。アメテタ言うやんかい (て行った言います)。なんでも食べるもん (物) を残しとくと (ておくと)、ねぐそなつた (なつていった) アメテタ言うやんかい (ていった言います)。

あめんぼ 【名詞】 あめんぼう末尾の省略。鮎坊を音便にて言う (大言海) アメンボ科の昆虫。体は黒褐色で細長く腹面には銀色の毛が密生し水に濡れないようになって居る。体長約1.5~15mm脚は斑あるが後ろの二対は極めて長く池や沼の水面を滑走する。捕えると水鮎の臭いがするところから言う。(南)

あもで ああ詣でるの略。(剣光寺、一美和尚の語) [会話] ああととは、おしょうじの時に称えるし、盆の大念仏の時は アモデや (です)、アモデやアモデ やさやさてんてこてん言うね (言うのです)。

あもでばおり、あんもでばおり (羽織) 【名詞】 お盆の時に家内中の者が一枚の羽織を着ること。体に合わないで格好がつかない。[会話] やさやさの時ん (に) ちんちくりんの羽織、昔や着とりおったわい (昔は着ていました)。わがとん (自分の) 体ん (に) 合わせておえし (無いし)、だなのお (誰の物) でも、かつたり (借りたり) して、一枚有ると、家中のもんな (者が)、爺も着い、あにんこ (兄) も 着てするもんで (ので)、体い (に) おおとらせんやんない (合っていないでしょう)。そんで (それで) 体ん (に) おおとらせんと、アモデバオリや (だ) 言うて。

あや (有) 有れば (志) [用例] 俺家ん アヤ 借した

るわい (借せてあげます)。ぜん (銭) な (が) アヤ
何でも買われる。

あや【代名詞】 あれは、彼は、人、物をさす。(志 (越賀、
波切、鳥、南) [会話] アヤ言うのは友達を言うのも、
アヤ (彼は) どこやらいた (何処かへ行った) 言う時
も有るし (あります)。アヤ (あれは) 何処へやったん
ど (やったのか) 言うて、何処かへ、ふてたた (失っ
た) 時も、無いばやい (場合) に、アヤ 何処い
(へ) やった。ほいて (そうして) 友達でも何処にお
っても (いても)、おらん (いない) よおになると、ア
ヤ 何処いいたたんど (へ行ったんですか) 言うてな
あ。アヤ 何処やらいたたやんか (かへ行ってしまっ
たでないか) 言うたりなあ。アヤ言うてなあ、物も人
間もうなし (同じ)。

あやあや、あやあれ、あやあれまあ【感動詞】 あやえれ、
あやれと同じ参照 1) 驚いた時に使用する。或いは
大袈裟に言う時。2) 遠くを示す。人を呼ぶ。[会話]
2) アヤアレ、こやあれ言うてなあ。アヤアレ言うて、
向こうを、アヤアレ言うてなあ、ねき (近く) 有ると、
こやあれ、こやあら言うてなあ。人を呼ぶのでも、ね
き におると、こやあら、わいななら (貴方が) 何処、
其処いてなら (行って) 言うて 話して (話しして)。

あやええのん 1) 有ればよいのに。2) 逢えばよいの
に。(亀) 3) 合えばよいのに。[会話] アヤエンノン
言うて。2) 人に逢うのも アヤエノンなあ言うし、
1) なんやかや (いろいろ) 物が有るのも アヤエノ
ン言うしなあ。有ればよいのに 言うのを アヤエエ、
こおゆうもんな (物が) おまえげん (お前の家に) 有
るかい言うたや (有りますか言ったら)、知らんてや
(知りません) 言うて、アヤエエドなあ言うし。人
に逢うのも、あの人に 逢わせんかい (逢いませ
んか) 言うて、一つも (全く) 逢わせんよお (逢いませ
ん) とか、ああ逢うわい (逢います) とか言うて。

あやえれ、あやれ【感動詞】 あやあれと同じ。あれあれ。
あれ。あれまあ。あれ参照

あやかした 馬鹿にした。あやかすに同じ。過去形 [会
話] 人アヤカシタよおな (だ) 言うてなあ。ちょおい
としか (少しより) 物やらせんとなあ (やらないと)、
人アヤカシタよおな こいな (こんな) 事して言うて、
あやかす言う事は、馬鹿にする 言う事やんか (で
す)。まあ アヤカシタよおな もんやけど (物だが)
此れ取っといてくれえ (ておいて下さい) 言うて、こ
っちや (こちら) もてくし (持って行く)、そすと (す
ると) 貰らうひたなあ (人は) アヤカシタよおなもん

(物) 言われやせんし (言えないので、おおた そい
なええもん (そんなよい物) 呉れんのかい (るのです
か) 言うて、てれんす言 (お上手言うておいて)、
後で おおた こやれ こいな (こんな) アヤカシタ
よおなもん (物) よおくれたなあ (よくくれた) 言う
て。

あやかしたる 馬鹿にしている [会話] 俺 アヤカシ
トルもんで (ので)、おんな (俺の) 言う事 聞かせん
(ない) 言うてな。

あやかす【他サ五】 1) 嘲笑する。軽蔑する。からかう。
だます。たぶらかす。愚弄する。(志 (浜島、波切、布
施田、立神、鶴方、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、
員、桑市、鈴市、安) 2) 子供をあやす (たらす。た
らかす) (志、鳥、鈴市、鈴郡、安、松、多、伊、尾、
南、熊) [会話] 1) アヤカス言うのは、ちよらかす
(からかう)、人を馬鹿ん (に) する言う事。侮るみた
いな (のような) 事やわい (です)。2) 子供アヤカス、
あや (あれは) 子供あやす言うやんかい (言います)。
たらす (機嫌をとる) 言うのを。泣いとんの (泣いて
いるのを)、たらしたれ (てやれ) やませ (止めさせ
よ) 言うの (のを)、たらしたれ。あやすゆうことを、
こおな 泣いとられ (子供が泣いている) たらしたれ
言うてな。あやすも、たらすも一緒の意味や (です)。

あやかり【名詞】 1) 雑種。似ている物。あやかる参照。
(志 (波切、布施田、立神)) 2) 弱い人。なにもでき
ない人。悪者。[会話] 2) アヤカリ言うのは、よおを
て、なんもよおせん (弱くて何も出来ない) 言うのも
有るし (有ります)、1) そして 物にあやかる言うの
も有るし (有ります)。このしなもん (品物) 黒やった
(だった) のな (が) 白ん (に) なつてた (て行っ
た) とか言うのなあ (です)。花の赤いのと白いのとの
間にピンクの物が出来た。それ あやかしてた (てい
った) 言うて。今し (今) では、交配、さした言うけ
ど、昔や (は) あやかしてたんなあ (て行つたのだ)
言うて。アヤカルとか、アヤカリとか言つて、奇形児
の出来た時も、妊娠したる時に、とり、こしらえた
か (鶏を殺して調理したとか)、なんかしたる (してしま
う) と、そのもんな (物が) あやかる言うて。昔は、
蟹の脚をもじいとたもんで (足をもいでいたので) ○
○○な (の) こいび (小指) な 皆 無かつたんやん
かい (ありませんでした)。○○も親指なふたつあつた
の (有つたのです)。くどのかたん (に)、がに (蟹)
がほおて (はつて) きて、それを かあさん (母親
が)、取つてやつたや (ら) 親指で挟むもんで (ので、

親指もじいたれ (もいでやれ) 言うて、もじいたたもんであやかっつて、親指なふたあつ (ニケ) あつて。△△△んこな (が)、はななくたやつたやんな (鼻づまり、鼻声だつたでしょう)。妊娠しとる時、くど塗つて火な (が) 通るよん (ように) 真ん中へ穴通すわい (通します)。土で塗つといて、けぶり (煙) も行くし、火な (が) 燃えよいよおん (やすいように) 穴 通したもんで △△△んこな (が) 鼻、いきぬけんなつて (通り抜けになつて行つて)、はななくた。あやかるといふ (のです)、それを。わしやなあ (私は) ○○はらんだる (妊娠している) 時ん (に) 火事で、最初煙りを見た時に、体の何処かへ、あたる (触る) と 最初当たつたとこへ (所に) 痣な (が) 出来る言うもんで (ので)、顔へ当たると、いかんやんない (でしょう)。あやかるとはざんよつて (いけないから) 思う意識が有つたもんで、ここ (大腿部) に、あやかつたんやろうなあ (なのでしょう)。かゝりばしら (貝柱、真珠貝) の くらいのかうろおい (黒い) 痣なあんね (があります)。

あやかりたい そうなりたい (志 (立神)) [用例] 立派な人に アヤカリタイ。

あやかりもん 【名詞】 あやかつた物 雑種 奇形 [会話] 昔の行事はなんも (少しも) 無いよおん (に) なつてくな (なつて行きます)。そやよつて、おなご (だから女) の節句、三月の節句でも なんもしやせん (なんにもしません)。そやけど (だけど) 男の節句ん (に) になると、子な (が)、まめ (健康) なよおんおもて (に思つて)、菖蒲を風呂い (へ) して、菖蒲酒しとくの (しておくのです)。菖蒲酒は魔除けやよつてん (だから) 飲め飲め言うて飲ますね (飲ますのです)。昔は節句の御神酒は、若いもん (者) に一番に飲ませ言うて、アヤカリモンなしやせん (がしない) 言うて、こおもおける (子供を産む) うちは (間は)、一番に若いもん (者) に飲ましよつたの (飲ませて居たのです)。

あやかると (肖) 【白ラ五】 1) 似る。似てくる。感化されて同様の状態になる。(志) 2) 奇形児又はあざなどが出来ている子供が生れること。あやかり参照

あやこそ 有ればこそ。有るが故に。[会話] おんな (俺が) アヤコソ、おんな 無かつたら 此の家や (は) なつと なんねど (なんとなるのだ) 言うてなあ、恩に着せる事なあ (です)。婆な (が) 口癖やんかい (です)。おんな アヤコソな なんもかも (すべて) 家のこた (事は) 皆 すんねない (するのだ) 言うて。おんな 有るよつてん (から) 言うのをなあ、

アヤコソ言うて、こそ つけんのなあ (つけるのです)。自分にこそつけんと (付けずに) 人様に こそつけな (なければ) 言うて、あんな (貴方が) アヤコソ言うて べつんも (特に) その人 立てるけど、おんな アヤコソ言うて 恩に着せてするやんかい (のです)。おんな アヤコソ言うて 年寄り嫌われんねやんかい (嫌われるのです)。金な (が) アヤコソ こいなもん (こんな物) も 買われんねやれ (れるのだ) 言うて、先立つもん (物) は お金なり 何はのおても (無くても) 金さえ有れば 知恵も工夫も湧いて出る言うて。金な (が) 有ると、こんな (これが) したいなあと思うと、ぜんな (銭が) あや (有れば) それ こんおて (買つて) 来て 出来るけど (が)、無いと こんな したいなあ おもても出来やせんやんない (思つても出来ないうです)。する事な (が) どんになる、貧すや (すれば) 鈍する 鈍すや (すれば) 喧嘩する言うて。

あやこや 反対、逆になっている事 [用例] 言う事と、する事と アヤコヤやんかあ (でないか)。

あやし (怪) 【形容詞】 普通と違ふところがある。変だ。疑わしい。(南) [会話] あの人アヤシなあ、なんやら (何か) あんなどこい (彼女の所え) よばんしん (夜這いしに) 行くよおな ふうやなあ (格好だ) 言うて。おなご (女) の とこいなあ (所に) ちよろちよろ そばえてくと (よつて行くと)、あや (彼は) なんやら アヤシど (ぞ)、あや (彼は) あれん (彼女に) 気なあんねど (が有るのだ) とか言うてなあ。

あやしがる 【他ラ五】 変だと思ふ。疑わしく思ふ。[会話] あやしい感じな (が) すんなあ (する) アヤシガル、あやまあ (彼は) あやし 感じやなあ (だ) 言うて。あや (彼は) けけましとんねど (惚れているのだ)。

あやしげ 【形容詞】 えないの知れない感じであるさま。不思議だ。変だと思ふさま。思いがけないさま。げは 気、気配 [会話] アヤシゲななあ、あやまあ (彼は) 言うて。なんか (何か) あやしどなあ (怪しいぞ) 言うて、あやしど あしこいばっか (あすこにばかり) 行くよつてな (から)、アヤシゲななあ (だ) あや (彼は) 言うて。

あやす 【他サ五】 機嫌をうまくとる。たらす。(志 (鵜方)、鳥、上、阿、南) [会話] アヤス言うのを、たらす言うやんかい (言うのです)。子供たらしたれ言うて。昔の言葉では たらしたれ (てやれ) 言うて、今の言葉はアヤス。泣いとるよつてん (ているから)、はよ (早く) たらさなはざんわれ (なければいけない)

言うて。

あやつ (彼奴)【代名詞】三人称。第三者をののしって言う語。あいつ。きやつ。やつ。[会話] あいつ言うことやわな (です)。

あやつる (撰)【他ラ五】裏面で他人を使って自分の思う通りにさせる。陰で糸引く。[会話] アヤツル。人をしよしよらげて (持ちあげて) 言うたり、おだてて すんのをなあ (するのを)。あんた (貴方) は偉いなあとか言うて、偉ろおも (偉くも) 無いのを しよしよらげて 言うて。なんも (少しも) 偉いや (で) ないんけどなあ (無いのだが)、それを あんた は えろおてなあ (偉くて)、なんでもえろおてなあ、なんさしたててえろおてなあ (何させても偉くて) 言うて、偉らないのをなあ 言うのを しよしよらげて まあ言うてな。それをまあ アヤツル言う様な意味やわな (です) 黒幕ん (に) なって。

あやとり (綾取)【名詞】女兒の遊び。輪にした糸を両手首、指などにかけ種々の形を作る遊び。一人でする時もあるが多人数でする時もある。(三重県全域) [会話] アヤトリ 糸でなあ いととり。糸取り すんのをなあ (するのを) アヤトリ 言うて。

あやふい。あやぶい (危)【形容詞】危険だ 心配だ (三、上、阿)

あやふむ。あやぶむ (危)【他マ五】1) 危険に思う 2) 疑う 3) 心配する

あやふや【形容詞】不確ではっきりしないさま。どっちつかずの状態。曖昧。[会話] 定まらん言う事や (です)、判らん言う事や。アヤフヤな事して、なんやかむからせんわれ (判りません)。無茶苦茶な事して言う事やわな (です)。

あやぶんどる (危) 1) 疑問に思っている。2) 心配している [会話] 1) そんでええんやろん (それでよいでしょう) 言うて。アヤブンドンのを こんでええかいなあ (此れでよいだろうか)、こいな (こんな) 事して ええんかいてや (よいのですかと言えば)、そんでええんやろん 言うて。

あやま【感動詞】心外に思う事。あれあれ おやおや (志 (布施田))

あやまあ【感動詞】あれはもう (志)

あやまち (過、誤)【名詞】動詞、あやまつの連用形の名詞化した語。失敗 1) 怪我 (志、鳥、上、阿、張、名) 2) 男女間の不義。あいまち参照 (志、鳥 (相差、国崎、鳥羽)、上、阿、張、名) [会話] アヤマチ犯して言うてなあ。しぞこない したると (してしまうと)、

アヤマチ 犯してまあ言うて ことわり (許し) 言う時んなあ (に)。

あやまり (謝)【名詞】過失の許しを求めること わびること [会話] 人のとこい (所へ) すまらったなあ (すまなかった) 言うて、ことわりに行く事なあ。アヤマリに行く言うて、あのひた (人は) 人ん (に) あやまんな (あやまるのは) 嫌い やよってん (だから) 言うて、がまん (頑固) な にげやなあ (人を)。

あやまり (誤)【名詞】過失。失敗。[会話] なんやかや (いろいろ) しぞこないしても アヤマリした言うや んかい (言います)。

あやまる (誤)【自ラ五】失敗する。間違う。

あやまる (謝)【自ラ五】1) 過失の許しを求める。謝罪する。2) 降参する。閉口する。3) 辞退する。[会話] 1) アヤマル言うな こらいて (こらえて) 下さい 言うて 頭 下げて アヤマル。2) 降参、アヤマル 降参する言うの (のを) アヤマル。

あやめかおい【名詞】魚 ほしがおい 星鯉 カレイ科 全長約40cmに達す。両眼は体の右側にある。背面は(有眼側)は暗褐色で、各鱗に小黒斑が有る。(志)

あやめる (危)【他マ下一】1) 殺傷する。殺す。(志、鳥 (答志、鳥羽)) 2) 人に迷惑を掛ける [会話] 2) 人をアヤメル言うて、迷惑かける事なあ。あのひた (人は) 人アヤメル事ばっか (ばかり) 考えとんね (ているのだ) 言うてなあ。1) 殺したる事も アヤメル言うやんかい (言います)。あの人 アヤメタタてわれ (てしまったそうだ) 言うて、殺したた (てしまった) 事を。

あゆぶ (歩)【自バ五】歩く 足を動かして前に進む (志、員、伊、南、熊)

あゆべ 歩け

あゆみ (歩)【名詞】舟と陸、舟と舟との間に渡して歩く板 あゆみいたの略

あゆむ (歩)【自マ五】足を動かして進む、歩く。あいべ参照。あいぶ、あゆぶ、あよぶ、あよむ。(志、鳥 (国崎、鳥羽)、員、伊) [会話] 歩く事をアユム、こららを (子供を) てえ (手) 引っ張つとると (ていると) はよ あゆめまあ (早く歩きなさい) 言うて、歩けまあ言うのを。

あゆめ (歩)【自マ五】歩きなさい [会話] アユメ言うのは 歩け言う事。あゆむ言うと 歩く、あゆでくる言うと 歩いて来る。あしこから (あすこから) あゆんで来た言うと、歩るいて来た。あしこい (あすこへ) 迄 アユメまあ そしたら 負んだるわ (負んで

やる) 言うて、こお (子供) をなあ。

あゆんできた 歩いて来た。[会話] アユンデキタ言う
と 歩いて来た。

あゆんでくる 歩いて来る。幼児が歩るいてくる。

あよおった 有りました [会話] 塗って有る椀や お
櫃もアヨオッタワイ。

あよばす。あよます 歩かせる

あよぶ (歩)。あよむ (歩) 【自マ五】 歩く (志、鳥 (国
崎)、員、伊)

あよめ 歩け

あら 【感動詞】 物事に驚いたり、感動したりした時に発
する語

あら (粗) 【名詞】 1) 魚肉をとった残りの部分。あらぼ
ねの下略。アラボネ (現骨) の義 (大言海) 肉を取っ
た残りの骨 (志 (布施田、甲賀)、鳥、員、三、桑市、
鈴市、津、松、多、張、度、南) 2) 人の欠点。短所。
(志 (布施田)、南) [会話] 1) アラ、魚のアラ。2)
アラ探しのアラ。人のアラ探す言うて。1) 魚のアラを
茶で、あるて (洗って) 飲むとうまいねてや (美味い
のです) 医者殺しや (だ) いうて。

あら (新) 【名詞】 新しい物 (志 (布施田、甲賀)、鳥、
三、鈴部、北) [会話] 新しい言うのもアラ、アラの
きもん (着物) 着て言うてなあ。

あら 【名詞】 おおくちいしなぎ。スズキ科の海魚。スズ
キに似た魚で体長1mに達し、えらぶたに鋭い棘があ
る。背は灰色に紫色を帯び尾鰭と第二背鰭に黒斑があ
る。語源不明 (大言海) [会話] 魚のなあ (名前) も、
アラ言う魚な有る。口なおつきい (が大きく) 開いて、
うまいんてわい (美味いそうです)。

あらい (あらひ) (洗) 【名詞】 料理の一種。新鮮な魚の
刺身を冷水または氷水で洗って縮ませた物。動詞 あ
らうの連用形の名詞化。[会話] アライ言うな (の
は) はぎ や (だとか)、魚を 生臭い臭味をとんのん
(取るのに) 水で あるたんのを (洗ってやるのを)、
アライして食うとうまい。酢味噌で食うと旨いわれ
(です) 言うて、鯉のアライとか 鮎のアライとかな
あ。くさはぎをなあ アライにしたり。水道でじゃあ
じゃあして あい (魚名) でも アライにすると旨い、
刺身の生臭いのを とんのをなあ (取るのを) アライ
する言うて。

あらい (洗) 【形容詞】 程度が甚だしい。金椀ぎなアライ。
波がアライ。アライ風。[会話] 風な (が) 吹いて来
て アライのも アライ言うしな。今日はまあ 物凄
い アライひいやなあ (日だ) 言うしなあ。あのにげ

や (人間は) 言葉な (が) アライ 言うて 大きな声
するとな

あらい (粗) 【形容詞】 1) 織物、編物。縞模様などの目
が大きい。2) ざらざらして表面が滑らでない。3)
表現、作り方が大雑把である。粗末である。[会話]
アライな (です)。1) めえな (目が)、3) このこお
(粉) アライとかな。2) 生地な (が) アライなあとか、
そいな (そんな) 時も言うし。

あらいお 【名詞】 新しい魚群

あらいおけ (あらひをけ) (洗桶) 【名詞】 食器や野菜な
どを洗うのに用いる桶。また風呂などで体を洗うのに
用いる桶。(南) [会話] 茶碗あるたり (洗ったり)、
勝手のもん (物) 洗らうの (のを) アライオケや
(だ) 言うてな。米かす (研ぐ) のは 米かし桶言う
て、別なあ (に) ちよおいと (少し) より かさせ
んねよつて (ないのだから) ちっちゃあいの (小さい
のを) こや (これは) 米かし桶や (だ) 言うて、米か
すのは 別んしとよおつたなあ (にしていました)。か
しおけな (が) 有って、きい (木) ののおで (ので)
桶やもんで (なので) かしおけやたら (だとか)、麦く
ざける (浸す) 桶や (だ) 言うて、麦くざける のは
おっきなの (大きなの) やつて (だつて) そして 芋
切る桶や (だ) 言うて、芋切んな、どいろおて (切る
のは大きくて)。勝手には、アライオケと 米かし桶と
麦くざける桶、そすと 水汲むな (のは) おっきいの
な (大きいのが) 有って いろいろとなあ。桶をみな
なあ、大から小から こや (これは) 水汲む桶や (だ)、
こや 麦くざけんね (浸すのだ) こや 米かすね (研
ぐのだ) 言うてなあ、よけ (沢山) 桶な (が) 有りお
つたわい (有りました)。

あらいこ (あらひこ) (洗粉) 【名詞】 物を洗うのに用い
る粉。洗顔、洗髪、入浴時に用いる化粧用の粉の事が
多い。[会話] せんだくこ (洗濯粉) の事 アライコ。
アライコも かわなはざんし (なげれば駄目だ) 言う
てなあ。アライコ言うたけど (が) その昔や (は) 灰
のあくやわい (です)。しいろいもん (白い物) 洗う時
やなあ (は) 灰のあくを 桶ん (に) 一杯出して有
ってなあ、それを入れて、もおどいて (揉んでおい
て) ゆすぐのは さみず (混りもののない水) する
けど (が)、灰のあくはなあ かめな (が) 有ると か
めい (へ) 貯めとよおつた (ていました)。それを ひ
としゃくつうつ (一杓づつ) 入れてなあ (ておい
て) すんの (するのです)、そんな (それが) まあ石鹸
の代りなあ (です)。髪 洗らう かみアライコと せ

んだくこ (洗濯粉) と有ってなあ、かみアライコ こお (粉) ののおななあ (のが) 出て来たけど (が) 髪洗うの はたぶら (椿の実) 搾った粕や (だ) とか、なめかざら言うのな (が) 有ってなあ、それ取りいて (に行つて)、なめかざら 突ついといて (つついて) ふきん (布) え入れて そんで洗いおった (それで洗っていました)。アライコな (が) 出て来ても ぜんな (銭が) 勿体ないもんで (ので) その方な (が) 髪のためん (に) よかつたもんで (ので)。

あらいこと (あらひこと) (洗事) 【名詞】 食事の後片付け。洗濯。[会話] おら (俺は) まあ 勝手 (台所) で 食いことせなはざんし (食事の用意しなければいけない) アライコト せなはざんし 言うてな。

あらいさらし (あらひさらし) (洗晒) 【名詞】 幾度も洗つて色の退色した物。傷んだ物。

あらいたて (あらひたて) (洗立) 【名詞】 たては動作が終わったばかりである意を表す。洗ったばかりである事。またそのもの。[会話] アライタテ言うると、あるた (洗った) すぐのおをなあ (のを) アライタテの糊つきの ばんばん着て言うてなあ、糊つけて ばんばんにしてなあ、洗うのななあ (のに) 楽なよってん (楽だから)、糊つけとくと (ておくと)。せんだくもんな (洗濯物が) 落ちん (る) のでなあ、のりつけんと (つけづに) 着たら あらいばれな (が) しやせん われ (しない) 言うてなあ。糊つけると あらいばれな (が) する言うてなあ。

あらいば (あらひば) (洗場) 【名詞】 物を洗う所。野菜や食器を洗う所。風呂で体を洗う所。(志、鳥 (国崎、相差、答志)、名、南) [会話] 洗濯場の事をアライバ言うかい (言いますか)。流しもと (台所) を アライバ言う家もあるし、アライバは 洗濯場やし (です)。まな板 洗ろたり (洗ったり) なんやかや (いろいろ) 料理したもん (物) 洗う時でも アライバ言う。流して洗うとなあ せえじもとや (だ) 言う。せえじもとや (とか)、せえじや (だ) 言うて、今し (今) 流しもと 言うやんない (言うでしょう)。今しの (今の) 炊事場の事もなあ せえじ、せえじもと、せえじもとな (が) きたのおて (汚たなくて) あの家言うて、言うな。

あらいはり (あらひはり) (洗張) 【名詞】 着物をほどいて洗い、糊をつけて板に張ったり伸子張りにして、しわを伸ばし乾かすこと。[会話] きるもん (着る物) を あるといて (洗つておいて) しんし張り言うてするのを アライハリ、針な (が) 有って そやけど

(しかし) あの前縫いすんのん 世話 (するのに面倒) でああ。

あらいはり (あらひはり) (洗晴) 【名詞】 洗った後の見た所。見映え。[会話] 洗濯しても、糊せんと (せずに) すると、アライバリなしやせん (がしない) 言うて。糊せんとすると、ぼけてするし、糊してあるたのおは (洗ったのは)、はっきりとなるもんで (なるので)、アライバリなしやせんよって (がしないから)、糊せなはざんわれ (しなければいけない) 言うて、怒られおったの (怒られて居ました)。

あらいはりや (あらひはりや) (洗張屋) 【名詞】 着物の洗い張りを職業とする家、またその人。[会話] 張り板は家で皆するけど (が) 伸子張りする人は アライハリヤ言うて。其処い (へ) やると、たんもんみたよおん (反物のように) じっばん (立派に) しておこし おった (よこしました)。

あらいばれ (あらひばれ) 【名詞】 着物などを洗濯したものが立派に見える事。[会話] アライバれな (が) しやせん (しない) 言うて 綺麗になる うつくしなん のをなあ (美しくなるのを) アライバレ、アライバレな (が) しやせんわれ (しない) 糊つけてねえと (無いと) 言うて。

あらいもん (あらひもん) (洗物) 【名詞】 1) 衣服や食器など、洗わなければいけないもの。洗濯、食べた後の食器。また大人数にふるまう時は食器を出して洗う事。また野菜などを洗う事にも。2) 死人が生前着て居た着物を葬式の日に洗う物。(熊) 3) 産後の汚物の処理。(志) [会話] 1) アライモン言うると、御飯食べた後の茶碗やなんやかや (とかいろいろ) アライモン。茶碗あるたり (洗つたり) 御櫃あるたり、其処ら拭いたりすんの (するのを) たらもとしまう 言うて。ちっさいおりから (小さい時から) たらもとしまう 稽古もせな (しなければ) 言うて。飯 食うたあな あ (後です)。かあさんら (母さん) 畑 ひんなか (昼間) して来て 疲れてきとんのおん (来て居るのに) たなもとしまえま あ (片付けなさい)、しまう (片付ける) 稽古 せなはざんわれ (しなければ駄目だ) 言うてなあ。がっこ (学校) 行くじぶん (頃) から、ちっ ちやい (小さい) から 稽古せな おっ きい (大きく) なつても 嫁ん (に) 行ても (行つても)、勝手の事も よおせん (出来ない) 言うて、言われんならん よって (言われなければならぬ) 言うてなあ。おなご (女) の親らな (が) ついとると (ていると) やかまし (喧ましく) 言うてなあ。2) 死んだ人のアラ

ラオコシや(だ)言うて。一番 初めん(に)がさがさつと おつきいうつのなあ(大きく耕すのを)あらあらとしとして(しておいて)、今度 いた(行った)時 こなしてしいおった(小さくしてしました)。わがとら(自分が) あれうつなえらいんやんかい(耕すのは大変なのです)、がっこいきん(学校行き、学生)に休みになったら 畑 うちん行けよお(耕しに行きなさい)言うてな、あいらんうたすと(あの人に耕せると) あいら 又 腰な(が) いたねえもんでなあ(痛くないので)一畝あつ そんだい(その代わり) ごそごと こなさんとしとしてくんねけど(小さくせずしておいて来るのだが)、そげんしとして(そんなにしておいて)有るとなあ こなすのん楽なんてや(小さくするのに楽なのです)。

あらおとこ(あらをとこ) **【荒男】** 屈強な男子(志(布施田))

あらかくし 欠点をみえなくする事、又その物

あらかす【他サ五】 荒らす[会話] アラカス、そや(それは)荒れさす(させる)言う意味。畑やどき(など)を荒らしとる(ている)。草で作らんとほつとの(耕作しないでほつて居るのを)。そんとき(その時)アラカス、畑をアラカスで言うてなあ。

あらかぜ【名詞】 1) 強い西風 2) 新しい風 直接吹き込む風 [会話] 1) アラカゼ言うて西の風のな、荒いのおを アラカゼとか、よおけ(沢山) 風な吹くと、アラカゼにもまれて(揉まれて、翻弄される)言うよつて 風の強いのおを 言うんやろ(でしよう)。

あらかた(粗方)【名詞】 副詞的に用いる事が多い おおかた。大体、殆ど全部。粗造の意もあり。(津) [会話] まあ アラカタきまったなあ(終わった)、言うて。おおかた(大体)言う事やろなあ(でしよう)。おおかた決まった言うのは、アラカタ決まった言うのとおんなし(同じ)意味やわい(です)。

あらかべ(粗壁)【名詞】 あらぬり(粗塗り)しただけで仕上げのしてない壁。(上、阿) [会話] アラカベ言うて しだて かいたのおえ 塗ったのおをなあ(のを)アラカベでおんね(居るのだ)まだ 上塗りせんと(せずに)言うて、赤土ばっかで(ばかりで)上塗りは 五分かける言うて ちよいと(少し)塗つといて(ておいて) こんだ(今度は)上塗り言うな(のは)又 しゃかんやな(左官屋が) じっばな(立派な)糊で 綿を使うんなあ(使うのです)。しゃかんやな 赤土塗っただけんのおを(ののを)アラカベ言うて。

あらかり【名詞】 間隔(志(布施田)) [用例] 隣の家と、どいらい(大変)アラカリな(が)有る。

あらかる【自ラ五】 広がる。片付く。間があく。あらかる参照。(志(浜島)、松、尾) [会話] なんもかも(すべて)片付けたて(てしまって)アラカル。きんこ(芋の煮切り干し)炊いて 干しといても(ておいても)こやあれまあ あの子らな(が)皆 もてて(持って行って)アラカッテンナイ(ている)言うてなあ。アラカル言うて ひろなる(広がる)。ひいろお(広く)なって、めせめせん(に) しとたのおな(していたのが)ひろがると アラカル言うて。

あらかんぼお【名詞】 乱暴な子供(志(甲賀、鶴方、神明)、鳥、度)

あらぎもとられた。あらぎもぬかれた 非常に驚いた。肝潰した。[会話] いきぎも 抜かれたよお言うて、びっくりした(驚いた) よおな事な(が)有ると、アラギモトラレタ 言うのも有るし、びっくりした事驚くと アラギモヌカレタ 言うて。

あらく【自カ五】 広がる 離れる

あらくさ【名詞】 豆撒き(節分、大晦日)の夜、大戸口に称える文句。鰯或いはくさい臭いの魚の頭部を木の串にさし終と共に大戸口の上に捧げる。入口にあらの様な臭いものを置き邪悪な物を入れまいとする、悪魔払い。節分の夜に大豆を煎る時に、鰯魚の頭を串刺しにして、火に指当て菜の虫の鼻を焚く、芋の虫の鼻を炊くなど、数虫を数え挙げて、毎度一虫に一度唾を吐く事するは鰯魚は穢らはしく卑しき物なる故に之を挙げて田作りを害する虫の象に取りて之を貢むるなり。

(伊勢の浜荻)あくさ鰯の事は干鰯也。此干鰯一匹を茄子の枯れ木へ目より堅に差したるものにて、豆を煎るとき、籠の下にあふる式をして豆打ち三宝へ乗せ置く。年取物を分配して、彼の煎豆を食する時、此の鰯をアクサクサと言ふ。(五十鈴の落葉)(志(布施田、志島、甲賀、安乘)) [会話] アラクサ、アラクサ、ううん臭い言うて。アラクサ言うのは 魚のあらを、はぎの頭を臭いのおを えてに(のをよく)刺すやんかい(ます)。臭いもんで(ので) 悪霊なよつてこん(が)寄つて来ない)言う事やろな(でしよう)。今は節分に 豆うつけど(撒くけれども)、昔は おつごも(大晦日)にうつて、くさはぎの魚のいっち(一番)臭いのを刺して、アラクサアラクサ ううん臭い言うて、戸をびしゃんと閉めてなあ、そと(そうすると)災なうつてこんよおん、あんで(入つてこないようにあれで)年の清め言うよおなもんやろな(言うような事で)

しょう)。〇〇小父や (は) 浦ん (に) おって、ピシャンとしませんもんで、割木 (薪) 持つとて (ていて) ああくさい、ああくさい。真珠貝、珠貝、なんやら貝、帆立貝、鳥貝、杓子貝、バタバタ貝、ゆて (言うて)、貝の名前 皆言うといて (ておいて)、そいといて (そうして) アラクサ、アラクサゆうて、蓆のと
お (戸) で、なあ (縄) のをしとたもんで (ので)、ボン言わせんもんで (言わないので)、割木持つとて (持つて) チョン言うて叩くね。アラクサ、あれはその悪病を除けるのおやなあ (のです)。

あらくさうつ 大晦日の豆撒き。節分の代りに大晦日に豆撒きをする。[会話] おつごもん (大晦日に) アラクサウツテ言うて、あらくさ せんならんのん (しななければならぬのに)、おつごまのん (だのに)。

あらくさゆう あらくさに同じ。

あらくたい 1) 荒々しい。粗暴である。大まかである。粗雑である。性格、動作、やり方が手荒である。(志 (布施田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、鈴市、鈴郡、安、津、松、多、度、伊、上、阿、張、名、北、尾、南、熊) 2) 粒、模様が大きい。あらどおし参照 [会話] ② アラクタイ言うな (のは)、がら (柄、模様) のおつきいもんは (大きい物は)、アラクタイ柄、着て言うけどなあ。きもん (着物) の模様でも、アラクタイ言うし。① なんやかや (種々) 仕事にしても、あや (彼は) アラクタイやんか (です) 言うやんか (言います)。あらつぼおて、言うて。あんまり (余り)、てあらい (手荒い) 仕事して、あらつばい。

あらぐち 【名詞】 初めての解禁。初めての場所。(志 (布施田)) [会話] てぐさ (天草) だけやなしん (でなくて)、ふたくらめあくな (二度目解禁になるのは) 二番口 一番のおは (のは) アラグチ。

あらくれ (荒) 【名詞】 あらくれるの連用形の名詞化 気質や動作の荒々しい事。乱暴な事、またその人。[会話] アラクレ男、やくざみたよなのおを (のようなのを)、あらべる (あばれる)、てつかきんのをなあ (切るのを) アラクレ男でまあ言うて。

あらくれもん 【名詞】 乱暴者

あらくれる 【自ラ下一】 荒々しく振舞う。あらくるる。コマヤカ (細) ならぬを言う語。

あらけ 【名詞】 海底の広々とした所。暗礁の表面。あらけとり参照

あらけ 片付けて広くしなさい。のけなさい。[会話] そこん (に) 置いてあんの (有るの) 邪魔ん (に) な

るよつて (から) のけたれ (除けてやれ) 言うの、アラケタレ言うて、アラケンのおと (あらけるのと)、片付けんのおと 又 違うね (違うのです)。

あらけたれ 1) 片付けて広くしなさい、のけなさい
2) 片付けました、のけました [会話] ① そこん (に) 置いて あんの (有るの) 邪魔ん (に) なるよつて (から) のけたれ (除けてやれ) 言うの、アラケタレ言うて。

あらけとく 1) 片付けておく。広くしておく。2) 離しておく。

あらけとけ 1) 片付けておけ。広くしておけ。2) 離しておけ。

あらけとり 【名詞】 暗礁の表面にいる鮑を採る海女。あらけ [会話] アラケ 鮑もなあ 島の上に ひよこひよこ すわつとんのなあ (座っているのです) アラケ言うてなあ、アラケのおおび (鮑) でまあ ほん (本当に) 獲りよおて (やすくて) 言うてなあ。アラケは 一目見た時ん (に) ぱつぱつと 獲つたるよつてん (てやるから) じつきん獲つたる (すぐに獲ってしまう)、アラケしたら こんだ (今度は) 島の下や (だ) 言うてなあ、影ん (に) なって 判らんとこ (所) をなあ 手探りしてすんの (するのを) ごんぞ とりで言うて。上ん (の) のぼつか (ばかり) 獲るにげや (人間は) アラケトリや (だ) 言うて。あやまあ アラケトリやもんで (なので) 島の下ん (に) なるなんもはざんね (全く駄目なのだ) 言うて。アラケトリ言うのは 上ん (に) めえとんのおだけ (見えているのだけ) とんのを (獲るのを) アラケトリや (だ) 言うてなあ。

あらけない (荒気) 【形容詞】 1) ないは、はなはだしいの意を持つ接尾語。ひどく荒い感じで有る。荒々しい。(桑市、員、上、阿) 2) 程度が甚だしい。大変だ。

あらけよ 片付けなさい。広くしなさい。(志 (片田))

あらける (散) (粗) 【自カ下一】 1) 離れ離れになる。散り散りになる。2) 道や場所をあける。間をあける。広げる。開がる。(志 (御座、片田、布施田、浜島)、鳥、松、度、北、尾、南) 3) 火や灰などをかき上げる。4) 片付ける 整理整頓をする 邪魔物を除いて広くする (志 (御座、布施田、鶴方、甲賀、立神、神明、志島、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、松、度、北、尾、南) [会話] ② アラケテくれまあ (下さい) 言うてなあ。家 かつとるとなあ (借りていると) おれぎや (俺の家は) まあ いって来たねよつて (のだから) 言うてなあ、退いてくれ (ていって下さい) 言うの

をなあ、アラケテくれえ言うて、頼むんなあ (のです)。
4) 畑のもん (物) でもなあ とびきのかすや (穀とか) あわがら アラケん (に) 行かなはざんわれ (なければ駄目だ) 言うてなあ、ほお (穂) 取ったた (てしまった) 後を 引くのを アラケん行かなはざんし (なければ駄目だ) 言うて、後片付けしいん行くやんかい (しに行くのです)。最初から 引いとると (ていると) 手間とるやんない (でしょう) そすと (すると) ほおな (穂が) 雀ん (に) 食われたり、なんやするもんで (ので) ほお だけ先い (に) 切って来て そしといて (そおして) がらは (穀は) 後からなあ あいあいん (暇な時に) 引くよおんなあ (に)、みい (実) だけ 先い (に) 取ったんね (取ってやるのです) そすと かすな (穀が) 立つとると (ていると) まだ かすも、アラケんと (ずに) おんね (居るのだ) 言うて。2) 場所広げるのも、アラケル そこあらかとかな (ておかなければ) せまいわれ (狭いです) 言うてなあ。ほおし積んだりしとるとなあ (している) こか (此处わ) 要って来たよつて (から) この ほおしアラケテくれえ (下さい) 言うてなあ ほおし 取ったてくれ (てやって下さい) 言うのなあ、アラケテくれえ 言うて。3) 海女さんな (が) 火場で ひい (火) 当つとる (ている) 時 ひいも、ちよいと (少し) アラケたれまあ (てやりなさい) 言うて 広げん のなあ (るのです) そして ひいな 燃えても 火箸 おかんと (置かずに) ひいばっか (火ばかり) なぶつとる (ている) にげ (人間) を ひいせせり (火なぶり) ちんぼせせり (男根なぶり) 言うて、ひいばっか 火箸 おかんと、せせつとて (置かずになぶって) 燃えて来た思うと せせつて くすぼつて (煙って) けぶとおて (煙たくて) 言うてなあ。ひい せせり ほぼ (女陰) せせりやたら (だとか) 言うて。2) 物をアラケル。除けるいうのを、アラケル言うけどなあ (言います)。あらかる、あらかつた言うのは 間がよ お (よく) 開いた言う事。間がよ け (多く) 開き過ぎたなあ言うのを、あらかつとる (ている) 言うて、ほ で (そして) 昔のにげ (人間) は、どいらい (大変) あらかつとるやんかなあ (ているではないか)、言うな あ (言います)。2) そと (そうすると)、つんどる (混み合っている) のおを、広おするのを (広くするのを)、こんだ (今度は) アラケル。4) 物 片付けたりなんかするのおでも (のでも)、アラケル言うのも あるし、除けとけ (ておけ) 言うのも有るし、同じ言葉やけど、しもおとけ (仕舞っておけ) 言う事をなあ。アラケル

言うのは、そちらへ寄せとけ 言うよおな意味や (です)。

あらこ (新) 【名詞】新しい品物 (志 (布施田)) [会話] アラコ 言うて 新しい事を 言うんけど (言うのです)。

あらごと (荒事) 【名詞】力仕事。あらしごと。荒仕事。骨の折れる仕事。こまごとに対する語。

あらごなし (粗) 【名詞】1) 田畑の土地を大きく掘り起こしたものを砕くこと。二番目の土ならし。(志 (布施田)) 2) 料理などで完全にせず途中迄である事。大体済ませて仕上げのしていない状態。(志 (布施田)) 3) ひどく怒られる。[会話] 2) アラゴナシ 藁をアラゴナシ してくれ (して下さい) 言うてな、藁打つん (に) すぐつて (整えて) 直ぐはな ばさばさしとる んもんで (している) 男の人らん (に) して貰らうとなあ、打つん (に) 楽なのんな (のに) 言うて。2) 魚でも アラゴナシ言うて こまこお (小さく) 切る言うのを アラゴナシして 貰らう言うて。1) たあ (田) や、畑の土の塊を アラゴナシしてくれ (下さい) 言うてなあ。馬鍬で どづいて (叩いて) アラゴナシもせんと (せずに) 有る言うて、馬鍬の頭で こつんと 小突くと 砕けてくんけどなあ (行くのだが)、放つとくと (ておくと) アラゴナシも せんと 有る 言うて。3) 人に怒鳴られたりした時でもなあ アラゴナシ しやれた (された) 言うて、怒鳴られるやら (とか) お前な (が) どおで こおで 言うて、言葉あ らお (荒く) 言われる時な有るわい (が有ります) それをなあ ほんまあ (本当に) アラゴナシん (に) されたんよお (されました) 言うて、そいな (そんな) 時も 使うなあ (使います)。2) 細かくする事をなあ アラゴナシ言うて。あらくたいもんを (大きな物) こなすのを (小さくする) 細かくすんのを (するのを) アラゴナシ言うてなあ。あんまり (余り) こお (粉) には しやせんけど (しないが) おっきいもん (大きい物) を こなして ちつそお (小さく) する言う事 やんなあ (です)。

あらこら あべこべ。反対。ありやこりや参照 [会話] あつち、こつち。裏表。

あらさがし (粗捜) 【名詞】人の欠点、落ち度を探しまわること。(志 (布施田)) [会話] アラサガシ、人のいなん (要らない、隠しておきたい事) 事、ばっか (ばかりのみ) 探して、わりこと (悪い事) 探す事。

あらさがす 欠点を探る [会話] 何んでも 人のこと かぎつけて 言うて アラサガスことを かぎつけて。

あらし (嵐) 【名詞】 1) 荒く吹く風 2) 海上で吹く風、帆走に適当な強さの風。荒風、荒い風の意と考えられる。3) 西風 (志、鳥 (菅島)) [会話] 1) アラシは、風。アラシなのおて (が無くて) たたせんね (ないのだ) 言うて、豆 叩いたり とびき叩いたりするとなあ ふっからかすの (吹かすのに) いなんのを (要らないのを)、それを アラシな (が) のおて たたせん よお (無くてたたない) 言うて、しわからせん (仕分らない) ほこりな (が) 吹けてかせん (て行かない) 言うのを、たたせん (立たない) 言うの (のです)。アラシな (が) よおて (よくて) よお (よく) たつて ほん (本当に) じっきん しわかつて (すぐに区別されて) よかつた言うてなあ。風の事をアラシ。言うたら 風な (が) きつつい (強い) 事やわい (です)。2) 帆まく時 アラシな (が) きつなけな (強くなければ) 走らせんもんで (走らないので) ペタンペタンしてはざんもんで (いけないので、降ろしといて (ておいて) 櫓漕んで、又 アラシな (が) 出て来ると そや (それ) アラシな (が) 出て来た 帆まけ言うてなあ ちよいと きつつい 風な (が) 吹いて来たのを アラシ言うね (言うのです)。帆まく時はなあ アラシが無いとはざん (いけない)。帆まく時は アラシい (に・へ) のせなはざんね (乗せなければいけないのです)。

あらしけない 【形容詞】 1) 荒々しい。粗暴だ。(三) 2) 仰山な、大変な (志) [会話] 1) アラシケナイ 言うと、あらくたい (荒い、粗い) 事を 言うんやろな (言うのでしょうか)。こお (粉) でもなんでも あんまり (あまり) 細かくせんと (せずに) あらくたいすんのをなあ (粗くするのを) 言うんやろな。2) アラシケナイ事して言うて、あんまり (あまり) 手荒い (乱暴な) ことする言う意味やろな (でしょう)。言葉でも そおやしなあ (そうです) 荒い言葉 使うとか なあ そいなの (そんなのを) アラシケナイ言うてな。

あらしごと (荒仕) 【名詞】 骨の折れる仕事。特に厳しい肉体労働。力仕事。あらごと。(志 (布施田)) [会話] なんやかや、こまごました仕事をせなはざんし (しなければいけないし)、アラシゴトやなしん (でなくて)、ちよとした仕事をこましごと。アラシゴトも年な (が) よつてきや (くれば)、出来やせん (出来ません)。

あらしまある (あらしまはる) (荒回) 【他動】 あらしまわる。方々に損害、迷惑をかける。あらす参照。まある。まわる。あちこち、とび歩く。歩きまわる。[会

話] 畑のもん (物) アラシマアル、なりもん (なり物) をなあ 盗んで行くのを、家もさらえん (探しに) 行くと 家あらししてまあ言うて 盗む事をなあ。

あらしまち 【名詞】 風待ち 帆走に適した風の吹いて来るのを待つこと。[会話] かざまち 風 待つとんの (ているのを) アラシまち。西の風ん (に) なるとさいご (その時)、夕方ん (に) なると 夜嵐言うて 出てくんねわな (出て来るのです) それを アラシまち しよおか (しましようか)、どお (櫓) 漕ぐな (のは) えらいよつてん (大変だから) 言うて。

あらしよたい (新所帯) 【名詞】 新しくおこした世帯。新夫婦の住居。

あらす (荒) 【他サ五】 1) 田畑を耕作しないで雑草の生えるのにまかせる。アル (荒) の他動 (大言海) 2) 他人に迷惑をかける。他の家、土地などを乱し、犯す。[会話] 2) なんもかも (なにもかも) 皆 とてくと (盗って行くと)、まあ アラスねない (のだ) なんもかも 言うて。あらすされた言うて、盗られたた (てしまった) 事。畑もアラス言うて 畑あらし言うて 一番罪な (が) 重いねどお (のだ) 言うてなあ、のあらし。1) 畑 よお作らんで (作れなくて) アラス。草ばつかんしとんの (ばかりにしているのを) アラス。今しや (今は) 皆 アラシテ山んなつてた (になつて行った)。草 茫茫ん (に) したるとなあ (してしまふと)、畑もアラシテ どおまんやれ (怠け者だ) あのかか (女) 言うてなあ。耕作よおせんで (出来なくて) 放つたらかしんしとくと (にしておく)と、草や (とか) きいな (木が) 生えてしとるとなあ (してると) あらしとんね (ているのだ) 言うてなあ。

あらすくで 【名詞】 打ってない藁の節から出て茎を取り囲んで居るもの、藁屑 [会話] 藁 すぐつた (ととえた) あらくたいのおを (粗いのを) アラスクデを尻拭きや (だ) 言うて。

あらすな (粗砂) 【名詞】 粒のやや大きい砂 砂利 (志) [会話] バラスをアラスなや (だ) 言うて。アラスな ばつかでうつくしてえなあ (ばかりで美しくてよいです) 言うて。昔や (は) 前の浜な (が) みんな (皆) アラスなでなあ それい (へ) せんだく (洗濯) しても 布団のがわ (側) するとなあ、浜い (へ) もてきいおつたの (持って来て居ました) 糊してなあ。ちやあ (茶) 摘んでも ちやあ (茶) 皆 こしらえて 浜い (へ) 干しおつた (干して居ました)。わりな (ずいき) 浜い (へ) 干しん (に) 来たり、アラスなやもんで (なので) なんやかや (いろいろ) 皆

ほしもん(干し物)を しんきおったなあ(しに行きました)。粒な(が) おっさい(大きい)のでなあ ほこりな(が) しやせんし(しないし) 砂、入いらせんやんない(入らないでしょう)。そやもんでなあ(それで) ほこりな(が) して はざんもな(いけない物は) 浜い(へ) 干しんきおった(に行ったのです)。

あらせん 無い(志(立神、神明)、鳥(坂手)、桑郡、桑市、員、鈴市、亀、安、津、久、一、度、伊) [会話] アラセン言うな(のは) 無い言う事や(です)。

そいな(そんな) 事 アラセン言うて、よお言うなあ(よく言います)。そいなこた(事は) あらへんわ言う人な(が) 有るんなあ(有ります)。

あらしい(あらしひ) **(争)** **【名詞】** あらそう事。喧嘩。

あらしいごと(あらしひごと) **(争事)** **【名詞】** 自分の意見を通そうとして張り合う事。喧嘩。特に裁判。[会話] 喧嘩すること、口争い、喧嘩する、どづきやい(撲りあい)もする。口争いしとられ(している)言うて、口で 言いやい(合い) しとると(していると)、口喧嘩で まあ どいらいさおんどられ(大変騒いでいる)言うてなあ。のしなてやら(お前がとか)、われなてやら(お前がとか)言うてなあ。口喧嘩、大喧嘩 しとる言うやんかい(している言います)、どづきやいしとると(撲りあいしている)。裁判に かけんのも(かけるのも) アラソイゴト しとる(している)言うて、あかるみい(世間に) 出してまあ 言うてなあ。

あらだき **(粗炊)** **【名詞】** 魚のあらを炊いた物。副食にする。[会話] おおいお(大魚)のなあ、骨や頭、炊くの(のを) アラダキ言うてなあ。あや旨いんてや(あれは旨いのです) 鮒やよこわの あらは 旨いのなあ(です)。

あらだてる **(荒立)** **【他タ下一】** 物事を更にもつれさせる。ごたごたを表沙汰にする。[会話] アラダテル言うな(のは)、ちよいと(少しの) した事もなあ おっさいして(大きくして) 大袈裟ん(に) 言うて 喧嘩始めんのなあ(始めるのです)。ちよいとの事 アラダテテ、あげん(あんなに) 喧嘩して言うてなあ、まあ なつとも言わんと(なんとも言わずに) おさめたや(てやれば) ええ(よい) よおな事でも、喧嘩するのな(が) 好きな人は 大袈裟ん(に) 言うてなあ。

あらたまる **(改)** **【自ラ五】** 1) 威儀を正す。正座する。堅苦しく他人行儀の言葉や態度になる。2) 病気が急に重くなり死にそうになる。[会話] 1) アラタマッテ 頼むわい(頼みます) 言うて、じょおく(いつも) 冗談みたよんしとるけど (のようにしているが)、こや

(これは) アラタマッテ 頼むわな(頼みます) 言うて、態度変えて 姿勢も変えるとか、言葉も変えるとか アラタマッテ言うて そんで(それで) あらたまるんでもええない(あらたまらなくてもよろしい) 言うて、あんまり(あまり) 上品に言うて、そげん(そんな)に アラタマッテ 言わんでもええやんかい(言わなくてもよろしい) 言うて。きちんと座り直す アラタマル。横尻かいとんのが(ているのが) 正座するとか、アラタマッテまあ言うて。

あらため **(改)** **【名詞】** 動詞のあらためるの連用形の名詞化。調べ直す事。裁判。[会話] 調べる事なあ(です)。えごつと(完全に) アラタメもせん(せず)に、人うたごて(疑って) 言うてなあ、えごつと 調べて見よえ(見なさい) 言うたりなあ アラタメル。

あらためる **(改、革)** **【自ラ五】** 1) ことさらに態度を変え、きちんとする。堅苦しい。他人行儀の態度や言葉つきになる。正座する。2) 病気が悪くなる。死亡する。

あらためる **(改)** **【他マ下一】** 取り調べる。調査する。[会話] えごつと(完全に) 調べる言うのなあ(です)、えごつと アラタメテ見よまあ(見なさい) どっからか(何処からか) 出てくんど(来るぞ) 言うてなあ。

あらづき **【名詞】** 粗搗 麦を食べられる迄にするのに、二度、実を搗く初めの搗くのを言う。[会話] 麦 一番に(初めに) アラヅキしといて (しておいて)、いったん(一度) 干して みい(箕) で ひって(振るって) 糠 取つといて また こんだ(今度は) ふたあくらめ(二度目) 搗くのまづきや(だ)、麦 アラヅキと まづき言うてなあ 始め 搗くのは アラヅキでなあ ふたあくらめ 搗くな(のは) まづき言うてなあ。

あらっばい **(粗暴)** **【形容詞】** あらくたいと同義。荒々しい。粗暴である。大まかである。粗雑である。(松、上、張、三、鈴郡) [会話] アラッポイ言うのは、仕事な(が) 野暮、野暮やなあ(だ)。あらくたい事なあ(を)、言うやんかい(言うて有りませんか)。

あらて **(新手)** **【名詞】** 新しい物。新しい相手。新しい手段、方法。テは隊の意。戦場に於て未だ、戦わずしてある軍隊(大言海) [会話] アラテな(が) 入いった言うてなあ。あの家や(は) アラテな 入いったや(たら) 仕事も しいまくつたたれ(てしまった) 言うてなあ。おとこでえな(男手が) 無い家へ、男な(が) 入いったりするとなあ、あの家 アラテな(が) 入いったや 畑もしいまくつたたれ、たあ(田)も、うちまくつたたれ 言うてなあ。新し、物

とか、新し人とか、よお (よく) 働く人、アラテヤ (だ)。

あらと (荒砥) 【名詞】 砥石の一種。質が軟らかく、粗い石を用いた荒砥ぎに用いるもの。[会話] 研ぐ、とおかい (砥石ですか)、アラトヤとか (だとか)、金剛しやど、やとか (金剛砂砥だとか)、仕上砥やとか、剃刃砥ぐ時や (は)、仕上砥のこまかい (細かい) のおやし (です)、畑ですんのは (するの) アラトのあらきたいのお (荒いので)、しやび (鏽) 落すの (のです)。

あらどおし (あらとほし) (荒篩) 【名詞】 目の粗い篩。篩の種類。ふじとおし。あらどうし。なかどうし。こごめどうし。[会話] アラドオシなあ (ですか)。あらきたい (粗、目が粗い) のを、そんで (それで) 下をなかどおし言うて、又 次のお (物) を、すいのとも言うし (言います)。すいのはあや (あれは)、ちっさあいのやなあ (小さいです)。粉 振るのを、すいの言うなあ (言います)。アラドオシと、なかどおしと、こごめどおし言うのと、三つあんねやんかな (有るのです)。大小をしわけ (分別する) わけやなあ (です)。こごめどおし (粉米、小米篩) 言うのは一番下で、こおふる (粉振る) のは、すいの言うの (のです)。よお (よく)、こお (子供) が泣いとると (泣いていると)、泣きどおし、すいの張り返しやなあ (です)、おまや (お前は) 言いおったなあ (言っていました)。どおし言うもんで (言うので)、子供等が泣いてばっか (ばかり) おるもんで (いるので)、泣きどおし言うて、それへ とおしを付けて泣きどおしやなあ、すいの張り返しやれ (だ) 言うて。かえことばんなあ (変へ言葉に)、そんにして呼びおった (呼んで居ました)。あらきたいは、大きいと言う意味。つぶ (粒) のおつきい事を。あらきたいお (のを)、先いえつたれ (に選んでやれ)、アラドオシで、とおしたれ (通してやれ)、そいで (それで) もお一つ、ふじどおし言うのなあんねんなあ (が有るのです)。ふじどおし言うな (のは)、アラドオシの上や (です)、目の大つきいんで (目が粗いので) アラドオシより、ちよいと (少し) 上や (です)。ふじどおしは、豆を叩くと、ぼさな (殻が) 有るやんない (でしょう)。あれを、あんでしたると (ふじどうしてしてやると) 早いもんで (ので)、風があるとたてる (風で飛ばす) 言うて、たてんねけど (たてるのだが)、たてられやせんもんで (ないので)、風の無い時に叩いたのお (のを) しやなぶつて (揺つて)、ふじどおしで、すつと (すると)、がらばっか

(殻だけ、のみ)、とつて (残つて)、みい (実) は皆下いおつてくの (落ちていく)、一番おつきい (大きい) 目やもんで (なので)。そすつと アラドオシ言うななあ (言うのは)。その一番粒の大つきいのおを、えんねけど (選別するのだが)、ふじどおしや (は) それの上で がらつぼえるのや (殻を選別するのです)、百姓はそんだけ (それだけ) の道具は、みんな整えおつたわ (皆整えていました)。そやまあ無い者は、人のうちん (家へ) 借りに行くけど (けれど)、借りんいかま (借りに行かない、借りたくない) とすると 四通りはなあ、揃へとりおつたわい (ていました)。五通りやんかな (です)、ふじどうしと、アラドオシと、なかどうしと、こごめどおしと、すいのと、そげんいんねてや (そんなに要るのです)。それい (その上)、も一つ、かなずいの言うのも有んね (有るのです)。金ばっか (のみ、だけ) で、かなどおし言うて、それも又あいん (間、時々) 使わな (使わなければ) はざん時もあんね (有るのです)。米とおすのかい (ですか)。あや (あれは)、なかどおしでするわい (します)。のみを寄せんのやんない (殻を寄せるのでしょうか)。なかどおしで アラドオシは 皆 落ちてくやんな (行くのでしょうか)。のみよおせんの (出来ないのです)、あんまり粗くたいなあ (のは)、落ちてくし (落ちて行くし)、こごめどおしは あんまりこまかい (余り小さい) し、なかどおしですると、よおよんねてや (よく寄ります)。

あらとこ (新床) 【名詞】 人の手をつけていない漁場。新しい場所。(志 (布施田)) [会話] アラトコ言うて、てえつけんと (手つけずに) 有るとこ (処)。人な (が) てえつけんと 有るとこ、アラトコや言うんなあ (言うのです)。人な (が) てえ つけんとあんねよつて (あるのだから)、新しい訳やわい (です)。そやよつて (だから)、アラトコ言うて、島のもん (物) 採つても、アラトコや (だ) 言うて、人な採らんと (が採らずに) 有るもんで (ので)、なあがかつたり (長かつたり)、おつきかつたりするし (大きかつたりします)。そやもんで (それで)、まあり (回り) して、アラトコ、アラトコ言うて 採りまあんの (回るのです)。**あらなあ (あらなわ) (荒縄) 【名詞】** 藁で作ったばかりで手ざわりのざらざらしている縄。反対すべなわ。[会話] すべすべん (滑らかに) なつて、ひげな (が) して来たのおは (のは)、ひげむしつて、すべすべんなるもんで (になるので) すべなわ言うね (言うのです)。アラナワ言うな (のは)、のおたのおは (編んだ、なつ

たのは)、アラナワ言うね (言うのです)。

あらはえ【名詞】 梅雨中ばに吹く南風。五月の南風 (物類稱呼) (志、鳥)

あらはだ【名詞】 あかかます スズギ目カマス科。体は細長く体側に褐色の側縁が有る。頭は細く尖がり下顎は上顎より突出する。両顎に鋭い犬歯状の歯を備える。(志 (鶉方、立神)、度、伊、南、) [会話] 魚もアラハダ言うのな (が) あんねんなあ (有るのです)。かますみたよんしとん (のようになっているのです)。

あらばたらき【荒働】【名詞】 肉体労働 [会話] アラバタラキ すると かいだりて (疲れて) とけてくよお なんよお (とけて行くようです) 言うて。

あらばちわる 処女を失う (三重県全域)

あらびてくる 暴れて来る 暴れ出す (志 (布施田))

あらびる【荒】【自バ上ー】 暴れる 乱暴する あらべるに同じ (志、桑郡、安、上、阿、張)

あらぶ【自バ五】 1) 乱暴する 暴れる 2) 荒れる [用例] 1) よけ (余り) アラブと あいまちすんど (怪我をするぞ)。

あらぶく 激しく風が吹く。[会話] 風な (が) よお (よく) 吹くのを アラブク言うしなあ (言います)。

あらぶろ【名詞】 まだ人の入っていない風呂。沸かしたばかりの風呂。(松) [会話] さら (新しい) 湯は毒やれ (だ) 言うてなあ アラブロを。

あらべる【荒】【自バ上ー】 荒々しくふるまう。乱暴する。子供が暴れる。[会話] アラベル言うな (のは) 鉄火きる (駄々こねる) 事、酒のおで (飲んで) アラベテまあ 酒乱やなあ (だ) 言うて。乱暴することをなあアラベトンネ (ているのだ) 酒のおで 言うて。

あらへん 無い (志、鳥 (坂手)、鈴市、亀、安、津、久、一、上、阿、張、名、度、伊、北) [会話] あらせん言うな (のは)、無い言う事や (だ)。そいな (そんな) 事 アラヘンワ 言う人な (が) あるんなあ (有ります)。

あらぼとけ【新佛】【名詞】 新盆の済んで居ない佛 (度 (小俣)) [会話] しんぼとけ。死んだばっか (ばかり)。初盆な (が) 済む迄は、しんぼとけ (新仏) 言うて。しんも (新亡) 言うのは、初盆の事なあ (です)。その初盆を アラボトケとか、しんぼとけとか言うて。ここの人らは アラボトケ。死んだばか (ばかり) の人を アラボトケ。

あらまし【大抵】【副詞】 略 おおよそ 大体 (員、阿) [用例] アラマシの事 教えてくれや (くれれば) わ かられ (判ります)。

あらます【名詞】 海魚 おおくちいしなぎ あらに同じ (志、伊、尾、北 (二木島)、熊)

あらみず【新水】【名詞】 新しい水。神様に供える水。[会話] あらいよね (洗い米) と、御神水を 神さんへあげとけ (供えよ) 言うて、せんまい (洗米) と、アラミズとして、御神水や (だ) 言うて。水と米とつね (日常) 祭る時や (は)。節句やなんの時や (とか、なにかの時)は 御神酒こおて (買って) 来てするし (します)、つね 神さん祭る時や (は) 御神水とあらいよねしとけ (しておけ) 言うて、米あるて (洗って)、あら (新しい) の水して、御神水で祭とけ (ておけ) 言うて。

あらみみ【新耳】【名詞】 始めて聞く事 [会話] 始めて聞く事をアラミミ、おおた アラミミやなあ (だ)。あのひた (人は) 盗みすんねてわい (するそうだ) 言うて。おおた あげな (あんな) 人なあ (がですか) 言うて。始めて聞く言うのをな、おおた アラミミやわ (だ) そげな (そんな) 事言うてな。おら (俺は) そいな事 聞いた事ない アラミミや (だ) 今し (今)、言うてなあ。

あらむしろ【荒蓆】【名詞】 編目の荒い蓆。粗末な蓆 (伊、南) [会話] はごだあら (俵) 言うのは、鶉方の人らな (が)、はご買いに来よったやんかい (来て居たで有りませんか)。大豆の殻を。アラムシロで、どいらいおつきい (大変に大きい)、たあらこしゃえて (俵作って)、そいで ねじ込んで (それで詰め込んで)、なんでも入ってくんやんかい (なにでも入っていくのです)。おつきいもんで (大きいので)。それをはごだあら言うて。

あらめ【荒布】【名詞】 褐色の海藻、生育する所により2mにも達する。葉は群生する。食用となるほか アルギン酸、ヨオドの原料とする。ニギメ (和布) に対し、皺の多きを言う (大言海) メ (海布) は芽の義、或は藻の転。布の字を用いるのはコンブ (昆布) より移る語。コンブはアイヌ語 k ombu の音訳字。(志、桑市、員、熊) [会話] 海藻 アラメ あんろく

あらめかづき【名詞】 あらめを潜って採取すること。(志 (布施田)) [会話] アラメカヅキ。“あらめの口な (が) あいたどよおい (解禁になった)” 言うてな、ふれて (さけんで) 来ると。アラメカヅキ はんぎり (大きな桶) 浮けて 暗がり (暗い時) から飛び込んで (海に入っていく) 島 抱いて しよおったの (して居たのです)。島やら あらめやら 分かんのん (な) いのに) 飛び込んで “あらめの口な あいたどよお

い”言うとなあ 宵から (前晩から) ちゃんとしとん ねけど (しているのだが) 暗がり (暗闇) で はんざり いただいて (持って) 浜い (に) 浮けて 飛び込む と (海に入ると) 島やら (か)、あらめやら 分くらんで (分からなくて)、あらめや (だ) おもたや (思ったら)、島 抱いとたよお (ていた) 言うて 笑いおったね (笑って居たのです)。そいな時分 (そんな頃) に 飛び込みおったの (海に入ったのです) 真っ暗がりに 口な (が) あくと。

あらめかり (貝) 【名詞】 巻貝。パテイラ、ニシキウス科。殻は大形厚厚の円錐形で底面広く殻表は殆んど平滑、色は黒色が強い。ましゃご。(志 (安乗)) [会話] アラメカリ。あらめ刈るとなあ 荒布のはあい (葉に) 皆 むしりついとりおったの (ていました)。昔や (は) アラメカリ食うと 腹い (に) あたんど言いおったのん (当たるぞ言って居たのに)、今しゃ (今は) アラメカリも 皆 ぜん (銭) になんの (なるのです)。荒布 かづくと (採ると) はんぶつも (半分も) はんざりい (へ) 積もんね (積もるのです)。そのはあ (葉) に ついとたのおな (ついていたのが)。

あらめやま 【名詞】 魚見をする海岸にある小高い丘。各地にある。(志)

あらめな 【名詞】 あらめを茹で、小片にした物を酢の物、或いは油揚げ等と一緒に煮付け、副食として利用する。な。菜。さい。おかず。(志 (布施田)) [会話] あらめのきぞだの (刻んだのを)。アラメナ言うのな (です)。あらめの (を) 炊いて、きぞだの、くざけといて (水に浸して)、あえて (和える) 食うやんな (でしょう)。葬式や (だ) 言うて、アラメナどっさり、磯桶へ、くざけといて、豆腐と入れてなあ 食いおったけどな あ (食べて居たが)。あんな (あれが) うまかりおったのん (美味しかったのに)、今し (今) 食うてもうまな。あえもん (物) にしてもええし (よいし)、三杯酢で食うてもええし、煮しめてもええし、なつとでも (何としても) してええわい (よろしい)。ひじきやとか (だとか)、あらめやとか言うな (のは)。

あらめなみやれる 女性が陰毛を見られる。[会話] 前な (が) くろういやんな (黒いでしょう)、そやもんで (それで) 皿い (へ) アラメナもつたよおんしとる (よそつたようにしている) 言うやんない (言うでしょう)。くろうお (黒く) けえな (毛が) 生えとんのを (ているのを) それを みやれる (見られる) 言うの。

あらめのだいわり 【名詞】 採ったあらめの干し場を割り当てること。だいわり 場所を決める事。

あらめのめごめ 【名詞】 荒布の葉を粉にした物 [会話] 海もはざん (駄目)、山もはざん 言うて、なんも (何も) 食べもんな (物が) 無いよおん (ように) なって来て、アラメノメゴメ食いおったどお (食べて居たのだ) 言うて、昔の人らな言うわい (が言います)。アラメノメゴメ言うて、荒布のはあ (葉) のこおん (粉に) なったのを、アラメノメゴメ言うて、皆飯ん (に) して、食いおった (食べて居た) 言うて、がしん (飢饉) になる。

あらゆ (新湯) 【名詞】 沸かしてまだ誰も入らない風呂。一番風呂。さらゆ。あらぶろ。[会話] 新たらし (しい) ゆうかい (湯ですか)。さらゆ さらゆは毒や (だ) 言うてなあ。あらぶろ (新しい風呂) を、誰も入いつとらせん (ていない) 風呂を アラユや (だ) 言うてなあ。おなご (女) はなれ (です) さらゆ いらんもんやれ (入らないものだ) 言うて、男を立てて 男な (が) いらんなあ (入らなければ) おなご は 後でいる (入る) 事にして有つてなあ。

あらら 有ります [用例] 俺家ん (に) そいなもん (そんな物は) ざらに (沢山) アララ。

あられ 有ります (志) [会話] ざらに (一般的) アラレ、よつけ (沢山) アラレ、よれやれ (沢山だ)、沢山有るのを、よつけアラレ、よけアラレ、ざらにアラレ言うて。

あられいり 【名詞】 あられを煎る道具、金属の丸い枠に金網を張り柄のついたもの。[会話] アラレイリ言うて、焙烙で炒りおったけど (炒って居たが)、まあるい (丸い) アラレイリ 言うのな (が) 有つてなあ が わな (外周に) かなみな (金網が) 張って有つてなあ。

あられもない 【形容詞】 有り得ない。見苦しい。

あらわ (あらは) 【形容詞】 公然と、明らかに、あらわでできやせん参照

あらわでできやせん 物ごとを表面だつて出来ない。人に見られる所で出来ない。公然と出来ない。あらわ、露、顕 [会話] こそ (内幕) 買いや、こそ 売りや言うて、内緒で人ん (に) 隠れて、アラワデデキヤセン もんで (ので)、よさりこおたり (夜買ったり)、人の見やん (見ない) 道えつて (選んで) 通つて、ひんなか (屋間) 行くと 人に見やれると (見られると)、はざんもんで (いけないので)。アラワデデキヤセン、言うのは表立って出来やへんもんで (ないので) 内緒ですんの (するのを)。

あらわれ (あらはれ) 【名詞】 知れ渡る 世間一般に知れ渡ること。[会話] 人に知られて 誰も彼もが 皆

知ってく(ていく)事を アラワレな(です)。あの家
こげなねてない(こんなのだそうだ)言うて、世間が
皆 知っとる(ている)ことを アラワレや(です)。
そいなこた(そんなことは)まあ アラワレ やんか
い(です)言うて

あり【**名詞**】桐の木、ビン玉、竹等で作った罫網に付け
る目印。罫は揚がず、海中に入れたまま罫網を解いて
出港した。今の借り留めブイのような物。(志(布施
田))【**会話**】アリ付ける言うやんかい(言います)。
とごってかんよおんな(沈んで行かないように)、とご
ってくと(沈んで行くと)判らせんもんで(判らない
ので)。その目印、アリ言うて、うけ(うき)を 昔
や(昔は)桐の木で、とごってかんよおん、アリをつ
けおつた(付けて居ました)。今しや(今は)ビン玉浮
いとるやんな(浮いているでしょう)。そんで(それ
で)孟宗竹切つてする人らも有るし。昔や(は)、桐の
木を 皆 しおつたけど(していました)が。

ありあい(ありあひ)(**有合**)【**名詞**】有りあわせ。特に
整えたものでなく丁度その場に有る事、又その物。【**会**
話】ありあせ、なんでも(なにでも)、そこらの あ
りあわせ言うんかな(のですか)。有りあわせ言うのは、
何でもあるもん(物)で、有る物を アリアイもんで
くとこやんかれ言うやんな(食べておきましょう言う
でしょう)。ありあわせもんで 食ときや(食べておけ
ば)、ええわれ(よいのだ)言うて。菜漬でも、そこら
に有るもん、なんでも、アリアイで、ゆざけ(間食)
食とりやええわれ(食べておればよろしい)言うて。

ありあけ 全部 あるだけ【**会話**】あるだけ まあ 腹
ん(の)なかん(に)いっとる(入っている)事を
皆 全部 出したんのを(てやるのを)アリアケして
言うて。

ありあり(有有)【**名詞**】各人。自分自分。勝手に。各人
各様に。めいめいに。(志(布施田))【**会話**】麦かち
(麦の穂をたたく)する時ん(に)、前ん(の)浜い
(へ)、みんな(皆)アリアリン、蓆、敷いて 二枚敷
位のばあ(場)にしといて(しておいて)、からさわで
とばすんやんかな(叩くのです)。紡績行くと、昼ん
(に)なると、どいらあい(大きい)、半切りん(桶
に)、飯な(が)入れてあんね(有るのです)。それを
みんな(皆)アリアリン、こまおひつ(小さいお櫃)
一つ持っとて(ていて)、わがとらな食たると(自分達
が食べてしまうと)、勝手ん(に)それい汲み入れて
(よそって)、おつけも 大きな鍋しといて(しておい
て)、ちっさい(小さい)のに移しん行くやんかい(に

行くのです)。

ありがたいならいもむしゃくじらや【**俚諺**】有り難うと
御礼を言われた時の返事 蟻が鯛なら芋虫や鯨や。ざ
れ言葉(上、阿)【**会話**】有り難いなあ言うて 言う
やんない(言うでしょう)物貰ろて。アリガタイナラ
イモムシゃクジらやれ(だ)言うて 芋虫言うな(の
は)おっきいんやんかい(大きいです)。鯨は おっき
いよつてん(大きいから)蟻が鯛なら 芋虫や(は)
鯨や(だ)言うて 返し言葉や(です)。

ありがため(有難味)【**名詞**】形容詞、ありがたいの語幹
に接尾語みの変化した、め、のついたもの。有難い。
かたじけないと思う感じ。かたじけない。【**会話**】な
んも(少しも)アリガタめな(が)無いね(のだ)言
うてなあ。なんしたても(なにしてやっても)嬉しが
らせんとなあ(ないと)、喜こばせんとなあ、なんした
たてて(なにしてやっても) なんも アリガタめな
(が) あんねなしなあ(有るのでなくて)言うて。

ありがち(有勝)【**名詞**】世間によく有る事(志(布施
田))【**用例**】暗がりとこで(暗い所で) けつまげんな
(つまづくのは)アリガちやわい(です)。

ありがと(ありがたう)(**有難**)【**形容詞**】ありがたいの
連用形。ありがたくの音便。かたじけない、嬉しく思
うほど感謝の気持ちを表す。(三、鈴市、鈴郡、伊
尾)【**会話**】有難とお 言うのを アリガト、アリガ
トこんちくしよお言うて、ありがとお言うやんない
(言うでしょう)、昔の人ら おおきん(有難う)言
うてなあ おおきんえ(有難う)言うたり、おおきんよ
言うたり よしたよ言うねなあ(言うのです)。なんや
かや(いろいろ)貰らうと おおきん言わんと(言わ
ずに) よしたよお言うて 有難とお言うのを。

ありがたり(在来)【**名詞**】有りふれて居ること。普通で
ある

ありがら。ありがり(有限)【**副詞**】【**名詞**】ありったけ。
あるだけ。全部。(度)【**会話**】アリギリは、あっただ
け、あるだけ、アリギリ食とりや(食べて居れば)、え
えわれ(よろしい)、わけて(分配をして)。

ありがだか(有高)【**名詞**】現在あるだけの量 現在高

ありがだけ(有丈)【**名詞**】【**副詞**】ある物を全部。ある
限り。あるだけ。(員、熊)【**会話**】終り迄、喰たた
(食べてしまった)、言う事やわい(です)。とこ(終
り)迄 喰たた。アリダケ食べたた言う事やわい。食
べる時ん(に)。きんこ喰い、芋喰い、あられ喰い、豆
喰いし、アリダケのもん(物)を ちよいちよいつ
(少しづつ)取って喰うのはっく言うの(のです)。

ありたけさん【名詞】 浪費家 [会話] ばあばあ (しまりがなくて) で、アリタケサンで、買うと すぐんき たて (すぐに着てしまつて) 言うて。

ありつかい。ありづかい【有使】 有るだけ使う事、前後又は元も子も、考えずにすべて使う事

ありつく【有付】【自力五】 1) やつと手に入れる 2) 植えた植物が根づく (志) 3) なじむ (志) [会話] 2) アリツク きい (木) 植えたや (ら) 雨な (が) 降ったや (ら) よお (よく) アリツイテ。芋 植えたや (ら) 雨な (が) 降つて、うるおいなよおて (水分がよくて) よお アリツクとかな。1) 食べるもんな (物が) 無いのに 食べるもん (物) 貰うと くいもん (食い物) に アリツク言うて。仕事でも そおやしなあ (そうです)、仕事の口な (が) 見つかるとなあ 仕事え アリツイタ言うて。

ありのくい【形容詞】 稀少で有る。手に入れ難い。珍らしい。[用例] そいな (そんな) アリノクイもん (物) よおくれたなあ (よくくれました)。

ありのせりふ【名詞】 いいぐさ。言い訳。[会話] アリノセリフかい (ですか)、そや (それは) 言うて、よお 言うなあ (よく言います)。あんな (彼の) せりふで、こげん (こんなに) 言うて、あげん (あんなに) 言うて、言うのを。

ありのとわたり【婦門渡】【名詞】 会陰。字の意味する所は両陰の合する所で、両陰とは外陰部と肛門をさす。解剖学的には両股の間にあって骨盤の出口を塞ぐ軟部を総称するが、狭義では消化管の外口、肛門と泌尿生殖器の外口との隔壁を意味する。会陰の皮膚は陰囊或は大陰唇の皮膚の續で色素に富んで黒く正中部に会陰縫線と言う筋がある。これは発生の際に両側の皮膚が癒着した跡で陰囊縫線の續である。俗に会陰の事をありの門渡と言うのはこの縫線がそれに似て見えるからである。(志 (布施田)、張) [会話] アリノトワタリ 言うな (のは)、しり (尻) のけつ^の間の事 言うんや んかい (のです)。

ありもせん 無い

ありもせんくせん 無いのに [用例] 金もアリモセンクセン ばあばあ つこて (使つて)。

ありもせんこと【名詞】 事実無根のこと [用例] アリモセンコト 言うて (言つて) 人 喧嘩さして (させて)。

ありや 有れば (志、鈴郡) [会話] 有れば言うのを こんな (此が) アリヤ ええわれ (よろしい)、アリヤあこそなあ言うて。こんだけ (これだけ) 金な (が) アリヤ 大丈夫やたら (だとか) 言うてなあ。

こんだけ アリヤあ なんでも出来られ (なにでも出来る) 言うてなあ 有れば言う事をなあ。

ありや 1) あれは。あや参照。あれはの短縮された形。(松、北) 2) あの人 (志、鳥、南)

ありや【感動詞】 おやおや 驚いた時に発する語 (志 (鶴方)、上、阿、張)

ありやい【ありあひ】【有合】【名詞】 1) 有り合う事。ありあわせ。特に備準したものでなく、丁度よくその場に有る事、またその物。(張) 2) 有るだけ全部 (員、張、度) [会話] 1) アリヤイ言うのは そこらん (に) 有るもん (物) をなあ、アリヤイで 食とけ (食べておけ) 言うて、有り合せで さい (副食) も 作らんと (作らずに) 戸棚ん (に) 有る味増でも、梅干しでも 有るもんで食とけ 言うの (のです) アリヤイで くとけまあ (食べておきなさい) さい (副食) も こさえんと (作らずに) あられ (有る) 言うてなあ。2) そして 皆 くたると (食べてしまおう) アリヤイくたたねない (食べてしまったのだ) 言う時 も有るやんかいなあ (有ります)。おおた、アリヤイくといてたない (食べて行った) 言うて ありだけとかなあ 全部食べたた言う事を、アリヤイも ありだけでも 一緒の事やけどなあ (だが)。

ありやこりや【名詞】 あべこべ。反対。あちこち。あれやこれやの意から (大言海) あれは、これはの急呼 (志 (布施田)、桑郡、桑市、上、阿、張、北) [会話] アリヤコリヤ。そや (それは) のお (お前) と、俺と 言うてなあ。反対や (だ) 言う事をなあ。そやなあ (それは) おんな (俺が) 言う事と のおな (お前が) 言う事と アリヤコリヤなあ。

ありやりや【感動詞】 おやおや ありやありやの訛 (鳥 (桃取))

ありよ【ありやう】【有様】【名詞】 有様 ありさま 物事の状態 偽りや飾りのないそのまの有り様 ありのまま 事実 (志、四、津) [会話] 物な (が) そこに 有るよつてん (から) 言うねんなあ (言うのです)。アリヨで、其処に有るとこ (所) に依つて、有る格好によつて 言うよおなもんやわい (ものです)。アリヨで、なつとでも出来られ言うやんかいなあ (なんとでも出来る言います)。

あるいて して、動作を表す している事を言う (志 (布施田)) [会話] アルイテ。そいな (そんな) 事 言や (言つて) アルイテとか、行きや (行つて) アルイテとか、して言う事をなあ。仕事でも 同じ仕事ばつか (ばかり) しとんのをなあ (しているのを) あい

な事ばっか (ばかり) しやアルイテ。ほんとん (本当に) 歩くくんやなしん (のでなくて) している。じよおくしとる (いつもしている) 事をなあ。続けてすると あいな事 ばっか しやアルイテ 言うてなあ。

あるか。あるかあ 有りますか [会話] アルカア (有りますか) こいなもんなてや (こんなものがとてええ)、昔 あよおったけど (あつたが) 今のとか (所は) まあ そいなもん使わせんもんなあ (そんなもの使わなから) 言うて。

あるかい 有りますか [会話] にげな (人間が) おおぜ (大勢) で はいられるかあ (入られますか) おられるか (居られますか) 言うて おるとこな (居る所が) アルカイ 言うて。

あるがはて 1) 結局。最後には。2) やっと (志 (甲賀、安乗)) [会話] ① はるのはてに来てまあ言うて、待つとても (ていても) 待つとても こんで (来なくて)、来たや (ら) はるのはてん (に) なったや (ら) 来て言うて。おっそお (遅く) 来ると、待つて、待つて、しともこんで (していても来なくて) 帰るよん (ように) なったや 来たのをなあ、はるのはてん (に) 来てまあ言うて アルガハテやなしん (でなくて) はるのはて。

あるきがい 歩いたのに対する報い [用例] 借金 貰らいいても (に行っても) くれんで (くれなくて) アルキガイな (が) なかった。

あるきぞめ (歩初) 【名詞】 初めて歩く事

あるきちゆうぶ (歩き中風) 一日中 あちらこちら歩いている人。(志 (布施田)) [会話] 歩いてばつか (ばかり)、あつちやい (彼方) 歩き、こつちやい (此方) 歩き、日がな一日 (一日中) 歩いとんのを (て居るのを)、アルキチュウブ 言うやんかい (言います)。あや (あれは、彼は) アルキチュウブやなあ (だ)。あつちやへ行てもおつた (居た)。こつちやへ行ても、おつた言うて、あや アルキチュウブや (だ)。あや、ひがないちんち (彼は一日中)、歩いとんねやれ (歩いているのだ)。

あるきづめ (歩詰) 【名詞】 休みなく歩き続ける事。歩き続け。づめは同じ動作を続けるを表す。[会話] 今日 ひがないちんち (一日中) あつちや (あちら) 歩き、こつちや (こちら) 歩き、アルキヅメやつて (だつて) くたばつたよお (疲れた) 言うて。歩くいてばつかおつて (ばかり居て) まいつた。和具中 あつちや 歩き、こつちや 歩きして、アルキヅメや (だ) とか、あるきどおしやれ (だ) 言うてなあ。朝から

アルキヅメで 足な (が) ほおん (棒に) なつたれ言うてなあ。

あるきで (歩) 【名詞】 相当に歩いたと感じられる距離。また、長い道などから受けるつらい感じ。歩きごたえ。で は分量の意味。[会話] アルキヅな 有るなあ言うて、遠いとこ (所)。ほん (本当に) そこや (だ) 言うたけど (言ったが) 簡単に そこや おもて (思つて) 来たけど (が) 幾ら歩いても 来やせん (来ない)。おおた アルキヅな (が) あんなあ (有る) 言うて。

あるきのくい 歩きぬくい。歩くのが困難である。[会話] アルキノクイ言うなまあ (のは)、靴な (が) おつきいて (大きくて) アルキノクイとか、ちつちよおて (小さくて) 足な (が) いとおて弱つたよお (痛くて困った) 言うて、ごごそと 抜けて来て おつきいてまあ (大きくて) アルキノクウテ言うて 歩きにくい言うのを アルキノクウテ言うて。

…**あるく (歩) 【自カ五】** …して回る 動き回る 動詞の連用形について、動作の主をのしる気持ちを込める [会話] あるいても 一緒やけど (だが) 泣きアルク、おめき (喚く) アルク 年中おめき アルイトンネナイ (ているのだ) あや (彼は) まあ言うて、喚いとる (ている) 事を おめきアルク言うて。食いアルクやたら (とか)、道食いして、アルクとかなあ。見てアルクやたら (だとか)。話しアルク、言いアルク、言うやんかい (言います)。そいなもん (そんな物)、くやアルイテ (食べて)、なんどそや (なんだそれは) 言うて。これは怒る時に使う言葉やなあ (です)。子供らな あんまり (があまり)、そこらのもんばつか (物ばかり)、はつくもんで (急いで食べるので)、そこらのもんを捨て (捨つて) 喰うたのを、そいなもん捨て (そんな物捨つて)、くやアルイテなんどお (食べて何ですか) 言うやんかい (言います)。

あるじ (主) 【名詞】 主人。家長。(志 (鶴方)、鳥) [会話] アルジてや (と言うのは) 主人やねえんかい (で無いのですか)。あのひた (人は) あの家のアルジやよつてん (だから) 言うね (言うのです)。

あるぞい 有ります [会話] 手拭な 幾筋 (幾本) アルジイ言うて。

アルちゆう 【名詞】 アルコール中毒。酒飲みを言う。何時も酒を飲んでいる人。

あるぢゆう 1) ある中で (志 (布施田)) 2) すべて [用例] ② アルヂウ 皆 くたた (食べてしまった)。

あるともないともいわんと 有るにまかせて 後の必要

量も考へずに(志(布施田)) [用例] ぜん(銭)もアルトモナイトモイワント 皆 つこたて(使つてしまつて)。

あるに。あるに 有ります。あるやろ参照 [会話] そこん(に)アルニ言うて。有ります、有るやろ(だらう)言うのを アルニ言うて。アルヤンナイ(でしよう)言う時も 有るやんかい(有ります)。そこん(に)アルヤンナイ えごと(十分に)見て見よ言うて、あんのん(有るのに)アルヤンナイ言うて、そこん(に)アルヤンナイてや(有るでしょうと言えば)なんも(なににも)無いやんかあ(で無いか)言うて、そやれ(それ)見て見よ アルヤンナイ言うて。

あるのは 結局。最後に。

あるやら 有るか、無いか。有るか無いか判らない。[会話] アルヤラ 判からせんわれ(ないです)言うて、有るか、無いか 判からせん(ない)言うのを、アルヤラ 判からせんど(ないぞ)。アルヤラ 無いやら判からせんけど(ないが)探がして見よまあ(見なさい)言うてなあ。

あるやろ 有るだらう(鳥) [会話] そこん(そこに)、アルヤロ。あのうち行きや(家行け)、アルヤロ言う言葉やなあ(です)。あるやら(有るか)判らん言う事やろな(でしよう)。アルヤロンは、あるにとは違うんやろ(のでしよう)。あるに言うのは あるのな(有るの)判とんのやなあ(ているのです)。

あるやろか 有るだらうか。(上、阿、張、名) [会話] そげな(そんな)事 アルヤロカ 言うて、疑うことをなあ、言うのやわい(のです) アルヤロカ そげな(そんな)事 言うてなあ。

あるやろん あるやろに同じ。有るでしょう。[会話] 有るか判らんのおをなあ(のを)、そこらん(に)アルヤロン言うてなあ。はっきり判らん事をなあ。そこん(に)有るとさいご(その時) そこんとこん(の所に) あんど 言うてな、そこん(に) あんど(有るぞ)行て見よ 言うんけどなあ(言うのだが)、有るやら判らへんど(ない)言うて 無いか、有るか、判らん 疑う時をなあ。

あるやんか。あるやんかい。あるやんかな(女性語)。あるやんかれ 1) 有るだらう 2) 有ります 3) 有るでないか(鳥(国崎))

あるやんな 有るでしょう [会話] アルヤンナ、そこん(そこに)アルヤンナ。あるでしょお言うことや(です)。

あるやんない あるでしょう。あるに参照。

あるよお 有ります [会話] アルヨオ、此処ん(に)有った 言う時んなあ(に)、有った言うたり アルヨオ 言うてなあ 有りました言う事。

あるわ 有ります [用例] 俺家も そいなもん(そんな物)アルワ、よれ(沢山)アルワ。

あるわい 有ります [会話] 飯喰うとる(ている)時ん(に)来る人な(が)アルワイ。

あるわな 有ります

あるわれ 有ります

あるんその 有ります [会話] あんなら(あのね)、あしこの(あすこの) 畑い(へ)行くとなら(です)、垣根な(が)有るやんない(でしよう)。そこになら(です)、芋苗切つて置いてアルンソノ(有る)。

あるんてない。あるんてわ。あるんてわい。あるんてわな。あるんてわら。あるんてわれ 有るそうだ 有るそうです

あるんや 有るのだ(桑郡)

あるんやったら 有るのだったら 有るのなら [用例] ペンの余つたの(のが)アルンヤツタラ 借してくれえ(借せて下さい)。

あるんやつて 有るそうだ(上、阿、名)

あれ(彼)【代名詞】 遠称の指示代名詞。同等以下の者を親しみを込めて指し示す。1) 事物や人を指し示す。(志(布施田)、鳥(浦村)、松、北、尾、南) 2) 時間や事柄を示す。(志、鈴市、多、伊賀、津、度、伊、鳥) 3) 場所を示す。[会話] 1) アレな(が)言うて、あんな言うやんかい(彼が言うではありませんか)。あんな、いろいろの事言うてまあ言うて。

あれ(荒)【名詞】 荒れる事。ことに天候があれること、嵐。しけ。(志、鳥(相差)) [会話] 畑もアレル、海な(が)アレタたら(とか)。畑も草だらけになると、アレタ、畑荒らして、草だらけん(に)。手入れせんと(せずに)、ほつとくと(放つておくと)。肌のアレんのも、あぶらけ(脂肪気)のなしん(無)、あぶらけな(が)、のおて(無くて)水使して手な(が)アレテ言うて。家がアレルとか、うちやれて(壊れて、打破)壊れとんのを(て居るのを)、荒らして言うて。アレテ直させんし(ないし)。なしても(何としても)、にげ(人間)は入らんだけアレてくわい(行きます)。にげな(人が)、すもとると(住んでいると)、どいな(どんな)小屋みたいなのおでも(のでも)こおなあ、あれやけど(荒れないが)。

アレエ【名詞】 植物。アロエ、ユリ科アロエ属の植物の総称。茎の立つものと、立たないものと有る。葉は剣

状で厚く縁に棘を持ち密集して多数つく。赤、黄、橙などの筒状花が茎の先端に穂状に集まって咲く、葉が苦味の強い液汁を含み、下剤や健胃剤に使われるものも有る。熱帯植物で約三百種が知られている。[会話] アレエや(だ)言うて、アロエ言うにげ(人)も有るしアレヨや(だ)言うにげ(人)も有るしなあ。

あれかい あれですか。[会話] アレカイ言うて 人でもアレカイ言うしなあ(言います)。物でもアレカイ言うて。あれ取ってくれとかなあ(下さいとか)。アレカイ これかい言うて 人を なあ知らんと(名前知らないで) おると(居ると) アレカイ言うてなあ。

あれぎり【副詞】多く打ち消しの言葉を伴って、あの機会を最後としてあの時以来、あれ以上の事は、多くあの程度である様。遠称の代名詞あれ(彼)に助詞きりがついて一語化したもの。[会話] アレギリ ふつり(絶対) きやせんない(来ません)言うて。又 来るわい(来ます)言うて 行たけど(行ったが)アレギリ ふつりかつり(絶対) きやせんわい(来ません)言うてなあ。その後からはきやせん(来ない)。アレギリ ふつりかつり 顔 見せやせんない(ない)言うて。

あれげ(彼家)【名詞】彼の家 遠称の代名詞。あれ(彼)に、げ(家)のついたもの [会話] アレゲえ 行て来るわ(来ます)言うて、○○さんな(が)今日は きやせんよって(来ないから)アレゲい(へ)行て見てこおかいなあ(こようか)言うて、あの人の家。アレゲえ いたや(行ったら) おらざった(居なかった)言うて。

あれしいこれしい 1) 移り気 あれこれ手を出す事 2) 多くの人と情交を結ぶ(志(布施田)) [用例] 2) おなご(女性)が アレシイコレシイすると、あや(彼女は)淫乱やよって(だから)。

あれしや【名詞】1) 専門家。その道によく通じて居る人。2) 芸者。やくざ等、人が卑しむ職業の人。(上、阿) [会話] 1) 専門家、アレシヤや(だ)言うて、その仕事上手な人を、アレシヤやなあ(だ)言うて。あや(彼は、アレシヤやもんでなあ(だから)言うて。

あれしよ【名詞】荒性。冬期皮膚の脂肪分が少なくなり乾燥する性質

あれしよ【名詞】荒所 荒れた場所

あれどころはいやごころ【俚語】嫌だの表現 気にしているがそれは嫌だと言う気持です

あればか【副詞】1) あの位。あの程度。2) その人だけ [会話] 1) アレバカ言うて ちょおいと(少し)。

2) アレバカ呉れて おら(俺は) なんもくれんと(少しも呉れずに)言うて。1) アレバカ言うのは ちょおいと(少し)の事を アレバカやっただけやのん(与へただけなのに)言うて、少しのもん(物)を言うのと、2) アレバカやって言うて その人だけ、あれんばつか(にばかり)やって 俺ん(に) 呉れやへん(ない)アレバカ言うの。

あればっか【副詞】1) 一つの事を繰り返して居る時。あればかり。(安) 2) その人だけ [会話] 2) アレバカ言うのは その人だけ。他のもんにやらんと(者にやらずに)その人ばっかん(ばかりに) やんのをなあ(やるのを)、あれんばつか やって 他のもん(者)に 誰ん(に)も呉れんと言うてなあ。

あればな あれを [用例] アレバナ 何処やらい(かへ) やっただ(失って)。

あれほどき(彼程)【名詞】あれ程。あのくらい。あんなに。これ程と言う詞のかかりに伊勢にて、これほどき、あれほどき云々。(物類稱呼)(三重県全域) [会話] アレホドキ言うて あんのん(有るのに) なんもよおせんねない(全く出来ないのだ)、出来やせんねない(ないのだ)言うたりな。アレホドキ おんな(俺が) おせてあんのん(教えて有るのに)言うてなあ いっしよけめで(一生懸命で) よけ おせたのんなあ(沢山教えたのに)それ しやせんね(しないのです)。あんだけ(あれだけ)言う時も、有るしなあ。あんだけ 言うても 判からへんねか(ないのか)言うて じよおく(いつも) 言うるととなあ(言って居ると) 口な(が) すいなる(酔くなる)程 言うとのん(言っているのに)言うてなあ。

あれやが 1) あれだろうか 2) あれだ あれです

あれやったら 1) あれだったら 2) 彼だったら(北) [会話] 2) アレヤツタラ そいな(そんな)事言いそおな事やれ(だ)言うて。

アレヨ【名詞】植物。アロエ、アレエ参照

あれる(荒れる)【自ラ下一】1) 風雨波が激しくなる、天候が穏やかでなくなる。2) 手入れされず、損なわれた状態。3) 気持ちや生活に平穏さがなくなる。4) 乱暴な振る舞いをする。(志) 5) 皮膚が脂気を失って乾燥する。6) 物事、争事で事が正常に運ばない。また勝負事で結果が予想以外の展開になる。[会話] 5) 口の中な(が) アレル言うのも有るし、1) 風で今日は 海な(が) アレル言う時も有るしなあ。日和な(が) アレル言う時は、雨や風な(が) よけ(沢山)降って来た、吹いて来てなあ。2) 畑や、たあな(田

が) アレル。おらまあ (俺は)、畑い (へ) ひとつも行かんとおって (少しも行かずに居て) 草で 草であれとられ (ている) 言うて、草で 荒荒しとると (している)。⁵⁾ 肌もアレル、あれて言うて がさがさや (だ)。⁴⁾ 乱暴すんのもよけ (するのもあまり) アレンナまあ (るな) 言うて、なんもかも (すべて) 家も あらずねない (のだ) 言うてなあ、おっちやく (乱暴) してなあ。あっちゃから (あちらから) 飛んだり 上ったり 又、飛んだりして 家うちやつたるよん (壊してしまうように) する こおな (子が) おんなあ (居ます)。

あれん【代名詞】 1) 彼に あの人に 2) あの物に 3) あの場所に

あろか。あろかい 有りません。有るものか。かい 終助詞かに、終助詞いが、ついて出来た言葉。文末について 問い、反問の意を強める。(志、北) [会話] 一緒の言葉やけど、アロカイでや (言えば)、アロカレ言うしなあ (言います)。アロカイ言うのは、ちよいと (少し) 丁寧な言葉で、アロカレ言うたら、下段な言葉や (です)。アロカイ言うのは、ちよいと品 (ひん、格好) のええ (よい) 言葉で。年寄りやったら、そいなもん (そんな物) アロカレ 言うて ちよいと 荒い言葉や。

あろかれ ありはしない。あろか参照 (志 (浜島、立神、神明、志島、国府、安乗)、北)

あろた (洗)【他ラ五】 あらった。洗った。(志、鈴市、安、多、上、阿、名、伊) [会話] せんだく (洗濯) した言うのも アロタ。洗った言う事。きもんな (着物が) くざけて (浸して) 有るよって (から) あれアロタレよお言うてなあ、まあ アロタワ、はあよお (早くに) アロタワ言うて 洗いました 言う事。

あろたり 洗ったり

あろたれ 1) 洗いなさい。2) 洗いました。[会話] ¹⁾ アロタレ言う時は 洗いなさい言うのと。²⁾ 洗いました言うのと。茶碗や箸でも アロタレ言うて 洗いなさい言う事 そすとまあ (するともう) アロタレ。

あろたわ 洗いました [会話] きもんな (着物が) くざけて (水に入れて) 有るよって (から) あろたれよお (洗いなさい) 言うて、まあ (もう) はよお (とつくに) アロタワ言うて。

あろて (洗) 1) 洗って (志、員、鈴市、伊) 2) 洗って下さい [会話] ¹⁾ さいら、アロテ、その汁 (洗った汁) を、たあご (たご) 一杯貰うのん (のに) 昼までいつ (も)、かかりおったの (かかって居たのです)。

あろて 荒くて。波なアロテ。

あろなる 荒くなる [会話] あらし言うても、台風の嵐と違う (違います)。常の (いつもの) 風な (が) アロナルのを。

あわい。あはい (あはひ、あい 間)【名詞】 物と物との間。隙間。合間。空間にも時間にも使用。動詞アフ (合) に接尾語ふのついた、あはふの名詞化 (志 (布施田、浜島)、上、阿、張、名、度、北)

あわおち【名詞】 しぶき、飛沫。[会話] なんやかや、ぼたん落ちて、アワオチな (が) とぶの、しぶちな 掛かられ (が掛かる)、内い入れな (へ入れなければ) 言うの (のです)。

あわがら (あはがら) (粟殻)【名詞】 穂を取った後の粟の茎

あわくい (泡食)【名詞】 慌て者 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] あわくらのはてなしや (果て無しだ) 言うて、泡食うて 軽石の糞たれんど (するぞ) 言うて 慌てるもん (者) をなあ、あやまあ (彼は) あわてがめで、なんもかも (すべて) 聞いたねやら (のか) 聞かせんねやら (ないのか)、こげん (こんなに) して言うてくれよお (下さい) 言うても、おお言うても、言わんとおとなあ (言わないで居ると) アワクイやよって (だから) あげん (あんなに) 言うたのん (のに) 忘れたて (てしまつて) 言うてなあ。

あわくい。あわくいさば【名詞】 鱈の小さいもの

あわくう (泡食う) 泡を食う。ひどくあわてる。驚き慌てる。よく慌てる。常に慌てて行動する [会話] アワクウ、よお (よく) 似た同じ意味やんかい (です)。アワクウ言うのと泡食い言うのと。アワクイ言うのは、物凄く慌てもん (者) 言う事やわい (です)。慌てもんで、アワクイでまあ。同じ言葉やけど (けれど)、アワクイでまあ、ほん (本当に) アワクウて、軽石の糞たれられ (大便をする) 言うて。泡はそれ 軽石やんな (でしょう)、そやもんで (それで) アワクウと軽石の糞垂れんの (するのです)。

あわくらい【名詞】 慌て者。食らい。食う事を多く複合語として用いる。あわくらい。くらいぬけ。おおめしぐらい。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] 慌てる事をなあ、アワクライの はてなしや (果て無しだ) 言うてなあ。アワクライやよって (だから) あや (彼は) 言うて、あわてもん (者) を。

あわして 合せて (一)

あわす【他サ五】 あわせるに同じ 1) 合う様に
一致させる 2) 混ぜ合わす 菓アワス 3) めあわ
す 結婚させる 見合させる 4) 照合する [会話]
手をアワス、¹⁾ 人と人とアワスのもなあ、¹⁾ 物と物と
重ねてもなあ、アワス 言うて、²⁾ 御飯もなあ、上と
下とこねんのおを(るのを) アワス 言うの。あわし
て(あわせて) はんたい(飯櫃)へ 移しとけ(てお
け) 言うてなあ、³⁾ 仲人も あの人心配で あわし
てもろて(せて貰らって) 言うて。

あわせる(あはせる)(合、会、逢、遭)【他サ下一】
1) 加える。重ねる。2) 一致させる。3) 相槌をう
つ。同意する。4) 面会させる 5) 混ぜ合わす [会
話] ¹⁾ 裏と表をアワセルのも、アワセル言うし、⁴⁾
話しして、にげ(人)と、にげ(人)と、こおして会
わすのもアワセル 言うし、²⁾ 言葉を合して、うなじ
(同じ) 言葉を合しとかなはざんわれ(合わせなけれ
ば駄目です) 言うのも有るしな(有ります)。言葉アワ
セとかな、そや(それ)、はざんどう言うてなあ(いけな
い言います)。

あわてがみ【名詞】 慌て者(志(浜島)、北、南、熊)
[会話] アワテガミ言うて なん(に)でも 泡 食
うたよんなあ(ように) はやとちり(早合点)する
にげ(人間)を、アワテガミや(だ) 言うて。アワテ
ガミで 人な(が) 話しとると(していると) それま
あ えごと聞かんと(十分に聞かずに)、なん(に)で
も どげやてわれ(どんなのだ)、こげやてわれ(こん
なのだ) 言うたり したりすんの(するのを) アワテ
ガミで言うて。

あわてがめ【名詞】 慌て者 [会話] 慌てるもん(者)
をな、慌ててばっかおる(ばかり居る) にげ(人間)
を、あや(彼は) アワテガミやれ(だ) 言うてなあ。
アワテガミやよって(だから) 人の言う事も えごつ
と聞かんと(完全に聞かずに) 言うてな。

あわてさがす ひどく慌てる(鈴、上、阿、南)

あわてもん(慌者)【名詞】 慌て者。よく慌てる人。落ち
着きの無い人。気の早い人。ものの音訛(志(布施田)、
鳥(答志)) [会話] アワテモンも 一緒やわい、あわ
くらいも。

あわぶく(泡吹く) 1) 驚く 2) 疲れる。あふる参照
3) あわてる [会話] ¹⁾ 金蔵言うて みんなな(皆
が) アワブク程よお食うねやんかい(よく食べるので
す)。金蔵な(の) 喰うの見とれまあ(食べるの見えて
なさい) 言うて、どかぐいや(大食です)。ひとくらん
(一度に)、はんたい(お櫃)一杯でも よお喰うのな

あ(よく食べるのです)。

あわみそ【名詞】 粟を入れた雑炊

あわらった 1) 合わなかった。らった。一なかった。
しなかった。2) 逢わなかった [会話] ²⁾ あれげい
(彼の家へ) 行たけど(が) アワラツない(です)。
何処い(へ) 出てたんやかなあ(行ったのだらうか)
言うたりなあ。すりちん(すれ違い) したんなあ(の
だ) 言うてなあ、逢うはずやったのん(だったのに)
アワラツ言うて、逢わなかった言う事。

あわる 1) 食べ物が腐れかかっている状態 腐って泡
を出す 2) 熟する(南)

あわれがしがし(あはれがしがし) 哀れな様子(志(布
施田)) [会話] あの人なんやら(なんか) しょぼくれ
た(元気が無い) 様にしとて(して)して、アワレガシ
ガシみたいなあ(のようだ) 言うて。ものすごお
(大変) 哀れにしとんのをなあ(しているのを)、しょ
なぶれた(元気が無い) 様ん(に)して、しおれた様
ん(に) しとると(していると)、アワレガシガシや
なあ(だ)、あげん(あんなに) なったら まあ言うて。
にげ(人間)も あげん(あんなに) なったら アワ
レガシガシやれ(だ) 言うて、にんそな(人相が) 変
ってくと(て行く)と。

あわれがる(あはれがる)【他ラ五】 哀れに思う 哀れむ
あわれみ(あはれみ)。あわれめ(哀、憐)【名詞】 慈悲。
同情。[会話] アワレメかける言うて、あれげ(彼の
家)も 嫁な(が) のおて(無くて) かわいそげん
(可哀想に) 朝もはよ(早く) 起きなはざんし(なけ
ればいけない) 言うてすんのを(するのを) アワレメ
や(だ) 言うて、同情言うの(のを) アワレメなあ、
あの人なんも(少しも) アワレメな(が) のおて(無
くて) 人、労わる事な(が) 判らん言うて。

あわれめこう(哀乞) 同情を求める。許しを願う。[会
話] つらまして(つらくて)、ほんおとつしゃ(本当
に恐ろしい程)、泣かれてくられ(来る)、言うてアワ
レメコオテ。

あわん 1) 損をする 2) 適合しない 3) 合わない
面会しない 4) 間に合わない

あん【感動詞】 1) おじぎ。またその時に発する語。
2) 神仏や月などを拝む事。またその時に発する語。
(度) 3) 口を開けるしぐさ 幼児語(上、阿、張、
名) [会話] ³⁾ アン せんかれ(しなさい) 言うて、
物 食べさすのんなあ(に)、口 開け言うの(のを)。
アンせんかれ言うて ²⁾ 神さん拝んだり ああとさん
(佛さま) 拝むの アンせえ(しなさい) 言うて。

あんいも【名詞】薩摩芋の一種 [会話] ぜんこじ芋と同じ様ん (に) しとんねけど (しているが)、切ると中な (が) 紫でなあ うまのおて (まずくて)、どいろおなんねけど (大きくなるのだが) アンイモは。

あんか (あんくわ) (行火)【名詞】炭火を入れて手足を暖める道具。火入れは土製。こたつ。あんは唐宋音。[会話] 炬燵の事と思うけど (が)、アンカ言うのなあ (のは)。

あんが。あんがあ【名詞】馬鹿。阿呆。あんご参照。暗愚の訛 [会話] あんごしのおよ (奴め) 言うの (のを)、アンガ 言うの (のです)。わり (悪るい) 事するとなあ あほよ言うのを アンガ言うてな。

アンカー【名詞】錨。amchor (北) [会話] アンカー、錨 アンカ降ろせ言うてな。錨でも アンカデツツゴオ (Amchor, Let go)、錨の事もアンカー言うやんか (言います)。錨おろせ言うのをなあ。船乗の人ら言うやんかい (話します)。わしらは (私達は) 錨おろせ言うやんない (でしよう)。そやけど (然し) 船乗の人ら、アンカれっごお言うて、錨ほりこめ言う事なあ (です)。

あんかあんこのかんがえがある。あんかあんこのかんがえなある。あんかあんこのくめんする。あんかあんこのくめんがある。あんかあんこのくめんなある【俚諺】各人それぞれ考えがある。人によって考へ方が違う。(志(布施田)) [会話] アンカアンコノクメンスル言うてなあ。あんごしもな (馬鹿な者は) あんごしもんで (者で) また それなりの考えな (が) 有る言うのをなあ。あんごしは あんごしもんの よおん (ように) わがたおおた (自分に合った) よおな事する言う事。

あんかぶじん (安閑無人)無事。安閑。安らかで静かなさま、安楽に暮らすさま。何事もせずのんびりしているさま。[会話] アンカブジン言うのは、なんも (何も全く) 知らんとおったのん (のに) いう事や。知らんとおったのん、そいな (そのような) 事と聞いてなあ、おどけたなあ (驚いた)。

あんき (安気)【名詞】気楽なさま。のんきなさま。(志(布施田)、上、阿、北、南) [会話] 安心した言う事。アンキしたなあ言うて。安心やれ (だ) 言わんと (言わずに) アンキやれ。まあ言うて 気楽ん (に) なった言うの、アンキで暮らさな (なければ)、此れからさきや (先は) 言うてなあ。

あんきなもんや 呑気なものだ

あんぐあ【名詞】馬鹿。阿呆。あんが、あんご参照。[会

話] あんごよ言うのなあ アングア 言うてなあ ぐわ みたいななあ (のようです) アングワ言うてなあ。

あんぐり (開口)【副詞】1) 驚くさま。口を大きく開くさま。あされるさま。2) 飽きるさま。[会話] 2) アングリするなあ、アングリしたなあ言うて。たんの (堪能) する事言うのかい (言うのですか)。アングリしたなあ言うてな たんのした言うよおな意味やなあ (です)。アングリやなあ (だ) 言うよつてなあ (言うから)。

あんげ あのように あんげな、あげな、あいな参照 (志) [会話] あげに (あんなに) 言うのに、アンゲニ言うて 'ん' つけて、こんげん (こんなに) おんな (俺が) 言うたたね (言ってやったのだ)。そしたらアンゲん (に) 言うて おこした。おんな アンゲん (に) 言うたたや (言ってやったら) あんな、こんげん 言うておこしたね (のだ) 言うてな。

あんげな あげなと同じ あのような [会話] あげなと一緒の事になるのや (です)、アンゲな言うな (のは)。

あんげに。あんげん 1) 何度も 2) あんなに あのように。あげんに同じ。[会話] 2) あのひた (人)、あげに (あのように) 言うけど (けれど)、違うはなあ (違います) 言うの (のを)、あげん言うのと、アンゲん言うのと、んをいれるか、入れないかの違いや (です)。アンゲん言うて言うのは、わり (悪い) 言葉やなあ (です)。悪り事ばつか (ばかり) 言う、言う事や (です)。1) アンゲんばつか (ばかり、のみ) 言うとる (言っている)。あげな (あんな) 事やとか (だとか) 発音は一緒やけど (けれど)、あげな事 言うて、言うのも、あげんばつか言うて言うのは、きいとるほおな (聞き手が)、ごおなわいて (腹が立って) アンゲん ばつか言うとんねなあ (言っているのだ)。いくくらも (何度も)、まあ言うたり (言ったり)。

あんこ (アンカウ) (鮫鱈)【名詞】アンコウ科の海魚。頭部が扁平で胸は太く短い。全長1mにも達する。口が著しく大きく、よく発達した歯を持ち、極めて貧食。鱗はなく背に刺があり、頭上の触手様の棘で小魚をさそい食べる。日本各地に分布し岩礁付近や海藻の生えた海底に住む。冬が特に美味。(南、熊) [会話] アンコの腹なおつきいよつて (が大きいから)、アンコ腹やなあ (だ) 言うやんかい (言います)。食べて腹なおつきなつて (が大きくなって) 来るやんない (でしよう)。アンコ腹やなあ 言うて。出尻、はつと (鳩) 胸、アンコ腹言うて、出とんのおを (出ているのを)、出尻、

胸な (が) 張って、はっと胸で、腹はアンコ腹。

あんど 下顎 (志 (布施田)、鳥、南) [会話] 顎の事をなあ アンゴ。アンゴ乾け 口乾け 口よりアンゴな (が) はよ (早く) 乾け言うて、潮あびて (海水浴して) がつが**つふる**と**りおってなあ** (ふるえて居て)、石拾ろて来て **あたたいのおを** (熱いのを) アンゴい (へ) 当ててなあ。

あんど 【**名詞**】馬鹿。阿呆。あんどごう。暗向。(あんどごう) 鮫鱈の転。愚鈍なこと また愚かな人。鮫鱈に愚鈍な人、とんまな人の意あり。物類稱呼 伊勢にてアンカウと言うアンガウの訛か (志摩市全域、鈴郡、鈴市、安、一、津、松、多、上、阿、張、名、度、伊鳥) [会話] **にげ** (人間) の馬鹿なのは、アンゴよ言うけどな。

あんどあさり 【**名詞**】海岸の潮の来ない所に住む浅利 [会話] 浅利のおつきい (大きい) のを、おおあさりや (だ) 言うて。ちっちゃいな (少ないのは) **こや** (これは) アンゴアサリや**なあ** (だ) 言うて、ちっちゃい (小さい) **しおくわ**ず言うのを、潮な (が) かからんでも **おつきいなる** (大きくなる)。

あんどいち。あんどいちがい 【**名詞**】馬鹿正直 [会話] いちがいな、アンゴイチガイ**言うんやろな** (言うのでしよう)。馬鹿正直**言うんか** (言うのか)、真っ正直**言うんか**、人を疑う事**知らんのなあ** (知らないのです)。馬鹿正直とか、アンゴイチガイとか言うて、**ちよいと** (少し)、阿呆の**うちやわい** (です)。

あんどかしこい。あんどかっこい 賢いようでも馬鹿な所が有る事 [会話] 熊が来たら、**すらじにせえ言うやんかい** (空死しなさい言います)。息、嗅ぎんく**んねやろなあ** (に来るのでしょうか)。そして 草履を **わが** (自分) 行く方**せんと** (せずに) 反対の方へ**じょおり** の**んで** (草履脱いで) 置いて来ると、熊**な** (が) それ見て そこに向いて行く言うて、アンゴカシコイ**よおなもんやなあ** (ものだ)。アンゴシよおな賢い**よおな**。熊**な** (が) 鯨か**ずいたよおなか** (担ったようだが) 言うて、鯨の**たあら** (俵) を、ぬすで**かずいてく**な (盗んで担いて行くのは)、**ええけど** (よいが)、後ろから**ついとて** (付いていて) 皆 **それ抜いたても** (てしまっても) **知らんね** (知らないのです)。**そやって** (だから)、**そげな** (そんな) うっかりした事すると、熊**やれ** **言うやんかい** (だ言います)。**そやよって** (だから)、アンゴカシコイ**ねてや** (のです)。**盗むなえらいねけど** (のはえらいのだが) **抜かれたるこた判らせんね** (事は判らないのです)。

あんどさか 馬鹿者め (志 (鶴方))

あんどさく 【**名詞**】馬鹿者。阿呆。(志摩市全域、鳥、松、度、北)

あんどし 【**形容詞**】馬鹿な。阿呆な。(志 (片田、布施田、甲賀、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥)

あんどたたき 寒さで下顎ががちがちと震えること あんどたたき参照

あんどでさしずする 言葉に出さず顎をその方に向ける。人を見下したさま [会話] 顎でなあ **こげん** (こんな) して、言葉で **てえねせんと** (丁寧にせずに)。あ**のひた** (人) まあ アンゴデサシズシテ 生意気に**言うやんかい** (言います)。人を下目に見て 顎で指図**しとんね** (しているのだ) 言うて、**こちらん** (に) すると **ちよっと腹な** (が) **立つよおなしい方やなあ** (仕方です)。

あんどなしゃくれとる 下顎が突き出ている [会話] 三日月さん**みたよんしとる** (のようになっている)、猪木**な** (が) **しとるやんかい** (しています)。**あいな** **あんど** (あんな顎) を**言うんやろなあ** (言うのでしょうか)。**花王石鯨の広告みたい**な (のような)、猪木**やたら** (だとか) **馬場やたら** (だとか) **あいな** **あんど**をアンゴナシャクレトル **言うんやろなあ** (言うのでしょうか)。

あんどはで 【**名詞**】常軌を逸して派手な事

あんどばら 【**名詞**】腹の大きい事。大きくてしまりのない腹。[会話] アンコバラ 言うのは **食わん** (食わなく) でも、大きな腹**しとる** (している) 人**な有るやんかい** (が有ります)。**あんど**の腹は大きい**もんで** (ので) それに例えて**あんねやろなあ** (あるのでしょうか)。**ものすごお** (大変) 腹の**おつきい** (大きい) 人**な** (が) **有るわな** (有ります)。**腹な** (が) 大きい**の** アンコバラ**や** (です)。**妊娠して** **腹な** (が) 大きい**のは** **言わへんの** (言いません)、**自腹な** (が) 大きな**人な** (が) **有るやんかい**、**よお** (よく) **太鼓腹や** (だ) **言うけどなあ** (言います)、**そやけど** (しかし) **あんど**に、**よお似とるもんで** (よく似ているので) **アンコバラやなあ** (だ) 言うてなあ。

あんどまし (顎廻し) 【**名詞**】嚙む動作 (志 (布施田)) [会話] **おら** (私は)、アンゴマシ**なはよおて** (が早くて)、**じっきん喰たんね** (すぐに食べてしまうのだ)。**アンゴマシ**言うて、**はよ喰たる** (早く食べてやる) 事を **アンゴマシな** (が) **早い言うのなあ** (言うのです)。**口なよお** (がよく) **いごくやんない** (動くでしょう)。**アンゴマシ**、顎廻しが早い**の**、**アンゴマシな**

(か) 早い言うんやわな (言うのです)。はよ (早く) 喰う事を、アンゴマシなはよおて、じっきん 喰たる。
あんごまたい。あんごまたたい【名詞】【形容詞】 馬鹿正直 (志) [会話] アンゴマツタイ言うて、一概な事言うな (言います)。人な (か) 嘘言うても (言っても) 本当にする、アンゴマツタイねよってん (のだから) 言うてなあ。

あんごよ【名詞】 馬鹿者め (志 (峠名)、北)

あんころ (餡転)【名詞】 餡をつけた餅 あんころもちの略 餡の上を転ばして付けたためか、餅につけた物だけで米飯に付けたものはボタモチ、オハギ等と区別する。(志 (鶴方)、張、南、熊) [会話] アンコロは、もちね (餅米) 搗いたのおへ、餡付けたのおを。ぼた餅は搗かへんし (搗かないし)、御飯握ったのおを、ぼた餅。アンコロ、本殺しんしよおか、半殺しんしよおか。半殺し言うのは、ちよいとなあ (少し) 搗いて、おこわを、ちよいとびしゃいたん (潰す) のを、半ごろし言うのを、本殺し言うのはアンコロで。

あんじ (案)【名詞】 1) 思索。計画。工夫。分判。(志 (甲賀)) 2) 心配。懸念。恐れ。[会話] 2) よけ (沢山) 心配することなあ (です)。心配する事を アンジル言うのなあ (です)。心配するのと、1) 考えるなあ (です) 工夫するとか アンジル 言うのは、心配すんねけどなあ (するのだが) アンジ 言うたら考えるやわなあ (です)。

あんじごと (案事)【名詞】 心配ごと。気にかかっている事。(阿、名) [会話] アンジゴト言うて、あげな (あんな) 事して、心配やなあ (だ) 言うて、アンジゴト、心配事言う事やわ (です)。

あんして 口を開けなさい 幼児語 (上、阿、張、名)

あんして あのようにして

あんじなつく 気が付く (志 (布施田))

あんじない (案) 1) 考える事をしない。無頓着である。気を配らない。2) 記憶に無い [会話] 2) 憶えな (か) 無い言う事を、アンジナナイ言うのなあ (です)。なんも (少しも) アンジナナカッタンよお (です) 言うて、憶えとらなかつたんよお (ていなかったのです) 言うて、憶えな (か) 無い言う事。1) なんも 考えとらなかつたんよお (ていませんでした) 言うてな、気に止めやせんとかなあ (ないとか)。

あんじょお (あんぢょう) (味良)【副詞】 うまい具合に。具合よく。味よく (味よう) の転。(志 (甲賀、安乗)、鳥 (加茂)、員一、飯、多、上、阿、張、名、北、南、熊) [会話] アンジョオ言うて、具合よおしよおやん

かい (しましよ) 言うて、言うやんかい (言います)。アンジョオしよおやんかい。

あんじる (案)【他サ上】 物事のなりゆきをあれこれ心配する。(桑市、亀、久、熊) [会話] アンジル 言うのは、心配すんねけどなあ (するのだが)。色々 先の事を 心配してまあ まあ、あの こおな (子の) 事、アンジテ アンジテ なつたらしてくよおなね (なんとかして行くようだ) 言う人な有るわな (か有ります)。子供らの事 心配して そお言う時になあ アンジル。

あんじる (餡汁)【名詞】 汁粉。ぜんざいの餅の無くなった物。[会話] ひとら娘とかけて、餅のないぜんざいと解く、心はアンジル (案、餡汁) ばかりや。ぜんざいの 餡の汁なあ アンジル もて (持って) 来い言うてなあ。

あんする 口を開く 幼児語

あんずる【他サ変】 1) 考える 2) 心配する [会話] 2) あんじるも 一緒や (です) 心配する言う事や (です) アンズル事ばつつかで (ばかりで) 言うて 心配する事ばつつかで 言うのを。

あんた (貴方)【代名詞】 あなたの転。ごく親しい人や目下の人を示す。主に女性が女性に対し使用。(志 (峠名、立神)、鳥 (坂手、鳥羽)、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、亀、安、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] アンタと アンタラはうなし (同じ) 事やけど (ですが)、ら、付けるだけ、アンタラサン言うて、ひとりごつと (一人づつ)、なあ (名前) 呼ばんと、みんな (皆) が居る時に、皆を呼ぶ時に、アンタラサン言うて、アンタ 言う時は 一人。アンタラ言う時は大勢いる時ん (に)、皆んなのなあ 呼ばんと (ずに、皆の名前呼ぶの いちいち (一人づつ) 呼ぶの (のが)、せわやもんで (面倒なので)、アンタラサン言うの (のです)。

あんた こんた そんた【代名詞】 貴方。此人。其の人。多くの人。[会話] アンタや (とか)、コンタや (とか)、ソントなよけ (沢山) 寄って来て、言うのを、だれやかやな (誰、彼が) 寄って来て、みんな (皆) が 寄って来て。

あんたげ (貴家)【名詞】 貴方の家。(志 (浜島)) [会話] アンタゲの、かあさん (母親が)、おれげ (我家) の 爺やん (さん)、探しとた (ていた)。

あんだけ あれだけ。あれ程。あれ位。あのように。あんなに。程度。時間 状態。多い時も少ない時も使用。こんだけ。これだけ。そんだけ。それだけ。(員、鈴郡、鈴市、安、松、張、伊、北) [会話] 少し 言う事や

なあ (です)。少しの事を アンダケのもの (物) 言うのなあ (です)。あれだけ 言うのを、アンダケ言うと いてあんのん (言っておいて有るのに) 言うて。そいな (そんな) 場合は 沢山言うて 有る事をなあ アンダケ 言うてあんのん (言っておいて有るのに) 来やせん ねない (来ないのだ) 言うて。アンダケ言うてあんのん 言うと よおけ (沢山) 言うて有る言う事やし (です)、アンダケやそこら言うと ちょおいと (少し) の事やしなあ どちらにしても あれ程 言う事や。

あんだけやそこら 量の少ないを言う

あんたさん 【代名詞】 貴方様 見知らぬ人に問いかける時 (鈴市、南) [会話] アンタサン 言うて、偉い人に アンタサンな (が) 言うて 丁寧に言うとなあ アンタサンや (です)。よその人ん (に) おおても (逢っても) なあ知らんと最後 (名前知らないとその時) アンタサン 何処の人どい (ですか) 言うてなあ。

あんたどこ 【名詞】 貴方の家 (久、南) [会話] アンタトコ 言うて、相手の家の事 アンタトコや (だ) 言うてなあ。

あんたな 1) 貴方が 2) 貴方の (志) [会話] 1) アンタなえ アンタな 言うて、貴方な (が) 言う事をなあ アンタな 言うて。

あんたまかせ (彼方任) 【名詞】 他人に頼って、その通りする事。先方に一任する事。なりゆきに任せる事。

あんたら。あんたらさん 【名詞】 貴方達 対稱 複数 あんた参照 (志 (畔名、鶴方)、鳥 (坂手)、三、鈴市、久、多、度、伊、北、南)

あんたらたん 【名詞】 阿呆。馬鹿。餓たらん。頭の中味が足りない。餓足らん、足らん。あんたら→あんだら (あのどら、あのだら又は阿呆太郎の変化した語) 愚者、馬鹿 阿呆 たん。嘆。嘆くこと。なげき。(志、度) [会話] アンタラタンは阿呆。あんごし (馬鹿者) の、アンタラタン言うて。アンタラタンの、ぬんたらたん言うて。アンタラタンも、ぬんたらたんも一緒やけど (です)。

あんたらたんのはてなし 【名詞】 大馬鹿者

あんたらたんのぬんたらたん 【名詞】 馬鹿者 あんたらたん参照

あんたん 1) 貴方の 2) 貴方に (阿)

あんたん 【名詞】 馬鹿者

あんで あれで。あんな。あのような。物事の状態、程度があのようなであるさま (鈴郡、阿) [会話] アンデ ええんかいいなあ (よいのだろうか) 言うのは、それで

いいんかいいなあ言う事。あいな (なんな) 格好でええんかいい、あれでええのかいいなあ (良いのかなあ?)。アンデええんかれ、あいな (あんな) 事してええんかれ (よいのか) 言うて。

あんでえ 有ります [会話] アンデエ言うて 有る言う事を。それやったら (だったら) おれげん (私の家)に) アンデエ 言うて。

あんでし (兄弟子) 【名詞】 同じ師匠のもとに先に入った先輩。あにでし。[会話] 兄弟子言う事をアンデシ言うね (のです)。裁縫習いに行てもなあ、アンデシに教えてもらう言うて。

あんど (行灯) 【名詞】 昔の照明器具。木、竹、金属製の角形、または円形の枠に紙を貼り、中に油皿を置いて火を燈す。もと提げて歩いたが後はもつぱら室内に置いた。あんどんの略 あんどん参照 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (加茂、鳥羽) 桑郡、桑市、員三、鈴郡、一、飯、松、上、阿、張、名、伊、北、尾、南)

あんど 有るぞ (上、阿、張) [会話] アンド、アンドオ 言うのも 一緒やわい (です)。あんでえ言うのと。目下の人ん (に) 言うねやったら (言うのだったら) アンドオ おれげん (俺の家に) 言うし、目上の人ん 言うねやったら わしとこん (私の所に) あるんなあ (有ります) 言うて。

あんどお 有ります 有るのだ あんど参照 (北)

あんどき あの時間。とき。刻。時間。[会話] あの時間言うのなあ、アントキん (に)。

あんどのわきからちやわん 【俚諺】 卑下している状態。恐る恐る。おずおずと。[会話] アンドノワキカラチャワンや (だ) 言うて、なんかしても (何をしても) どくな (禄な、完全な) 事 よおせんで (出来なくて)、人より劣った事してな (して)、そすと、わしも (すると私も) お茶一杯くれえ (下さい) 言うの (のを) 遠慮して アンドノワキカラチャワン 言うの (のを) 言うんやろな (言うのでしょう)。そつと言うのを 言うんやろおもうね (言うのだろう思うのです)。ちよいと (少し) 拙い事するとなあ、おら (俺は) アンドノワキカラチャワンやよお (だ) 言うて言うやんない (言うでしよう)。そやよって、わしも (だから私も) ちやあ (茶) 一杯くれえ 言うて 脇から こそつとすんのを (こっそりするのを) 言うんやろな。偉い人なら ちやあ 一杯くれえ 言うて堂々と出すとこやけど (所だが) 鈍 (下手) な事したりなあ 人より劣った事するとなあ 卑下して。

あんどばかま (行燈袴) 【名詞】 あんどんばかま。形が丸行燈に依っている所から。まち (襠) のない袴 (上、阿) [会話] アンドバカマ言うのは 股の無いのを 言うんやろ (言うのでしょうか)。男のひた (人は) 皆股な (が) 有るもんなあ (有ります)、そやけど (しかし) 男な (が) 穿いても 股の無いのな あんねやろなあ (有るのでしょうか) それを 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

あんどん (行燈) 【名詞】 1) あん、どんはそれぞれ行、燈の唐宋音。照明用具の一種で灯台が油皿を台上に置くのみで裸火をとすのに対し、あんどんは油皿の周囲に立法形または円形な枠を作り、これに紙を張り風のために灯火が消されたり、揺れ動くのを防ぐように火袋を装置した灯火具の総称。2) もとはさげて歩いたが後には専ら室内においた。(志、伊賀地方) [会話] 昔、アンドンな (が) 有ったやんかい (ではありませんか)。四角なきい (木) へ紙張って。アンドンで勉強しよったの (したのです)。アンドンに残せし針の跡言うて、アンドンへ 皆なあ、よなべしとると (夜業していると)、針を針山の代わりに、紙な (が) 張って有るやんない (有るでしょう)。そすと 針をせむ (面倒) なもんで、アンドンへ 皆なあ刺しよったの (刺して居たのです)。針山へ刺さんと、針山へ刺すの面倒臭いもんで (ので)、アンドの紙になあ。そすと 穴だらけになって。皆するかして (すると見えて)、歌にまであるもんなあ。アンドンに残せし針の跡。

あんな 【代名詞】 三人称。彼が、あいつが、あの様にとは異なる。な、上代語。接尾語。人を表す語について、親愛の意を添える。(志) [会話] あの人が言うのを、アンナ言うて。

あんな 1) 有る。有ります。2) あるのは (度)

あんなあ 【感嘆詞】 人に物を話し掛ける時の語。また次の言葉への継ぎとして用いる。(志 (浜島)、員、鈴市、久、一、松、阿、鳥、北、尾、南) [会話] あんのか、昔の人は あんなら、アンナア言うて、親しい人に言うのな (のです)。あんなら言うて。

あんなあ 有るでしょう [会話] そげなのな (そんなのが) アンナア 言うやんかいな (言います)。そげなのおな (そんなのが) よお有るなあ (沢山有る) 言うて、そいな (そんな) 歌も 有るなあたら (とか) 言うのをなあ、アンナア 言うのなあ (です)。

あんない 有る [会話] アンナイ言うな (のは)、おれげん (俺の家に) アンナイ そげなもな (そんな物) は 幾らでも 言うてなあ。有る言う事を アンナイ

言うて。おれげん そいなもんな (そんな物は) よれ有るわい (沢山有ります) 言うのを、アンナイ おれげい (俺の家に) 取りんこんかい (に来なさい) 言うて、有る言う事やけど (だが) アンナイ 言うてなあ。

あんながり あのまま (志 (布施田))

あんなご 【代名詞】 あの人。第三人称。あのおなごの転か、主に女性。(志) [会話] アンナゴ言うのは あの人な (が) 言う事や (です)。わしらな (私達が) いてなあ、アンナゴななあ (が) 言うて、男の人らわ、そげん使わせんけど (そんなに多く使いませんが)。あのおなごな (が) 言うのを、アンナゴな言うんやろな (が言うのでしょうか)。

あんなごら 【代名詞】 あの人達 (志)

あんなら 【感嘆詞】 人に対する呼びかけの言葉。あんなあに同じ [会話] アンナラ わいななら (貴方が) 言うて、人と話ししとて (して) アンナラ言うて、あのおね言う事やなあ (です)。あんなあ言うのを アンナラ 言うね (のです)。

あんなり あのまま [会話] アンナリ言うな (のは)、そのまま 言うよおな意味やなあ (です)。アンナリ 置いときやええ (ておけばよい) のに言うて、あのまま置いとけば ええ (ておけばよい) のに言うのをなあ。

あんなれ あのおね 呼び掛けの言葉。(志 (片田、志島、安乗)) [会話] アンナレ言うのも あんなら言うのも 一緒やわい (です)。友達に言うのは あんなら言うし、目下の人ん (に) アンナレ言うの (のです)。目下の人ん (に) 使う言葉やなあ (です) アンナレ言うのは。

あんに 1) 有るでしょう。2) 有ります。[会話] ① 俺家人 (オレゲ、私の家に) アンニ言うてな。有るに (有ります) 言うのを アンニ 俺家人 言うて。

あんに 【形容詞】 あのように あれ程 (志 (浜島)、員、鈴郡、鈴市、安、度、伊、鳥 (国崎))

あんにい 有ります

あんにやら。あんにやろ。あんやろ あの野郎。あいつ。[会話] アンニヤロ言うやんかい (言います)。アンニヤラ。あ野郎言うのを、アンニヤラ言うやんかい (言います)。こらら (子供達) な、男のこらな、アンニヤラ言うてなあ。あ野郎やら (とか)、糞野郎やたら (とか) 言うのと、喧嘩したり、なんやかや (何か) したときに使う言葉やなあ (です)。アンニヤラまあ言うやんかい。ものすごお (大変)、ごおな湧いとる時ん (腹が立つ時に)、その人なしとる (がしている) 事を、こつちな (が) ごおわかしとるときん、アンニヤラまあ言うやんかい。男の子らが言うね (言うのです)。

あんね 有ります [会話] 一銭で鮎な (が) 五つも買われおったんよって (買われて居たのだから)、そんだけ (それだけ) 値打ちな (が)、アンネヤんかい (あるのです)。今し (今) の十円より値打ちな (が) アンネ。今しの十円と昔の一銭を同じ格好して、五十銭と五百円と一緒に 格好や (です)。

あんねかい 有りますか。有るのですか。 [会話] 今迄 仲よお (仲よく) しとた (していた) 友達な (が)、もの言わんよおん (に) なつてくと (なつて行くと) わいた、(君は) わしに (私に) 不足 (不満) な、アンネカイ言うて

あんねけど 有るけれども (阿、張) [会話] 有る言う事やけど (だが)。わしげん (私の家に) 有ります言うのを、俺家ん (私の家に) アンネケド 言うてなあ。俺家ん (に) そいなもな (そんな物は) あんない言うて、言うたり。

あんねさけん 有るのだから [用例] よっけ (沢山) アンネサケン (有るのだから)。

あんねてかい 有るそうですか 有ると言つて居ますか [会話] へえのつっぱり (尻の支柱) の、よお (よく) する人な (が) アンネテカイ

あんねてや 有るのです [用例] よっけ (沢山) アンネテヤ。

あんねてわ。あんねてわい。あんねてわな (女性語)。あんねてわら。あんねてわれ 有るそうだ 有るそうです [用例] よっけ (沢山) アンネテワイ。

あんねど 有るのだ。有るだろう。

あんねどお 持って居るぞ。有るのだ。 [会話] 有る言う事や (です)。そや (それは) 其処ん (に) アンネドオ、俺家 (私の家) も、アンネドオ言うて言うしな (言います)。親しい人に ひよかつと (ひよっこりと) 言う事や (です)。

あんねなあ あるのでしょうか。時としてありますにも使用。あんね。存在する。あります。なあ→んなあ→やんないで強調。なあ文末にあつて活用語の終止形や助詞に接続する間投助詞より更に強めた言い方。 [会話] これアンネナア言うね (言うのです) 有るでしょお言うのを。

あんねなし 1) 有ります。有るのですし。2) 無い [会話] 2) なんも (全く) アンネナシ言うて、何も有りません言うのを なんも ないねなしなあ 言うて。御馳走もなんも (少しも) 無いのに 来てもろたて (貰らつても)、食べさずもん (物) も、無い言う事をな、なんも アンネナシまあ言うてな。あいそ (愛

想) 無しやなあ (だ) 言うね (言うのです)。なんにも無い言う事を なんも アンネナシなあ言うね (言うのです)。1) おらも アンネナシ言うて 有るもん (物) を、おらも有るし もつとんなしなあ (持っているのだ) 言うてなあ、有る事も言うの (のです)。

あんねのん 有るのに [会話] あやなあ (あれは) ゆわれな (言い伝えが) アンネノン。

あんねや 有るのだ (伊賀地方)

あんねやか 1) 有るのか 2) 有るのだろうか [会話] 1) 2) まるまった (まとまった、まるい) 金、死んでたや (いったら) 嫁ん (に) やつて呉れ言うもん で (ので)、どげん (どんなに) 金な (が) まるまって アンネヤカおもたや (思つたら) 念佛の ちんちん (鉦) を。

あんねやれ 有るのだ

あんねやんかい 有るのです。 [会話] 有る言う事や (だ)、アンネヤンカイは。

あんねやんない 有るのでしょうか。 [会話] アンネヤンナイ、そや (それは) あんたげん (貴方の家に) アンネヤンナイ、有るわい (有ります) 言うのは、わが (自分の) 家ん (に) 有つて。アンネヤンナイ言うのは あんたげん アンネヤンナイ、あんのか (有りますか) 言うて 問うのは 有るか無いか 分からせん の (ないのを)、あんのかい 言うて したや (したら) 俺家ん (私の家に) あられ (有る) 言うて。

あんねよつて 有るのだから (志 (布施田)) [会話] いく通りも アンネヨツテ、どっから (どこから) でも 行かれられ (行ける) 言う。幾通りも アンネヨツテ どっから でも来い言うて。

あんねんなあ 有るのでしょうか

あんねんなあ 有ります [会話] アンネンナア言うて わしげん (私の家に) 有る言う事。あんねやんない言うのは あんたげん (貴方の家に) 有るやんない (でしょう)、有るん (の) ですか言う事な (です)。アンネンナアと、アンネンナアと、他人の家ん (の) のおと (のと) わが (我) 家ののおとや (のとです)。アンネンナア言うのは 向のひと、アンネンナア言うとはわが家、同じ事やけど (だが) 発音な (が) ちよいと 違うね (少し違います)。アンネンナア言うのは 有るんでしよう アンネンナアは 私んとこん (の所に) 有ります。

あんの 有るのです [会話] アンノ。おらも (俺も) アンノ。此処に有ります言うのを 此処ん (に) アンノ。

あんのお (あんなう) 【感動詞】 あかね。呼びかけ。あのおね参照。(志(畔名、浜島、布施田、片田、立神、鶴方、神明、甲賀、国府、安乗)、鳥(加茂)、北、尾、南)
[会話] アンノオ言うのも、あんなら 言う事やなあ(だ)。あねええ 言う事を、アンノオ言うね(言うのです)。あんなれ言うのと、目下の人ん(に)言うんなしなあ(のです)、アンノオ 言うのと 目上の人ん(に)言うんなし。

あんのお 有るのでしょうか。有るだろう。

あんのか。あんのこ 有るのですか [会話] 左まき(魚名)と、右まき(魚名) アンノカ、左まき言うな(のは)、ちよいと きいがかつたよおな(少し黄色味を帯びた)、ちっちゃい(小さい)の言うなあ(言います)、たかのはあ(魚名)は、茶色みたよおな(のようなのです)。

あんのかい ありますか 有るのですか [会話] わいた(君は) 不足な(不満が) アンノカイ

あんのや 有るのだ(鈴木)

あんのを 有るのを

あんのん 有るのに [用例] 家ん(に) アンノン、人のもん(物) 貰らわんでて(貰わなくても)。

あんばい (塩梅、安排) 【名詞】 加減、気分、具合、健康、塩配、按排、按配、塩梅 1) 料理の味加減。2) 物事の調子、加減。(志(布施田)、桑市、一、多、上、北、南) 3) 体の具合。健康状態。病気 4) 按排程よく物事を処理すること。程よく物を並べること。(伊賀地方) [会話] ③ アンバイな(が) 悪うて。体なわり(が悪い) 言う事を、なんか(何か) 加減な(が)、わり言う事を、アンバイな悪りいて(が悪くて)言うて。④ 何かこしらへとも(作っていても)、うまいこといかんのを(上手に出来ない)、アンバイな悪り言うの(のです)。物こさえる(作る)時に、あわそおもても(合そお思っても)、あわだったり(合わなかったり)。③ 体の調子の悪り時も、アンバイな悪りなあ、アンバイな悪りそおな(そうだ)、言うやんかい(言います)。④ アンバイよお言うのは、えごと(良いように、十分に)、アンバイよおしてくれまあえ(して下さい) 言うやんか(言います)。言うのは喧嘩をしとると、仲を直すよん(ように) してくれ(下さい) 言う事。アンバイよおしたてくれ(してやって下さい) 言うて。アンバイよおなつたてあれ(なつたそうです)、言うやんかい(言います)。あの人ん(に) 頼んで、アンバイよおしてもおて(してもらって)、よかつたなあ言うて。

あんばいしき (塩梅職) 【名詞】 しきは接尾語。物事の状

態のよしあしについて言う、ぐあいの程。様子。あんばい。あんばいしきわり参照(上、阿)

あんばいしきわり 気分が悪い。具合が悪い。しき 色目で見るとの出来るもの、気色 識 対象を認識する心の働き、意識 [会話] ちよいと すんのん(少しするのに) すつと 行かんで、こや(行かなくて、これは) アンバイシキナワリなあ 言うて。ちよいと しにくい(少し困難な)時に こや(これは) まあ アンバイシキワリなあ言うて、すつと 仕事な(が) 出来ん(ない) 時ん(に) 調子なわり(悪るい) 時ん(に) なあ。そやよつて(だから) アンバイシキ言うのは 調子言う事やなあ(です)。

あんばいする 1) 処理する。整理する。(上、阿、張、名) 2) 計画をたてる。3) 都合つける

あんばいよお 【副詞】 いいように。都合よく。よろしく。上手に。丁寧に。きちんと。(志(浜島)、員、多、上、阿、度、伊、南、熊) [会話] アンバイヨオ言うのは 調子よお(よく) 言う事やなあ(です)。順調よお(よく) とかな、こやまあ、がいな(これは大変に) アンバイヨオ いたれ(行きました) 言うて。

あんばいわり 1) 体調がすぐれない。病気である。(志(鶴方)、北) 2) 具合、調子が悪るい [会話] ① アンバイワリいて言うてな。病気な(が) わり(悪るい) 言うのを、病気、見舞いん(に) いても(行っても) 婆さんな(が) えらい(大変) アンバイワリネ 言うて。

あんべら 【名詞】 敷物。上敷。カヤツリ草の茎で編んだ敷物。[会話] しきもん(敷物) は アンペラや(です)。なんやら(なにか) とおみたよな(藤のような)のおで(ので) 編んであんの(あるのを) アンペラ言うて アンペラ 敷いとけ(ておけ) 言うて 勝手やどけ(など) 汚れるとこい(所に) アンペラ敷きおつた(居ました)。

あんぼんたん (安本丹) 【名詞】 薬の名、反魂丹になぞらえたもの。愚かもの、阿呆。(志(布施田、立神)、鳥、鈴部、度、尾) [会話] アンボンタン言うのは、阿呆言うことやわな(事です)。こやまあ(これは)、ほんと(本当)の阿呆やれ(だ)。アンボンタン言うて、ものすごお(ものすごく)子供らな言う事聞かんで(聞かなくて)、親な(が) 腹立てたりする時、アンボンタン 言うて、よお(よく) 怒りおつたなあ(居ました)。鼻糞丸めて万金丹、それを飲む奴、アンボンタン言うて。

あんま 【名詞】 海魚 きつねあまだい スズキ目キツネ

アマダイ科、体高が低く前上顎骨の後部に大きな犬歯が有る。岩礁近くの砂礫底に住み石の下に穴を掘って隠れがを作る。

あんまい【形容詞】 1) 甘い。あうまい。(志(立神)、鳥、鈴郡、鈴市、伊、北) 2) 不足している。あわい(淡) あまい参照。[会話] 1) 甘い言う事。あんまり甘過ぎる言う事や(です) アンマイ言うて。

あんまし(余)【副詞】 あまり、はなはだ、とても、実に [会話] あんまり言うのを アンマシ 言う人な(が) おるなあ(居ます)。あんまり そいな(そんな) 事ないわれ(有りません) 言う事を、アンマシな いやんかあ(有りません) 言う人な(が)。

あんまり【副詞】 はなはだ 余りにも あんましに同じ アマリ(余)の音便(大言海 広辞苑) あんまりな参照(志、鳥、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、安、多、張、度、伊、北)

あんまりな【形容動詞】 ひどい。無理だ。[会話] そげな(そんな) 無理な事言うて、アンマリやれ(だ) 言うて。無理な事言うて、アンマリナ そや(それは) 言うてなあ。出来ん事とか 無理な事言うて、おおた(あゝ) アンマリやれ(だ) そいな(そんな) 事言うて 言うてな。

あんまりなこと ひどいこと

あんまりや ひどい

あんまりやれ あまりだ。酷い。大変だ。あんまりな参照

あんもてばおり【名詞】 あもてばおりと同じ

あんもん【名詞】 餡の入った菓子類の総称(張) [会話] アンモン言うな(のは)、まんじゅうとか、餡で作った餅やとか(だとか) 言うもんやろなあ(物でしょう)。餡の入いつとる(ている) 菓子。あんころでも 上い(へ) 付けて有っても アンモンやしなあ(です)。アンモン言うると小豆。餡入れた菓子をアンモン言うやんか、い(言います)。生菓子の事や(です)。

あんやら。あんやろ【名詞】 あの野郎。あんにやら参照。[会話] あの野郎 言うのを、アンヤラ 言うね(のです)。アンヤラ言うたりなあ、あのやろわ 言うのを アンヤラ、アンヤロ 言うんやろなあ(のでしょう)。

あんよ(歩行)【名詞】 幼児語 1) 歩く事。あよびの音便下略(大言海) 2) 足(員)

あんらく(安楽)【名詞】 **【形容詞】** 気楽な事。気にしない事。心身共に楽しい事 骨折や苦勞の無い事 [会話] アンラクん(に) なったなあ 言うて、安らかん(に) なった事をなあ、気楽な。

あんるやんな。あんるやんない 有るでしょう [会話] そこん(に) アンルヤンナイ 言うのなあ(です)。そこに 有るでしょう 言う事を アンルヤンナイ。

あんろく【名詞】 かじめ。コンブ科の海藻。茎は丈夫な円柱状で長さ1~2m基部は根状をなし、上端に長さ1m位に達する中央葉を出し、その左右に羽状に小葉を分岐する。中央葉は永存性で、厚い皮質で褐色である。表面は平滑でアラメのようなシワは無い。縁近は細かみ波状をなす。ヨードの原料として用いる。(志、鳥) [会話] 荒布は はあ(葉) に ざらざらと あんねやんかな(有るのです)。アンロク言うのは すつとしとてなあ(していて)、ねえ(根) が なあがいのなあ(長いのです)、それが アンロク。荒布は ねえなあ(根が) みじこおて(短かくて) はあ(葉) は ざらざらんなってしとて(していて)、荒布の はあ(葉) は、広いし、アンロクのはあ(葉) は、こまこおて(小さくて) 柳みたよん(のように) 枝な(が) なって しとんの(しているのです)。